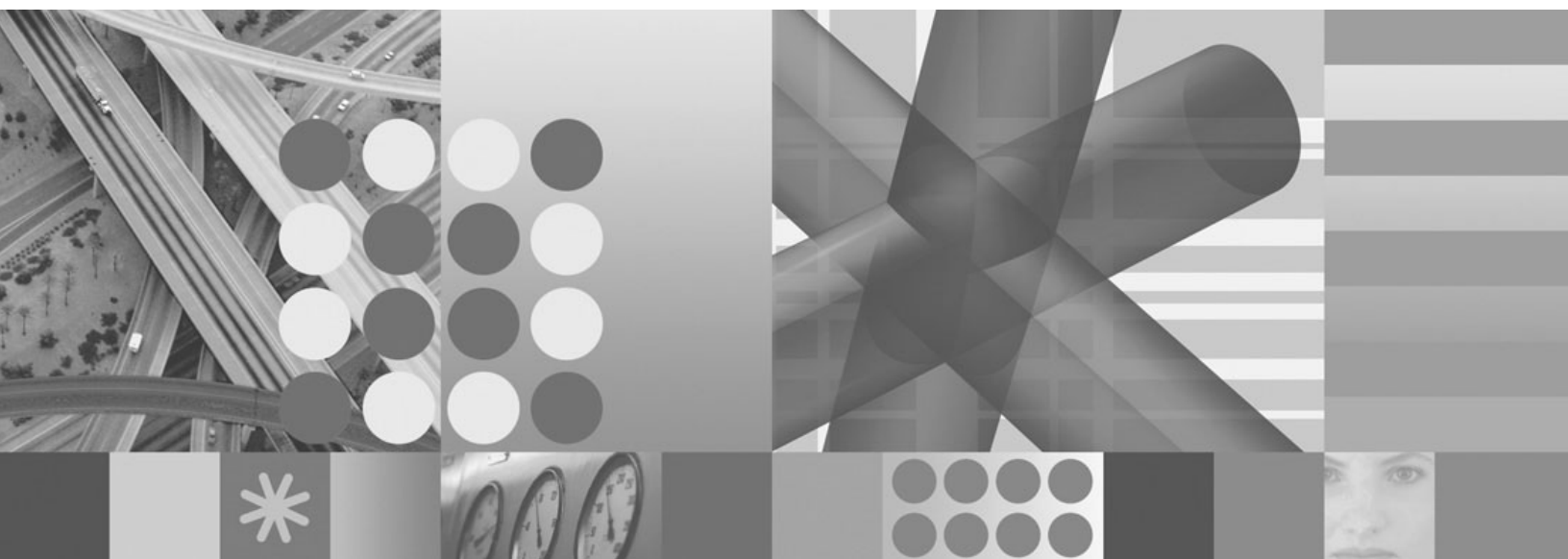


バージョン 5 リリース 3



インストール: マイグレーション・ガイド

バージョン 5 リリース 3



インストール: マイグレーション・ガイド

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、225 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Tivoli NetView for z/OS (製品番号 5697-ENV) バージョン 5 リリース 3、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。製品レベルに適切な版を使用してください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： SC31-8873-02
Tivoli® IBM Tivoli NetView for z/OS
Version 5 Release 3
Installation: Migration Guide

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2007.10

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2001, 2007. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2007

目次

図	ix
本書について	xi
対象読者	xi
資料	xi
IBM Tivoli NetView for z/OS ライブラリー	xi
前提資料	xiii
関連資料	xiv
オンライン用語集へのアクセス	xiv
LookAt を使用してメッセージの説明を検索する	xv
マニュアルへのオンライン・アクセス	xvi
マニュアルのご注文	xvi
アクセシビリティ	xvii
Tivoli 技術研修	xvii
サポート情報	xvii
ダウンロード	xviii
本書の表記規則	xviii
書体の規則	xviii
オペレーティング・システム依存の変数とパス	xix
構文図	xix
第 1 章 NetView for z/OS V5R3 プログラムの新機能	1
ネットワーキングおよび自動化	1
ユーザビリティの向上	4
エンタープライズ統合	4
保守容易性	5
第 2 章 マイグレーションの準備	7
概要	7
ハードウェア要件およびソフトウェア要件	7
インストール・パッケージ	7
古い NetView リリースを実行しながら新しい NetView リリースをインストールする方法	8
マイグレーション・プロセス	8
データ・セットの統合	9
MVS システムの準備	10
UNIX システム・サービスの準備	15
NetView プログラムの準備	17
グラフィカル NetView コンポーネントの準備	22
AON コンポーネントの準備	23
DSIPARM および DSICLD メンバーのマイグレーションに関するその他の考慮事項	24
第 3 章 Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 3 からのマイグレーション	25
新規サンプル	27
VTAM アドレス・スペース	31
A01APPLS (CNMS0013)	31
ATCCONxx	32
CNMNET (CNMSJ008)	32
NetView アドレス・スペース	32
AAUPRMLP	32
BNJMBDST	32

CNME1034.	33
CNMNEWS	34
CNMPROC (CNMSJ009)	35
CNMPSSI (CNMSJ010).	37
CNMSTYLE	38
DSIAMAT.	42
DSIAMII	42
DSIAMLTD	42
DSICCDEF.	42
DSICMD	42
DSICRTTD.	43
DSICTMOD	44
DSIDMN	44
DSIDMNU	45
DSILUCTD	45
DSIOPF.	45
DSIRTTTD.	48
DSIRXPRM	48
DSISPN.	49
DSITBL01	49
DSITCPCF.	49
DSITCPRF.	49
DSIUINIT	50
DSIWBMEM	50
DSIZVLSR.	50
DUIFPMEM	50
DUIIGHB	50
FKXCFG01	51
FLBSYSD	51
FLBSYSDA	52
FLCSAINP.	52
HELPMAP (CNMS1048)	52
RODM アドレス・スペース	53
EKGLOADP	53
EKGSI101	53
EKGXRODM	54
GMFHS アドレス・スペース	55
CNMGMFHS (CNMSJH10)	55
CNMSJH12	56
DUIGINIT	56
イベント自動化サービス・アドレス・スペース	56
IHSAEVNT	56
その他の考慮事項	57
BROWSE 機能	57
UNIX システム・サービス	57
パラメーター・ファイルでのシンボリック変数の使用	58
パラメーター・ファイルでのデータ REXX の使用	59
IPv6 サポート	59
第 4 章 Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 4 からのマイグレーション	61
新規サンプル.	63
VTAM アドレス・スペース	66
A01APPLS (CNMS0013)	66
CNMNET (CNMSJ008).	67
NetView アドレス・スペース	67
AAUPRMLP	67

BNJMBDST	67
CNMPROC (CNMSJ009)	67
CNMPSSI (CNMSJ010).	70
CNMSTYLE	70
DSIAMLTD	74
DSICCDEF.	74
DSICMD	74
DSICTMOD	75
DSIDMN	76
DSIILGCF	76
DSILUCTD	76
DSIOPF.	76
DSIREXCF.	78
DSIRSHCF.	78
DSIRTTTD.	78
DSIRXPRM	78
DSISPN.	79
DSITBL01	79
DSITPCPF.	79
DSITCPRF.	80
DSIWBMEM	80
DSIZVLSR.	80
DUIFPMEM	80
DUIIGHB	80
FKXCFG01	80
FLBSYSDA	81
FLCSAINP.	81
RODM アドレス・スペース	81
EKGLOADP	81
EKGSII01	82
EKGXRODM	82
GMFHS アドレス・スペース	83
CNMGMFHS (CNMSJH10)	84
CNMSJH12	84
DUIGINIT	84
イベント自動化サービス・アドレス・スペース	85
IHSAEVNT	85
その他の考慮事項	85
BROWSE 機能	85
NetView リソース・マネージャー	85
UNIX システム・サービス	86
パラメーター・ファイルでのシンボリック変数の使用	87
パラメーター・ファイルでのデータ REXX の使用	87
IPv6 サポート	88
第 5 章 Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 1 からのマイグレーション	89
新規サンプル	91
VTAM アドレス・スペース	93
A01APPLS (CNMS0013)	93
CNMNET (CNMSJ008).	94
NetView アドレス・スペース	94
CNMPROC (CNMSJ009)	94
CNMPSSI (CNMSJ010).	96
CNMSAF2.	96
CNMSCAT2	99
CNMSTYLE	101

DSICMD	103
DSIOFF	104
DSITBL01	105
DSIW3PRF	106
DUIFPMEM	106
FKXCFG01	106
FKXSCM	106
RODM アドレス・スペース	106
EKGLOADP	106
EKGSII01	107
EKGXRODM	107
GMFHS アドレス・スペース	108
CNMGMFHS (CNMSJH10)	108
DUIGINIT	108
イベント自動化サービス・アドレス・スペース	109
IHSAEVNT	109
その他の考慮事項	109
BROWSE 機能	109
UNIX システム・サービス	110
NetView Web アプリケーション	110
DVIPA サポート	110
パラメーター・ファイルでのシンボリック変数の使用	110
IPv6 サポート	111
第 6 章 Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 2 からのマイグレーション	113
新規サンプル	114
VTAM アドレス・スペース	115
A01APPLS (CNMS0013)	115
CNMNET (CNMSJ008)	116
NetView アドレス・スペース	116
CNMSAF2	116
CNMSCAT2	117
CNMPOLCY	118
CNMPROC (CNMSJ009)	118
CNMPSSI (CNMSJ010)	119
CNMSTYLE	119
DSITBL01	120
DSIW3PRF	120
FKXSCM	120
RODM アドレス・スペース	120
EKGLOADP	120
EKGSII01	120
EKGXRODM	121
GMFHS アドレス・スペース	121
CNMGMFHS (CNMSJH10)	121
イベント自動化サービス・アドレス・スペース	121
IHSAEVNT	121
Tivoli NetView for z/OS Enterprise Agents	122
NetView for z/OS Tivoli Enterprise Portal Agent バージョン 5.2.0	122
NetView for z/OS Tivoli Enterprise Portal V6.1 Agent バージョン 5.2.5	123
その他の考慮事項	123
UNIX システム・サービス	123
NetView Web アプリケーション	124
IPv6 サポート	124

第 7 章 NetView の開始準備 125

NetView およびサブシステム・アプリケーション・プロシージャの変更	125
NetView 始動プロシージャの変更	125
I NetView プログラムに対する TCP/IP の定義	126
CNMSTYLE の更新	127
CNMSTYLE のカスタマイズ	127
%INCLUDE メンバーの使用法	128
シンボリック変数の使用法	129
STYLEVAR の使用法	129
NetView コンポーネントを活動化するための TOWER ステートメントの使用法	130
セキュリティの設定	133
NetView プログラムの開始時に自動的に実行するコマンドの指定	133
NetView サブシステム・インターフェースの開始	133
NetView コンポーネントの初期化値の指定	134
アクティブ CNMSTYLE メンバー名のリスト作成	135
CNMSTYLE レポート生成プログラムの使用	135
第 8 章 マイグレーションの検査	143
第 9 章 グラフィックスのマイグレーション	145
NGMF から NetView Management Console へのマイグレーション	145
NetView 管理コンソールのトポロジー・サーバーおよびコンソールのマイグレーション	146
第 10 章 Unattended フィーチャーまたは Procedural フィーチャーのマイグレーション	147
第 11 章 NetView システム・サービスのマイグレーションに関する考慮事項	151
同じ SMP/E ゾーンへの NetView プログラムのインストール	151
NetView プログラムを SMP/E ゾーンにインストールした後の考慮事項	154
付録 A. Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 3 から Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 4 への変更	161
ヘルプ・パネル	161
新規ヘルプ・パネル	161
変更されたヘルプ・パネル	161
削除されたヘルプ・パネル	161
コマンド・リスト	162
新規コマンド・リスト	162
変更されたコマンド・リスト	162
削除されたコマンド・リスト	162
メッセージ	163
新規メッセージ	163
変更されたメッセージ	173
削除されたメッセージ	175
サンプル	175
新規サンプル	176
削除されたサンプル	176
付録 B. Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 4 から Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 1 への変更	179
ヘルプ・パネル	179
新規ヘルプ・パネル	179
削除されたヘルプ・パネル	179
コマンド・リスト	183
新規コマンド・リスト	183
削除されたコマンド・リスト	183
メッセージ	185
新規メッセージ	185

変更されたメッセージ	189
削除されたメッセージ	191
サンプル	193
新規サンプル	193
削除されたサンプル	193

付録 C. Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 1 から Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 2 への変更 195

コマンド・リスト	195
新規コマンド・リスト	195
削除されたコマンド・リスト	195
メッセージ	196
新規メッセージ	196
変更されたメッセージ	200
削除されたメッセージ	202
サンプル	202
新規サンプル	203
削除されたサンプル	203

付録 D. Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 2 から Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 3 への変更 205

コマンド・リスト	205
新規コマンド・リスト	205
削除されたコマンド・リスト	205
メッセージ	205
新規メッセージ	205
変更されたメッセージ	207
削除されたメッセージ	207
サンプル	207
新規サンプル	207
削除されたサンプル	208

付録 E. SEC=BY が必要ない AON CMDDEF ステートメント 209

CNMCMENT	209
EZLCMENT	209
FKVCMENT	210
FKXCMENT	211

付録 F. CNMSTYLE および CNMCMD へのマイグレーション 213

付録 G. IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの間の違い 223

特記事項 225

商標	226
--------------	-----

索引 227



1. 必須構文エレメント	xx	9. NetView V5R3 初期化フロー	90
2. オプションの構文エレメント	xx	10. NetView V5R3 初期化フロー	114
3. デフォルトのキーワードおよび値	xxi	11. CNMSTYLE レポートの最初のセクション	138
4. 構文のフラグメント	xxii	12. NetView 関数情報	140
5. NetView V1R3 初期化フロー	26	13. auxInitCmd ステートメントとユーザー定義ス テートメント	141
6. NetView V5R3 初期化フロー	26	14. データ REXX ステートメント	142
7. NetView V1R4 初期化フロー	62		
8. NetView V5R3 初期化フロー	62		

本書について

IBM® Tivoli® NetView® for z/OS® プロダクトは、複雑な、マルチプラットフォーム、マルチベンダーのネットワークおよびシステムの可用性を、単一管理ポイントから最高度に維持するために使用できる拡張機能を提供します。本書「*IBM Tivoli NetView for z/OS* インストール: マイグレーション・ガイド」は、NetView プログラムの前のリリースから基本機能をマイグレーションする際に役立ちます。NetView Graphic Monitoring Facility (NGMF) から NetView 管理コンソール へマイグレーションする手順、および unattended フィーチャー、procedural フィーチャー、および NetView System Services からマイグレーションする手順についても記述されています。

対象読者

本書は、NetView プログラムを前のリリースから現行リリースへマイグレーションするシステム・プログラマー、ネットワーク・プランナー、およびシステム・デザイナーを対象としています。

資料

このセクションでは、IBM Tivoli NetView for z/OS ライブラリーに収められている資料、およびその他の関連資料を取り上げます。Tivoli マニュアルへのオンライン・アクセスの方法、および Tivoli マニュアルのご注文方法についても記述されています。

IBM Tivoli NetView for z/OS ライブラリー

Tivoli NetView for z/OS ライブラリーには、以下のような資料が用意されています。

- ・「アドミニストレーション・リファレンス」(SC88-9305) には、システム管理に必要な NetView プログラムの定義ステートメントについて記述されています。
- ・「アプリケーション・プログラマーズ・ガイド」(SC88-9306) には、NetView プログラム間インターフェース (PPI) および NetView アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) の使用方法について記述されています。
- ・「Automated Operations Network カスタマイズ・ガイド」(SC88-9318) には、イベント・ドリブン・ネットワーク自動化機能を提供する NetView Automated Operations Network (AON) コンポーネントの自動化操作機能を調整し、拡張する方法について記述されています。
- ・「Automated Operations Network ユーザーズ・ガイド」(GC88-9302) には、Automated Operations Network コンポーネントを使用して、システムおよびネットワークの効率を向上させる方法について記述されています。
- ・「自動操作ガイド」(SC88-9304) には、自動化操作機能を使用して、システムとネットワークの効率およびオペレーターの生産性を向上させる方法について記述されています。

- 「コマンド解説書 第 I 巻」(SC88-9307) および「コマンド解説書 第 II 巻」(SC88-9308) には、ネットワークとシステム操作およびコマンド・リストとコマンド・プロシーチャーで使うことができる NetView コマンドについて記述されています。
- 「カスタマイズ・ガイド」(SC88-9309) には、NetView プロダクトをカスタマイズする方法が記述されており、関連情報のソースが示されています。
- 「データ・モデル・リファレンス」(SC88-9312) では、Graphic Monitor Facility host subsystem (GMFHS)、SNA トポロジー・マネージャー、およびマルチシステム・マネージャーのデータ・モデルについて説明しています。
- 「インストール: 追加コンポーネントの構成」(SC88-9321) には、NetView の基本機能以外の追加機能の構成方法について記述されています。
- 「インストール: グラフィカル・コンポーネントの構成」(SC88-9322) では、NetView グラフィックス・コンポーネントをインストールおよび構成する方法について説明しています。
- 「インストール: 概説」(SC88-9319) には、NetView 基本機能をインストールおよび構成する方法について記述されています。
- 「インストール: マイグレーション・ガイド」(SC88-9320) には、NetView プロダクトの現行リリースによって提供される新規機能および前のリリースからの基本機能のマイグレーションについて記述されています。
- 「インストール: Tivoli NetView for z/OS Enterprise Agent の構成」(SC88-4669) では、Tivoli NetView for z/OS エンタープライズ・エージェントをインストールおよび構成する方法について説明しています。
- 「Messages and Codes Volume 1 (AAU-DSI)」(SC31-6965) および「Messages and Codes Volume 2 (DUI-IHS)」(SC31-6966) では、NetView プロダクトのメッセージ、NetView 異常終了コード、NetView メッセージ内のセンス・コード、および総称アラート・コード・ポイントについて説明しています。
- 「マルチシステム・マネージャー ユーザーズ・ガイド」(GC88-9301) には、NetView マルチシステム・マネージャー・コンポーネントをネットワーク管理でどのように使用できるかについて記述されています。
- 「NetView 管理コンソール ユーザーズ・ガイド」(GC88-9303) では、NetView プロダクトの NetView 管理コンソール・インターフェースについて説明しています。
- 「Programming: Assembler」(SC31-8860) には、アセンブラ言語を使用して NetView プロダクトの出口ルーチン、コマンド・プロセッサ、およびサブタスクの作成方法について記述されています。
- 「プログラミング: パイプ」(SC88-9311) には、NetView パイプラインを使用して NetView インストール済み環境をカスタマイズする方法について記述されています。
- 「Programming: PL/I and C」(SC31-8861) には、PL/I または C を使用して NetView プロダクトのコマンド・プロセッサおよびインストール・システム出口ルーチンを作成する方法が記述されています。
- 「プログラミング: REXX および NetView コマンド・リスト言語」(SC88-9310) には、再構造化拡張実行プログラム言語 (REXX™) または NetView コマンド・リスト言語を使用して、NetView プロダクトのコマンド・リストを作成する方法について記述されています。

- 「リソース・オブジェクト・データ・マネージャーおよび *GMFHS* プログラマーズ・ガイド」(SC88-9313) では、NetView リソース・オブジェクト・データ・マネージャー (RODM) (非 SNA ネットワークの RODM への定義方法、およびネットワーク自動化とアプリケーション・プログラミングでの RODM の使用方法を含む) について説明しています。
- 「セキュリティ・リファレンス」(SC88-9317) には、NetView 環境の許可検査をインプリメントする方法について記述されています。
- 「SNA トポロジー・マネージャー インプリメンテーション・ガイド」(SC88-9315) では、サブエリアを管理するために使用できる NetView SNA トポロジー・マネージャー、拡張対等通信ネットワーク機能 (Advanced Peer-to-Peer Networking®)、および TN3270 リソースの計画およびインプリメントについて説明しています。
- 「*Troubleshooting Guide*」(LY43-0093) では、NetView プロダクトの使用中に起こる可能性のある問題の文書化、診断、および解決について説明しています。
- 「*Tuning Guide*」(SC31-8869) には、NetView プロダクトおよびネットワーク環境の一定のパフォーマンス・ゴールを達成するために役立つチューニング情報があります。
- 「ユーザーズ・ガイド」(GC88-9300) では、NetView プロダクトを使用して、複雑なマルチベンダーのネットワークとシステムを単一ポイントから管理する方法について説明しています。
- 「Web アプリケーション ユーザーズ・ガイド」(SD88-6818) には、NetView Web アプリケーションを使用して、複雑なマルチベンダーのネットワークとシステムを単一ポイントから管理する方法について記述されています。
- 「*Licensed Program Specifications*」(GC31-8848) には、NetView プロダクトのライセンス情報があります。

前提資料

このリリースで提供される新機能については、1 ページの『第 1 章 NetView for z/OS V5R3 プログラムの新機能』を参照してください。

NetView for z/OS プロダクトがどのように IBM Tivoli Monitoring プロダクトと相互に作用するかについては、以下の IBM Tivoli Monitoring の資料を参照してください。

- 「*IBM Tivoli Monitoring 6.1 紹介*」(GI88-6718) では、IBM Tivoli Monitoring のコンポーネント、概念、および機能を示しています。
- 「*IBM Tivoli Monitoring V6.1.0 Tivoli Distributed Monitoring の更新*」(GD88-6712) では、IBM Tivoli Distributed Monitoring の更新方法について説明しています。
- 「*IBM Tivoli Monitoring V6.1.0 インストールおよび設定ガイド*」(GD88-6698) では、IBM Tivoli Monitoring のインストールおよび設定について説明しています。
- 「*IBM Tivoli Monitoring V6.1.0 ユーザーズ・ガイド*」(SD88-6700) は IBM Tivoli Enterprise™ Portal オンライン・ヘルプを補完する資料であり、すべての Tivoli Enterprise Portal 機能に関する実地研修および詳細な手順が示されています。
- 「*IBM Tivoli Monitoring 6.1.0 管理者ガイド*」(SD88-6699) では、IBM Tivoli Enterprise Portal Server およびクライアントに必要なサポート・タスクおよび機能について説明しています。

- 「*IBM Tivoli Monitoring V6.1.0 Tivoli Enterprise Monitoring* サーバー z/OS 版の構成」(SD88-6713) では、z/OS システム上で稼働する IBM Tivoli Enterprise Monitoring Server を構成およびカスタマイズする方法について説明しています。
- 「*IBM Tivoli Monitoring V6.1.0 問題判別ガイド*」(GD88-6710) には、ソフトウェアに関する問題のトラブルシューティングを行う際に使用する情報およびメッセージが記載されています。
- 「*IBM Tivoli Monitoring V6.1.0 IBM Tivoli Monitoring の解説*」(SD88-6817) には、IBM Tivoli Monitoring について検討するための一連の実践内容が記載されています。
- 「*IBM Tivoli Universal Agent V6.1.0 ユーザーズ・ガイド*」(SD88-6711) では、IBM Tivoli Universal Agent について紹介しています。
- 「*IBM Tivoli Universal Agent API and Command Programming Reference Guide*」(SC32-9461) では、IBM Tivoli Universal Agent API をインプリメントする方法について説明し、API 呼び出しおよびコマンド行インターフェース・コマンドについて解説しています。

関連資料

NetView ブリッジ機能については、「*Tivoli NetView for OS/390 Bridge Implementation*」(SC31-8238-03、V1R4 ライブラリーからのみ入手可能) を参照してください。

追加の製品情報は、次の NetView for z/OS Web サイト上で検索できます。

<http://www.ibm.com/software/tivoli/products/netview-zos/>

オンライン用語集へのアクセス

「*Tivoli ソフトウェア用語集*」には、Tivoli ソフトウェアに関する多数の技術用語の定義が収められています。「*Tivoli ソフトウェア用語集*」は、次の Tivoli ソフトウェア・ライブラリー Web サイトでご利用いただけます。

<http://publib.boulder.ibm.com/tividd/glossary/tivolglossarymst.htm>

IBM Terminology Web サイトには、多数の IBM プロダクト・ライブラリーからの用語が 1 つの便利なロケーションに統合されています。Terminology Web サイトには、次の Web アドレスでアクセスできます。

<http://www.ibm.com/software/globalization/terminology/>

NetView for z/OS の用語と定義のリストについては、IBM Terminology Web サイトを参照してください。以下の用語は、このライブラリーで使用されます。

NetView

以下のプロダクト:

- Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 3
- Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 2
- Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 1
- Tivoli NetView for OS/390® バージョン 1 リリース 4
- Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 3

MVS™ z/OS オペレーティング・システムに関する用語

MVS エlement

z/OS オペレーティング・システムの BCP Elementに関する用語

CNMCMDB

CNMCMDB および組み込みメンバー

CNMSTYLE

CNMSTYLE および組み込みメンバー

PARMLIB

連結シーケンスでの SYS1.PARMLIB およびその他のデータ・セットに関する用語

以下の IBM の名前は、指定された Candle® の名前と置き換わります。

IBM Tivoli Monitoring Services

OMEGAMON® プラットフォームに関する用語

IBM Tivoli Enterprise Monitoring Agent

Intelligent Remote Agent に関する用語

IBM Tivoli Enterprise Monitoring Server

Candle Management Server に関する用語

IBM Tivoli Enterprise Portal

CandleNet Portal に関する用語

IBM Tivoli Enterprise Portal Server

CandleNet Portal Server に関する用語

特に断りのない限り、プログラムを参照する場合は、そのプログラムの最新のバージョンおよびリリースを指します。バージョンのみが示されている場合は、そのバージョンのすべてのリリースを参照しています。

パーソナル・コンピュータまたはワークステーションの使用に関する参照の場合は、すべてのプログラマブル・ワークステーションを使用できます。

LookAt を使用してメッセージの説明を検索する

LookAt というオンライン機能により、大部分の IBM メッセージと、いくつかのシステム異常終了 (タスクの異常終了) およびコードに関する説明を検索できます。LookAt では、通常、該当メッセージの説明がただちに表示されるため、従来の方法よりも短時間で、必要な情報を検索することができます。

LookAt を以下のロケーションから使用して、z/OS のElementおよびフィーチャー、z/VM®, VSE/ESA™、および Clusters for AIX® and Linux® に関する IBM メッセージの説明を検索できます。

- インターネット。LookAt Web サイト (<http://www.ibm.com/eserver/zseries/zos/bkserv/lookat/>) から IBM メッセージの説明に直接アクセスできます。
- z/OS TSO/E ホスト・システム。z/OS または z/OS.e システムにコードをインストールして、TSO/E コマンド行 (例えば、TSO/E プロンプト、ISPF、または OMVS が稼働中の z/OS UNIX® システム・サービス) から LookAt を使用し、IBM メッセージの説明にアクセスできます。

- Microsoft® Windows® ワークステーション。コードをインストールして、Microsoft Windows DOS コマンド行から LookAt を使用し、「z/OS Collection」(SK3T-4269) にある IBM メッセージの説明にアクセスできます。
- ワイヤレス・ハンドヘルド・デバイス。ハンドヘルド・デバイスで LookAt Mobile Edition を使用することによって、ワイヤレス・アクセスおよびインターネット・ブラウザ (例えば、Internet Explorer for Pocket PCs、Blazer、または Eudora for Palm OS、あるいは Opera for Linux handheld devices) を利用できるようになります。LookAt Web サイトから LookAt Mobile Edition にリンクしてください。

LookAt をホスト・システムまたは Microsoft Windows ワークステーションにインストールするコードは、「z/OS Collection」(SK3T-4269) のディスクまたは LookAt Web サイト (「**Download**」をクリックし、必要なプラットフォーム、リリース、コレクション、およびロケーションを選択します) から入手できます。詳細な情報は、ダウンロード処理中に使用可能な LOOKAT.ME ファイル内にあります。

マニュアルへのオンライン・アクセス

以下は英語のみの対応となります。資料 CD には、製品ライブラリーにある資料が含まれています。資料は、PDF、HTML、および BookManager® フォーマットで入手可能です。資料へのアクセス方法の説明については、CD 上の README ファイルを参照してください。

Tivoli NetView for z/OS ライブラリーを検索するための索引が、ドキュメンテーション CD 上に収められています。ご使用のシステムに Adobe Acrobat があれば、Search コマンドを使用して、ライブラリー内で特定のテキストの場所を探索することができます。ライブラリーを検索する索引の使用法についての詳細な情報は、Acrobat のオンライン・ヘルプを参照してください。

IBM では、この製品およびその他のすべての Tivoli 製品に関する資料を、使用可能になった時点および更新された時点で、Tivoli Information Center の Web サイト (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/tivihelp/v3r1/index.jsp>) に載せています。

「Tivoli Information Center」ウィンドウで、「**Tivoli product manuals (Tivoli 製品マニュアル)**」をクリックします。製品名の最初の文字と一致する文字をクリックし、製品ライブラリーにアクセスします。例えば、Tivoli NetView for z/OS ライブラリーにアクセスするには、**N** をクリックします。

注: PDF 文書をレターサイズ以外の用紙に印刷する場合は、Adobe Reader のメニューから「**ファイル**」→「**印刷**」を選択して表示されたウィンドウでオプションを設定し、レターサイズのページをご使用の用紙に印刷できるようにしてください。

マニュアルのご注文

以下は英語のみの対応となります。なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは、<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。(URL は、変更になる場合があります)

<http://www.elink.ibm.link.ibm.com/publications/servlet/pbi.wss>

次の電話番号からのご注文いただけます。

- 米国: 800-879-2755
- カナダ: 800-426-4968

その他の国では、Tivoli 製品資料のご注文については、ソフトウェアのお客様担当者にご連絡ください。お客様担当者の電話番号を調べるには、以下の手順を実行してください。

1. 次の Web アドレスにアクセスします。

<http://www.elink.ibm.link.ibm.com/public/applications/publications/cgibin/pbi.cgi>

2. リストからお客様の国を選択し、「Go」をクリックします。「Welcome to the IBM Publications Center」ウィンドウが表示されます。
3. ウィンドウの左側の「About this site」をクリックし、お客様担当者の電話番号が記されている情報ページを表示します。

アクセシビリティ

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーがソフトウェア・プロダクトを快適に使用できるようにサポートします。製品では、標準的なショートカット・キーおよびアクセラレーター・キーが使用され、オペレーティング・システムによって文書化されます。詳しくは、ご使用のオペレーティング・システムが提供する資料を参照してください。

追加情報については、「ユーザーズ・ガイド」の付録『アクセシビリティ』を参照してください。

Tivoli 技術研修

以下は英語のみの対応となります。Tivoli 技術研修の情報については、以下の IBM Tivoli Education Web サイト (<http://www.ibm.com/software/tivoli/education>) を参照してください。

サポート情報

以下は英語のみの対応となります。IBM ソフトウェアに問題がある場合は、早く解決する必要があります。お客様が必要なサポートを得られるように、IBM は以下の方法を提供しています。

オンライン

IBM Software Support サイト (<http://www.ibm.com/software/support/probsub.html>) にアクセスして、指示に従います。

IBM Support Assistant

IBM Support Assistant (ISA) は、IBM ソフトウェア製品に関する疑問および問題の解決に役立つ無償のローカル・ソフトウェア保守サービス・ワークベンチです。ISA により、問題判別のためのサポート関連の情報および保守サービス・ツールに迅速にアクセスできます。ISA ソフトウェアをインストールするには、<http://www.ibm.com/software/support/isa> にアクセスします。

問題判別ガイド

問題を解決する方法について詳しくは、「*IBM Tivoli NetView for z/OS Troubleshooting Guide*」を参照してください。

ダウンロード

ダウンロード可能なクライアントとエージェント、NetView 製品のデモンストレーション、およびいくつかの無償の NetView アプリケーションを、以下の NetView for z/OS Web サイトから入手できます。

<http://www.ibm.com/software/tivoli/products/netview-zos/>

これらのアプリケーションは、以下の作業に役立ちます。

- 以前のリリースから現行スタイルシートへの、カスタマイズ・パラメーターのマイグレーション
- 自動化テーブルの統計情報の入手、および自動化テーブルのリストとの統計情報のマージ
- JES (Job Entry Subsystem) ジョブの状況の表示、または指定された JES ジョブの取り消し
- プログラム間インターフェース (PPI) を使用した、NetView プログラムへのアラートの送信
- PPI を使用した、MVS コマンドの送信および受信
- TSO (Time Sharing Option) コマンドの送信および応答の受信

本書の表記規則

本書では、特殊な用語やアクション、オペレーティング・システムに依存するコマンドとパス、およびコマンド構文を表す場合に、いくつかの表記規則を使用しています。

書体の規則

本書では、書体について以下の規則を使用しています。

太字

- 周囲のテキストと見分けが付きにくい小文字のコマンドおよび大/小文字混合のコマンド
- インターフェース・コントロール (チェック・ボックス、プッシュボタン、ラジオ・ボタン、スピン・ボタン、フィールド、フォルダー、アイコン、リスト・ボックス、リスト・ボックス内の項目、複数列リスト、コンテナ、メニューの選択項目、メニュー名、タブ、プロパティ・シート)、ラベル (ヒント: およびオペレーティング・システムの考慮事項: など)
- テキスト内のキーワードおよびパラメーター

イタリック

- 引用 (例: 資料、ディスクット、および CD のタイトル)

- テキスト内で定義されている語 (例: 非交換回線は *Point-to-Point* 回線 とも呼ばれる)
- 語および文字の強調 (言葉として扱われる語の例: "制限節を挿入するには、単語 *that* を使用します"。文字として扱われる場合の例: "LUN アドレスは文字 *L* で始める必要があります"。)
- テキスト中の新規用語 (定義リスト内を除く): *view* は、データが入っているワークスペース内のフレームです。
- 指定する必要がある変数および値: ... ここで *myname* が表すものは ...

モノスペース

- 例およびコード例
- 周囲のテキストと見分けが付きにくいファイル名、プログラミングのキーワード、およびその他のエレメント
- ユーザー宛てのメッセージ・テキストおよびプロンプト
- ユーザーが入力する必要があるテキスト
- 引数またはコマンド・オプションの値

オペレーティング・システム依存の変数とパス

ワークステーション・コンポーネントの場合、本書では、環境変数およびディレクトリー表記に UNIX の規則を使用しています。

Windows コマンド行を使用する場合、環境変数では \$ 変数 を %変数% で置き換え、ディレクトリー・パスではスラッシュ (/) を円記号 (¥) で置き換えてください。環境変数の名前は、Windows 環境と UNIX 環境とでは常に同じとは限りません。例えば、Windows 環境の %TEMP% は、UNIX 環境の \$TMPDIR と同等です。

注: Windows システムで bash シェルを使用している場合は、UNIX の表記規則を使用できます。

構文図

構文図は左側の 2 つの矢印 (▶▶) で始まり、主線に沿って、相互に向かい合った 2 つの矢印 (◀▶) まで進み、ここで終了します。構文図に 2 行以上必要な場合、継続行は単一の矢印 (▶) で終了します。

構文エレメントの位置および形状

構文図では、強調表示、大括弧、または中括弧を頼りにすることはできません。構文図では、次の表に示すように、主線に対する相対的な位置によって、キーワード、変数、およびオペランドの、必須値、オプション (任意指定の) 値、およびデフォルト値を示します。

表 1. 構文エレメントの位置

エレメントの位置	意味
構文の主線上	必須
構文の主線より上	デフォルト
構文の主線より下	オプション (任意指定)

キーワードおよびオペランドは、大文字で示されます。変数は小文字で示され、イタリック体または、(NetView ヘルプおよび BookManager オンライン・ブックの場合) 色を区別して示されます。構文エレメントの形状には、以下のテーブルに示されているようなエレメントのタイプがあります。

表 2. 構文エレメントの形状

エレメント	形状
キーワード	CCPLOADF
変数	<i>resname</i>
オペランド	MEMBER= <i>membername</i>
デフォルト	<u>today</u> または INCL

必須構文エレメント

コマンド名と必須キーワード、変数、およびオペランドは、構文の主線上に示されます。図 1 は、*resname* 変数を CCPLOADF コマンドで使用しなければならないことを示します。

CCPLOADF

▶▶CCPLOADF *resname*◀◀

図 1. 必須構文エレメント

オプションの構文エレメント

オプションのキーワード、変数、およびオペランドは、構文の主線より下に示されます。図 2 は、ID オペランドを DISPREG コマンドで使用できるが、必須ではないことを示します。

DISPREG

▶▶DISPREG
└ ID=*resname* ┘◀◀

図 2. オプションの構文エレメント

デフォルトのキーワードおよび値

デフォルトのキーワードおよび値は、構文の主線より上に示されます。

デフォルトがキーワードである場合、そのデフォルトは主線より上にのみ示されます。このキーワードを指定することも、または、指定せずにデフォルトにすることもできます。 xxi ページの図 3 は、デフォルトのキーワード STEP が主線より上にあり、その他のオプションのキーワードが主線より下にあることを示します。

オペランドにデフォルト値がある場合、そのオペランドは主線より上と下の両方に示されます。主線より下に値がある場合は、オペランドを指定するときに、デフォルト値または表示されている値のいずれかを指定する必要があることを示します。オペランドを指定しない場合は、主線より上にあるデフォルト値が使用されます。図3は、オペランド MODNAME=* と OPTION=* のデフォルト値が主線より上と下にあることを示します。

RID

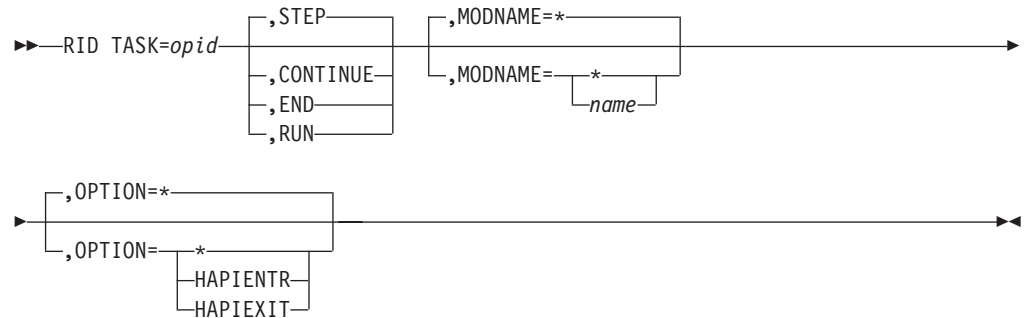


図3. デフォルトのキーワードおよび値

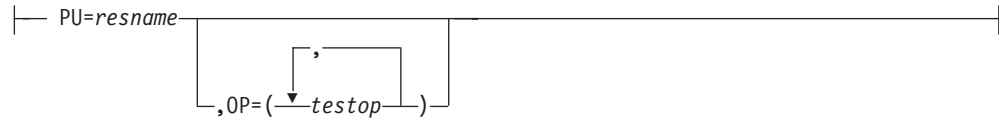
構文のフラグメント

コマンドに構文の長いセクションが含まれている場合、またはコマンド内で1つのセクションが2回以上使用されている場合は、別個のフラグメントとして主構文図の後に示します。フラグメント名は、大/小文字混合で示します。xxii ページの図4は、フラグメント Pu、PurgeAll、および PurgeBefore を持つ構文図を示します。

CSCF



Pu



PurgeAll



PurgeBefore

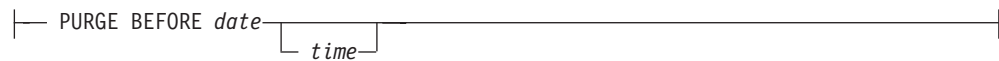


図 4. 構文のフラグメント

コンマおよび小括弧

必須のコンマおよび小括弧は、構文図内に示されます。

オペランドに複数の値を指定できる場合は、一般に値を小括弧で囲み、コンマで区切ります。例えば、図 4 では、OP オペランドの中に、*testop* 変数に複数の値を指定できることを示すコンマが入っています。

コマンドにキーワードと変数を区切る定位置コンマを入れる必要がある場合は、xxi ページの図 3 に示すように、キーワードまたは変数の前にコンマを置きます。

コンマは、定位置オペランドが無いことを示すためにも使用されます。以下の BOSESS コマンドの例で、2 番目のコンマは、オプション (任意指定) のオペランドが使用されていないことを示します。

```
NCCF BOSESS applid,,sessid
```

末尾の定位置コンマを指定する必要はありません。定位置、非定位置にかかわらず、末尾のコンマは無視されるか、コマンドがリジェクトされる原因となります。末尾のコンマによってコマンドがリジェクトされるかどうかについては、各コマンドの制約事項を参照してください。

省略形

コマンドおよびキーワードの省略形は、各コマンドの説明の後の同義語表を参照してください。

第 1 章 NetView for z/OS V5R3 プログラムの新機能

インストール・システムが小規模なものであっても、大規模な分散エンタープライズを管理する場合であっても、NetView はすべてのプラットフォーム上で効率的なシステムおよびネットワーク管理能力を提供します。以下のトピックでこのリリースの新機能について説明します。

- 『ネットワーキングおよび自動化』
- 4 ページの『ユーザビリティの向上』
- 4 ページの『エンタープライズ統合』
- 5 ページの『保守容易性』

以前の NetView リリースの機能についての比較情報は、IBM Tivoli NetView for z/OS Web サイトを参照してください。

ネットワーキングおよび自動化

表 3. ネットワーキングおよび自動化の変更点

機能	説明	追加情報
セッション・モニター (NLDM)	• ユーザー選択のリソースをパススルーするセッション (Enterprise Extender (EE) セッションなど) を選択できる機能 • フォーマット済み SNA PIU の注釈付きの表示	次のコマンドの更新については、「 <i>IBM Tivoli NetView for z/OS コマンド解説書 第 I 巻</i> 」を参照してください。 • AGTSESMG • NASESMG • SESMGET • SESS 「 <i>IBM Tivoli NetView for z/OS ユーザーズ・ガイド</i> 」
Enterprise Extender (EE) のサポート	指定されたリソースに Enterprise Extender (EE) が接続されているかどうかを判別し、接続されている場合には、RTP パイプ、TCID、IP アドレス、および伝送グループ数に関する追加情報を表示できるように、DIS コマンドが更新されました。また、DIS コマンドを使用して、リソースの TRACERTE および EEDIAG 分析を行うこともできます。	「 <i>IBM Tivoli NetView for z/OS コマンド解説書 第 I 巻</i> 」内の DIS (NCCF) コマンドを参照してください。

表 3. ネットワーキングおよび自動化の変更点 (続き)

機能	説明	追加情報
フォーマット済みパケット・トレース	トレースされた IP パケットをプロトコル (例えば、TCP、UDP、および OSPF) でフィルター処理します。	次のコマンドの更新については、「 <i>IBM Tivoli NetView for z/OS コマンド解説書 第 I 巻</i> 」を参照してください。 • FMTPACKET • PKTS
選択された MVS コマンド応答のシステム・ロギングの抑止	NetView オペレーターが所有するコンソールを指定した MVS コマンド (NetView または他のメッセージ・トラフィックから発行) に対する応答を、システム・ログに送るかどうかを指定します。	次のコマンドの更新については、「 <i>IBM Tivoli NetView for z/OS コマンド解説書 第 I 巻</i> 」を参照してください。 • DEFAULTS SLOGCMDR • OVERRIDE SLOGCMDR 「 <i>IBM Tivoli NetView for z/OS プログラミング: パイプ</i> 」に D4NV という名前の新しい編集命令が説明されています (NetView 用)
動的パイプ	PIPE PERSIST ステージに新規オプションが提供され、コマンドからの中間出力を処理できるようになります。これにより、非同期の相関済みメッセージが戻される間に、REXX プロシーチャーを実行できます。	以下を参照してください。 • 「<i>IBM Tivoli NetView for z/OS プログラミング: パイプ</i>」内の PIPE PERSIST ステージ・コマンドの TRAP オプションと、CNMS1101 サンプルのオプション 13 のサンプル使用法 • 「<i>IBM Tivoli NetView for z/OS コマンド解説書 第 I 巻</i>」内の ATTACH コマンドの CORR オプション • 「<i>IBM Tivoli NetView for z/OS コマンド解説書 第 II 巻</i>」内の TRAP コマンド
拡張 IP 接続管理	アクティブ IP 接続に関する追加情報を使用できます。	「 <i>IBM Tivoli NetView for z/OS コマンド解説書 第 I 巻</i> 」内の TCPCONN コマンド

表 3. ネットワーキングおよび自動化の変更点 (続き)

機能	説明	追加情報
TCP/IP 接続での RMTCMD の機能拡張	リモート NetView ホストとローカル NetView ホストとの間の RMTCMD 接続がユーザー指定の時間に渡って失われると、RMTCMD 接続は終了します。この場合、次の RMTCMD 要求で接続を再確立できます。	「IBM Tivoli NetView for z/OS アドミニストレーション・リファレンス」内の RMTINIT.KEEPALIVE ステートメントを参照してください。
追加の TCP/IP 接続データ	アクティブ TCP/IP 接続データが Tivoli Enterprise Portal で使用できるようになりました。	「IBM Tivoli NetView for z/OS ユーザーズ・ガイド」
DVIPA データ	NetView 3270 コンソールから DVIPA データが使用可能になり、Tivoli Enterprise Portal 内のデータに機能拡張が行われました。	「IBM Tivoli NetView for z/OS ユーザーズ・ガイド」
REXX/CLIST の許可検査	NetView プログラムは、許可検査を行う前に、REXX/CLIST が存在することを確認します。これにより、無効なコマンドが入力された場合に、誤ってセキュリティ違反を起こす可能性を防止します。	「IBM Tivoli NetView for z/OS プログラミング: REXX および NetView コマンド・リスト言語」
Identify Hung Listeners	時々、NETSTAT コマンドで、ポートが接続を拒否しても、表面上は正常に見えることがあります。この新機能では、重要なポートのモニターと、停止したポートの自動リカバリーを行うことができます。	「IBM Tivoli NetView for z/OS コマンド解説書 第 I 巻」内の TESTPORT コマンドを参照してください。
IPv6 を完全にサポート可能	コマンド、コンポーネント、およびサービスで、IPv6 アドレッシングをサポートできるようになりました。	「IBM Tivoli NetView for z/OS アドミニストレーション・リファレンス」内の IPv6Env ステートメントも参照してください。
SNMP トラップ	トラップからアラート、アラートからトラップの変換が、基本 NetView 機能として使用できるようになり、SNMPv2c と SNMPv3 をサポートします。NetView プログラムでイベント/自動化サービス (E/AS) を使用することは不要になりました。	「IBM Tivoli NetView for z/OS 自動操作ガイド」内の SNMP トラップ自動化の章を参照してください。
Tivoli Enterprise Portal	以下の追加の NetView データを、Tivoli Enterprise Portal で使用できるようになりました。 • DVIPA • シスプレックス • TCP/IP スタック構成および状況データ • NetView 正常性 • 状態 • エキスパート・アドバイス	「IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: Tivoli NetView for z/OS Enterprise Agent の構成」、 「IBM Tivoli NetView for z/OS ユーザーズ・ガイド」、および 「IBM Tivoli NetView for z/OS アドミニストレーション・リファレンス」を参照してください。

ユーザビリティの向上

表 4. ユーザビリティの向上

機能	説明	追加情報
NetView 管理コンソール (NMC) と RODM	メインフレーム TCP/IP ホストは、分散 TCP/IP ホストとは区別されたアイコンを使用して、NMC に強調表示されます。 「リソース・プロパティ」ウィンドウの「その他のデータ」フィールドには、シスプレックス名や SNA 名などの、メインフレーム TCP/IP ホストに関する追加の z/OS 情報が含まれています。	「 <i>IBM Tivoli NetView for z/OS マルチシステム・マネージャー ユーザーズ・ガイド</i> 」内のインターネット・プロトコル・ネットワーク操作の章を参照してください。
ポリシー・ファイル内の重複ステートメントの識別	CNMEDUPS コマンドを使用すると、重複ステートメントを検索する対象のポリシー・ファイルを指定できます。必要であれば、重複を除去できます。	「 <i>IBM Tivoli NetView for z/OS コマンド解説書 第 I 巻</i> 」内の CNMEDUPS コマンドを参照してください。

エンタープライズ統合

表 5. エンタープライズ統合の機能拡張

機能	説明	追加情報
IBM Tivoli NetView for z/OS Enterprise Management Agent	サンプル・データおよびリアルタイム・データを使用して、Tivoli Enterprise Portal からネットワークを管理できるようになります。サンプル・データから、ネットワーク・リソースと障害、およびネットワーク内の傾向に関する情報が提供されます。 NetView、VTAM®、および z/OS コマンドは、Tivoli Enterprise Portal から発行できます。可用性データおよびパフォーマンス・データは、選択された OMEGAMON XE V4.1.0 エージェントへの製品間リンクを使用して、Tivoli Enterprise Portal から管理できます。	「 <i>IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: Tivoli NetView for z/OS Enterprise Agent の構成</i> 」、「 <i>IBM Tivoli NetView for z/OS ユーザーズ・ガイド</i> 」、および「 <i>IBM Tivoli NetView for z/OS アドミニストレーション・リファレンス</i> 」を参照してください。
CMDB サポート	TCP/IP リソースおよび関係に関する情報を NetView for z/OS RODM データ・キャッシュから抽出して、管理対象リソース情報を IBM Tivoli Change and Configuration Management Database (CCMDB) に送信するディスカバリー・ライブラリー・アダプター (DLA) を提供します。管理対象リソース情報は CCMDB で、他の管理製品に使用できます。	「 <i>IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: 追加コンポーネントの構成</i> 」内の CCMDB サポート・セクションと、「 <i>IBM Tivoli NetView for z/OS アドミニストレーション・リファレンス</i> 」内の CNMSTYLE DLA ステートメントを参照してください。

表 5. エンタープライズ統合の機能拡張 (続き)

機能	説明	追加情報
APSERV コマンド・ インターフェース	許可プログラム (クライアント) が、適切に設定されたユーザー名で NetView または MVS コマンドを実行して、結果をログに記録できるようになります。	「IBM Tivoli NetView for z/OS アプリケーション・プログラマーズ・ガイド」

保守容易性

表 6. 保守容易性

機能	説明	追加情報
AON CLISTS は、 未コンパイル REXX として出荷されま す。	NetView の前のリリースでは、AON CLIST は、コンパイル済み REXX として CNMCLST データ・セットに格納されていました。NetView for z/OS バージョン 5.3 では、未コンパイル REXX として出荷されます。AON 機能は変更されていません。	なし

第 2 章 マイグレーションの準備

本書では、NetView V5R3 へのマイグレーションのための情報を提供します。インストールを始めるにあたり、NetView プログラム・ディレクトリーを先にお読みください。基本インストール情報については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS* インストール: 概説」を参照してください。

Tivoli NetView for OS/390 V1R3 より前のリリースからマイグレーションを行う場合は、新規ユーザーとしてインストールしてください。「*IBM Tivoli NetView for z/OS* インストール: 概説」を参照してください。

概要

以下の作業によりマイグレーションを行います。

1. NetView プログラム・ディレクトリーを参考に、NetView プログラムを、SMP/E を使用して配布テープからインストールする。
2. ご使用の z/OS システムに、現行の NetView リリースのために必要な追加の準備を行う。
3. 現行の NetView リリースに行われた変更を組み込むため、既存の NetView インストール・システムを変更する。
4. NetView プログラムの基本機能をテストして、マイグレーションを検査する。

本書は、最小限の時間で、NetView プログラムのマイグレーションおよび検査を行うことを目的として作成されています。

ハードウェア要件およびソフトウェア要件

インストールのためのハードウェア要件およびソフトウェア要件の詳細情報と包括的リストについては、NetView プログラム・ディレクトリーを参照してください。

インストール・パッケージ

インストール・パッケージの内容についての詳細は、NetView プログラム・ディレクトリーを参照してください。

ワークステーション・ベースの NetView コードは、次の 2 つの形式で配布されます。

- CD
- Tivoli Web サイト

古い NetView リリースを実行しながら新しい NetView リリースをインストールする方法

V5R3 へのマイグレーションを計画して実施するときに、実動システムとして古いバージョンの NetView プログラムを実行させておく場合は、以下の処置を行うとマイグレーションが容易になります。

- このパッケージを PDO としてオーダーした場合は、既存の NetView リリースに使用されているものとは別個の SMP グローバル・ゾーンおよびターゲット・ゾーンに、V5R3 ファイルをインストールすることができます。
- 2 つの完全 NetView プログラムを並行して実行することを計画している場合を除き、マイグレーションが完了した後、古い NetView リリースを削除することをお勧めします。
- V5R3 のインストール時に SCNMLPA1 にコピーされるモジュールは、以下の製品と後方互換性があります。

- Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 2
- Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 1
- Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 4
- Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 3

SCNMLPA1 内のモジュールは前の NetView リリースと後方互換性がありますが、SCNMLPA1 を最新の状態に保つために、現行リリースのこれらのモジュールのコピーで稼働することをお勧めします。したがって、SCNMLPA1 の旧のコピーを削除して、SCNMLPA1 の V5R3 のコピーを LPALST に配置してください。このときには z/OS システムを再始動する必要があるため、このアクティビティは都合の良い時間にスケジュールしてください。

- NETVIEW.V5R3M0.SCNMLNK1 内の ISTIECCE ロード・モジュールは、NetView リリース V1R3 または V1R4 の ISTIECCE モジュールとは互換性がありません。VTAM 始動プロシージャの VTAMLIB DD ステートメントに正しいレベルのこのモジュールが組み込まれていることを確認してください。前のバージョンの ISTIECCE モジュールを使用した場合やこのモジュールが正しいライブラリーに入っていない場合、ステータス・モニターの初期化に失敗したり、その他の予期しない結果になることがあります。

2 つのリリースの NetView プログラム、NetView 管理コンソール、および RODM を 1 つの実動システムで実行するためのサポートが用意されています。2 つの NetView リリースを同じシステムで実行する場合の詳細は、「*IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: 追加コンポーネントの構成*」を参照してください。

マイグレーション・プロセス

プロセス内の以降のセクションに概説された手順に従って、NetView プログラムの現行リリースにマイグレーションします。これらのステップは、新規ユーザーのためのインストール・プロセスの高水準の概説であり、環境が準備されたこと、および NetView プログラムが正しくインストールされたことを確認するためのチェックリストとして利用できます。現行の NetView リリースのために準備される環境は、以下のとおりです。

- MVS システム

- UNIX システム・サービス

NetView プログラム用にこれらの環境を準備した後のマイグレーション手順は、次のようにグループ化されます。

- 基本 NetView 機能
- グラフィカル NetView 機能
- 拡張 NetView 構成

このマイグレーション・プロセスを始める前に、ご使用の NetView ライブラリーのバックアップ・コピーを作成しておいてください。

データ・セットの統合

注: このセクションは、NetView for z/OS V5R2 以降からマイグレーションする場合には適用されません。

前のリリースの RODM データ・セットと AON データ・セットが、NetView データ・セットに統合されました。

表 7. データ・セットの統合

以前のデータ・セット名	V5R3 データ・セット名
AEKGCAS1	ACNMSAMP
AEKGLUTB	ACNMSAMP
AEKGMOD1	ACNMLINK
AEKGPNL1	ACNMPNL1
AEKGSMP1	ACNMSAMP
AEZLCLST	ACNMCLST
AEZLINST	ACNMSAMP
AEZLLINK	ACNMLINK
AEZLPNLU	ACNMPNL1
AEZLSAMP	ACNMSAMP
SEKGCAS1	CNMSAMP
SEKGLNK1	SCNMLNKN
SEKGLUTB	CNMSAMP
SEKGMOD1	CNMLINK
SEKGMOD2	CNMLINK
SEKGPNL1	CNMPNL1
SEKGSMP1	CNMSAMP
SEZLCLST	CNMCLST
SEZLINST	CNMSAMP
SEZLLINK	CNMLINK
SEZLPNLU	CNMPNL1
SEZLSAMP	CNMSAMP

注:

1. SCNMLNKN は新規データ・セット名です。
2. RODM データ・セットの AEKGLANG と SEKGLANG は統合されませんでした。

MVS システムの準備

MVS を NetView V5R3 プログラム用に更新するには、以下のステップを行う必要があります。以下は、新規インストールに必要な基本ステップと同じです。これらのステップの詳細については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS* インストール: 概説」を参照してください。

SYS1.PARMLIB のメンバーを更新するには、表 8 を参照してください。

表 8. SYS1.PARMLIB メンバー

メンバー名	お勧めする更新
COUPLExx	自動リスタート・マネージャー (ARM) サポートについて、ARM 結合データ・セットが (メンバー IEASYSxx で定義された) 次の DATA ステートメントにより XCF に対して識別されていることを確認します。 DATA TYPE(ARM) PCOUPLE(primary-dsname) ACOUPLE(alternate-dsname) ワークロード・マネージャー (WLM) サポートについて、COUPLE および WLM データ・セットが指定されていることを確認します。

表 8. SYS1.PARMLIB メンバー (続き)

メンバー名	お勧めする更新
PROGxx または IEAAPFxx	これらがまだ許可されていない場合、ご使用の VTAM および NetView 始動プロシージャの STEPLIB、VTAMLIB、および NCPLOAD 連結に組み込まれているすべてのライブラリーを許可してください。 • VTAM 始動プロシージャ: CNMSJ008 (CNMNET) • NetView 始動プロシージャ: CNMSJ009 (CNMPROC) • NetView サブシステム・インターフェース (SSI) 始動プロシージャ: CNMSJ010 (CNMPSSI) • RODM 始動プロシージャ: EKGXRODM • GMFHS 始動プロシージャ: CNMSJH10 (CNMGMFHS) • イベント自動化サービス 始動プロシージャ: IHSAEVT 以下の NetView ライブラリーが許可済みであることを確認します。 • NETVIEW.V5R3M0.SCNMLNK1 • NETVIEW.V5R3M0.SCNMLPA1 • NETVIEW.V5R3M0.CNMLINK • NETVIEW.V5R3M0.SCNMLNKN • NETVIEW.V5R3M0.SCNMUXLK (イベント自動化サービス の使用者用) Tivoli NetView for z/OS Enterprise Management Agent を使用する計画の場合は、以下の追加ライブラリーを許可してください。 • RKANMOD • RKANMODL • RKANMODU • STEPLIB DDNAME と、CANSNA および CANSDSST 開始済みタスクの RKANMODL DDNAME に連結されたランタイム・ライブラリー 注: 日本語版プログラムの V5R3 をインストールする場合は、NetView データ・セットの SCNMMJPN を許可してください。このデータ・セットは CNMPROC の STEPLIB にあります。 REXX 環境について、次のいずれかのライブラリーが APF 許可されていることを確認してください。 • REXX/370 ランタイム・ライブラリー: SEAGLPA • REXX 代替ライブラリー: SEAGALT 注: SETPROG APF コマンドを使用すると、APF 許可ライブラリーのリストを動的に更新することができます。 以下のデータ・セットは、NetView V5R3 では使用されなくなりました。他の理由で使用されているのであれば、除去してかまいません。 • SEKGMOD1 • SEKGMOD2 • SEZLLINK • SEKGLNK1 • SEKGSMP1

表 8. SYS1.PARMLIB メンバー (続き)

メンバー名	お勧めする更新
IEAIPsxx	ワークロード・マネージャーについて、JCL でディスパッチング優先順位を指定することはできなくなりました。システムは、JCL EXEC ステートメントの DPRTY キーワードを無視します。DPRTY パラメーターが認識されるが無視される際、警告メッセージは発行されません。
IEASYMxx	TCP/IP アプリケーション名、RODM 名、およびネットワーク ID を含む、NetView プログラム用のユーザー定義のシステム・シンボルを識別するため、SYSDEF ステートメントを追加します。 これらのシンボリック変数を設定すると、TCP/IP ポートなどの一部のデフォルト・パラメーターを変更する必要がある場合を除き、多数の NetView 初期化メンバーの変更を軽減することができます。 例えば、次のシンボリック変数を定義することができます (これらは、デフォルトの NetView シンボル名です)。 <pre>SYSDEF SYMDEF(&CNMTCPN='tcpip_name') SYSDEF SYMDEF(&CNMRODM='rodm_name') SYSDEF SYMDEF(&CNMNETID='network_id')</pre> これらのシンボリック変数を使用する初期化メンバーは、14 ページの表 9 に示されています。 サンプル A01APPLS (CNMS0013) を使用する場合、&CNMDOMN シンボルを NetView ドメインに設定することができます。このシンボルを設定しない場合は、&CNMDOMN を NetView ドメインに置換してください。 注: NetView for z/OS Enterprise Management Agent はまた、更新する必要がある場合には、システム・シンボリックもサポートします。 「IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: Tivoli NetView for z/OS Enterprise Agent の構成」を参照してください。
IEASYSxx	NetView プログラムの ASID の最大数および置換 ASID を指定します。V5R3 以降、NetView for z/OS Enterprise Management Agent の LPAR ごとに、1 つまたは 2 つのアドレス・スペースが追加されました。z/OS Tivoli Enterprise Monitoring Server を実行する場合は、2 つ追加されます。 - MAXUSER を、一度に使用可能にする ASID の数に設定します。 - RSVNONR を、置換値にする値に設定します。 注: MAXUSER、RSVNONR、および RSVSTRT の値の合計が、32767 を超えてはなりません。MAXUSER を小さい値にする場合は、必ず、RSVNONR にはかなり大きい値を指定してください。 自動リスタート・マネージャー (ARM) またはワークロード・マネージャー (WLM) 用の DATA ステートメントが含まれている COUPLExx メンバーを識別するために、COUPLE システム・パラメーターを追加します。ARM または WLM サポートのために PLEXCFG=MONOPLEX または PLEXCFG=MULTISYSTEM を追加します。

表 8. SYS1.PARMLIB メンバー (続き)

メンバー名	お勧めする更新
IEFSSNxx	NetView および RODM のサブシステム名が定義されていることを確認します。 • RODM サブシステム名 (EKGX がデフォルトです) • 4 文字の NetView サブシステム名 (CNMP がデフォルトです) • (オプション) Tivoli NetView for z/OS Enterprise Management Agent サブシステム名 CANS IEFSSNxx で NetView サブシステム名をどこに入れるかを決定する前に、以下の条件を考慮してください。 • IEFSSNxx で、NetView サブシステム名を他のサブシステム名よりも前に置くと、NetView サブシステムは、すべての MVS のシステム・メッセージとコマンドを、他のサブシステムによる変更を受けることなく受信します。 • NetView サブシステム名を、IEFSSNxx で他のサブシステム名の後に置くと、NetView サブシステムが受信するすべての MVS メッセージおよびコマンドは、NetView サブシステムの前にリストされた他のサブシステムが加えた変更による影響を受けます。
IEFUSI	NetView for z/OS Enterprise Management Agent は、通信相手の NetView ごとに 1 つのデータ・スペースを作成します。IEFUSI 出口でご使用のシステムのデータ・スペース数を制限する場合は、必要に応じて確実に調整してください。
PROGxx または LNKLSTxx	ターゲット・システムのリンク・リストを定義する LNKLSTxx メンバーに、NETVIEW.V5R3M0.CNMLINK および NETVIEW.V5R3M0.SCNMLNKN を追加します。 LNKLSTxx にリストされたデータ・セットは、システム・マスター・カタログにカタログする必要があります。 以下のデータ・セットは、NetView V5R3 では使用されなくなりました。他の理由で使用されているのであれば、除去してかまいません。 • SEKGMOD1 • SEKGMOD2 • SEZLLINK • SEKGLNK1 • SEKGSMP1 注: Tivoli Management Services インフラストラクチャを使用する z/OS 製品の Take Action セキュリティー・ソリューションを使用している場合は、LNKLSTxx に NetView CNMLINK データ・セットをコーディングするだけでは不十分です。Tivoli Enterprise Monitoring Server または z/OS エージェントの RKANMODL DD ステートメントの NetView CNMLINK データ・セットに連結する必要もあります。Take Action セキュリティーについては、「IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: Tivoli NetView for z/OS Enterprise Agent の構成」を参照してください。
LOADxx	必要であれば、ユーザー定義のシステム変数に使用する IEASYMxx メンバーを識別するため、IEASYM ステートメントを追加します。

マイグレーションの概要

表 8. SYS1.PARMLIB メンバー (続き)

メンバー名	お勧めする更新
LPALSTxx	SCNMLPA1 データ・セットを組み込みます。V5R3 と同じシステムで前の NetView リリースを実行する場合、V5R3 SCNMLPA1 を LPALSTxx に追加します。LPALSTxx に、前の NetView SCNMLPA1 が組み込まれていないことを確認します。 注: LPALSTxx にリストされたデータ・セットは、PROGxx または IEAAPFxx で許可し、USER CATALOG(VOLSER) にカタログする必要があります。例えば、NETVIEW.V5R3M0.SCNMLPA1(NVPTFM) にカタログします。
SCHEDxx	NetView プログラムが、MVS ストレージ・キー 8 で実行されることを確認します。NetView プログラムに SCHEDxx ステートメントが使用されていることを確認します。 - ハードウェア・モニター (NPDA) がない NetView プログラムでは、以下のように NetView JCL PROC で PGM=DSIMNT であること。 PPT PGMNAME(DSIMNT) NOSWAP KEY(8) - ハードウェア・モニター (NPDA) がある NetView プログラムでは、以下のように NetView JCL PROC で PGM=BNJLINTX であること。 PPT PGMNAME(BNJLINTX) NOSWAP KEY(8) - RODM プログラムでは、以下のように RODM JCL PROC で PGM=EKGTC000 であること。 PPT PGMNAME(EKGTC000) NOSWAP NOCANCEL - NetView GMFHS プログラムでは、以下のように GMFHS JCL PROC で PGM=DUIFT000 であること。 PPT PGMNAME(DUIFT000) NOSWAP KEY(8) NetView プログラムの SSI アドレス・スペースと NetView for z/OS Enterprise Management Agent は、それ自体をスワップ不能にできません。
SMFPRMxx	タイプ 37 (ハードウェア・モニター) およびタイプ 39 (セッション・モニター) SMF レコードが、収集されるようにセットアップされていることを確認します。 注: 監視プログラム呼び出し命令 (SVC) 番号の使用は、NetView プログラムではサポートされなくなりました。SVC 番号を使用していた場合、次のステートメントを削除してください。 LOGSVC nnn 前のリリースの NetView プログラムをすでに実行していない場合は、対応する SVC を LPALIB から削除できます。

シンボリック変数を使用する初期化メンバーを、表 9 に示します。

表 9. 初期化メンバーで使用するシンボリック変数

メンバー	タスク	TCP/IP 名	RODM 名	NETID
		&CNMTCPN	&CNMRODM	&CNMNETID
CNMSTYLE	NetView 初期化	X	X	X
DUIGINIT	GMFHS (グラフィックス)		X	

表 9. 初期化メンバーで使用されるシンボリック変数 (続き)

メンバー	タスク	TCP/IP 名	RODM 名	NETID
		&CNMTCPN	&CNMRODM	&CNMNETID
FLBSYSD	SNA トポロジー・ マネージャー		X	

注: ジョブ CNMSJBUP (17 ページの表 11 を参照) を実行した後、シンボル置換を行うために、代替メソッドとしてデータ・セット NETVIEW.V5R3USER.INSTALL でサンプル CNMSJM12 を使用することができます。CNMSJM12 は、NetView メンバーのシンボリック変数を置換します。

その他の考慮事項は、以下のとおりです。

- NetView V1R3 からマイグレーションする場合、NetView V5R3 プログラムが、REXX ランタイム・ライブラリーまたは REXX 代替ライブラリーにアクセスできる必要があります。
- NetView コンポーネント (例えば、マルチシステム・マネージャーおよび AON) および基本 NetView 機能のいくつかは、REXX で作成されたコードを実行します。NetView プログラムにはまた、データ REXX 関数を使用する複数のパーツも含まれています。データ・ファイルに REXX 命令および関数を組み込むには、データ REXX 関数を使用します。NetView プログラムを初期化するには、システムが NetView アドレス・スペース用に初期化する言語プロセッサ環境の最大数を調整する必要がある場合があります。NetView プログラム用の言語プロセッサ (REXX) 環境の詳細については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: 追加コンポーネントの構成*」を参照してください。
- System Automation for OS/390 と NetView プログラムの AON コンポーネントを同じアドレス・スペースで実行する場合は、ワークロード・マネージャーを使用可能にしてください。詳細については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: 追加コンポーネントの構成*」を参照してください。
- MVS コマンド出口 DSIMCAEX の使用を計画している場合は、次のステートメントを SYS1.PARMLIB の MPFLSTxx メンバーに追加してください。

```
.CMD USEREXIT(DSIMCAEX)
```

詳細については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS 自動操作ガイド*」を参照してください。

UNIX システム・サービスの準備

NetView V5R3 用に UNIX システム・サービスを更新するには、以下のステップが必要です。MVS NetView コンポーネントを V5R3 にアップグレードする場合は、UNIX システム・サービスの NetView コンポーネントも V5R3 にアップグレードしてください。

注:

1. NetView プログラムによる UNIX システム・サービスの構成ファイルへのアクセス方法上の理由から、NetView プログラムでは 1 つのバージョンの構成ファイルしか実行できません。

マイグレーションの概要

2. 複数の NetView プログラムを 1 つの LPAR の下で実行している場合は、これらの NetView プログラムの 1 つからのみ CNMEUNIX プログラムにアクセスすることができます。これは、PPI 受信側が CNMEUNIX プログラムに指定されているためです。

以下は、新規インストールに必要な基本ステップと同じです。これらのステップの詳細については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS* インストール: 追加コンポーネントの構成」を参照してください。

1. SYS1.PARMLIB 内のメンバー BPXPRMxx を更新して、UNIX システム・サービスのパラメーターを指定します。
2. 必要であれば、z/OS UNIX システム・サービスの環境変数を更新します。
3. 既存の RACF® 定義を検討します。詳細については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS* セキュリティ・リファレンス」を参照してください。
4. UNIX コマンド・サーバーを使用可能にします。
5. イベント自動化サービス 始動プロシージャー IHSAEVNT を見直します。
6. インストール後、関連エンジン/共通イベント・インフラストラクチャー・インターフェースの開始ジョブ CNMSJZCE を見直します。

以下は、USS 環境で使用される NetView V5R3 ディレクトリー構造です。前の NetView リリースのディレクトリー構造は、使用されなくなりました。

- /usr/lpp/netview/v5r3/bin
- /usr/lpp/netview/v5r3/lib
- /usr/lpp/netview/v5r3/mibs
- /usr/lpp/netview/v5r3/samples
- /usr/lpp/netview/v5r3/samples/properties

構成が完了すると、NetView V5R3 USS は表 10 のディレクトリーを使用します。

表 10. UNIX システム・サービスで使用するディレクトリー構造

ディレクトリー	説明
/usr/lpp/netview/v5r3/bin	
/usr/lpp/netview/v5r3/mibs	
/etc/netview/mibs	ユーザー定義の MIB、および NetView V5R3 に付属していない MIB
/etc/netview/v5r3	アプリケーション・ファイル
/etc/netview/v5r3/properties	アプリケーション・ファイル
/tmp/netview/v5r3	アプリケーション・ファイル
/tmp/netview/v5r3/logs	アプリケーション・ファイル
/var/netview/v5r3/rulefiles	アプリケーション・ファイル

NetView MIB コレクションは、/usr/lpp/netview/v5r3/mibs ディレクトリーにあります。NetView は配布時、/etc/netview/mibs/ ディレクトリーでユーザー定義の MIB を探します。ユーザー定義の MIB を別の場所に配置する場合は、MIB の場所を反映するために、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の COMMON.CNMSNMP.MIBPATH ステートメントを更新する必要があります。

あります。NetViewに付属する MIB コレクションの詳細については、
/usr/lpp/netview/v5r3/mibs/ ディレクトリー内の README.mibs ファイルを参照
してください。

NetView プログラムの準備

NetView V5R3 にマイグレーションする際には、表 11 のステップを検討してください。以下は、新規インストールに必要な基本ステップと同じです。これらのステップで注記されているのは、マイグレーションするユーザーに影響する変更です。詳細については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS* インストール: 概説」を参照してください。

警告: CNMSJBUP を実行した後、すべての NetView インストール JCL と関連メンバーは、NETVIEW.V5R3USER.INSTALL データ・セットにあります。このデータ・セットからのみ作業を行ってください。NETVIEW.V5R3M0.CNMSAMP から作業を継続した場合、表 11 で説明されているインストール JCL を実行しているときに、予期しない結果になることがあります。

表 11. インストール JCL

メンバー	説明
CNMSJBUP	NETVIEW.V5R3M0.CNMSAMP のインストール JCL メンバーを、データ・セット NETVIEW.V5R3USER.INSTALL にコピーします。 注: NetView サンプル・ライブラリー全体はコピーされません。データ・セット NETVIEW.V5R3M0.CNMSAMP で変更が必要な可能性のあるメンバーのサブセットのみがコピーされます。
CNMSJ001	ICF カタログを作成し、ALIAS 名 NETVIEW を、NetView データ・セットの高位修飾子として定義します。NetView プログラム・ディレクトリーのインストール時にこの別名を定義しておらず、かつ、この高位修飾子を使用する予定の場合は、このジョブを実行してください。

表 11. インストール JCL (続き)

メンバー	説明
CNMSJ002	区分データ・セットを割り振ります。 インストールする NetView ドメインごとに V5R3 ユーザー・データ・セットのセットを割り振り、そのドメインのユーザー・データ・セットからカスタマイズされたメンバーをすべて、この V5R3 データ・セットにコピーします。 注: 1. このジョブで提供されたコメント内のシンボリック変数を検討します。必要であれば、ご使用のシステムに合わせて、&UNIT および &SER JCL 変数を変更してください。 2. インストールする NetView ドメイン名に一致するように、&DOMAIN JCL 変数を変更します。 3. V1R4 では、以下のデータ・セットは不要になりました。 • NETVIEW.VxRxUSER.&domain.USER.PROFILE • NETVIEW.VxRxUSER.&domain.VIEW.OUTPUT 4. V5R1 より、SEZLPNLU ユーザー・データ・セットは使用されなくなりました。代わりに、NETVIEW.V5R3USER.&domain.CNMPNL1 を使用してください。前に SEZLPNLU データ・セットのパネルをカスタマイズした場合は、それらの変更を CNMPNL1 のパネルにマイグレーションしてください。 5. V5R2 では、ユーザー NETVIEW.VxRxUSER.&domain.CNMCLST データ・セットは、カスタマイズされたコマンド・リストと REXX 実行可能プログラムで使用するために用意されています。
CNMSJ000	NetView インストール JCL および NetView サンプルの、デフォルトの NetView ドメイン (CNM01)、サブエリア (01)、および VSAM 割り振りボリューム (CPDLB2) を変更します。変更されたサンプルは、以下のデータ・セットに配置されます。 • NETVIEW.V5R3USER.&domain.DSIPARM • NETVIEW.V5R3USER.INSTALL • NETVIEW.V5R3USER.&domain.VTAMLST デフォルト VSAM 割り振りは、NOVOLSER に変更されます。これにより、コンポーネント VSAM クラスタを割り振る IDCAMS メンバーからボリューム・パラメーターが除去されます。

表 11. インストール JCL (続き)

メンバー	説明
CNMSJ003	NetView プロシージャを PROCLIB へ、AON メンバーをユーザー DSIPARM およびユーザー CNMPNL1 データ・セットへ、サンプル・ネットワーク VTAM メンバーをユーザー VTAMLST データ・セットにコピーします。 注: 1. PROCLIB 内の既存のメンバーを上書きしないように、CNMSJ003 を実行する前に CNMSJ10 を検討して、変更を実行します。その後、CNMSJ003 内の //PDS2 EXEC ステートメントをアンコメントします。 2. ステップ PDS5 から PDS8 は、当初はコメント化されています。NetView for z/OS Enterprise Management Agent をインストールする場合は、このステップをアンコメントしてください。このステップでコピーされたメンバーは、IBM Tivoli Monitoring データ・セットに入れられます。これらは構成ツールで使用されます。 3. V1R4 では、VIEWPP NetView プロシージャは不要になりました。

表 11. インストール JCL (続き)

メンバー	説明
CNMSJ004	VSAM クラスターを割り振ります。 NetView V5R3 用に新規 VSAM クラスターを割り振ることを検討してください。 注: 3390 DASD を使用する場合は、NetView V5R3 のインストール時に 3380 DASD から 3390 DASD に移動する場合、ご使用の環境で NetView デフォルトが動作します。使用する DSIZVLSR のコピーがご使用のクラスター定義と互換性のあることを確認してください。NetView V5R3 で 3380 DASD の使用を計画している場合は、3380 のデータ値および索引値を反映するように、すべての VSAM クラスター定義の CI 値を編集してください。また、使用する DSIZVLSR のコピーで 3380 DASD の適正な値が指定されていることも確認してください。CNMSJM01 を更新し、それをアセンブルおよびリンク・エディットして、ユーザー・ライブラリーに入れることが必要になる場合があります。詳しくは、「<i>IBM Tivoli NetView for z/OS Tuning Guide</i>」を参照してください。 - Tivoli NetView V1R3 より前のリリースからマイグレーションする場合は、最適のパフォーマンスを得るために、すべての VSAM データベースを再割り振りしてください。 - 必要であれば、NetView ログを再定義します。パスワード、および 1 次ログと 2 次ログの切り替えも含め、再定義してください。 - RODM 用 VSAM クラスターの割り振りについて詳しくは、「<i>IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: グラフィカル・コンポーネントの構成</i>」を参照してください。 - V5R2 では、TCP/IP 接続管理にとって DSITCONP および DSITCONS データベースは新規です。 - V5R2 では、AON 用 VSAM クラスターはデフォルトで CNMSJ004 に割り振られます。

追加のインストールの注意点は、以下のとおりです。

- System Automation for OS/390 で V5R3 NetView プログラムを実行するには、APAR OA10721 を適用してください。この APAR は、メンバー INGCMD に SA/390 コマンド定義を提供します。これらのコマンド定義は、メンバー AOFCMD0 を置換します。既存の NetView 環境に AOFCMD0 が含まれている場合は、NetView 初期化中の競合を避けるために、AOFCMD0 に対する参照をすべて除去してください。
- ユーザー作成のすべての NetView コードを再アセンブルまたは再コンパイルします。

NetView プログラムで実行されるアプリケーションを作成している場合は、そのコードを SCNMMAC1 データ・セットで再コンパイルしてください。詳細については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS カスタマイズ・ガイド*」および「*IBM Tivoli NetView for z/OS Programming: Assembler*」を参照してください。

3. MESSAGE カテゴリーはサポートされなくなりました。メッセージ転送は、ユーザーや、AON などのアプリケーション・プログラムによって行われます。マイグレーションのため、以前に配布された NetView メッセージ転送サンプルは引き続き動作します。これらのサンプルの一部は、NetView の初期化の際に設定される、以下の共通グローバル変数に依存します。

&DIALTIME

VARY NET,DIAL コマンドを処理するアラート転送コマンド・リストが、データ処理を続行するまでに、コマンドからの応答を待つ最大時間。

&WAITTIME

VARY NET,DIAL 以外のコマンドを処理するアラート転送コマンド・リストが、データ処理を続行するまでに、コマンドからの応答を待つ最大時間。

&RETRYTIM

リンク局が無効状態であるためにダイヤル呼び出しが失敗した場合に、メッセージ転送コマンド・リストが、リンク局のダイヤル呼び出しの間に待つ時間。

&LNKdomid

リモート・ドメイン (*domid*) に関連付けられたリンク局名。この変数は、SETADIAL コマンドを使用して設定できます。

&CDRMdomid

リモート・ドメイン (*domid*) に関連付けられた CDRM 名。この変数は、SETADIAL コマンドを使用して設定できます。

以下のコマンドにより、&LNKdomid 変数および &CDRMdomid 変数を設定できます。このホストが交換回線で通信するそれぞれのホスト (リモート・ドメイン) ごとに 1 つコーディングしてください。

SETADIAL *domid linkid cdrmid*

ここで、

domid このホストと交換回線で通信するリモート・ドメインの 1 から 5 文字の名前。

linkid リモート・ドメインに関連付けられた 1 から 8 文字のクロスドメイン・リンク局名。

cdrmid リモート・ドメインに関連付けられた 1 から 8 文字のクロスドメイン CDRM 名。

4. ネットワーク全体に NetView プログラムが配布された後、ノードを漸次マイグレーションして、RMTCMD コマンドおよび LU 6.2 セッションを使用するようにします。

複数 CMC または複数フォーカル・ポイントのエンタープライズでは、すべての CMC またはフォーカル・ポイントを、RMTCMD コマンドおよび LU 6.2 セッションを使用するように更新してから、拡張複数コンソール・サポート (EMCS) コンソールを使用するためにこれらのノードをマイグレーションしてください。また、分散自動化を使用するネットワークでは、メッセージを交換するすべての NetView プログラムを、RMTCMD コマンドおよび LU 6.2 セッションを使用

するように更新してから、EMCS コンソールを使用するためにそれらのプログラムをマイグレーションしてください。両方の場合とも、可能な場合、強調表示や DOM 情報などの MDB データを失わないようにするため、EMCS コンソールを使用する前に、RMTCMD コマンドおよび LU 6.2 セッションへのマイグレーションを完了してください。

5. VIEW コマンド・プロセッサは、ユーザー作成プログラムからフルスクリーン・パネルを表示するために使用されます。VIEW は、パネルに定義された変数の値を、呼び出し側プロシーチャーのローカル・ディクショナリーから検索しようとします。グローバル変数からの更新を必要とする既存のパネルがある場合には、ローカル変数から VIEW 呼び出しを分離する必要がある場合があります。これを行うには、REXX DROP または PROCEDURE ステートメントか、あるいは PIPE VAR を使用します。詳細については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS カスタマイズ・ガイド*」を参照してください。

グラフィカル NetView コンポーネントの準備

グラフィックス・コンポーネントは、DSIPARM メンバー CNMSTYLE の TOWER ステートメントによって活動化されます。TOWER ステートメントを CNMSTUSR または CxxSTGEN にコピーし、グラフィックスおよび MSM (マルチシステム・マネージャーを使用可能にしている場合) も含め、使用するコンポーネントからアスタリスクを除去してください。ステートメントの例は以下のとおりです。

```
TOWER = *SA *AON MSM Graphics MVScmdMgt NPDA NLDM TCIPCOLLECT
        *AMI *TARA *DVIPA *TEMA
```

マルチシステム・マネージャーおよび SNA トポロジー・マネージャーについては、subtower も使用可能にしてください。

CNMSTYLE 組み込みメンバーへの変更のなかには、変更内容を有効にするために NetView プログラムの再始動を必要とするものがあります。この理由から、このインストールの一部としての使用を計画しているグラフィックス機能についてのすべての CNMSTYLE の更新は、同時に行うようにしてください。

以下は、NetView V5R3 のグラフィックス機能を更新するために必要なステップです。これらのステップの詳細については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: グラフィカル・コンポーネントの構成*」を参照してください。

RODM および GMFHS 機能を現行リリースにマイグレーションする場合は、以下の点を考慮してください。

1. サンプル・ジョブ CNMSJ004 を実行したときに、RODM ログおよびチェックポイント・データベースの NetView VSAM クラスタが定義されました (17 ページの表 11 を参照)。

注: チェックポイント機能を使用しており、なおかつ RODM への保管を予想している推定オブジェクト数が、前にサポートされていた最大サポート数である約 524,000 個を超える場合は、RODM チェックポイント・データ・セットのサイズを増加することを検討してください。

2. RODM 始動プロシーチャー EKGXRODM を、ご使用の環境に合致するように更新します。
3. RODM 定義メンバー EKGCUST を更新します。

4. DSIQTSKI の RODM DSIQTSK タスクの初期化値を検討します。
5. GMFHS 始動プロシージャー CNMGMFHS を、ご使用の環境に合致するように更新します。
6. 必要に応じて、DUIGINIT の GMFHS 定義ステートメントを更新します。
7. メンバー DUISFP、DUIFPMEM、および DUIIGHB の状況フォーカル・ポイントの初期化値を検討します。

NetView 管理コンソール をマイグレーションする場合は、以下の点を考慮してください。

1. NetView 管理コンソール トポロジー・サーバー構成を見直します。
2. NetView 管理コンソール トポロジー・コンソール構成を見直します。
3. NetView 3270 管理コンソール用の NetView 管理コンソール を構成します。

SNA トポロジー・マネージャーをマイグレーションする場合は、初期化ファイル FLBSYSD、FLBOSIDS、FLBSRT、および FLBEXV を検討します。

マルチシステム・マネージャーをマイグレーションする場合は、以下の点を考慮します。

1. マルチシステム・マネージャー・エージェントを使用可能にするには、DSIPARM メンバー CNMSTYLE で次のステートメントを見つけます。

```
TOWER.MSM = LNM IP OPN TMR
```

アスタリスクが前に付いているエージェント名は使用不可です。TOWER.MSM ステートメントを CNMSTUSR または CxxSTGEN にコピーし、使用するエージェントを使用可能にする必要性に応じて、アスタリスクを除去または追加します。TOWER.MSM ステートメントが使用可能な場合は、FLCSOPF (オペレーター・プロファイル用に使用される) の %INCLUDE ステートメントも使用可能となっています。

2. マルチシステム・マネージャー・エージェントを現行レベルにアップグレードします。
3. イベント自動化サービス 初期化メンバー IHSAECFG を見直します。
4. マルチシステム・マネージャー初期化ファイル (NetView V5R1 より前は FLCSAINP として配布) を検討します。
5. 必要であれば、追加の NetView DSRB を割り振ります。
6. 指定されている REXX 環境の数を見直します。詳細については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS* インストール: 追加コンポーネントの構成」を参照してください。
7. NetView RATE および AUTORATE ステートメントと、RUNCMD タイムアウト値の設定を見直します。
8. NetView クロスドメイン環境のセットアップを検討します。

AON コンポーネントの準備

必要であれば、AON について以下の変更を加えます。

マイグレーションの概要

- TOWER CNMSTYLE ステートメントを CNMSTUSR または CxxSTGEN にコピーし、AON 機能の前にあるアスタリスク (*) を除去します。これにより、AON コンポーネントのすべてが使用可能になります。

サブタワー・ステートメントで、使用しないすべての AON 機能の前にアスタリスクを追加します。

TOWER.AON = SNA TCP

- AON/SNA 用の STATMON ステートメントを定義します。
- NetView Access Services を使用可能にします。
- TCP390 ステートメントは、AON 構成メンバー EZLCFG01、FKXCFG01、および FKVCFG01 から NetView ベース・ポリシー・メンバー CNMPOLCY に移動します。
- AON 制御ファイルを更新します。
- AON ポリシー定義を検討します。
- AON TCP 390 のサポートのために、CNMPOLCY の局所スタック用の TCP390 ステートメントで、UNIXSERV=YES が定義されていることを確認します。
- 完全 AON 自動化を使用しない場合は、最低限の AON 機能を使用可能にします。

DSIPARM および DSICLD メンバーのマイグレーションに関するその他の考慮事項

既存の DSIPARM および DSICLD メンバーに、ユーザーが追加した変更が含まれている場合、NetView インストール時に作成されるコピーを使用するのではなく、既存のメンバーに新規リリース用の変更を追加できます。詳細については、以下のいずれかのトピックを参照してください。

- 25 ページの『第 3 章 Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 3 からのマイグレーション』
- 61 ページの『第 4 章 Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 4 からのマイグレーション』
- 89 ページの『第 5 章 Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 1 からのマイグレーション』
- 113 ページの『第 6 章 Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 2 からのマイグレーション』

必要な変更をすべて行った後、125 ページの『第 7 章 NetView の開始準備』に進んでください。

第 3 章 Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 3 からのマイグレーション

本章では、Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 3 から NetView プログラムをマイグレーションする場合に、マイグレーションして実動システムとして稼働する方法を説明します。マイグレーション情報は、V1R3 の初期リリースに付属する NetView コンポーネントを基にしています。V5R3 の内容を V1R3 NetView 定義に追加するか、または V1R3 のカスタマイズを NetView プログラムに付属するデフォルトの V5R3 メンバーに追加することができます。いずれの場合も、NETVIEW.V5R3USER.CNM01.DSIPARM などの、適切なユーザー割り振りデータ・セットに、カスタマイズされたメンバーを配置します。NETVIEW.V5R3M0.DSIPARM など、SMP/E 管理のデータ・セットのメンバーはカスタマイズしないでください。

NetView 定義メンバーをマイグレーションする際に、使用する方法に影響を及ぼす可能性のある要因が幾つかあります。ネットワークのサイズや複雑さ、従う必要のあるセキュリティ・ポリシー、および業務の中で確立された慣習などのすべての要因が、お客様のマイグレーションに最適の方法は何かということに影響を与える可能性があります。この後のチェックリストでは、本書で概説し、NetView ライブラリー内の他の文書によってサポートされている、マイグレーションの文書化された方法を詳細に説明しています。ご自分に最適のマイグレーション方法を選択してください。

V1R3 定義をマイグレーションするには、以下のステップを実行してください。

1. サンプル・ジョブ CNMSJ002 を実行して、V5R3 ユーザー・データ・セットの新規セットを割り振ります。 17 ページの表 11 の手順を完了している場合、これはすでに行われています。
2. サンプル・ジョブの CNMSJMIG を実行して、V1R3 DSIPARM メンバーと CNME1034 の初期コマンド・リストを新規 CNMSTYLE フォーマットに変換します。詳しくは 213 ページの『付録 F. CNMSTYLE および CNMCMD へのマイグレーション』を参照してください。
3. サンプル・ジョブ CNMSJMIG を実行して、V1R3 DSICMD メンバーを新規 CNMCMD フォーマットに変換します。詳しくは 213 ページの『付録 F. CNMSTYLE および CNMCMD へのマイグレーション』を参照してください。
4. NetView ドメインごとに、固有の &NV2I 値 (xx) を定義します。
5. CNMSJMIG によって作成されたドメイン固有のステートメントを DSIPARM メンバー CNMSTUSR から CxxSTGEN に移動します。ここで、xx は、前のステップで定義したローカル・シンボリック変数 &NV2I の値です。
6. 本章の CNMSTYLE 情報と、NetView プログラムに付属するデフォルトの CNMSTYLE メンバーを見直してください。CNMSTYLE のドメイン固有のカスタマイズをすべて CxxSTGEN に入れ、CNMSTYLE のシステム全体のカスタマイズを CNMSTUSR に入れます。その場合、これらの変更のいくつかがすでに CNMSJMIG によって追加済みである可能性がありますので注意してください。デフォルトの CNMSTYLE メンバーは変更しないでください。

7. 本章の残りの情報を見直し、変更されたメンバーだけを V5R3 ユーザー・データ・セットに配置して、該当する V1R3 NetView 定義メンバーと JCL プロシージャをマイグレーションします。

NetView の初期化フローは、CNMSTYLE のインプリメンテーションにより単純化されました。図 5 は、NetView V1R3 の初期化フローを示し、図 6 は、単純化された NetView V5R3 初期化フローを示しています。DSIPARM メンバーに変更を行うときには、この新しい初期化フローを覚えておいてください。

NetView V1R3 初期化フロー

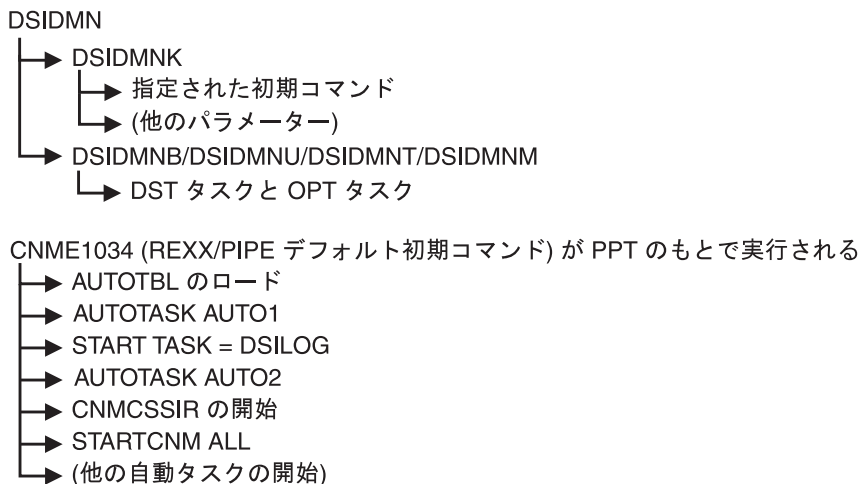


図 5. NetView V1R3 初期化フロー

NetView 初期化フロー

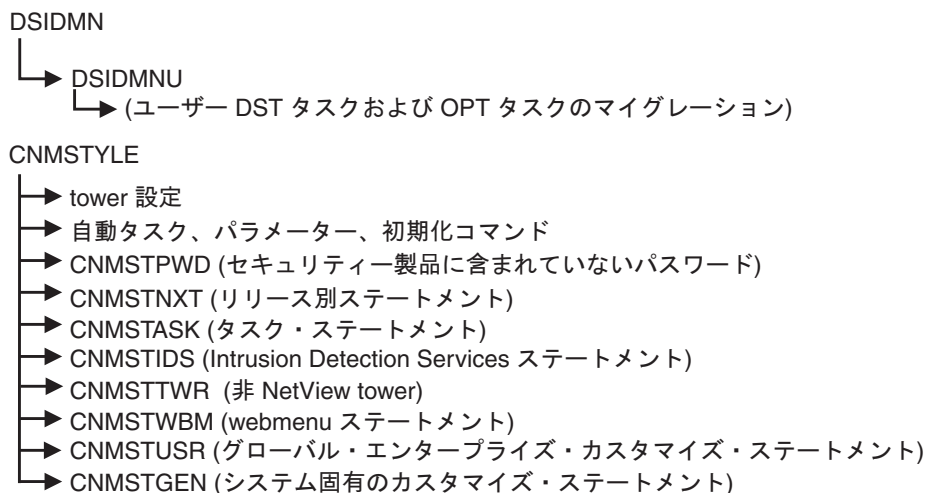


図 6. NetView V5R3 初期化フロー

この章を読み終えた後は、125 ページの『第 7 章 NetView の開始準備』に進んでください。

必要な情報

参照先

パネル、コマンド、メッセージ、およびサンプルなどの変更

- 161 ページの『付録 A. Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 3 から Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 4 への変更』
- 179 ページの『付録 B. Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 4 から Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 1 への変更』
- 195 ページの『付録 C. Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 1 から Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 2 への変更』

新規サンプル

表 12 に、マイグレーション時に見直す新規のサンプルを示します。

表 12. 新規サンプルのリスト

配布名	名前	説明	データ・セット名
CNMCAU00	同じ	MVS コマンド管理の除外 / 組み込みテーブル	CNMSAMP
CNMCMD	同じ	NetView コマンドの NetView コマンド定義	DSIPARM
		CMDDEF ステートメントでは、コマンドの定義を指定します。いくつかの CMDDEF ステートメントはコマンド同義語 (CMD SYN) を持っています。これらのステートメントでは、コマンドの同義語を指定します。 この定義は、端末アクセス機能 (TAF) と VTAM プログラムのクロスドメイン・ログオン定義および CMDDEF ステートメント (および同義語) も提供します。 CNMS6 で始まる名前のファイルは、NETVIEW.V5R3M0.CNMSAMP に組み込まれています。このファイルを CNMCMD に組み込んでおくと、配布テーブルにも組み込まれている自動化コマンド・リストを使用できます。	
CNMCMDO	同じ	製品固有の定義済みコマンドのコマンド定義	DSIPARM
CNMCMDU	同じ	ユーザー定義のコマンド用のコマンド定義	DSIPARM
CNMCMENT	同じ	NetView コマンド定義	DSIPARM
CNMCMSYS	同じ	NetView コマンド定義	DSIPARM
CNMPOLCY	同じ	NetView の自動化ポリシー	DSIPARM

表 12. 新規サンプルのリスト (続き)

配布名	名前	説明	データ・セット名
CNMSAF2	同じ	NetView オペレーターおよびコマンドの RACF 定義を設定します。	CNMSAMP
CNMSBAK1	同じ	バックアップ・コマンド権限テーブル	DSIPARM
CNMSCAT2	同じ	サンプル・コマンド権限テーブル	DSIPARM
CNMSCBEA	同じ	CBE 自動化テーブル・アクションを使用した共通基本イベント XML 文書の作成方法を示す自動化サンプル	DSIPARM
CNMSCBET	同じ	共通基本イベント XML エlementを定義するためのテンプレート・ファイル	DSIPARM
CNMSCM	同じ	TCP/IP スタックの SNMP コミュニティ名	DSIPARM
CNMSDVIP	同じ	このサンプルは、DVIPA 定義と状況データを表示します。また、DVIPSTAT コマンド出力 (BNH846I メッセージ) を分かりやすいフォーマットに設定します。	CNMSAMP
CNMSDVPC	同じ	このサンプルは、DVIPA 接続データを表示します。また、DVIPCONN コマンド出力 (BNH849I メッセージ) を分かりやすいフォーマットに設定します。	CNMSAMP
CNMSEMAA	同じ	NetView for z/OS Enterprise Management Agent 用の自動化テーブル・メンバー	DSIPARM
CNMSEPTL	同じ	リソース・ディスカバリーのための自動化テーブル・サンプル	DSIPARM
CNMSJCRG	同じ	CNMSTYLE レポート生成プログラム・サンプル・ジョブ	CNMSAMP
CNMSJEMA	同じ	NetView for z/OS Enterprise Management Agent の構成ツールの開始に使用されるユーザー INSTLIB データ・セットを割り振りおよびコピーします。	CNMSAMP
CNMSJKVW	同じ	メンバーを SCN MAGNT データ・セットから z/OS Tivoli Enterprise Monitoring Server RKANDATV データ・セットにコピーするサンプル・ジョブ	CNMSAMP
CNMSJMIG	同じ	CNMSTYLE マイグレーション・ツール・サンプル・ジョブ	CNMSAMP
CNMSJZCE	同じ	イベント・コリレーション・エンジンのサンプル始動ジョブ	CNMSAMP
CNMSMRT1	同じ	メッセージ改訂テーブル	DSIPARM
CNMSPAN2	同じ	サンプル NetView スパン・テーブル	DSIPARM
CNMSPLEX	同じ	このサンプルは、DVIPA シスプレックス・ディストリビューター・データを表示します。また、DVIPPLEX コマンド出力 (BNH847I メッセージ) を分かりやすいフォーマットに設定します。	CNMSAMP

表 12. 新規サンプルのリスト (続き)

配布名	名前	説明	データ・セット名
CNMSSTAC	同じ	このサンプルは、TCP/IP スタック構成と状況データを表示します。また、STACSTAT コマンド出力 (BNH845I メッセージ) を分かりやすいフォーマットに設定します。	CNMSAMP
CNMSTARG	同じ	このサンプルは、DVIPA ディストリビューター・ターゲットとポート・データによる DVIPA ワークロードを表示します。また、DVIPTARG コマンド出力 (BNH848I および BNH850I メッセージ) を分かりやすいフォーマットに設定します。	CNMSAMP
CNMSTASK	同じ	NetView 提供のタスク・ステートメント	DSIPARM
CNMSTIDS	同じ	Intrusion Detection Services (IDS) 初期化ステートメントを組み込みます。	DSIPARM
CNMSTGEN	同じ	データ REXX ロジックも含め、追加または変更したシステム固有 CNMSTYLE 定義ステートメントを組み込むことができます。	DSIPARM
CNMSTNXT	同じ	リリースごとに、変更可能な CNMSTYLE ステートメントを組み込みます。 CNMSTNXT は CNMSTYLE でコメント化されます。これは、文書化目的のみで提供されています。	DSIPARM
CNMSTPWD	同じ	VSAM および ACB のパスワードを組み込みます。	DSIPARM
CNMSTTWR	同じ	非 NetView の tower から CNMSTYLE ステートメントを組み込みます。	DSIPARM
CNMSTUSR	同じ	CNMSTYLE のカスタマイズ・メンバー: CNMSTYLE のステートメントをオーバーライドする追加または変更されたグローバル (エンタープライズ) 定義ステートメントを組み込みます。	DSIPARM
CNMSTWBM	同じ	Web ブラウザー・ポートフォリオ定義を組み込みます。	DSIPARM
CNMSTYLE	同じ	NetView 初期化パラメーターの一部を定義します。	DSIPARM
CNMSVTET	同じ	VTAM モニター自動化テーブル: メッセージ抑止	DSIPARM
CNMSVTFT	同じ	VTAM モニター自動化テーブル・エントリ	DSIPARM
DSIAUTB	同じ	AUTBYPAS REXX または CLIST 機能の使用法についての部分リスト	DSIPARM
DSIAUTBU	同じ	AUTBYPAS REXX または CLIST 機能のユーザー定義の部分リスト	DSIPARM
DSIILGCF	同じ	SYSLOG タスク構成	DSIPARM

表 12. 新規サンプルのリスト (続き)

配布名	名前	説明	データ・セット名
DSIPROFG	同じ	DSIPROFD と機能的に同等の自動化オペレーター・プロファイル。これは、互換性を保つために用意されています。	DSIPRF
DSIPROFN	同じ	NetView for z/OS Enterprise Management Agent データ収集自動タスク (AUTODCn) 用の自動化オペレーター・プロファイル	DSIPRF
DSIPROFV	同じ	ビジュアル BLDVIEWS サーバー用の自動化オペレーター・プロファイル	DSIPRF
DSIREXCF	同じ	REXEC サーバー・タスク構成	DSIPARM
DSIRHOST	同じ	RSH セキュリティ・ファイル	DSIPARM
DSIRSHCF	同じ	RSH サーバー・タスク構成	DSIPARM
DSIW3PRF	同じ	3270 Web セッション用のプロパティ定義	DSIPARM
DSIZCETB	同じ	イベント・コリレーション・エンジンの自動化テーブル・サンプル	DSIPARM
DUIFNRM1	同じ	RODM コレクション・マネージャーのコレクションのグループ このコレクションの内容は、モニター対象のすべての NetView プログラムのさまざまな NetView リソース・マネージャー・オブジェクトです。	CNMSAMP
DUIFNRM2	同じ	RODM コレクション・マネージャーのコレクションのグループ このコレクションの内容は、単一の NetView プログラムのさまざまな NetView リソース・マネージャー・オブジェクトです。	CNMSAMP
DUIPOLCY	同じ	NMCSTATUS ポリシー定義を定義します。	DSIPARM
EZLCMENT	同じ	基本 AON コマンドの NetView コマンド定義	DSIPARM
EZLSI300	同じ	ユーザー DSIPARM データ・セットに対する IEBCOPY AON メンバー	CNMSAMP
EZLSI301	同じ	ユーザー CNMPNL1 データ・セットに対する IEBCOPY AON メンバー	CNMSAMP
FKVCMENT	同じ	AON/SNA コマンドの NetView コマンド定義	DSIPARM
FKXCMENT	同じ	AON/TCP コマンドの NetView コマンド定義	DSIPARM

表 12. 新規サンプルのリスト (続き)

配布名	名前	説明	データ・セット名
FLCAINP	同じ	サンプル初期化ファイル ご自分のサイト用の 1 つ以上のマルチシステム・マネージャーの初期化ファイルを作成する場合に、このファイルをテンプレートとして使用することができます。 このファイルを名前変更する場合には、INITTOPO コマンドを発行する際にそのファイル名を指定します。 FLCAINP には、他のマルチシステム・マネージャー初期化ファイルを組み込むための %INCLUDE ステートメントの使用法の例も含まれています。	DSIPARM
FLCSDM9	同じ	マルチシステム・マネージャー・データ・モデル - 第 9 部 このファイルによって、TN3270 リソースを IP リソースにリンクするために RODM メソッドを使用することができます。	CNMSAMP
FLCS3270	同じ	TN3270 マネージャー (サーバー / クライアント) のサポートのサンプル サンプル FLCS3270 によって、サーバーおよびクライアントの両方の TN3270 リソースを管理することができます。	DSIPARM

VTAM アドレス・スペース

このセクションのサンプルは、VTAM アドレス・スペースの変更点をリストしています。

A01APPLS (CNMS0013)

このメンバーには、NetView プログラム用にコーディングされたアプリケーション (APPL) メジャー・ノードが含まれています。

VTAMLST データ・セットを再割り振りおよび再コピーしなかった場合、次の変更を A01APPLS に加えてください。

- SYS1.PARMLIB メンバー IEASYMxx にドメイン ID (システム変数 &CNMDOMN) を設定するか、A01APPLS (CNMS0013) 内の &CNMDOMN のすべてのオカレンスを現行のドメイン ID に変更してください。
- ステータス・モニター・プリプロセッサを使用していない場合は、複数の並行 NetView オペレーターのタスクを定義する APPL ステートメントを、ワイルドカード文字 (??) を使用して 1 つの APPL ステートメントに置換することができます。例えば、次のようになります。

```
&CNMDOMN.0?? APPL AUTH=(NVPAGE,SPO,ACQ,PASS),PRTCT=&CNMDOMN.,      X  
EAS=4,MODETAB=AMODETAB,DLOGMOD=DSILGMOD
```

- ステータス・モニター・プリプロセッサを使用していない場合は、TAF APPL ステートメントを、LU 名に続くワイルドカード文字 (??) を使用して、1 つの APPL ステートメントに置換することができます。例えば、次のようになります。

```
TAF010?? APPL  MODETAB=AMODETAB,EAS=9,      X  
DLOGMOD=M3767
```

他のアプリケーション (TAF など) での使用のために定義する APPL 名は、端末ログオン APPL と同じ命名方式で定義してはなりません (例えば、3 文字の接尾部のあるドメイン名)。同じ命名方式を使用すると、これらのアプリケーション名が NetView プログラムにより端末ログオンのために使用される可能性があり、その場合には、アプリケーション名が、定義された目的に使用できなくなります。

ATCCONxx

VTAM 構成開始リストから、すべての GRAPHOPT ステートメントを除去してください。これらのステートメントは、除去しない場合、VTAM に対するコメントとなります。

CNMNET (CNMSJ008)

CNMNET (CNMSJ008) は、VTAM プログラムの開始プロシーチャーです。

次のようにして、PROCLIB 内の CNMNET を変更します。

1. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。
2. NetView データ・セットについて、ユーザー定義のデータ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3USER を指していることを確認します。

NetView アドレス・スペース

このセクションのサンプルは、NetView アドレス・スペースの変更点をリストしています。

AAUPRMLP

AAUPRMLP は、セッション・モニターの初期化ステートメントを含む DSIPARM のメンバーです。これには、CNMSTYLE から初期化値を取り出すためのロジックが組み込まれています。AAUPRMLP の V5R3 コピーを使用し、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の NLDM ステートメントを更新して、AAUPRMLP に前に指定されていた値を反映します。出荷バージョンの AAUPRMLP は変更しないでください。

BNJMBDST

BNJMBDST (ハードウェア・モニター初期化メンバー) を変更した場合は、DSIPARM メンバー CNMSTYLE (または CNMSTUSR や CxxSTGEN など、その組み込みメンバー) にその変更をマイグレーションしてください。ほとんどの BNJMBDST ステートメントは、CNMSTYLE に関連ステートメントを持っています (例えば、NPDA.DSRBO または NPDA.ALERTFWD)。

DST メンバー (例えば、XITCI) に適用される BNJMBDST ステートメントには、関連した CNMSTYLE ステートメントはありません。この場合は、これらのステートメントをデータ REXX バージョンの BNJMBDST に追加してください。REXX プログラムがこれらのステートメントを REXX ステートメントとして解釈せずに、NetView データ行として戻せるように、ステートメントを必ず引用符で囲んでください。

CNME1034

NetView の初期化中に実行される処理を拡張するために CNME1034 を変更した場合は、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN に同等の変更を組み込む必要があります。CNME1034 は、NetView 初期化で使用されなくなりました。

以下のステートメントは CNME1034 から CNMSTYLE に移動されました。パラメーターの一部が変更されていることに注意してください。

表 13. CNMSTYLE に移動された CNME1034 ステートメント

機能	CNME1034 ステートメント	CNMSTYLE ステートメント
相互に関連付けられたコマンド定義ファイル	CCDEF MEMBER=DSICDEF	CCDEF = DSICDEF
専用オペレーター・データ・セットのデータ・セット接頭部	CNMOPDSPREFIX = 'NETVIEW.OPDS.'	OpDsPrefix = NETVIEW.OPDS.
自動化テーブルのロード	AUTOTBL MEMBER=DSITBL01	AUTOCMD.DSITBL01.order = A
初期デフォルトの設定	logOpts = 'NETLOG=YES SYSLOG=NO'	DEFAULTS.NetLog = Yes DEFAULTS.SysLog = No
サブシステム・インターフェースの名前	Pipe command	SSIname = C&NV2I.CSSIR
変換メンバー	TRANSMMSG MEMBER=CNMTRMSG	transMember = CNMTRMSG
Memstore 値	OVERRIDE MAXIO=0,TASK=memtask EVERY 00:02:00 ROUTE=memtask EVERYCON=YES MEMSTORE 5% 5	function.autotask.memStore = auto2 memStore.stgLimit = 5% memStore.minHits = 5 memStore.frequency = 2 memStore.never = DSIPARM.DSIOPF DSIPARM.DSIOPFU DSILIST.* *.USERMEM

表 13. CNMSTYLE に移動された CNME1034 ステートメント (続き)

機能	CNME1034 ステートメント	CNMSTYLE ステートメント
IDLEOFF	IDLEOFF INIT idlotask 60 10	function.autotask.idleoff = AUT01 idleParms.idlemin = 60 idleParms.frequency = 10 idleParms.exceptOp = OPER1, NETOP1 idleParms.exceptAuto = ALL
ASSIGN	ASSIGN GROUP=+STATGRP, OP=(NETOP1,NETOP2)	ASSIGN.STATGRP.GROUP = NETOP1,NETOP2,AUT01 ASSIGN.OPERGRP.GROUP = OPER1,OPER2,OPER3,OPER4,OPER5,OPER6
HLLENV	HLLENV CHANGE,REGENVS=2, CRITENVS=0,TYPE=IBMADPLI HLLENV CHANGE,REGENVS=2, CRITENVS=0,TYPE=IBMADC	HLLENV.IBMADPLI.REGENVS=2 HLLENV.IBMADPLI.CRITENVS=0 HLLENV.IBMADPLI.DEFAULT=NOTPREINIT HLLENV.IBMADPLI.PSTACK=131072 HLLENV.IBMADPLI.PHEAP=131072 HLLENV.IBMADC.REGENVS=2 HLLENV.IBMADC.CRITENVS=0 HLLENV.IBMADC.DEFAULT=NOTPREINIT HLLENV.IBMADC.PSTACK=131072 HLLENV.IBMADC.PHEAP=131072
VTAM CMIP サー ビスの開始	F NET,VTAMOPTS,OSIMGMT=YES	TOWER = Graphics TOWER.Graphics = SNATM
DBINIT	*DBINIT NLDM NONE CYL 50 50 Y PURGE 2 Y PURGE 2 2:00 :00 1 *DBINIT NPDA NONE CYL 50 50 Y PURGE 5 Y PURGE 5 2:00 :00 1 *DBINIT TARA NONE CYL 50 50 Y REORG 0 Y REORG 0 2:00 :00 1 *DBINIT SAVE NONE CYL 50 50 Y REORG 0 Y REORG 0 2:00 :00 1	auxInitCmd.DB1=DBINIT NLDM NONE CYL 50 50 Y PURGE 2 Y PURGE 2 2:00:00 1 auxInitCmd.DB2=DBINIT NPDA NONE CYL 50 50 Y PURGE 5 Y PURGE 5 2:30:00 1 auxInitCmd.DB3=DBINIT TARA NONE CYL 50 50 Y REORG 0 Y REORG 0 3:00:00 1 auxInitCmd.DB4=DBINIT SAVE NONE CYL 50 50 Y REORG 0 Y REORG 0 3:30:00 1
グローバル 変数	GLOBALV PUTC SMFVPD GLOBALV PUTC DUIFHNM DUIFHPRC GLOBALV PUTC EKGHNAM EKGHPRC	COMMON.SMFVPD = 37 COMMON.DUIFHNM = GMFHS COMMON.DUIFHPRC = CNMGMFHS COMMON.EKGHNAM = RODM COMMON.EKGHPRC = EKGXRODM

NetView プログラムの始動時に自動的に実行させるコマンドまたはコマンド・リストを定義するには、CNMSTUSR または CxxSTGEN で auxInitCmd ステートメントを使用します。実行させる任意の数のコマンドまたはコマンド・リストを指定できます。

CNMNEWS

CNMNEWS は、ログオン時にオペレーターに対して表示できるテキストが含まれているカスタマイズ可能なサンプルです。(このテキストは、元は、NEWS コマンド・リスト CNME1008 を使用して提供されていました。)

CNMNEWS のテキストを、ご使用のシステム・データで更新してください。

メンバー CNMNEWS は NETVIEW.V5R3M0.SDSIOPEN データ・セットに含まれています。

CNMPROC (CNMSJ009)

CNMPROC (CNMSJ009) は、NetView プログラム用の始動プロシージャです。

PROCLIB 内の CNMPROC に以下の変更を行います。

1. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。
2. NetView データ・セットについて、ユーザー定義のデータ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3USER を指していることを確認します。
3. AON VSAM データ・セットはサイズが増加したため、マイグレーション中に再割り振りしてください。VSAM データ・セットの割り振りについて詳しくは、「*IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: 概説*」を参照してください。また、VSAM クラスター名の接頭部が NETVIEW.&domain に変更された点にも注意してください。

4. デフォルトの領域サイズは、65536 K バイトに増大しました。NetView 製品に既存のデフォルトの領域サイズ (32768 K バイト) を使用している場合は、領域サイズ値を増やしてください。

```
//      REG=65536,          ** REGION SIZE(IN K) FOR NETVIEW
```

実行するコンポーネントによっては、領域サイズをさらに増やす必要がある場合があります。詳しくは、「*IBM Tivoli NetView for z/OS Tuning Guide*」を参照してください。

5. SQ1 ステートメントの後に次の REXX ステートメントを追加して、REXX ライブラリーの高位修飾子を指定します。

```
//      REXX='EAG.V1R4M0',    ** REXX DSN HIGH LEVEL QUALIFIER
```

6. SUBSYM パラメーターの後にコンマを追加して、2 文字の ID を使用可能にします。

```
//      SUBSYM='',           ** NETVIEW SYMBOLIC SUBSTITUTION SWITCH
```

7. SUBSYM ステートメントの後に以下の NV2I ステートメントとコメントを追加して、2 文字の ID を指定できるようにします。

```
//      NV2I='',
//*                                     ** UNIQUE AID A two character value
//*                                     ** used to build a symbolic in NetView
//*                                     ** It is used to create unique names
//*                                     ** for the particular NetView.
//*                                     ** If you specify a value, you MUST
//*                                     ** rename/copy CNMSTYLE to CxxSTYLE
//*                                     ** to match.
```

この始動プロシージャには、2 文字の ID NV2I の指定が含まれています。この値は、ローカル・システム変数 &NV2I になり、単一の MVS イメージ、シスプレックス、またはネットワーク内のそれぞれの NetView プログラムに対して固有であることが必要な名前を構成するために使用されます。&NV2I に値が指定されない場合、値にはデフォルトの NM が使用されます。

&NV2I (xx) の値を指定する場合、使用した ID に一致させるため、CNMSTYLE を CxxSTYLE にコピーします。次に、ご使用のシステムの CxxSTGEN を変更します。例えば、&NV2I を N1 に設定する場合、NetView の初期化では、DSIPARM で、CNMSTYLE ではなくメンバー CN1STYLE を使用します。

8. 以下の TRSIZE ステートメントとコメントを NV2I ステートメントの後に追加して、トレース・テーブル・サイズの指定をできるようにします。

```
//      TRSIZE=4000
//*
//*      ** INTERNAL TRACE TABLE SIZE - Number
//*      ** of pages to be allocated for the
//*      ** NetView Internal Trace table. The
//*      ** trace table is located in a data
//*      ** space, so the value can be up to
//*      ** 524286. If no value is specified,
//*      ** the default of 4000 is used. If
//*      ** a value of 0 is passed, internal
//*      ** trace is not started early. Trace
//*      ** options in CNMSTYLE take effect
//*      ** even if trace is not started early.
//*
```

9. NetView EXEC ステートメントに、以下のようにして、&NV2I および &TRSIZE 変数を追加します。

```
//NETVIEW EXEC PGM=&PROG,TIME=1440,
//      REGION=&REG.K,
//      PARM=(&BFSZ.K,&SLSZ,
//      'DOMAIN','&DOMAINPW','&ARM','&SUBSYM','&NV2I','&TRSIZE'),
//      DPRTY=(13,13)
//      DPRTY=(13,13)
```

10. STEPLIB 連結から以下の DD ステートメントを除去してください。

```
//      DD DSN=&SQ1..SEKGMOD1,DISP=SHR
:
//* UNCOMMENT THE FOLLOWING LINE IF YOU WILL BE USING AON AUTOMATION
//*      DD DSN=&SQ1..SEZLLINK,DISP=SHR
```

11. STEPLIB 連結で以下の DD ステートメントを変更します (SEAGLMD を SEAGLPA に変更します)。

```
/* YOU WILL NEED ACCESS TO EITHER THE REXX/370 RUNTIME LIBRARY
/* OR THE REXX ALTERNATE LIBRARY AS FOLLOWS:
/*
/* - IF YOU HAVE THE REXX/370 LIBRARY ON YOUR SYSTEM BUT SEAGLPA
/* IS NOT ACCESSIBLE FROM THE PAGEABLE LINK PACK AREA (PLPA),
/* THEN YOU MUST UNCOMMENT THE "SEAGLPA" LINE BELOW.
/*
/*      OR
/*
/* - IF YOU HAVE THE REXX ALTERNATE LIBRARY ON YOUR SYSTEM,
/* BUT SEAGALT IS NOT ACCESSIBLE FROM THE PLPA OR LINKLST,
/* THEN YOU MUST UNCOMMENT THE "SEAGALT" LINE BELOW.
/*
/* WHEN YOU UNCOMMENT EITHER OF THE LINES BELOW, MAKE SURE
/* THAT THE DSN ACTUALLY MATCHES THE NAME ON YOUR SYSTEM.
/* IN ADDITION, MAKE SURE THAT THE DATASET IS APF-AUTHORIZED.
/*
/*      DD DSN=&REXX..SEAGLPA,DISP=SHR
/*      DD DSN=&REXX..SEAGALT,DISP=SHR
```

注: REXX/370 ランタイム・ライブラリーか REXX 代替ライブラリーが必要です。

12. NetView プログラムで Language Environment® (LE) HLL プログラムの実行を計画しており、LE ランタイム・ライブラリーを LNKLSTxx でインストールしなかった場合には、CNMPROC の STEPLIB に指定されているライブラリー名が正しいこと、およびアンコメントされていることを確認してください。
13. DSICLD DD ステートメントを更新して、以下のユーザー・データ・セットを追加します。

```
//DSICLD DD DSN=&Q1..&DOMAIN..CNMCLST,DISP=SHR
// DD DSN=&SQ1..CNMCLST,DISP=SHR
// DD DSN=&SQ1..CNMSAMP,DISP=SHR
```

DSICLD 連結から以下の DD ステートメントを除去してください。

```
// DD DSN=&SQ1..SEZLCLST,DISP=SHR
:
// DD DSN=&SQ1..SEKGSMP1,DISP=SHR
```

14. CNMPNL1 連結から以下のステートメントを除去してください。

```
// DD DSN=&SQ1..SEKGPNL1,DISP=SHR
/* COMMENT THE FOLLOWING LINE OUT IF YOU WILL NOT BE USING AON INFORM
/* POLICY, TIMER COMMAND, CGED COMMAND OR DM COMMAND.
// DD DSN=&Q1..&DOMAIN..SEZLPNLU,DISP=SHR
// DD DSN=&SQ1..SEZLPNLU,DISP=SHR
:
/* UNCOMMENT THE SEKGPNL2 DEFINITION STATEMENT FOR A JAPANESE
/* SYSTEM WITH RODM
/* DD DSN=&SQ1..SEKGPNL2,DISP=SHR
```

CNMPNL1 連結を、以下のように更新します。

```
//CNMPNL1 DD DSN=&Q1..&DOMAIN..CNMPNL1,DISP=SHR
/* JAPANESE ONLINE HELP DATASET (PANELS)
/* DD DSN=&SQ1..SCNMPNL2,DISP=SHR
/* ENGLISH ONLINE HELP DATASET (PANELS)
// DD DSN=&SQ1..CNMPNL1,DISP=SHR
```

15. 以下の TCP 接続 VSAM データベースを追加します。

```
//DSITCONP DD DSN=&VQ1..&DOMAIN..DSITCONP,
// DISP=SHR,AMP='AMORG'
//DSITCONS DD DSN=&VQ1..&DOMAIN..DSITCONS,
// DISP=SHR,AMP='AMORG'
```

16. 以下の TCP/IP 変換データ・セット情報を追加し、ご使用のインストール環境の必要に応じて、ステートメントを更新します。

```
/*
/******
/* If you are using the TCP/IP translate data set TCPXLBIN,
/* specify the appropriate data set name and uncomment the
/* following DD statement to prevent dynamic allocation
/* messages from being issued each time the data set is needed.
/*
/*CNMXLBIN DD DISP=SHR,DSN=datasetprefix.STANDARD.TCPXLBIN
/*
/* For more information please see your IP Configuration Guide.
```

CNMPSSI (CNMSJ010)

CNMPSSI (CNMSJ010) は、NetView サブシステム・アドレス・スペースを始動します。

PROCLIB 内の CNMPSSI に以下の変更を加えてください。

1. システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。

2. MSGIFAC のデフォルト値が SYSTEM から SSIEXT に変更されました。z/OS v1r8 以降、QUESSI、QSSIAT、および USESSI 値はサポートされなくなりました。

```
//      MSGIFAC='SSIEXT',      ** SSI/EXTENDED CONSOLE OVERRIDE SWITCH
```

3. 以下のステートメントを P4000BUF パラメーターの後に追加して、経路コードを設定します。これらのステートメントを追加する場合は、P4000BUF=0 ステートメントの後にコンマを追加してください。

```
//      ROUTECDE=1              ** Route code to be used for WTOs issued
//*                             ** by the SSI address space. Messages
//*                             ** that may be issued before this parm
//*                             ** is processed will use route code 1
//*                             ** regardless of the value set here.
```

4. NetView EXEC ステートメントに、以下のようにして、&ROUTECD 変数を追加します。

```
//NETVIEW EXEC PGM=&PROG,TIME=1440,REGION=&REG.K,
//      PARM=(&MBUF,&CBUF,'&DSIG','&MSGIFAC','&PPIOPT','&ARM',
//      '&PFXREG',&P256BUF,&P4000BUF,&ROUTECD),DPRTY=(13,13)
```

CNMSTYLE

CNMSTYLE は、NetView の初期化中に使用される DSIPARM のメンバーです。NetView 初期化プロセスへの変更は、NetView 製品の以前のリリースのように個々のサンプルを変更するのではなく、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN で行われます。CNMSTYLE は、NetView 初期化プロセスを単純化するように設計されています。

データ・セット NETVIEW.V5R3USER.INSTALL 内のサンプル CNMSJMIG を使用して、初期化メンバーを前のリリース (CNME1034 および幾つかの DSIPARM メンバーを含む) から CNMSTUSR にマイグレーションすることができます。詳しくは、213 ページの『付録 F. CNMSTYLE および CNMCMD へのマイグレーション』を参照してください。

CNMSTYLE および従属メンバーは、DSIPARM の定義ステートメントの一部と、CNME1034 によって実行されるすべての初期化を置き換えます。

表 14. CNMSTYLE ステートメントの古い DSIPARM ステートメントとの関係

CNMSTYLE ステートメント	DSIPARM ステートメント またはコマンド	NetView メンバー
ACBpassword 注: このステートメントは、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTPWD に含まれています。	NCCFID DMNPSW	DSIDMNK
ASSIGN.*	ASSIGN	CNME1034
AUTOCMD	• NCCFIC <i>autotbl_name</i> • AUTOTBL	• DSIDMNK • CNME1034
AUTOTASK	AUTOTASK	CNME1034
auxInitCmd.order	NCCFIC IC	DSIDMNK

表 14. CNMSTYLE ステートメントの古い DSIPARM ステートメントとの関係 (続き)

CNMSTYLE ステートメント	DSIPARM ステートメント またはコマンド	NetView メンバー
COMMON.*	GLOBALV	CNME1034
DB2SEC=RRS	DB2RRS	DSIDMNK
DEFAULTS.*	DEFAULTS	CNME1034
DEFAULTS.MAXABEND	MAXABEND	DSIDMNK
DEFAULTS.MAXLOGON	MAXLOGON	DSIDMNK
DOMAIN	NCCFID DOMAINID	DSIDMNK
FLC_DEF_NETW_VIEW	DEF_NETW_VIEW	FLCSAINP
FLC_EXCEPTION_VIEW_FILE	EXCEPTION_VIEW_FILE	FLCSAINP
FLC_RODMINT	RODMINT	FLCSAINP
FLC_RODMNAME	RODMNAME	FLCSAINP
FLC_RODMRETRY	RODMRETRY	FLCSAINP
FLC_RUNCMDRETRY	RUNCMDRETRY	FLCSAINP
FLC_TCPNAME	TCPNAME	FLCSAINP
LOADEXIT	LOADEXIT	DSIDMNK
LUC.*	パラメーター	DSILUCTD
MCON.*	パラメーター	DSITPCPF
MSMdefault	DEF_AUTOTASK	FLCSAINP
MVSPARM.*	MVSPARM	DSIDMNK
NLDM.*	パラメーター	• AAUPRMLP • DSIAMLTD
NPDA.*	パラメーター	BNJMBDST
NPDA.ALERTFWD	ALERTFWD	DSIDMNK
RRD	RRD	DSIDMNK
RTT.*	パラメーター	DSIRTTTD
SECOPTS.*	OPTIONS	DSIDMNK
SuppChar	NCCFID SUPPCHAR	DSIDMNK
TAMEL.*	パラメーター	DUIFPMEM
TASK	TASK	DSIDMN
transTbl	TRANSTBL	DSIDMNK
VTAMCP.USE	VTAMCP	DSIDMNK
WEB.*	パラメーター	DSIWBMEM

CNMSTYLE には、組み込まれるステートメントのタイプについての記述コメントが含まれています。それらのコメントを読み、デフォルトを検討してください。

NetView V1R3 からのマイグレーション

以下のデフォルトが変更されました。

表 15. CNMSTYLE ステートメント

デフォルト	前のデフォルト	現行のデフォルト
NCCF トレース 注: 初期化中にプロセッサ使用率の著しい増加に気付いた場合は、TRACE オプションを変更するか、または NetView の初期化が完了した後でトレースを開始することができます。	オフ	オン、MODE=INT
LOGONPW	CMDMDL コメント化	CMDDEF 使用可能
ASSIGN	STATGRP が指定するもの: • NETOP1 • NETOP2	STATGRP が指定するもの: • NETOP1 • NETOP2 • AUTO1 OPERGRP が指定するもの: • OPER1 • OPER2 • OPER3 • OPER4 • OPER5 • OPER6
MEMSTOR	CNME1034 でコメント化 事前定義の組み込みリストまたは除外リストなし	使用可能 事前定義の組み込みリスト: • CNMPNL1.CNMKWIND • CNMPNL1.CNMBROWS • DSIOOPEN.CNMKEYS • DSICLD.CNME1505 • DSICLD.CNME1096 DVIPA tower が使用可能である場合: • DSICLD.FKXEDVPT • DSICLD.FKXEDVPA • DSICLD.FKXEDVP1 • DSICLD.FKXEDVP2 • DSICLD.FKXEDVP3 • DSICLD.FKXEXLAT 事前定義の除外リスト: • DSIPARM.DSIOPF • DSIPARM.DSIOPFU • DSILIST.* • *.USERMEM

表 15. CNMSTYLE ステートメント (続き)

デフォルト	前のデフォルト	現行のデフォルト
MVSPARM.MSGIFAC	SYSTEM	SSIEXT MSGIFAC のデフォルト値は SSIEXT です。z/OS v1r8 以降、QUESSI、QSSIAT、および USESSI 値はサポートされなくなりました。
IDLEOFF	CNME1034 でコメント化	CNMSTYLE の AUTO1 で実行
HLEENV	CNME1034 でコメント化	CNMSTYLE の PL/I および C についてそれぞれ 2 つの環境を初期化します。
HLEENV キーワード	PHEAP=4096	PHEAP=131072
	PSTACK=4096	PSTACK=131072
DEFAULTS コマンド・キーワード	MAXABEND=1	MAXABEND=4
	AUTOLOGN=NO	AUTOLOGN=YES
	EVERYCON=NO	EVERYCON=YES
	AUTOSEC=CHECK	AUTOSEC=BYPASS
	STRTSERV=SBMTJOB	STRTSERV=STRTPROC
自動的に開始されるタスク: • &DOMAIN.LUC • &DOMAIN.VMT • AAUTCNMI • AAUTSKLP • BNJDSE36 • BNJMNPD • DSIAMLUT • DSIAOPT • DSICRTR • DSIGDS • DSIKREM • DSIQTSK • DSIROVS • DSITRACE	CNME1034 には、これらのタスクを開始する STARTCNM ALL コマンドが組み込まれていました。	CNMSTYLE には、自動的に開始しないことを指示する INIT=N として、これらのタスクが組み込まれます。

注: SECOPTS.COMDAUTH ステートメントの場合、NetView プログラムは、マイグレーション・モードでのみ SCOPE オプションをサポートします。現在、コマンドの有効範囲セキュリティ定義 (マッチングする OPCLASS ステートメントがある、DSICMD 内の CMDCLASS、KEYCLASS、VALCLASS ステートメント) を使用している場合、SECMIGR コマンドを使用して同等のコマンド権限テーブルのステートメントにそれらを変換することができます。SCOPE オプションを使用して NetView プログラムを初期化する場合は、既存の有効範囲セキュリティ定義を変換するために SECMIGR コマンドを使用します。変換されたテーブルは最初の

DSIPARM データ・セットに書き込まれ、有効になります。変換されたコマンド権限テーブルを DSIPARM データ・セットに書き込む権限が PPT にあることを確認してください。

DSIAMAT

次のステートメントを追加して、VTAM ACB モニター用のインスツルメンテーションを組み込みます。

```
%INCLUDE CNMSVTFT VTAM ACB MONITOR FOCAL POINT
%INCLUDE CNMSVTET VTAM ACB MONITOR ENTRY POINT
```

以下のインスツルメンテーション・サンプルが変更されました。以前に行った変更の内容を検討し、変更を新規サンプルに組み込んでください。

- DSIAMIE
- DSIAMIN
- DSIAMIR
- DSIAMIT

DSIAMII

このメンバーには大幅な変更が加えられたため、V5R3 コピーを使用してください。

DSIAMLTD

DSIAMLTD は、セッション・モニターの初期化ステートメントを含む DSIPARM のメンバーです。これには、CNMSTYLE から初期化値を取り出すためのロジックが組み込まれています。DSIAMLTD の V5R3 コピーを使用し、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の NLDM ステートメントを更新して、マイグレーション元のシステムの DSIAMLTD に指定されている値を反映します。データ REXX バージョンの DSIAMLTD は変更しないでください。

DSICCDEF

このメンバーに変更を加えた場合は、DSICCDEF の現行コピーを、V5R3 で配布された DSICCDEF サンプルとマージしてください。

DSICMD

DSICMD のコマンド定義ステートメントが、メンバー CNMCMD の新規コマンド定義によって置換されました。NetView 初期化では、マイグレーションのために引き続き DSICMDU を読み取ります。サンプル CNMSJMIG を使用すると、メンバー DSICMD を新規 CNMCMD フォーマットにマイグレーションすることができます。詳しくは、213 ページの『付録 F. CNMSTYLE および CNMCMD へのマイグレーション』を参照してください。

NetView 初期化の前に、DSICMDU の定義を新規フォーマットに変換しないと、DSICMDU に含まれた情報が変換され、PPT の下の NetView KEEP に 2 時間保管されます。この間に、NetView PIPE コマンドを使用して、これらの変換済みのコマンド定義を検索することができます。以下の例は、表示のためにこれらの定義を検索する 1 つの方法を示したものです。

```
/PPT: PIPE KEEP DSICMDU | CONS
```

また類似する PIPE コマンドを使用して、変換済み定義を DSIPARM の CNMCMDU メンバーに書き込むこともできます。

注: DSICMDU のデータ REXX ステートメントはすでに処理されているため、DSICMDU KEEP には存在しません。

CNMCMSYS または CNMCMMENT で検出されたコマンド定義を複写する DSICMDU のコマンド定義は、後者によりオーバーライドされます。NetView 内部コマンド・セットのコマンドを複写する DSICMDU のコマンド定義は、エラーと見なされます。

DSICMDU から定義をマイグレーションするには、次の手順で行います。

1. テスト環境で NetView を開始し、重複コマンド定義に関する DSI234I メッセージがないか注意します。
2. マイグレーション済みの DSICMDU コマンド定義を NetView KEEP から検索し、それらを CNMCMDU に保管します。例えば、以下のようになります。

```
/PPT: PIPE KEEP DSICMDU | QSAM (DSN) user.dsiparm(CNMCMDU)
```

ここで、*user.dsiparm* は、マイグレーション済みコマンド定義ステートメントを配置するデータ・セットを指定します。

注: また、サンプル CNMSJMIG を使用して、NetView V5R3 を開始する前に、DSICMDU 定義をマイグレーションすることもできます。

3. NetView 初期化中に気付いた重複コマンド定義を変更するために、CNMCMDU 定義を更新します。

CNMCMDU の CMDDEF ステートメントを使用して、CNMCMSYS または CNMCMMENT のコマンド定義をすべて変更します。

DSICMSYS

DSIPARM の DSICMSYS メンバーは、CNMCMSYS によって置換されました。

EZLCMD

DSIPARM の EZLCMD メンバーは、EZLCMENT によって置換されました。幾つかの AON コマンド定義ステートメントから SEC=BY を除去することができます。これらのステートメントのリストについては、209 ページの『付録 E. SEC=BY が必要ない AON CMDDEF ステートメント』を参照してください。

FKXCMD

DSIPARM メンバー FKXCMD は、FKXCMENT によって置換されました。幾つかの AON コマンド定義ステートメントから SEC=BY を除去することができます。これらのステートメントのリストについては、209 ページの『付録 E. SEC=BY が必要ない AON CMDDEF ステートメント』を参照してください。

DSICRTTD

TYPE=STATUS を指定している DEFFOCPT ステートメントはすべて除去してください。例えば、次のようなステートメントです。

```
DEFFOCPT PRIMARY=CNM02LUC,TYPE=STATUS
```

DSICTMOD

DSICTMOD は、サンプル・ジョブ CNMS0055 を使用して更新できる、NetView 定数モジュールです。V5R3 で配布された DSICTMOD モジュールを使用してください。現行リリースの CNMS0055 を更新した場合は、それらの変更を CNMS0055 の V5R3 バージョンにマージし、アセンブルするために実行依頼し、変更を DSICTMOD モジュールにリンク・エディットします。

以下の変更を考慮してください。

1. 共通グローバル変数のデフォルト数が 100 から 400 個の変数へと増加されました。
2. JES ジョブ・ログ・オプションは、JesJobLog ステートメントを使用して CNMSTYLE に設定されるようになりました。
3. 以下の NetView Graphic Monitor Facility の定数は、もはや使用されていません。
 - ・ 状況コレクター・リカバリー・インターバル
 - ・ SYNCH 再試行の最大数
 - ・ 最初の SYNCH 再試行タイムアウト
 - ・ 2 回目の SYNCH 再試行タイムアウト
 - ・ 3 回目およびそれ以降すべての SYNCH 再試行タイムアウト
 - ・ 状況コレクターの会話の送信タイムアウト
 - ・ LU および構成ビュー要求タイムアウト

DSIDMN

DSIDMN とその組み込みメンバーに設定されたパラメーターは CNMSTYLE にマイグレーションされました。既存のステートメントを除去しない場合、DSIDMN 処理時にそれらのステートメントは無視されます。

DSIDMN に以下の更新を加えてください。

1. TASK ステートメントを CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGENにマイグレーションします。
2. EXCMDSEC はサポートされなくなりました。EXCMD コマンド関連のキーワードおよび値の権限を検討して、適切なセキュリティが保たれていることを確認してください。詳細については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS セキュリティー・リファレンス*」を参照してください。
3. NetView プログラムにログオンすることのできる端末数の制限を設定することはできません。制限は 4096 です。POS ステートメントと POSPOOL ステートメントは、NetView V1R4 で DSIDMNK および DEFAULTS コマンドから除去されました。
4. MVSPARM ステートメントの MSGIFAC のデフォルトは SYSTEM から SSIEXT に変更され、CNMSTYLE に指定されるようになりました。

注: DSIDMNK に含まれていたステートメントは、CNMSTYLE にあります。DSIDMNK は除去されました。

DSIDMNU

ユーザー TASK ステートメントは DSIDMNU に含まれなくなりました。現在 DSIDMNU でコーディングされている TASK ステートメントを、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の TASK ステートメントにマイグレーションすることができます。例えば、以下のような TASK ステートメントは、

```
TASK MOD=module,TSKID=taskid,MEM=member,PRI=n,INIT=N
```

次のように指定されます。

```
TASK.taskid.MOD=module
TASK.taskid.MEM=member
TASK.taskid.PRI=n
TASK.taskid.INIT=N
```

マイグレーションを支援するため、DSIDMN から変換済みのタスク・ステートメントが、PPT の下の PIPE KEEP にあります。該当する場合は、NetView プログラムは、初期化の際にこの状態についてユーザーに通知します。PPT へのアクセスについての詳細は、「*IBM Tivoli NetView for z/OS ユーザーズ・ガイド*」のラベル・コマンドを参照してください。PIPE KEEP コマンドについての詳細は、「*IBM Tivoli NetView for z/OS プログラミング: パイプ*」を参照してください。

NetView 初期化の前に、DSIDMNU の定義を新規フォーマットに変換しないと、DSIDMNU に含まれた情報が変換され、PPT の下の NetView KEEP に 2 時間保管されます。この間に、NetView PIPE コマンドを使用して、これらの変換済みの定義を検索することができます。以下の例は、表示のためにこれらの定義を検索する 1 つの方法を示したものです。

```
/PPT: PIPE KEEP DSIDMNU | CONS
```

また類似する PIPE コマンドを使用して、変換済み定義を DSIPARM の DSIDMNU メンバーに書き込むこともできます。

注: DSIDNMU のデータ REXX ステートメントはすでに処理済みのため、DSIDMNU KEEP には存在しません。

DSIDMNU は引き続きサポートされます。しかし、CNMSTYLE とその組み込みメンバーに検出されたタスク・グループで、DSIDMN に検出された類似ステートメントがオーバーライドされます。

DSILUCTD

DSILUCTD は、CNM データ転送タスク用の初期化ステートメントを含む、DSIPARM のメンバーです。これには、CNMSTYLE から初期化値を取り出すためのロジックが組み込まれています。DSILUCTD の V5R3 コピーを使用し、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の LUC ステートメントを更新して、マイグレーション元のシステムの DSILUCTD に指定されている値を反映します。

DSIOPF

DSIOPF は大幅に変更されたため、V5R3 バージョンの DSIOPF を使用してください。インストールされている NetView のレベル、CNMSTYLE またはその組み込み

メンバー (あるいはこの両方) によって使用可能にされたタワーを基に、オペレーター定義を条件に応じて定義するために、データ REXX ロジックが追加されました。DSIOPF %INCLUDE メンバー DSIOPFB、DSIOPFM、および DSIOPFT は使用されなくなりました。DSIOPFU に定義されたオペレーター定義が、V5R3 バージョンの DSIOPFU に組み込まれていることを確認してください。

また、オペレーター定義を条件に応じて DSIOPFU に定義するために、データ REXX ロジックを追加することもできます。データ REXX ファイル内の最初のステートメントは、`/%DATA*/` か `/%LOGIC*/` でなければなりません。コメントは同一行か、後続行に続けて指定することができます。最初の列のブランクは、直前のステートメントの継続を示します。データ REXX について詳しくは、「*IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: 追加コンポーネントの構成*」を参照してください。

以下の情報は、NetView V1R3 以降の DSIOPF への変更を強調したものです。オペレーター定義をマイグレーションするときには、特にセキュリティに関して、以下の新規、変更、および削除済みオペレーター定義のリストを検討してください。

FKWOPF %INCLUDE メンバーを除去します。

以下のオペレーター定義が除去されました。

AUTOATMA	OPERATOR	PASSWORD=AUTOATMA
	PROFILE	FLCSPRFB
AUTOATM1	OPERATOR	PASSWORD=AUTOATM1
	PROFILE	FLCSPRFB
AUTOEWA	OPERATOR	PASSWORD=AUTOEWA
	PROFILE	FLCSPRFB
AUTOEW1	OPERATOR	PASSWORD=AUTOEW1
	PROFILE	FLCSPRFB
AUTOLMUA	OPERATOR	PASSWORD=AUTOLMUA
	PROFILE	FLCSPRFB
AUTOLMU1	OPERATOR	PASSWORD=AUTOLMU1
	PROFILE	FLCSPRFB
AUTONWA	OPERATOR	PASSWORD=AUTONWA
	PROFILE	FLCSPRFB
AUTONW1	OPERATOR	PASSWORD=AUTONW1
	PROFILE	FLCSPRFB
DBAUT03	OPERATOR	PASSWORD=DBAUT03
	PROFILE	DSIPROFD
DBAUT04	OPERATOR	PASSWORD=DBAUT04
	PROFILE	DSIPROFD
DNAUTOOP	OPERATOR	PASSWORD=DNAUTOOP
FLBGMMGR	OPERATOR	PASSWORD=FLBGMMGR
	PROFILE	FLBGMMPR
FWDOP1	OPERATOR	PASSWORD=FWDOP
	PROFILE	DSIPRFRWD
FWDOP2	OPERATOR	PASSWORD=FWDOP
	PROFILE	DSIPRFRWD
FWDOP3	OPERATOR	PASSWORD=FWDOP
	PROFILE	DSIPRFRWD
FWDOP4	OPERATOR	PASSWORD=FWDOP
	PROFILE	DSIPRFRWD
FWDOP5	OPERATOR	PASSWORD=FWDOP
	PROFILE	DSIPRFRWD
IPMAUTO	OPERATOR	PASSWORD=IPMAUTO
	PROFILE	DSIPROFH
MONOPER	OPERATOR	PASSWORD=MONOPER
	PROFILE	DSIPRFMO
SERVOPER	OPERATOR	PASSWORD=SERVOPER
	PROFILE	DSIPRFRWD

以下のオペレーター定義では、プロファイル名が DSIPROFD から DSIPROFG に変更されました。

AUTO2	OPERATOR	PASSWORD=AUTO2
	PROFILE	DSIPROFG
DBAUT01	OPERATOR	PASSWORD=DBAUT01
	PROFILE	DSIPROFG
DBAUT02	OPERATOR	PASSWORD=DBAUT02
	PROFILE	DSIPROFG
DSIWEB	OPERATOR	PASSWORD=WEBSERV
	PROFILE	DSIPROFG

以下のオペレーター定義が追加されました。

表 16. DSIOPF に追加されたオペレーター定義

オペレーター定義	DSIOPF ステートメント		
VTAM ACB モニター自動タスク	AUTOVTAC	OPERATOR	PASSWORD=AUTOVTAC
		PROFILE	DSIPROFB
	AUTOVTDB	OPERATOR	PASSWORD=AUTOVTDB
		PROFILE	DSIPROFB
NetView ポリシー・サービス自動タスク	AUTOAON	OPERATOR	PASSWORD=AUTOAON
		PROFILE	DSIPROFC
MVS コマンド管理自動タスク	DSIMCAOP	OPERATOR	PASSWORD=CMDAUTO
		PROFILE	DSIPROFG
NetView リソース・マネージャー自動タスク	AUTONRM	OPERATOR	PASSWORD=AUTONRM
		PROFILE	DSIPROFC
NMCSTATUS ポリシー定義を処理するための GMFHS 自動タスク	DUIFPOLI	OPERATOR	PASSWORD=DUIFPOLI
		PROFILE	DSIPROFI
TCP/IP 接続を介してビジュアル BLDVIEWS クライアントにサービスを提供するための自動タスク	AUTOVBV	OPERATOR	PASSWORD=AUTOVBV
		PROFILE	DSIPROFV
TCP/IP からの接続を受け入れる DST および OPT のセキュリティー検査自動タスク定義	DSIIPCHK	OPERATOR	PASSWORD=DSIIPCHK
		PROFILE	DSIPROFC
DVIPA ボーリング・サービス自動タスク	AUTDVIPA	OPERATOR	PASSWORD=AUTDVIPA
		PROFILE	DSIPROFC
NetView for z/OS Tivoli Enterprise Portal Agent 自動タスク	AUTONA	OPERATOR	PASSWORD=AUTONA
		PROFILE	DSIPROFC
	NATEP1	OPERATOR	PASSWORD=NATEP1
		PROFILE	DSIPROFC
	NATEP2	OPERATOR	PASSWORD=NATEP2
		PROFILE	DSIPROFC
	SYSADMIN	OPERATOR	PASSWORD=SYSADMIN
		PROFILE	DSIPROFC

表 16. DSIOPF に追加されたオペレーター定義 (続き)

オペレーター定義	DSIOPF ステートメント		
Tivoli NetView for z/OS Enterprise Management Agent 自動タスク	AUTONALC	OPERATOR	PASSWORD=AUTONALC
		PROFILE	DSIPROFC
	AUTODC1	OPERATOR	PASSWORD=AUTODC1
		PROFILE	DSIPROFN
	AUTODC2	OPERATOR	PASSWORD=AUTODC2
		PROFILE	DSIPROFN
	AUTODC3	OPERATOR	PASSWORD=AUTODC3
		PROFILE	DSIPROFN
	AUTODC4	OPERATOR	PASSWORD=AUTODC4
		PROFILE	DSIPROFN
	AUTODC5	OPERATOR	PASSWORD=AUTODC5
		PROFILE	DSIPROFN
	AUTODC6	OPERATOR	PASSWORD=AUTODC6
		PROFILE	DSIPROFN
	AUTODC7	OPERATOR	PASSWORD=AUTODC7
		PROFILE	DSIPROFN

EZLOPF

DSIOPF の %INCLUDE メンバー EZLOPF では、以下の接頭部が変更されました。

- 基本自動化オペレーターとそれに対応するパスワードの接頭部が、AUTBASE から AONBASE に変更されました。
- メッセージ・フォーマット設定およびルーティングのオペレーター自動タスク定義と、それに対応するパスワードの接頭部が、AUTMSG_n から AONMSG_n に変更されました。

FKVOPF

DSIOPF の %INCLUDE メンバー FKVOPF では、SNA 自動化の自動タスク定義およびそれに対応するパスワードの接頭部が、AUTNET_n から AONNET_n に変更されました。

DSIRTTTD

DSIRTTTD は、TCP/IP アラート受信側用の初期化ステートメントを含む、DSIPARM のメンバーです。これには、CNMSTYLE から初期化値を取り出すためのロジックが組み込まれています。DSIRTTTD の V5R3 コピーを使用し、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の RTT ステートメントを更新して、DSIRTTTD に前に指定されていた値を反映します。データ REXX バージョンの DSIRTTTD は変更しないください。

DSIRXPRM

DSIRXPRM には、新規の REXX 環境を確立するために必要な REXX 初期化パラメーターが含まれています。サンプル・ジョブ CNMSJM11 を使用して DSIRXPRM を更新します。V5R3 バージョンの DSIRXPRM を使用します。現行リリースの CNMSJM11 を更新した場合には、変更を V5R3 バージョンの CNMSJM11 にマージし、それを実行して、変更を DSIRXPRM モジュールにアセンブルおよびリンク・エディットします。

DSISPN

DSISPN は廃止されました。

NetView プログラムは、SECMIGR という名前のマイグレーション・ツールを用意しています。このツールは、既存の VTAMLST および DSISPN 定義を、NetView スパン・テーブルのエントリに変換します。SECMIGR は、このスパン・テーブルを作成し、既存の制御スパン定義をスパン・テーブル・ステートメントに変換し、それらをスパン・テーブルにロードします。NetView プログラムの初期化の準備ができれば、NetView スパン・テーブルの名前を CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の SECOPTS.SPANAUTHTH ステートメントに指定して、そのテーブルをロードします。スパン・テーブルの例については、サンプル CNMSPAN2 を参照してください。

DSITBL01

DSITBL01 には、サンプルの自動化テーブル定義が含まれています。自動化を開始するための %INCLUDE ステートメントの一部と関連ステートメントは、CNMSTYLE のエントリに置き換えられました。DSITBL01 を変更した場合は、その変更内容とこの NetView リリースで配布された DSITBL01 のバージョンとをマージしてください。変更を行った後、NetView 自動化テーブルを番号付けし直してください。NetView 自動化テーブルは、メッセージを処理し、コマンドまたはコマンド・リストが実行される結果になる一致を検出すると、NetView メッセージ CNM493I を NetView ログ・ファイルに書き込みます。メッセージ CNM493I には、一致した自動化テーブル・エントリの行番号が含まれます。

V5R3 プログラムではいくつかの NetView 提供メッセージが変更されました。これらのメッセージは付録にリストしてあります。そのリストを検討し、ご使用の自動化テーブルに必要な変更を加えてください。

基本自動化テーブル名が DSITBL01 でない場合は、ご使用の自動化テーブルの AUTOCMD ステートメントを組み込むように、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN を変更してください。

NetView リソース・マネージャーの自動化テーブルの新規セクションは、別のホストから状況を受信するために必要です。

DSITPCPF

DSIPARM のメンバー DSITPCPF は、タスク DSITCPIP の初期化値を定義します。これらの値は、TCP/IP と NetView 3270 管理コンソールとの間の通信で使用されます。これには、CNMSTYLE から初期化値を取り出すためのロジックが組み込まれています。DSITPCPF の V5R3 コピーを使用し、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の MCON ステートメントを更新して、DSITPCPF に前に指定されていた値を反映します。データ REXX バージョンの DSITPCPF は変更しないでください。

DSITCPRF

DSIPRF のメンバー DSITCPRF は TCP/IP オペレーター・セキュリティー・プロファイルを定義します。HTTP サーバー・セッションの暗号鍵を定義するために、WEB_SERVER ステートメントが追加されました。

WEB_SERVER: default default

DSIUINIT

DSIUINIT (タスク DSIUDST の初期化メンバー) を変更した場合は、DSIPARM メンバー CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN にその変更をマイグレーションしてください。データ REXX バージョンの DSIUINIT は変更しないでください。

DSIWBMEM

DSIPARM のメンバー DSIWBMEM は、Web サーバーの初期化値を定義します。これには、CNMSTYLE から初期化値を取り出すためのロジックが組み込まれています。DSIWBMEM の V5R3 コピーを使用して、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の WEB ステートメントを更新して、DSIWBMEM に前に指定されていた値を反映します。データ REXX バージョンの DSIWBMEM は変更しないでください。

DSIZVLSR

DSIZVLSR は、VSAM LSR および DSR パフォーマンス・オプションで使用されるバッファ・プールを定義します。サンプル・ジョブ CNMSJM01 を使用して、DSIZVLSR を更新します。V5R3 で配布された DSIZVLSR モジュールを使用してください。現行リリースの CNMSJM01 を更新した場合には、変更を V5R3 バージョンの CNMSJM01 にマージし、それを実行して、変更を DSIZVLSR モジュールにアセンブルおよびリンク・エディットします。

DUIFPMEM

DUIFPMEM は、CNMTAMEL タスク用の TCP/IP 初期化ステートメントが含まれている、DSIPARM のメンバーです。これには、CNMSTYLE から初期化値を取り出すためのロジックが組み込まれています。DUIFPMEM の V5R3 コピーを使用し、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の TAMEL ステートメントを更新して、行った変更を反映してください。データ REXX バージョンの DUIFPMEM は変更しないでください。

前のリリースの DUIFPMEM で使用されていた以下のステートメントは無効になりました。

- CODEPAGE
- ENABLE31GDS
- NULLGDSOPIDS
- MAXRESOURCES
- MAXNETWORKS
- MAXSCCOUNT
- SC
- STATUSTABLE

DUIIGHB

DUIIGHB は、DUIDGHB タスク用の初期化ステートメントが含まれている、DSIPARM のメンバーです。これには、CNMSTYLE から初期化値を取り出すためのロジックが組み込まれています。DUIIGHB の V5R3 コピーを使用し、

CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の GHB ステートメントを更新して、DUIIGHB に前に指定されていた値を反映します。データ REXX バージョンの DUIIGHB は変更しないでください。

FKXCFG01

DSIPARM メンバー FKXCFG01 には、AON の構成情報が含まれています。

TCP390 ポリシー情報は、FKXCFG01 から CNMPOLCY に移動されました。FKXCFG01 の TCP390 ステートメントはすべて CNMPOLCY メンバーに移動します。他の AON 構成メンバー (例えば、EZLCFG01 や FKVCFG01) と、他の TCP390 ステートメントを検出するために組み込んだ追加のメンバーを検討します。すべての TCP390 ステートメントを CNMPOLCY に移動します。

スタックから DVIPA データを収集する場合は、DVIPADAT キーワードを TCP390 ステートメントに追加して、値を Y (はい) に設定します。

FLBSYSD

FLBSYSD は、DSIPARM 内の SNA トポロジー・マネージャー用の初期化メンバーです。

RODMNAME パラメーターの値は、&CNMRODM システム・シンボリック変数を使用するように変更されました。

```
RODM:
  RODMNAME="&CNMRODM."
```

VTAM APPL PRTCT 値に対応する、APPLPASS パラメーターの値は、&DOMAIN ユーザー・シンボリック変数を使用するように変更されました。

```
VTAM:
  APPLPASS="&DOMAIN."
```

DisplayResourceOtherData (DROD) フィールドの RODM オブジェクトに使用されるストリング挿入を定義するため、以下のキーワードが追加されました。

```
DRODTEXT:
  TN_PORT_NUMBER="Telnet Port"
  TN_DNS_NAME="Telnet Dns Name"
  DLUR_L0C_LSADR="dlurLocalLSAdr"
```

DisplayResourceOtherData (DROD) フィールドの RODM オブジェクト用に、以下の共通区切り文字キーワードが追加されました。

```
COMMON:
  AGENT_DATA_TRUNCATION_IND="*"
```

マルチシステム・マネージャー関連のための以下のキーワードのデフォルト値が変更されました。

```
FIELDS:
  WRITE_CORRELATABLE_FIELDS=YES
```

FLBSYSD の詳細については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS SNA トポロジー・マネージャー インプリメンテーション・ガイド*」を参照してください。

FLBSYSDA

FLBSYSDA は、DSIPARM 内の APPN アカウンティング・マネージャー用の初期化メンバーです。このメンバーは除去されました。

FLCSAINP

FLCSAINP は廃止されました。V5R3 以前には、FLCSAINP はマルチシステム・マネージャー用のサンプル初期化ファイルでした。FLCSAINP は変更し、FLCAINP か別の固有の名前に名前変更することができます。V5R3 では、FLCAINP は、マルチシステム・マネージャーの初期化の際に実行させる GETTOPO ステートメントを指定するために使用します。他のマルチシステム・マネージャー初期化定義はすべて、CNMSTYLE にマイグレーションされました。

V5R3 の場合、既存の FLCAINP (または他の固有の名前を付けたメンバー) を使用して、以下の更新を行います。

1. 初期化定義 (GETTOPO ステートメント以外) を変更した場合は、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN にその変更をマイグレーションします。
2. CNMSTUSR または CxxSTGEN にマイグレーションした定義 (GETTOPO ステートメント以外) を削除します。
3. すべての START_DISCOVERY ステートメントを削除します。
4. すべての GETTOPO NWCPxxx ステートメントを削除します。
5. すべての GETTOPO LMUxxx ステートメントを削除します。
6. すべての GETTOPP ATMxxx ステートメントを削除します。

FLSAINP についての詳細は、「IBM Tivoli NetView for z/OS マルチシステム・マネージャー ユーザーズ・ガイド」を参照してください。

HELPMAP (CNMS1048)

メンバー HELPMAP (CNMS1048) には、NetView プログラムのヘルプ・パネル名のマッピングが含まれています。

NETVIEW.V5R3M0.DSIPARM データ・セットに提供されている新規バージョンの HELPMAP (CNMS1048) および CNMHELPU を使用してください。

メンバー HELPMAP (CNMS1048) には以下のヘルプ・マッピングが含まれています。

ユーザー追加

```
%INCLUDE HELPMAPU
```

NetView 提供

```
%INCLUDE CNMHELPU
```

必要な情報

ユーザー独自のコマンドおよびヘルプ・パネルの追加

参照先

IBM Tivoli NetView for z/OS カスタマイズ・ガイド

RODM アドレス・スペース

このセクションのサンプルは、RODM アドレス・スペースの変更点をリストしています。

EKGLOADP

EKGLOADP はサンプル RODM ロード・プロシージャ JCL です。

EKGLOADP に以下の変更を加えてください。

1. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。
2. ROUTECODE パラメーターを設定するには、以下のステートメントを PROC ステートメントの COPIES パラメーターの後に追加します。このパラメーターを追加する場合、COPIES=1 パラメーターの後にコンマを 1 つ追加してください。

```
//          ROUTECDE=1
```

3. NetView EXEC ステートメントに、以下のようにして、&ROUTECD 変数を追加します。

```
//LOADRODM EXEC PGM=EKGLTLM,  
//          PARM=('OPERATION=&OPER,LOAD=&LOAD,NAME=&RODMNAME',  
// 'LISTLEVEL=&LISTL,SEVERITY=&SEVERITY,ROUTECD=&ROUTECD')
```

ROUTECD パラメーターの追加の結果、EKGLOADP の呼び出し時に &ROUTECD を指定するために、JCL プロシージャ EKGLLOAD を更新する必要もあります。

4. RODM コンポーネントを使用しており、かつ、前のリリースからマイグレーションする場合には、STEPLIB データ・セット連結から次のステートメントを除去します。

```
//STEPLIB DD DSN=&SQ1..SEKGMOD1,DISP=SHR
```

5. 次の DD ステートメントを STEPLIB データ・セット連結に追加します。

```
//STEPLIB DD DSN=&SQ1..CNMLINK,DISP=SHR
```

6. RODM コンポーネントを使用しており、かつ、前のリリースからマイグレーションする場合には、次のステートメントを

```
//EKGLUTB DD DSN=&SQ1..SEKGLUTB,DISP=SHR
```

以下のように変更します。

```
//EKGLUTB DD DSN=&SQ1..CNMSAMP,DISP=SHR
```

7. RODM コンポーネントを使用しており、かつ、前のリリースからマイグレーションする場合には、次のステートメントを

```
//EKGIN2 DD DSN=&SQ1..SEKGCAS1,DISP=SHR
```

以下のように変更します。

```
//EKGIN2 DD DSN=&SQ1..CNMSAMP,DISP=SHR
```

EKGSII01

EKGSII01 は、RODM ログおよびチェックポイント・データベースを割り振るために使用されます。このサンプルは、サンプル・ジョブ CNMSJ004 によって使用されます。

RODM によってサポートされる最大数に満たない数のウィンドウに対して RODM チェックポイント・データ・セットを割り振っており、RODM データ・キャッシュに保管を予想しているオブジェクトの推定数が以前の最大サポート数 (約 524,000 オブジェクト) を超えている場合は、RODM チェックポイント・データベースのサイズを増加することを検討してください。

EKGXRODM

EKGXRODM は RODM 始動プロシージャです。

EKGXRODM に以下の変更を加えてください。

1. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。
2. NetView データ・セットについて、ユーザー定義のデータ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3USER を指していることを確認します。
3. 以下の ROUTECDE パラメーターを SUBSYM パラメーターの後に追加します。

```
//      SUBSYM=*SUBSYM,      ** SYMBOL SUBSTITUTION OPTION
//      ROUTECDE=1           ** ROUTE CODE FOR WTO/WTOR
```

4. START EXEC ステートメントに、以下のようにして、&ROUTECDE 変数を追加します。

```
//START EXEC PGM=EKGTC000,REGION=0K,TIME=1440,
// PARM='&TYPE,&NAME,&INIT,&CLRSSB,&CUST,&ARM,&SUBSYM,&ROUTECDE'
```

5. RODM コンポーネントを使用しており、なおかつ前のリリースからマイグレーションしている場合は、STEPLIB データ・セット連結にある以下のステートメントを

```
//      DD DSN=&SQ1..SEKGMOD1,DISP=SHR
//      DD DSN=&SQ1..SEKGMOD2,DISP=SHR
```

置換します。

```
//      DD DSN=&SQ1..CNMLINK,DISP=SHR
```

6. EKG CUST DD ステートメントは、ユーザー DSIPARM データ・セットを組み込むように変更されました。

```
//EKG CUST DD DSN=&Q1..CNM01.DSIPARM,DISP=SHR
//      DD DSN=&SQ1..CNMSAMP,DISP=SHR
```

7. RODM コンポーネントを使用しており、かつ、前のリリースからマイグレーションする場合には、次のステートメントを

```
//EKG LUTB DD DSN=&SQ1..SEKGLUTB,DISP=SHR
```

以下のように変更します。

```
//EKG LUTB DD DSN=&SQ1..CNMSAMP,DISP=SHR
```

8. RODM コンポーネントを使用しており、かつ、前のリリースからマイグレーションする場合には、次のステートメントを

```
//EKG IN1 DD DSN=&SQ1..SEKGSMP1(EKGIN1),DISP=SHR
```

以下のように変更します。

```
//EKG IN1 DD DSN=&SQ1..CNMSAMP(EKGIN1),DISP=SHR
```

9. RODM コンポーネントを使用しており、かつ、前のリリースからマイグレーションする場合には、次のステートメントを

```
//EKGIN2 DD DSN=&SQ1..SEKGCAS1,DISP=SHR
```

以下のように変更します。

```
//EKGIN2 DD DSN=&SQ1..CNMSAMP,DISP=SHR
```

10. LNKLSST_{xx} または PROG_{xx} で、Language Environment for OS/390 ランタイム・ライブラリーをインストールしていない場合は、EKGXRODM の STEPLIB のライブラリー名が正しいこと、およびアンコメントされていることを確認します。PL/I または C/C++ のランタイム・ライブラリーは使用されなくなったため、これらのライブラリー用の DD ステートメントを除去してください。

GMFHS アドレス・スペース

このセクションのサンプルは、GMFHS アドレス・スペースの変更点をリストしています。

CNMGMFHS (CNMSJH10)

CNMGMFHS (CNMSJH10) は GMFHS 始動プロシージャです。

CNMGMFHS に以下の変更を加えてください。

1. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。
2. NetView データ・セットについて、ユーザー定義のデータ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3USER を指していることを確認します。
3. 領域サイズが 64 MB に増やされました。PROC ステートメント内の以下の項目を更新します。

```
//          REG=64M,
```

4. 以下の ROUTECDE パラメーターを PROC ステートメントの SUBSYM パラメーターの後に追加します。

```
//          SUBSYM=*SUBSYM, ** SYMBOL SUBSTITUTION
//          ROUTECDE=1    ** ROUTE CODE FOR ALL WTO'S
```

5. STEP1 EXEC ステートメントに、以下のようにして、&ROUTECDE 変数を追加します。

```
//STEP1    EXEC PGM=&PROG,REGION=&REG,TIME=1440,
// PARM='&AGGRST,RESWS=&RESWS,DOMAIN=&DOMAIN,ARM=&ARM,SUBSYM=&SUBSYM, *
//          ROUTECDE=&ROUTECDE'
```

6. RODM コンポーネントを使用しており、かつ、前のリリースからマイグレーションする場合には、次のステートメントを

```
//STEPLIB DD DSN=&SQ1..SEKGMOD1,DISP=SHR
```

以下のように変更します。

```
//STEPLIB DD DSN=&SQ1..CNMLINK,DISP=SHR
```

7. 次の GMFHS 出力 DD ステートメントを追加します。

```
//CNMN DD SYSOUT=A
```

8. RODM コンポーネントを使用しており、かつ、前のリリースからマイグレーションする場合には、次のステートメントを

```
//EKGLUTB DD DSN=&SQ1..SEKGLUTB,DISP=SHR
```

以下のように変更します。

```
//EKGLUTB DD DSN=&SQ1..CNMSAMP,DISP=SHR
```

CNMSJH12

CNMSJH12 は、サンプル GMFHS/SNA トポロジー・マネージャーのデータ・モデル・ロード・ジョブです。変更された点が多いため、新規のサンプル・ジョブを使用してください。

DUIGINIT

DUIGINIT は、GMFHS 用の初期化メンバーです。このメンバーには、GMFHS ホスト・メインタスク用の初期化ステートメントが含まれています。これらのステートメントは、GMFHS の初期化の際に読み取られるシステム制御定数です。ご使用のシステムでシンボリック置換が使用可能になっている場合は、DUIGINIT でシンボルを使用できます。SYS1.PARMLIB のメンバー IEASYMxx でシンボルが定義されていることを確認してください。

DOMAIN ステートメントは、デフォルトの DUIGINIT メンバーでコメント化されています。好ましい方法は、DOMAIN シンボリック変数を GMFHS 開始プロシージャ (CNMGMFHS) で使用することです。ご使用の環境で、NetView 提供の DUIGINIT メンバーに用意されているデフォルト値を許容できる場合は、デフォルトの DUIGINIT メンバーを使用することを考慮してください。

デフォルト DUIGINIT メンバーを使用しない場合は、既存の DUIGINIT メンバーに以下の更新を行ってください。

1. GMFHS が、表示のために NetView 管理コンソールに日本語テキストを送信できるようにするには、次の DUIGINIT パラメーターを追加します。

```
JAPANESE=ON
```

2. トレースが使用可能である場合に、トレースする GMFHS タスクを指定するには、TASK ステートメントを使用します。RCMGR は、RODM Collection Manager タスクについてのトレースを使用可能にするための、TASK ステートメントの新規の値です。

3. RODMNAME パラメーターの値は、&CNMRODM システム・シンボリック変数を使用するように変更されました。

```
RODMNAME = &CNMRODM
```

4. 次のステートメントを追加してください。

```
LCON-MAX-QUEUE-RCMGR=10000
```

イベント自動化サービス・アドレス・スペース

このセクションのサンプルは、イベント自動化サービス・アドレス・スペースの変更点を示します。

IHSAEVNT

IHSAEVNT は、イベント自動化サービス・アドレス・スペースを開始します。PROCLIB 内の IHSAEVNT に以下の変更を加えてください。

1. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。
2. C/C++ ランタイム・ライブラリーは使用されなくなったため、このライブラリー用の DD ステートメントを除去します。
3. 以下の ROUTECDE パラメーターを PROC ステートメントの OUTSIZE パラメーターの後に追加します。

```
//          ROUTECDE=1,      ** ROUTE CODE FOR ALL WTO'S
```
4. 以下の &ROUTECD 変数を &OUTSIZE 変数の後に追加します。

```
INITFILE=&INITFILE OUTSIZE=&OUTSIZE ROUTECDE=&ROUTECD
```

その他の考慮事項

以下の機能に対する変更を考慮してください。

- BROWSE 機能
- UNIX システム・サービス
- システム・シンボリック変数
- データ REXX
- IPv6 サポート

BROWSE 機能

LBHOURLY と呼ばれる新しい DEFAULTS 設定で、毎時の統計メッセージ CNM154I、CNM155I、および CNM156I をネットワーク・ログに送るかどうかを制御します。前のリリースでは、送信を阻止するオプションはなく、これらの毎時の統計メッセージは、自動的にネットワーク・ログに送られました。CNMSTYLE の DEFAULTS.LBHOURLY ステートメントによって設定されるように、LBHOURLY のデフォルト設定は NO です。これらの毎時の統計メッセージを引き続きネットワーク・ログで受信するためには、DEFAULTS.LBHOURLY ステートメントを CNMSTUSR または CxxSTGEN に追加し、その値を YES に設定してください。

UNIX システム・サービス

次のセクションでは、NetView V1R3 から NetView V5R3 で変更された、ディレクトリー、構成ファイル、および機能を説明します。また、15 ページの『UNIX システム・サービスの準備』のセクションも検討してください。

NetView MIB コレクションは、/usr/lpp/netview/mibs/ ディレクトリーから /usr/lpp/netview/v5r3/mibs/ ディレクトリーに移動されました。

以下の構成ファイルは、NetView V1R3 に存在したものですが、NetView V5R3 では使用されなくなりました。

- /etc/netview/fkxcm ¹
- /etc/netview/ipdiscovery.conf
- /etc/netview/nv390mibs.def
- /etc/netview/nv390srcv.conf
- /etc/netview/snmp.conf

以下の機能は、NetView V5R3 の USS で使用できなくなりました。

- 以前、USS 内の z/OS および OS/390 上で実行された TCP/IP ディスカバリー・サンプル。²
- SNMPSRVC³
- POLLNRVC³
- MIBSRVC³
- LOADMIB³

注:

1. 重複していないコミュニティ名はすべて、fkxcm から DSIPARM メンバー CNMSCM にコピーされます。
2. このサンプルは、NetView for z/OS Web ページ (<http://www.ibm.com/software/tivoli/products/netview-zos/>) からダウンロードできます。製品では、Linux on zSeries[®] の TCP/IP ディスカバリー機能に置き換えられました。
3. これらのサービスは、NetView Web アプリケーションの 1 つのフィーチャーとして出荷されている SNMP サーバーを通じて使用することができます。

パラメーター・ファイルでのシンボリック変数の使用

NetView プログラムは、SYS1.PARMLIB の以下のシステム変数を、パラメーター・ファイル CNMSTYLE、DUIGINIT、および FLBSYSD で使用します。

表 17. 初期化メンバーで使用されるシンボリック変数

メンバー	タスク	TCP/IP 名	RODM 名	NETID
		&CNMTCPN	&CNMRODM	&CNMNETID
CNMSTYLE	NetView 初期化	X	X	X
DUIGINIT	GMFHS (グラフィックス)		X	
FLBSYSD	SNA トポロジー・マネージャー		X	

&DOMAIN は、追加の NetView ユーザー・シンボリック変数であり、以下のパラメーター・ファイルで使用されます。

- CNMSCBET
- CNMSMRT1
- CNMSTASK
- CNMSTGEN
- CNMSTPWD
- CNMSTUSR
- CNMSTYLE
- DSIAMIAT
- DSIAMII
- DSITBL01
- DSIVPARM
- FKXWHTML
- FLBSYSD

パラメーター・ファイルでのデータ REXX の使用

データ REXX を使用すると、REXX スタイルのロジックを NetView データ・セット・メンバーにコーディングすることができます。例えば、データ REXX では、条件に応じたファイルの組み込みや、CNMSTYLE の設定値を基にした、パラメーターへの値の割り当てが可能です。データ REXX は多くの初期化メンバーで使用されます。データ REXX について詳しくは、「*IBM Tivoli NetView for z/OS* インストール: 概説」を参照してください。

IPv6 サポート

デフォルトでは、NetView プログラムは IPv4 と IPv6 の両アドレッシングをサポートします。ただし、CNMSTYLE 内の IPv6Env 環境ステートメントを使用して、NetView プログラムを 1 つのアドレッシング・ファミリーに限定することができます。IPv6Env ステートメントの詳細については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS* アドミニストレーション・リファレンス」を参照してください。詳しくは、223 ページの『付録 G. IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの間の違い』も参照してください。

第 4 章 Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 4 からのマイグレーション

この章では、Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 4 から NetView プログラムをマイグレーションする場合に、マイグレーションして実動システムとして稼働する方法を説明します。マイグレーション情報は、V1R4 の初期リリースに付属する NetView コンポーネントを基にしています。V5R3 の内容を V1R4 NetView 定義に追加するか、または V1R4 のカスタマイズを NetView プログラムに付属するデフォルトの V5R3 メンバーに追加できます。いずれの場合も、NETVIEW.V5R3USER.CNM01.DSIPARM などの、適切なユーザー割り振りデータ・セットに、カスタマイズされたメンバーを配置します。NETVIEW.V5R3M0.DSIPARM など、SMP/E 管理のデータ・セットのメンバーはカスタマイズしないでください。

NetView 定義メンバーをマイグレーションする際に、使用する方法に影響を及ぼす可能性のある要因が幾つかあります。ネットワークのサイズや複雑さ、従う必要のあるセキュリティ・ポリシー、および業務の中で確立された慣習などのすべての要因が、お客様のマイグレーションに最適の方法は何かということに影響を与える可能性があります。この後のチェックリストでは、本書で概説し、NetView ライブラリー内の他の文書によってサポートされている、マイグレーションの文書化された方法を詳細に説明しています。ご自分に最適のマイグレーション方法を選択してください。

V1R4 定義をマイグレーションするには、以下のステップを実行してください。

1. サンプル・ジョブ CNMSJ002 を実行して、V5R3 ユーザー・データ・セットの新規セットを割り振ります。 17 ページの表 11 の手順を完了している場合、これはすでに行われています。
2. サンプル・ジョブ CNMSJMIG を実行して、V1R4 DSIPARM メンバーを新規 CNMSTYLE フォーマットに変換します。詳しくは 213 ページの『付録 F. CNMSTYLE および CNMCMD へのマイグレーション』を参照してください。
3. サンプル・ジョブ CNMSJMIG を実行して、V1R4 DSICMD メンバーを新規 CNMCMD フォーマットに変換します。詳しくは 213 ページの『付録 F. CNMSTYLE および CNMCMD へのマイグレーション』を参照してください。
4. NetView ドメインごとに、固有の &NV2I 値 (xx) を定義します。
5. CNMSJMIG によって作成されたドメイン固有のステートメントを DSIPARM メンバー CNMSTUSR から CxxSTGEN に移動します。ここで、xx は、前のステップで定義したローカル・シンボリック変数 &NV2I の値です。
6. CNMSTYLE のカスタマイズされた V1R4 コピーを検討します。V1R4 CNMSTYLE のドメイン固有のカスタマイズをすべて CxxSTGEN に移動し、V1R4 CNMSTYLE のシステム全体のカスタマイズをすべて CNMSTUSR に移動します。その場合、これらの変更のいくつかは CNMSJMIG にすでに追加済みかもしれないので注意してください。V1R4 CNMSTYLE メンバーを V5R3 ユーザー DSIPARM データ・セットにコピーしないでください。

7. 本章の CNMSTYLE 情報と、NetView プログラムに付属する V5R3 CNMSTNXT メンバーを見直してください。CNMSTYLE のドメイン固有のカスタマイズを CxxSTGEN に配置し、CNMSTYLE のシステム全体のカスタマイズを CNMSTUSR に配置します。V5R3 デフォルトの CNMSTYLE メンバーは変更しないでください。
8. 本章の残りの情報を見直し、変更されたメンバーだけを V5R3 ユーザー・データ・セットに配置して、該当する V1R4 NetView 定義メンバーと JCL プロシージャをマイグレーションします。

図 7 は、NetView V1R4 の初期化フローを示し、図 8 は、NetView V5R3 初期化フローを示しています。DSIPARM メンバーに変更を行うときには、この新しい初期化フローを覚えておいてください。

NetView 初期化フロー

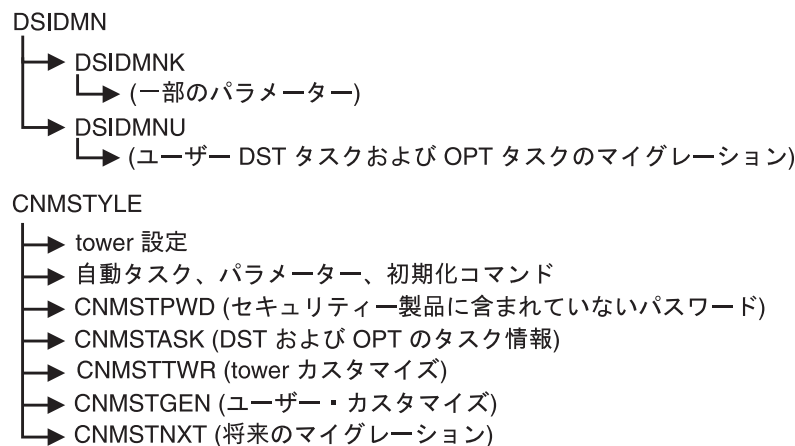


図 7. NetView V1R4 初期化フロー

NetView 初期化フロー

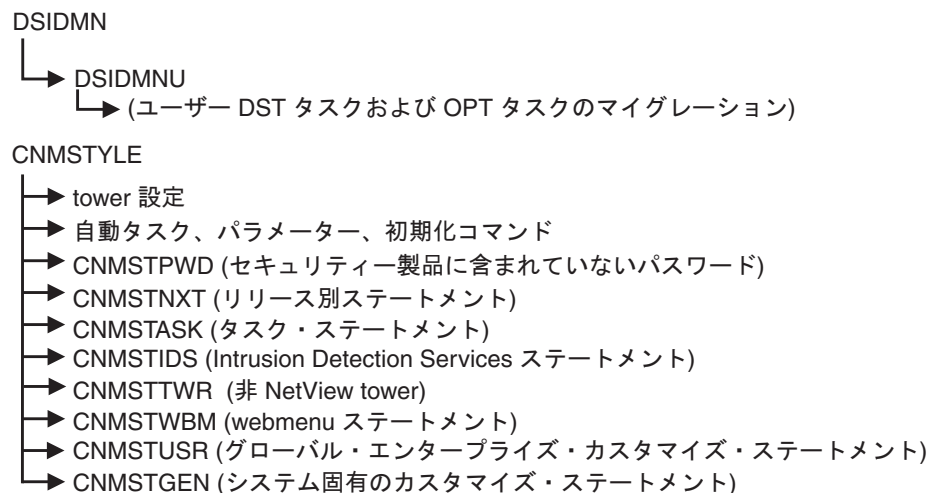


図 8. NetView V5R3 初期化フロー

この章を読み終えた後は、125 ページの『第 7 章 NetView の開始準備』に進んでください。

必要な情報

パネル、コマンド、メッセージ、およびサンプルなどの変更

参照先

- 179 ページの『付録 B. Tivoli NetView for OS/390 パージョン 1 リリース 4 から Tivoli NetView for z/OS パージョン 5 リリース 1 への変更』
- 195 ページの『付録 C. Tivoli NetView for z/OS パージョン 5 リリース 1 から Tivoli NetView for z/OS パージョン 5 リリース 2 への変更』

新規サンプル

表 18 に、マイグレーション時に見直す新規のサンプルを示します。

表 18. 新規サンプルのリスト

配布名	名前	説明	データ・セット名
CNMCMD	同じ	NetView コマンドの NetView コマンド定義 CMDDEF ステートメントでは、コマンドの定義を指定します。いくつかの CMDDEF ステートメントはコマンド同義語 (CMD SYN) を持っています。これらのステートメントでは、コマンドの同義語を指定します。 この定義は、端末アクセス機能 (TAF) と VTAM プログラムのクロスドメイン・ログオン定義および CMDDEF ステートメント (および同義語) も提供します。 CNMS6 で始まる名前のファイルは、NETVIEW.V5R3M0.CNMSAMP に組み込まれています。このファイルを CNMCMD に組み込んでおくと、配布テープにも組み込まれている自動化コマンド・リストを使用できます。	DSIPARM
CNMCMDO	同じ	製品固有の定義済みコマンドのコマンド定義	DSIPARM
CNMCMDU	同じ	ユーザー定義のコマンド用のコマンド定義	DSIPARM
CNMCMENT	同じ	NetView コマンド定義	DSIPARM
CNMCMSYS	同じ	NetView コマンド定義	DSIPARM
CNMPOLCY	同じ	NetView の自動化ポリシー	DSIPARM
CNMSAF2	同じ	NetView オペレーターおよびコマンドの RACF 定義を設定します。	CNMSAMP
CNMSBAK1	同じ	バックアップ・コマンド権限テーブル	DSIPARM
CNMSCAT2	同じ	サンプル・コマンド権限テーブル	DSIPARM

表 18. 新規サンプルのリスト (続き)

配布名	名前	説明	データ・セット名
CNMSCBEA	同じ	CBE 自動化テーブル・アクションを使用した共通基本イベント XML 文書の作成方法を示す自動化サンプル	DSIPARM
CNMSCBET	同じ	共通基本イベント XML エlementを定義するためのテンプレート・ファイル	DSIPARM
CNMSCM	同じ	TCP/IP スタックの SNMP コミュニティ名	DSIPARM
CNMSDVIP	同じ	このサンプルは、DVIPA 定義と状況データを表示します。また、DVIPSTAT コマンド出力 (BNH846I メッセージ) を分かりやすいフォーマットに設定します。	CNMSAMP
CNMSDVPC	同じ	このサンプルは、DVIPA 接続データを表示します。また、DVIPCONN コマンド出力 (BNH849I メッセージ) を分かりやすいフォーマットに設定します。	CNMSAMP
CNMSEMAA	同じ	NetView for z/OS Enterprise Management Agent 用の自動化テーブル・メンバー	DSIPARM
CNMSEPTL	同じ	リソース・ディスカバリーのための自動化テーブル・サンプル	DSIPARM
CNMSJCRG	同じ	CNMSTYLE レポート生成プログラム・サンプル・ジョブ	CNMSAMP
CNMSJEMA	同じ	NetView for z/OS Enterprise Management Agent の構成ツールの開始に使用されるユーザー INSTLIB データ・セットを割り振りおよびコピーします。	CNMSAMP
CNMSJKVW	同じ	メンバーを SCNMAgent データ・セットから z/OS Tivoli Enterprise Monitoring Server RKANDATV データ・セットにコピーするサンプル・ジョブ	CNMSAMP
CNMSJMIG	同じ	CNMSTYLE マイグレーション・ツール・サンプル・ジョブ	CNMSAMP
CNMSJZCE	同じ	イベント・コリレーション・エンジンのサンプル始動ジョブ	CNMSAMP
CNMSMRT1	同じ	メッセージ改訂テーブル	DSIPARM
CNMSPAN2	同じ	サンプル NetView スパン・テーブル	DSIPARM
CNMSPLEX	同じ	このサンプルは、DVIPA シスプレックス・ディストリビューター・データを表示します。また、DVIPPLEX コマンド出力 (BNH847I メッセージ) を分かりやすいフォーマットに設定します。	CNMSAMP
CNMSSTAC	同じ	このサンプルは、TCP/IP スタック構成と状況データを表示します。また、STACSTAT コマンド出力 (BNH845I メッセージ) を分かりやすいフォーマットに設定します。	CNMSAMP

表 18. 新規サンプルのリスト (続き)

配布名	名前	説明	データ・セット名
CNMSTARG	同じ	このサンプルは、DVIPA ディストリビューター・ターゲットとポート・データによる DVIPA ワークロードを表示します。また、DVIPTARG コマンド出力 (BNH848I および BNH850I メッセージ) を分かりやすいフォーマットに設定します。	CNMSAMP
CNMSTIDS	同じ	Intrusion Detection Services (IDS) 初期化ステートメントを組み込みます。	DSIPARM
CNMSTUSR	同じ	CNMSTYLE のカスタマイズ・メンバー: CNMSTYLE のステートメントをオーバーライドする追加または変更されたグローバル (エンタープライズ) 定義ステートメントを組み込みます。	DSIPARM
CNMSTWBM	同じ	Web ブラウザー・ポートフォリオ定義を組み込みます。	DSIPARM
DSIAUTB	同じ	AUTBYPAS REXX または CLIST 機能の使用法についての部分リスト	DSIPARM
DSIAUTBU	同じ	AUTBYPAS REXX または CLIST 機能のユーザー定義の部分リスト	DSIPARM
DSIPROFG	同じ	DSIPROFD と機能的に同等の自動化オペレーター・プロファイル。これは、互換性を保つために用意されています。	DSIPRF
DSIPROFN	同じ	NetView for z/OS Enterprise Management Agent データ収集自動タスク (AUTODCn) 用の自動化オペレーター・プロファイル	DSIPRF
DSIW3PRF	同じ	3270 Web セッション用のプロパティ定義	DSIPARM
DSIZCETB	同じ	イベント・コリレーション・エンジンの自動化テーブル・サンプル	DSIPARM
EZLCMENT	同じ	基本 AON コマンドの NetView コマンド定義	DSIPARM
FKVCMENT	同じ	AON/SNA コマンドの NetView コマンド定義	DSIPARM
FKXCMENT	同じ	AON/TCP コマンドの NetView コマンド定義	DSIPARM

表 18. 新規サンプルのリスト (続き)

配布名	名前	説明	データ・セット名
FLCAINP	同じ	サンプル初期化ファイル ご自分のサイト用の 1 つ以上のマルチシステム・マネージャーの初期化ファイルを作成する場合に、このファイルをテンプレートとして使用することができます。 このファイルを名前変更する場合には、INITTOPO コマンドを発行する際にそのファイル名を指定します。 FLCAINP には、他のマルチシステム・マネージャー初期化ファイルを組み込むための %INCLUDE ステートメントの使用法の例も含まれています。	DSIPARM

VTAM アドレス・スペース

このセクションのサンプルは、VTAM アドレス・スペースの変更点をリストしています。

A01APPLS (CNMS0013)

このメンバーには、NetView プログラム用にコーディングされたアプリケーション (APPL) メジャー・ノードが含まれています。

VTAMLST データ・セットを再割り振りおよび再コピーしなかった場合、次の変更を A01APPLS に加えてください。

- SYS1.PARMLIB メンバー IEASYMxx にドメイン ID (システム変数 &CNMDOMN) を設定するか、A01APPLS (CNMS0013) 内の &CNMDOMN のすべての オカレンスを現行のドメイン ID に変更してください。
- ステータス・モニター・プリプロセッサを使用していない場合は、複数の並行 NetView オペレーターのタスクを定義する APPL ステートメントを、ワイルドカード文字 (??) を使用して 1 つの APPL ステートメントに置換することができます。例えば、次のようになります。

```
&CNMDOMN.0?? APPL AUTH=(NVPACE,SPO,ACQ,PASS),PRTCT=&CNMDOMN.,      X
                  EAS=4,MODETAB=AMODETAB,DLOGMOD=DSILGMOD
```

- ステータス・モニター・プリプロセッサを使用していない場合は、TAF APPL ステートメントを、LU 名に続くワイルドカード文字 (??) を使用して、1 つの APPL ステートメントに置換することができます。例えば、次のようになります。

```
TAF010?? APPL  MODETAB=AMODETAB,EAS=9,      X
                  DLOGMOD=M3767
```

他のアプリケーション (TAF など) での使用のために定義する APPL 名は、端末ログオン APPL と同じ命名方式で定義してはなりません (例えば、3 文字の接尾部のあるドメイン名)。同じ命名方式を使用すると、これらのアプリケーション名が

NetView プログラムにより端末ログオンのために使用される可能性があり、その場合には、アプリケーション名が、定義された目的に使用できなくなります。

CNMNET (CNMSJ008)

CNMNET (CNMSJ008) は、VTAM プログラムの開始プロシージャです。

次のようにして、PROCLIB 内の CNMNET を変更します。

1. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。
2. NetView データ・セットについて、ユーザー定義のデータ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3USER を指していることを確認します。

NetView アドレス・スペース

このセクションのサンプルは、NetView アドレス・スペースの変更点をリストしています。

AAUPRMLP

AAUPRMLP は、セッション・モニターの初期化ステートメントを含む DSIPARM のメンバーです。これには、CNMSTYLE から初期化値を取り出すためのロジックが組み込まれています。AAUPRMLP の V5R3 コピーを使用し、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の NLDM ステートメントを更新して、AAUPRMLP に前に指定されていた値を反映します。出荷バージョンの AAUPRMLP は変更しないでください。

BNJMBDST

BNJMBDST (ハードウェア・モニター初期化メンバー) を変更した場合は、DSIPARM メンバー CNMSTYLE (または CNMSTUSR や CxxSTGEN など、その組み込みメンバー) にその変更をマイグレーションしてください。ほとんどの BNJMBDST ステートメントは、CNMSTYLE に関連ステートメントを持っています (例えば、NPDA.DSRBO または NPDA.ALERTFWD)。

DST メンバー (例えば、XITCI) に適用される BNJMBDST ステートメントには、関連した CNMSTYLE ステートメントはありません。この場合は、これらのステートメントをデータ REXX バージョンの BNJMBDST に追加してください。REXX プログラムがこれらのステートメントを REXX ステートメントとして解釈せずに、NetView データ行として戻せるように、ステートメントを必ず引用符で囲んでください。

CNMPROC (CNMSJ009)

CNMPROC (CNMSJ009) は、NetView プログラム用の始動プロシージャです。

PROCLIB 内の CNMPROC に以下の変更を行います。

1. NetView データ・セットについて、ユーザー定義のデータ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3USER を指していることを確認します。
2. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。

3. AON VSAM データ・セットはサイズが増加したため、マイグレーション中に再割り振りしてください。VSAM データ・セットの割り振りについて詳しくは、「*IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: 概説*」を参照してください。また、VSAM クラスター名の接頭部が `NETVIEW.&domain` に変更された点にも注意してください。

4. デフォルトの領域サイズは、65536 K バイトに増大しました。NetView 製品に既存のデフォルトの領域サイズ (32768 K バイト) を使用している場合は、領域サイズ値を増やしてください。

```
//      REG=65536,          ** REGION SIZE(IN K) FOR NETVIEW
```

実行するコンポーネントによっては、領域サイズをさらに増やす必要がある場合があります。詳しくは、「*IBM Tivoli NetView for z/OS Tuning Guide*」を参照してください。

5. SQ1 ステートメントの後に次の REXX ステートメントを追加して、REXX ライブラリーの高位修飾子を指定します。

```
//      REXX='EAG.V1R4M0',    ** REXX DSN HIGH LEVEL QUALIFIER
```

6. 以下の TRSIZE ステートメントとコメントを NV2I ステートメントの後に追加して、トレース・テーブル・サイズの指定をできるようにします。

```
//      NV2I='',
//      TRSIZE=4000
//*                                     ** INTERNAL TRACE TABLE SIZE - Number
//*                                     ** of pages to be allocated for the
//*                                     ** NetView Internal Trace table. The
//*                                     ** trace table is located in a data
//*                                     ** space, so the value can be up to
//*                                     ** 524286. If no value is specified,
//*                                     ** the default of 4000 is used. If
//*                                     ** a value of 0 is passed, internal
//*                                     ** trace is not started early. Trace
//*                                     ** options in CNMSTYLE take effect
//*                                     ** even if trace is not started early.
//*
```

7. NetView EXEC ステートメントに、以下のようにして、&TRSIZE 変数を追加します。

```
//NETVIEW EXEC PGM=&PROG,TIME=1440,
//      REGION=&REG.K,
//      PARM=(&BFSZ.K,&SLSZ,
//      '&DOMAIN','&DOMAINPW','&ARM','&SUBSYM','&NV2I','&TRSIZE'),
//      DPRTY=(13,13)
//      DPRTY=(13,13)
```

8. STEPLIB 連結から以下の DD ステートメントを除去してください。

```
//      DD DSN=&SQ1..SEKGMOD1,DISP=SHR
```

9. STEPLIB 連結で以下の DD ステートメントを変更します (SEAGLMD を SEAGLPA に変更します)。

```
//* YOU WILL NEED ACCESS TO EITHER THE REXX/370 RUNTIME LIBRARY
//* OR THE REXX ALTERNATE LIBRARY AS FOLLOWS:
//*
//* - IF YOU HAVE THE REXX/370 LIBRARY ON YOUR SYSTEM BUT SEAGLPA
//* IS NOT ACCESSIBLE FROM THE PAGEABLE LINK PACK AREA (PLPA),
//* THEN YOU MUST UNCOMMENT THE "SEAGLPA" LINE BELOW.
//*
//*      OR
//*
//* - IF YOU HAVE THE REXX ALTERNATE LIBRARY ON YOUR SYSTEM,
```

```

/* BUT SEAGALT IS NOT ACCESSIBLE FROM THE PLPA OR LINKLST,
/* THEN YOU MUST UNCOMMENT THE "SEAGALT" LINE BELOW.
/*
/* WHEN YOU UNCOMMENT EITHER OF THE LINES BELOW, MAKE SURE
/* THAT THE DSN ACTUALLY MATCHES THE NAME ON YOUR SYSTEM.
/* IN ADDITION, MAKE SURE THAT THE DATASET IS APF-AUTHORIZED.
/*
/*          DD DSN=&REXX..SEAGLPA,DISP=SHR
/*          DD DSN=&REXX..SEAGALT,DISP=SHR

```

注: REXX/370 ランタイム・ライブラリーか REXX 代替ライブラリーが必要です。

10. STEPLIB 連結から以下のステートメントを除去してください。

```

//          DD DSN=&SQ1..SEZLLINK,DISP=SHR

```

11. NetView プログラムで Language Environment (LE) HLL プログラムの実行を計画しており、LE ランタイム・ライブラリーを LNKLSTxx でインストールしなかった場合には、CNMPROC の STEPLIB に指定されているライブラリー名が正しいこと、およびアンコメントされていることを確認してください。

12. DSICLD DD ステートメントを更新して、以下のユーザー・データ・セットを追加します。

```

//DSICLD DD DSN=&Q1..&DOMAIN..CNMCLST,DISP=SHR
//          DD DSN=&SQ1..CNMCLST,DISP=SHR
//          DD DSN=&SQ1..CNMSAMP,DISP=SHR

```

DSICLD 連結から以下の DD ステートメントを除去してください。

```

//          DD DSN=&SQ1..SEZLCLST,DISP=SHR

```

13. CNMPNL1 連結から以下のステートメントを除去してください。

```

//          DD DSN=&SQ1..SEKGPNL1,DISP=SHR
/* COMMENT THE FOLLOWING LINE OUT IF YOU WILL NOT BE USING AON INFORM
/* POLICY, TIMER COMMAND, CGED COMMAND OR DM COMMAND.
//          DD DSN=&Q1..&DOMAIN..SEZLPNLU,DISP=SHR
//          DD DSN=&SQ1..SEZLPNLU,DISP=SHR
:
/* UNCOMMENT THE SEKGPNL2 DEFINITION STATEMENT FOR A JAPANESE
/* SYSTEM WITH RODM
/*          DD DSN=&SQ1..SEKGPNL2,DISP=SHR

```

CNMPNL1 連結を、以下のように更新します。

```

//CNMPNL1 DD DSN=&Q1..&DOMAIN..CNMPNL1,DISP=SHR
/* JAPANESE ONLINE HELP DATASET (PANELS)
/*          DD DSN=&SQ1..SCNMPNL2,DISP=SHR
/* ENGLISH ONLINE HELP DATASET (PANELS)
//          DD DSN=&SQ1..CNMPNL1,DISP=SHR

```

14. 以下の TCP 接続 VSAM データベースを追加します。

```

//DSITCONP DD DSN=&VQ1..&DOMAIN..DSITCONP,
//          DISP=SHR,AMP='AMORG'
//DSITCONS DD DSN=&VQ1..&DOMAIN..DSITCONS,
//          DISP=SHR,AMP='AMORG'

```

15. EZLSTAT DD ステートメントを更新します。

```

/*EZLSTAT DD DSN=&VQ1..&DOMAIN..STATS,
/*          DISP=SHR,AMP='AMORG,BUFNI=10,BUFND=5'

```

16. EZLPSWD DD ステートメントを更新します。

```

/*EZLPSWD DD DSN=&VQ1..&DOMAIN..PASSWORD,
/*          DISP=SHR,AMP='AMORG,BUFNI=10,BUFND=5'

```

17. AON ログ DD ステートメントを更新します。

```
//*EZLLOGP DD DSN=&VQ1..&DOMAIN..LOGP,
//* DISP=SHR,AMP='AMORG,BUFNI=10,BUFND=5'
//*EZLLOGS DD DSN=&VQ1..&DOMAIN..LOGS,
//* DISP=SHR,AMP='AMORG,BUFNI=10,BUFND=5'
```

18. 以下の TCP/IP 変換データ・セット情報を追加し、ご使用のインストール環境の必要に応じて、ステートメントを更新します。

```
//*
//*****
//* If you are using the TCP/IP translate data set TCPXLBIN,
//* specify the appropriate data set name and uncomment the
//* following DD statement to prevent dynamic allocation
//* messages from being issued each time the data set is needed.
//*
//*CNMXLBIN DD DISP=SHR,DSN=datasetprefix.STANDARD.TCPXLBIN
//*
//* For more information please see your IP Configuration Guide.
```

CNMPSSI (CNMSJ010)

CNMPSSI (CNMSJ010) は、NetView サブシステム・アドレス・スペースを始動します。

PROCLIB 内の CNMPSSI に以下の変更を加えてください。

1. システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。

2. MSGIFAC のデフォルト値が SYSTEM から SSIEXT に変更されました。z/OS v1r8 以降、QUESSI、QSSIAT、および USESSI 値はサポートされなくなりました。

```
// MSGIFAC='SSIEXT', ** SSI/EXTENDED CONSOLE OVERRIDE SWITCH
```

3. 以下のステートメントを P4000BUF パラメーターの後に追加して、経路コードを設定します。これらのステートメントを追加する場合は、P4000BUF=0 ステートメントの後にコンマを追加してください。

```
// ROUTECDE=1 ** Route code to be used for WTOs issued
//** ** by the SSI address space. Messages
//** ** that may be issued before this parm
//** ** is processed will use route code 1
//** ** regardless of the value set here.
```

4. NetView EXEC ステートメントに、以下のようにして、&ROUTECD 変数を追加します。

```
//NETVIEW EXEC PGM=&PROG,TIME=1440,REGION=&REG.K,
// PARM=(&MBUF,&CBUF,&DSIG','&MSGIFAC','&PPIOPT','&ARM',
// '&PFXREG',&P256BUF,&P4000BUF,&ROUTECD),DPRTY=(13,13)
```

CNMSTYLE

CNMSTYLE は、NetView の初期化中に使用される DSIPARM のメンバーです。NetView 初期化プロセスへの変更は、NetView 製品の以前のリリースのように個々のサンプルを変更するのではなく、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN で行われます。CNMSTYLE は、NetView 初期化プロセスを単純化するように設計されています。

データ・セット NETVIEW.V5R3USER.INSTALL 内のサンプル CNMSJMIG を使用して、初期化メンバーを前のリリース (CNME1034 および幾つかの DSIPARM メンバーを含む) から CNMSTUSR にマイグレーションすることができます。詳しくは、213 ページの『付録 F. CNMSTYLE および CNMCMD へのマイグレーション』を参照してください。

マルチシステム・マネージャー NetFinity (NTF) サブタワーは除去されました。

CNMSTYLE および従属メンバーは、DSIPARM の定義ステートメントの一部と、CNME1034 によって実行されるすべての初期化を置き換えます。

表 19. CNMSTYLE ステートメントの古い DSIPARM ステートメントとの関係

CNMSTYLE ステートメント	DSIPARM ステートメント またはコマンド	NetView メンバー
DB2SEC=RRS	DB2RRS	DSIDMNK
DEFAULTS.*	DEFAULTS	CNME1034
FLC_DEF_NETW_VIEW	DEF_NETW_VIEW	FLCSAINP
FLC_EXCEPTION_VIEW_FILE	EXCEPTION_VIEW_FILE	FLCSAINP
FLC_RODMINT	RODMINT	FLCSAINP
FLC_RODMNAME	RODMNAME	FLCSAINP
FLC_RODMRETRY	RODMRETRY	FLCSAINP
FLC_RUNCMDRETRY	RUNCMDRETRY	FLCSAINP
FLC_TCPNAME	TCPNAME	FLCSAINP
FLC_TN3270_FILE	TN3270_FILE	FLCSAINP
GHB.TCPANAME	TCPANAME	DUIIGHB
IPLOG	パラメーター	DSIILGCF
LOADEXIT	LOADEXIT	DSIDMNK
LUC.*	パラメーター	DSILUCTD
MCON.*	パラメーター	DSITPCPF
MSMdefault	DEF_AUTOTASK	FLCSAINP
MVSPARM.*	MVSPARM	DSIDMNK
NLDM.*	パラメーター	• AAUPRMLP • DSIAMLTD
NPDA.ALERTFWD	ALERTFWD	DSIDMNK
REXEC	パラメーター	DSIREXCF
RRD	RRD	DSIDMNK
RSH	パラメーター	DSIRSHCF
RTT.*	パラメーター	DSIRTTTD
SECOPTS.*	OPTIONS	DSIDMNK
TAMEL.*	パラメーター	DUIFPMEM
transTbl	TRANSTBL	DSIDMNK
VTAMCP.USE	VTAMCP	DSIDMNK
WEB.*	パラメーター	DSIWBMEM

CNMSTYLE には、組み込まれるステートメントのタイプについての記述コメントが含まれています。それらのコメントを読み、デフォルトを検討してください。

以下のデフォルトが変更されました。

表 20. CNMSTYLE ステートメント

デフォルト	前のデフォルト	現行のデフォルト
NCCF トレース 注: 初期化中にプロセッサ使用率の著しい増加に気付いた場合は、TRACE オプションを変更するか、または NetView の初期化が完了した後でトレースを開始することができます。	オフ	オン、MODE=INT
LOGONPW	CMDMDL コメント化	CMDDEF 使用可能
ASSIGN	STATGRP が指定するもの: • NETOP1 • NETOP2	STATGRP が指定するもの: • NETOP1 • NETOP2 • AUTO1 OPERGRP が指定するもの: • OPER1 • OPER2 • OPER3 • OPER4 • OPER5 • OPER6
MEMSTOR	CNME1034 でコメント化 事前定義の組み込みリストまたは除外リストなし	使用可能 事前定義の組み込みリスト: • CNMPNL1.CNMKWIND • CNMPNL1.CNMBROWS • DSIOOPEN.CNMKEYS • DSICLD.CNME1505 • DSICLD.CNME1096 DVIPA tower が使用可能である場合: • DSICLD.FKXEDVPT • DSICLD.FKXEDVPA • DSICLD.FKXEDVP1 • DSICLD.FKXEDVP2 • DSICLD.FKXEDVP3 • DSICLD.FKXEXLAT 事前定義の除外リスト: • DSIPARM.DSIOPF • DSIPARM.DSIOPFU • DSILIST.* • *.USERMEM

表 20. CNMSTYLE ステートメント (続き)

デフォルト	前のデフォルト	現行のデフォルト
MVSPARM.MSGIFAC	SYSTEM	SSIEXT MSGIFAC のデフォルト値は SSIEXT です。z/OS v1r8 以降、QUESSI、QSSIAT、および USESSI 値はサポートされなくなりました。
HLENV	CNME1034 でコメント化	CNMSTYLE の PL/I および C についてそれぞれ 2 つの環境を初期化します。
HLENV キーワード	PHEAP=4096	PHEAP=131072
	PSTACK=4096	PSTACK=131072
DEFAULTS コマンド・キーワード	CMD=HIGH	CMD=LOW
	STRTSERV=SBMTJOB	STRTSERV=STRTPROC
自動的に開始されるタスク: • &DOMAIN.LUC • &DOMAIN.VMT • AAUTCNMI • AAUTSKLP • BNJDSE36 • BNJMNPD • DSIAMLUT • DSIAOPT • DSICRTR • DSIGDS • DSIKREM • DSIQTSK • DSIROVS • DSITRACE	CNME1034 には、これらのタスクを開始する STARTCNM ALL コマンドが組み込まれていました。	CNMSTYLE には、自動的に開始しないことを指示する INIT=N として、これらのタスクが組み込まれます。

注: SECOPTS.COMDAUTH ステートメントの場合、NetView プログラムは、マイグレーション・モードでのみ SCOPE オプションをサポートします。現在、コマンドの有効範囲セキュリティ定義 (マッチングする OPCLASS ステートメントがある、DSICMD 内の CMDCLASS、KEYCLASS、VALCLASS ステートメント) を使用している場合、SECMIGR コマンドを使用して同等のコマンド権限テーブルのステートメントにそれらを変換することができます。SCOPE オプションを使用して NetView プログラムを初期化する場合は、既存の有効範囲セキュリティ定義を変換するために SECMIGR コマンドを使用します。変換されたテーブルは最初の DSIPARM データ・セットに書き込まれ、有効になります。変換されたコマンド権限テーブルを DSIPARM データ・セットに書き込む権限が PPT にあることを確認してください。

CNMSTNXT

CNMSTNXT には、新規または変更されたステートメントが含まれています。ステートメントは、NetView 製品のバージョンとリリース・レベルに応じてグループ化

されます。CNMSTNXT のステートメントを検討し、必要に応じて CNMSTUSR または CxxSTGEN を更新します。

必要な情報

CNMSTYLE ステートメント

参照先

IBM Tivoli NetView for z/OS アドミニストレーション・リファレンス

DSIAMLTD

DSIAMLTD は、セッション・モニターの初期化ステートメントを含む DSIPARM のメンバーです。これには、CNMSTYLE から初期化値を取り出すためのロジックが組み込まれています。DSIAMLTD の V5R3 コピーを使用し、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の NLDM ステートメントを更新して、マイグレーション元のシステムの DSIAMLTD に指定されている値を反映します。データ REXX バージョンの DSIAMLTD は変更しないでください。

DSICCDEF

DSICCDEF に変更を加えた場合は、DSICCDEF の現行コピーを、V5R3 で配布された DSICCDEF サンプルとマージしてください。z/OS V1R4 が最小必要要件であるため、VTAM DISPLAY および MODIFY コマンドは、CCDEF サポートを必要としません。VTAM は、肯定のストリーム終了標識を提供します。

DSICMD

DSICMD のコマンド定義ステートメントが、メンバー CNMCMD の新規コマンド定義によって置換されました。NetView 初期化では、マイグレーションのために引き続き DSICMDU を読み取ります。サンプル CNMSJMIG を使用すると、メンバー DSICMD を新規 CNMCMD フォーマットにマイグレーションすることができます。詳しくは、213 ページの『付録 F. CNMSTYLE および CNMCMD へのマイグレーション』を参照してください。

NetView 初期化の前に、DSICMDU の定義を新規フォーマットに変換しないと、DSICMDU に含まれた情報が変換され、PPT の下の NetView KEEP に 2 時間保管されます。この間に、NetView PIPE コマンドを使用して、これらの変換済みのコマンド定義を検索することができます。以下の例は、表示のためにこれらの定義を検索する 1 つの方法を示したものです。

```
/PPT: PIPE KEEP DSICMDU | CONS
```

また類似する PIPE コマンドを使用して、変換済み定義を DSIPARM の CNMCMDU メンバーに書き込むこともできます。

注: DSICMDU のデータ REXX ステートメントはすでに処理されているため、DSICMDU KEEP には存在しません。

CNMCMSYS または CNMCMNT で検出されたコマンド定義を複写する DSICMDU のコマンド定義は、後者によりオーバーライドされます。NetView 内部コマンド・セットのコマンドを複写する DSICMDU のコマンド定義は、エラーと見なされます。

DSICMDU から定義をマイグレーションするには、次の手順で行います。

1. テスト環境で NetView を開始し、重複コマンド定義に関する DSI234I メッセージがないか注意します。
2. マイグレーション済みの DSICMDU コマンド定義を NetView KEEP から検索して、それを CNMCMDDU に保管します。次に例を示します。

```
/PPT: PIPE KEEP DSICMDU | QSAM (DSN) user.dsiparm(CNMCMDDU)
```

ここで、*user.dsiparm* は、マイグレーション済みコマンド定義ステートメントを配置するデータ・セットを指定します。

注: また、サンプル CNMSJMIG を使用して、NetView V5R3 を開始する前に、DSICMDU 定義をマイグレーションすることもできます。

3. NetView 初期化中に気付いた重複コマンド定義を変更するために、CNMCMDDU 定義を更新します。

CNMCMDDU の CMDDEF ステートメントを使用して、CNMCMSSYS または CNMCMMENT のコマンド定義をすべて変更します。

DSICMENT

DSIPARM の DSICMENT メンバーは、CNMCMMENT によって置換されました。幾つかの AON コマンド定義ステートメントから SEC=BY を除去することができます。これらのステートメントのリストについては、209 ページの『付録 E. SEC=BY が必要ない AON CMDDEF ステートメント』を参照してください。

DSICMSYS

DSIPARM の DSICMSYS メンバーは、CNMCMSSYS によって置換されました。

EZLCMD

DSIPARM の EZLCMD メンバーは、EZLCMENT によって置換されました。幾つかの AON コマンド定義ステートメントから SEC=BY を除去することができます。これらのステートメントのリストについては、209 ページの『付録 E. SEC=BY が必要ない AON CMDDEF ステートメント』を参照してください。

FKXCMD

DSIPARM メンバー FKXCMD は、FKXCMENT によって置換されました。幾つかの AON コマンド定義ステートメントから SEC=BY を除去することができます。これらのステートメントのリストについては、209 ページの『付録 E. SEC=BY が必要ない AON CMDDEF ステートメント』を参照してください。

DSICTMOD

DSICTMOD は、サンプル・ジョブ CNMS0055 を使用して更新できる、NetView 定数モジュールです。V5R3 で配布された DSICTMOD モジュールを使用してください。現行リリースの CNMS0055 を更新した場合は、それらの変更を CNMS0055 の V5R3 バージョンにマージし、アセンブルするために実行依頼し、変更を DSICTMOD モジュールにリンク・エディットします。

共通グローバル変数のデフォルト数は、300 から 400 変数へと増加されました。

DSIDMN

DSIDMN とその組み込みメンバーに設定されたパラメーターは CNMSTYLE にマイグレーションされました。既存のステートメントを除去しない場合、DSIDMN 処理時にそれらのステートメントは無視されます。

DSIDMN に以下の更新を加えてください。

1. EXCMDSEC はサポートされなくなりました。EXCMD コマンド関連のキーワードおよび値の権限を検討して、適切なセキュリティが保たれていることを確認してください。詳細については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS セキュリティー・リファレンス*」を参照してください。
2. MVSPARM ステートメントの MSGIFAC のデフォルトは SYSTEM から SSIEXT に変更され、CNMSTYLE に指定されるようになりました。

注: DSIDMNK に含まれていたステートメントは、CNMSTYLE にあります。DSIDMNK は除去されました。

DSIILGCF

DSIPARM のメンバー DSIILGCF は、IP ログの初期化値を定義します。これには、CNMSTYLE から初期化値を取り出すためのロジックが組み込まれています。DSIILGCF の V5R3 コピーを使用し、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の IPLOG ステートメントを更新して、DSIILGCF に前に指定されていた値を反映します。

DSILUCTD

DSILUCTD は、CNM データ転送タスク用の初期化ステートメントを含む、DSIPARM のメンバーです。これには、CNMSTYLE から初期化値を取り出すためのロジックが組み込まれています。DSILUCTD の V5R3 コピーを使用し、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の LUC ステートメントを更新して、マイグレーション元のシステムの DSILUCTD に指定されている値を反映します。

DSIOPF

DSIOPF は大幅に変更されたため、V5R3 バージョンの DSIOPF を使用してください。インストールされている NetView のレベル、CNMSTYLE またはその組み込みメンバー (あるいはこの両方) によって使用可能にされたタワーを基に、オペレーター定義を条件に応じて定義するために、データ REXX ロジックが追加されました。DSIOPFU に定義されたオペレーター定義が、V5R3 バージョンの DSIOPFU に組み込まれていることを確認してください。

また、オペレーター定義を条件に応じて DSIOPFU に定義するために、データ REXX ロジックを追加することもできます。データ REXX ファイル内の最初のステートメントは、/*%DATA*/ か /*%LOGIC*/ でなければなりません。コメントは同一行か、後続行に続けて指定することができます。最初の列のブランクは、直前のステートメントの継続を示します。データ REXX について詳しくは、「*IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: 追加コンポーネントの構成*」を参照してください。

以下の情報は、NetView V1R4 以降に DSIOPF に対して行われた変更を強調したものです。オペレーター定義をマイグレーションするときには、特にセキュリティーに関して、以下の新規、変更、および削除済みオペレーター定義のリストを検討してください。

FKWOPF %INCLUDE メンバーを除去します。

以下のオペレーター定義が除去されました。

AUTOATMA	OPERATOR	PASSWORD=AUTOATMA
	PROFILE	FLCSPRFB
AUTOATM1	OPERATOR	PASSWORD=AUTOATM1
	PROFILE	FLCSPRFB
AUTOEWA	OPERATOR	PASSWORD=AUTOEWA
	PROFILE	FLCSPRFB
AUTOEW1	OPERATOR	PASSWORD=AUTOEW1
	PROFILE	FLCSPRFB
AUTONWA	OPERATOR	PASSWORD=AUTONWA
	PROFILE	FLCSPRFB
AUTONW1	OPERATOR	PASSWORD=AUTONW1
	PROFILE	FLCSPRFB
FLBGMMGR	OPERATOR	PASSWORD=FLBGMMGR
	PROFILE	FLBGMMPR

以下のオペレーター定義では、プロファイル名が DSIPROFD から DSIPROFG に変更されました。

AUTO2	OPERATOR	PASSWORD=AUTO2
	PROFILE	DSIPROFG
DBAUT01	OPERATOR	PASSWORD=DBAUT01
	PROFILE	DSIPROFG
DBAUT02	OPERATOR	PASSWORD=DBAUT02
	PROFILE	DSIPROFG
DSIWEB	OPERATOR	PASSWORD=WEBSERV
	PROFILE	DSIPROFG
DSIMCAOP	OPERATOR	PASSWORD=CMDAUTO
	PROFILE	DSIPROFG

以下のオペレーター定義が追加されました。

表 21. DSIOPF に追加されたオペレーター定義

オペレーター定義	DSIOPF ステートメント		
DVIPA ポーリング・サービス自動タスク	AUTDVIPA	OPERATOR PROFILE	PASSWORD=AUTDVIPA DSIPROFC
NetView for z/OS Tivoli Enterprise Portal Agent 自動タスク	AUTONA	OPERATOR PROFILE	PASSWORD=AUTONA DSIPROFC
	NATEP1	OPERATOR PROFILE	PASSWORD=NATEP1 DSIPROFC
	NATEP2	OPERATOR PROFILE	PASSWORD=NATEP2 DSIPROFC
	SYSADMIN	OPERATOR PROFILE	PASSWORD=SYSADMIN DSIPROFC

表 21. DSIOPF に追加されたオペレーター定義 (続き)

オペレーター定義	DSIOPF ステートメント		
Tivoli NetView for z/OS Enterprise Management Agent 自動タスク	AUTONALC	OPERATOR PROFILE	PASSWORD=AUTONALC DSIPROFC
	AUTODC1	OPERATOR PROFILE	PASSWORD=AUTODC1 DSIPROFN
	AUTODC2	OPERATOR PROFILE	PASSWORD=AUTODC2 DSIPROFN
	AUTODC3	OPERATOR PROFILE	PASSWORD=AUTODC3 DSIPROFN
	AUTODC4	OPERATOR PROFILE	PASSWORD=AUTODC4 DSIPROFN
	AUTODC5	OPERATOR PROFILE	PASSWORD=AUTODC5 DSIPROFN
	AUTODC6	OPERATOR PROFILE	PASSWORD=AUTODC6 DSIPROFN
	AUTODC7	OPERATOR PROFILE	PASSWORD=AUTODC7 DSIPROFN
TCP 接続	DSIIPCHK	OPERATOR PROFILE	PASSWORD=DSIIPCHK DSIPROFC

DSIREXCF

DSIPRF のメンバー DSIREXCF は、REXEC サーバーの初期化値を定義します。これには、CNMSTYLE から初期化値を取り出すためのロジックが組み込まれています。DSIREXCF の V5R3 コピーを使用して、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の REXEC ステートメントを更新して、DSIREXCF に前に指定されていた値を反映します。データ REXX バージョンの DSIREXCF は変更しないでください。

DSIRSHCF

DSIPRF のメンバー DSIRSHCF は、RSH サーバーの初期化値を定義します。これには、CNMSTYLE から初期化値を取り出すためのロジックが組み込まれています。DSIRSHCF の V5R3 コピーを使用し、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の RSH ステートメントを更新して、DSIRSHCF に前に指定されていた値を反映します。データ REXX バージョンの DSIRSHCF は変更しないでください。

DSIRTTTD

DSIRTTTD は、TCP/IP アラート受信側用の初期化ステートメントを含む、DSIPARM のメンバーです。これには、CNMSTYLE から初期化値を取り出すためのロジックが組み込まれています。DSIRTTTD の V5R3 コピーを使用し、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の RTT ステートメントを更新して、DSIRTTTD に前に指定されていた値を反映します。データ REXX バージョンの DSIRTTTD は変更しないでください。

DSIRXPRM

DSIRXPRM には、新規の REXX 環境を確立するために必要な REXX 初期化パラメーターが含まれています。サンプル・ジョブ CNMSJM11 を使用して DSIRXPRM を更新します。V5R3 バージョンの DSIRXPRM を使用します。現行リリースの

CNMSJM11 を更新した場合には、変更を V5R3 バージョンの CNMSJM11 にマージし、それを実行して、変更を DSIRXPRM モジュールにアセンブルおよびリンク・エディットします。

DSISPN

DSISPN は廃止されました。

NetView プログラムは、SECMIGR という名前のマイグレーション・ツールを用意しています。このツールは、既存の VTAMLST および DSISPN 定義を、NetView スパン・テーブルのエントリに変換します。SECMIGR は、このスパン・テーブルを作成し、既存の制御スパン定義をスパン・テーブル・ステートメントに変換し、それらをスパン・テーブルにロードします。NetView プログラムの初期化の準備ができれば、NetView スパン・テーブルの名前を CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の SECOPTS.SPANAUTH ステートメントに指定して、そのテーブルをロードします。スパン・テーブルの例については、サンプル CNMSPAN2 を参照してください。

DSITBL01

DSITBL01 には、サンプルの自動化テーブル定義が含まれています。自動化を開始するための %INCLUDE ステートメントの一部と関連ステートメントは、CNMSTYLE のエントリに置き換えられました。DSITBL01 を変更した場合は、その変更内容とこの NetView リリースで配布された DSITBL01 のバージョンとをマージしてください。変更を行った後、NetView 自動化テーブルを番号付けし直してください。NetView 自動化テーブルは、メッセージを処理し、コマンドまたはコマンド・リストが実行される結果になる一致を検出すると、NetView メッセージ CNM493I を NetView ログ・ファイルに書き込みます。メッセージ CNM493I には、一致した自動化テーブル・エントリの行番号が含まれます。

V5R3 プログラムではいくつかの NetView 提供メッセージが変更されました。これらのメッセージは付録にリストしてあります。そのリストを検討し、ご使用の自動化テーブルに必要な変更を加えてください。

基本自動化テーブル名が DSITBL01 でない場合は、ご使用の自動化テーブルの AUTOCMD ステートメントを組み込むように、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN を更新してください。AUTOCMD ステートメントについて詳しくは、「*IBM Tivoli NetView for z/OS アドミニストレーション・リファレンス*」を参照してください。

DSITPCPF

DSIPARM のメンバー DSITPCPF は、タスク DSITCPIP の初期化値を定義します。これらの値は、TCP/IP と NetView 3270 管理コンソールとの間の通信で使用されます。これには、CNMSTYLE から初期化値を取り出すためのロジックが組み込まれています。DSITPCPF の V5R3 コピーを使用し、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の MCON ステートメントを更新して、DSITPCPF に前に指定されていた値を反映します。データ REXX バージョンの DSITPCPF は変更しないでください。

DSITCPRF

DSIPRF のメンバー DSITCPRF は TCP/IP オペレーター・セキュリティー・プロファイルを定義します。HTTP サーバー・セッションの暗号鍵を定義するために、WEB_SERVER ステートメントが追加されました。

WEB_SERVER: default default

DSIWBMEM

DSIPARM のメンバー DSIWBMEM は、Web サーバーの初期化値を定義します。これには、CNMSTYLE から初期化値を取り出すためのロジックが組み込まれています。DSIWBMEM の V5R3 コピーを使用して、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の WEB ステートメントを更新して、DSIWBMEM に前に指定されていた値を反映します。データ REXX バージョンの DSIWBMEM は変更しないでください。

DSIZVLSR

DSIZVLSR は、VSAM LSR および DSR パフォーマンス・オプションで使用されるバッファ・プールを定義します。サンプル・ジョブ CNMSJM01 を使用して、DSIZVLSR を更新します。V5R3 で配布された DSIZVLSR モジュールを使用して、現行リリースの CNMSJM01 を更新した場合には、変更を V5R3 バージョンの CNMSJM01 にマージし、それを実行して、変更を DSIZVLSR モジュールにアセンブルおよびリンク・エディットします。

DUIFPMEM

DUIFPMEM は、CNMTAMEL タスク用の TCP/IP 初期化ステートメントが含まれている、DSIPARM のメンバーです。これには、CNMSTYLE から初期化値を取り出すためのロジックが組み込まれています。DUIFPMEM の V5R3 コピーを使用し、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の TAMEL ステートメントを更新して、行った変更を反映してください。データ REXX バージョンの DUIFPMEM は変更しないでください。

DUIIGHB

DUIIGHB は、DUIDGHB タスク用の初期化ステートメントが含まれている、DSIPARM のメンバーです。これには、CNMSTYLE から初期化値を取り出すためのロジックが組み込まれています。DUIIGHB の V5R3 コピーを使用し、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の GHB ステートメントを更新して、DUIIGHB に前に指定されていた値を反映します。データ REXX バージョンの DUIIGHB は変更しないでください。

FKXCFG01

DSIPARM メンバー FKXCFG01 には、AON の構成情報が含まれています。

TCP390 ポリシー情報は、FKXCFG01 から CNMPOLCY に移動されました。FKXCFG01 の TCP390 ステートメントはすべて CNMPOLCY メンバーに移動します。他の AON 構成メンバー (例えば、EZLCFG01 や FKVCFG01) と、他の TCP390 ステートメントを検出するために組み込んだ追加のメンバーを検討します。すべての TCP390 ステートメントを CNMPOLCY に移動します。

スタックから DVIPA データを収集する場合は、DVIPADAT キーワードを TCP390 ステートメントに追加して、値を Y (はい) に設定します。

FLBSYSDA

FLBSYSDA は、DSIPARM 内の APPN アカウンティング・マネージャー用の初期化メンバーです。このメンバーは除去されました。

FLCSAINP

FLCSAINP は廃止されました。V1R4 では、FLCSAINP は マルチシステム・マネージャーのサンプル初期化ファイルでした。FLCSAINP は変更し、FLCAINP か別の固有の名前に名前変更することができます。V5R3 では、FLCAINP は、マルチシステム・マネージャーの初期化の際に実行させる GETTOPO ステートメントを指定するために使用します。他のマルチシステム・マネージャー初期化定義はすべて、CNMSTYLE にマイグレーションされました。

V5R3 の場合、既存の FLCAINP (または他の固有の名前を付けたメンバー) を使用して、以下の更新を行います。

1. 初期化定義 (GETTOPO ステートメント以外) を変更した場合は、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN にその変更をマイグレーションします。
2. CNMSTYLE にマイグレーションした定義 (GETTOPO 以外のステートメント) を削除します。
3. すべての START_DISCOVERY ステートメントを削除します。
4. すべての GETTOPO NWCPxxx ステートメントを削除します。
5. すべての GETTOPO ATMxxx ステートメントを削除します。

FLCAINP についての詳細は、「*IBM Tivoli NetView for z/OS マルチシステム・マネージャー ユーザーズ・ガイド*」を参照してください。

RODM アドレス・スペース

このセクションのサンプルは、RODM アドレス・スペースの変更点をリストしています。

EKGLOADP

EKGLOADP はサンプル RODM ロード・プロシージャ JCL です。

EKGLOADP に以下の変更を加えてください。

1. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。
2. ROUTECODE パラメーターを設定するには、以下のステートメントを PROC ステートメントの COPIES パラメーターの後に追加します。このパラメーターを追加する場合、COPIES=1 パラメーターの後にコンマを 1 つ追加してください。

```
//          ROUTECDE=1
```

3. NetView EXEC ステートメントに、以下のようにして、&ROUTECD 変数を追加します。

```
//LOADRODM EXEC PGM=EKGLDTLM,  
//      PARM=('OPERATION=&OPER,LOAD=&LOAD,NAME=&RODMNAME',  
// 'LISTLEVEL=&LISTL,SEVERITY=&SEVERITY,ROUTECD=&ROUTECD')
```

ROUTECD パラメーターの追加の結果、EKGLOADP の呼び出し時に &ROUTECD を指定するために、JCL プロシージャ EKGLLOAD を更新する必要があります。

4. RODM コンポーネントを使用しており、かつ、前のリリースからマイグレーションする場合には、STEPLIB データ・セット連結から次のステートメントを除去します。

```
//STEPLIB DD DSN=&SQ1..SEKGMOD1,DISP=SHR
```

5. 次の DD ステートメントを STEPLIB データ・セット連結に追加します。

```
//STEPLIB DD DSN=&SQ1..CNMLINK,DISP=SHR
```

6. RODM コンポーネントを使用しており、かつ、前のリリースからマイグレーションする場合には、次のステートメントを

```
//EKGLUTB DD DSN=&SQ1..SEKGLUTB,DISP=SHR
```

以下のように変更します。

```
//EKGLUTB DD DSN=&SQ1..CNMSAMP,DISP=SHR
```

7. RODM コンポーネントを使用しており、かつ、前のリリースからマイグレーションする場合には、次のステートメントを

```
//EKGIN2 DD DSN=&SQ1..SEKGCAS1,DISP=SHR
```

以下のように変更します。

```
//EKGIN2 DD DSN=&SQ1..CNMSAMP,DISP=SHR
```

EKGS101

EKGS101 は、RODM ログおよびチェックポイント・データベースを割り振るために使用されます。このサンプルは、サンプル・ジョブ CNMSJ004 によって使用されます。

RODM によってサポートされる最大数に満たない数のウィンドウに対して RODM チェックポイント・データ・セットを割り振っており、RODM データ・キャッシュに保管を予想しているオブジェクトの推定数が以前の最大サポート数 (約 524,000 オブジェクト) を超えている場合は、RODM チェックポイント・データベースのサイズを増加することを検討してください。

EKGXRODM

EKGXRODM は RODM 始動プロシージャです。

EKGXRODM に以下の変更を加えてください。

1. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。
2. NetView データ・セットについて、ユーザー定義のデータ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3USER を指していることを確認します。

3. 以下の ROUTECDE パラメーターを SUBSYM パラメーターの後に追加します。

```
//      SUBSYM=*SUBSYM,      ** SYMBOL SUBSTITUTION OPTION
//      ROUTECDE=1           ** ROUTE CODE FOR WTO/WTOR
```

4. START EXEC ステートメントに、以下のようにして、&ROUTECD 変数を追加します。

```
//START EXEC PGM=EKGTC000,REGION=0K,TIME=1440,
// PARM='&TYPE,&NAME,&INIT,&CLRSSB,&CUST,&ARM,&SUBSYM,&ROUTECD'
```

5. RODM コンポーネントを使用しており、なおかつ前のリリースからマイグレーションしている場合は、STEPLIB データ・セット連結にある以下のステートメントを

```
//      DD DSN=&SQ1..SEKGMOD1,DISP=SHR
//      DD DSN=&SQ1..SEKGMOD2,DISP=SHR
```

以下のように置換します。

```
//      DD DSN=&SQ1..CNMLINK,DISP=SHR
```

6. EKGCCUST DD ステートメントは、ユーザー DSIPARM データ・セットを組み込むように変更されました。

```
//EKGCCUST DD DSN=&Q1..CNM01.DSIPARM,DISP=SHR
//      DD DSN=&SQ1..CNMSAMP,DISP=SHR
```

7. RODM コンポーネントを使用しており、かつ、前のリリースからマイグレーションする場合には、次のステートメントを

```
//EKGGLUTB DD DSN=&SQ1..SEKGLUTB,DISP=SHR
```

以下のように変更します。

```
//EKGGLUTB DD DSN=&SQ1..CNMSAMP,DISP=SHR
```

8. RODM コンポーネントを使用しており、かつ、前のリリースからマイグレーションする場合には、次のステートメントを

```
//EKGGIN1 DD DSN=&SQ1..SEKGSMP1(EKGIN1),DISP=SHR
```

以下のように変更します。

```
//EKGGIN1 DD DSN=&SQ1..CNMSAMP(EKGIN1),DISP=SHR
```

9. RODM コンポーネントを使用しており、かつ、前のリリースからマイグレーションする場合には、次のステートメントを

```
//EKGGIN2 DD DSN=&SQ1..SEKGCAS1,DISP=SHR
```

以下のように変更します。

```
//EKGGIN2 DD DSN=&SQ1..CNMSAMP,DISP=SHR
```

10. LNKLSTxx または PROGxx で、Language Environment for OS/390 ランタイム・ライブラリーをインストールしていない場合は、EKGXRODM の STEPLIB のライブラリー名が正しいこと、およびアンコメントされていることを確認します。PL/I または C/C++ のランタイム・ライブラリーは使用されなくなったため、これらのライブラリー用の DD ステートメントを除去してください。

GMFHS アドレス・スペース

このセクションのサンプルは、GMFHS アドレス・スペースの変更点をリストしています。

CNMGMFHS (CNMSJH10)

CNMGMFHS (CNMSJH10) は GMFHS 始動プロシージャです。

CNMGMFHS に以下の変更を加えてください。

1. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。
2. NetView データ・セットについて、ユーザー定義のデータ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3USER を指していることを確認します。
3. 以下の ROUTECDE パラメーターを SUBSYM パラメーターの後に追加します。

```
//          SUBSYM=*SUBSYM, ** SYMBOL SUBSTITUTION
//          ROUTECDE=1    ** ROUTE CODE FOR ALL WTO'S
```

4. STEP1 EXEC ステートメントに、以下のようして、&ROUTECD 変数を追加します。

```
//STEP1    EXEC PGM=&PROG,REGION=&REG,TIME=1440,
// PARM='&AGGRST,RESWS=&RESWS,DOMAIN=&DOMAIN,ARM=&ARM,SUBSYM=&SUBSYM, *
//          ROUTECDE=&ROUTECD'
```

5. RODM コンポーネントを使用しており、かつ、前のリリースからマイグレーションする場合には、次のステートメントを

```
//STEPLIB DD DSN=&SQ1..SEKGMOD1,DISP=SHR
```

以下のように変更します。

```
//STEPLIB DD DSN=&SQ1..CNMLINK,DISP=SHR
```

6. RODM コンポーネントを使用しており、かつ、前のリリースからマイグレーションする場合には、次のステートメントを

```
//EKGLUTB DD DSN=&SQ1..SEKGLUTB,DISP=SHR
```

以下のように変更します。

```
//EKGLUTB DD DSN=&SQ1..CNMSAMP,DISP=SHR
```

CNMSJH12

CNMSJH12 は、サンプル GMFHS/SNA トポロジー・マネージャーのデータ・モデル・ロード・ジョブです。変更された点が多いため、新規のサンプル・ジョブを使用してください。

DUIGINIT

DUIGINIT は、GMFHS 用の初期化メンバーです。このメンバーには、GMFHS ホスト・メインタスク用の初期化ステートメントが含まれています。これらのステートメントは、GMFHS の初期化の際に読み取られるシステム制御定数です。ご使用のシステムでシンボリック置換が使用可能になっている場合は、DUIGINIT でシンボルを使用できます。SYS1.PARMLIB のメンバー IEASYMxx でシンボルが定義されていることを確認してください。

DOMAIN ステートメントは、デフォルトの DUIGINIT メンバーでコメント化されています。好ましい方法は、DOMAIN シンボリック変数を GMFHS 開始プロシージャ (CNMGMFHS) で使用することです。ご使用の環境で、NetView 提供の

DUIGINIT メンバーに用意されているデフォルト値を許容できる場合は、デフォルトの DUIGINIT メンバーを使用することを考慮してください。

イベント自動化サービス・アドレス・スペース

このセクションのサンプルは、イベント自動化サービス・アドレス・スペースの変更点を示します。

IHSAEVNT

IHSAEVNT は、イベント自動化サービス・アドレス・スペースを開始します。PROCLIB 内の IHSAEVNT に以下の変更を加えてください。

1. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。
2. C/C++ ランタイム・ライブラリーは使用されなくなったため、このライブラリー用の DD ステートメントを除去します。
3. 以下の ROUTECDE パラメーターを OUTSIZE パラメーターの後に追加します。

```
//          ROUTECDE=1,    ** ROUTE CODE FOR ALL WTO'S
```
4. 以下の &ROUTECDE 変数を &OUTSIZE 変数の後に追加します。

```
INITFILE=&INITFILE OUTSIZE=&OUTSIZE ROUTECDE=&ROUTECDE
```

その他の考慮事項

以下の機能に対する変更を考慮してください。

- BROWSE 機能
- NetView リソース・マネージャー
- UNIX システム・サービス
- システム・シンボリック変数
- データ REXX
- IPv6 サポート

BROWSE 機能

LBHOURLY と呼ばれる新しい DEFAULTS 設定で、毎時の統計メッセージ CNM154I、CNM155I、および CNM156I をネットワーク・ログに送るかどうかを制御します。前のリリースでは、送信を阻止するオプションはなく、これらの毎時の統計メッセージは、自動的にネットワーク・ログに送られました。CNMSTYLE の DEFAULTS.LBHOURLY ステートメントによって設定されるように、LBHOURLY のデフォルト設定は NO です。これらの毎時の統計メッセージを引き続きネットワーク・ログで受信するためには、DEFAULTS.LBHOURLY ステートメントを CNMSTUSR または CxxSTGEN に追加し、その値を YES に設定してください。

NetView リソース・マネージャー

NetView リソース・マネージャー自動タスクのカスタマイズが可能になった結果、V5R2 レベルのホストから前のリリースのマネージャー・ホストへの状況の転送は、NetView リソース・マネージャー自動タスクが AUTONRM の場合にのみ機能

します。しかし、V1R4 レベルのホストから V5R2 レベルのマネージャーへの状況の転送は、継続することができます。上方マイグレーションが機能するために、V5R2 では NetView リソース・マネージャー自動タスク名についての制限はありません。

UNIX システム・サービス

次のセクションでは、NetView V1R4 から NetView V5R3 で変更された、ディレクトリー、構成ファイル、および機能を説明します。また、15 ページの『UNIX システム・サービスの準備』のセクションも検討してください。

NetView MIB コレクションは、`/usr/lpp/netview/mibs/` ディレクトリーから `/usr/lpp/netview/v5r3/mibs/` ディレクトリーに移動されました。

以下の構成ファイルは、NetView V1R4 に存在したのですが、NetView V5R3 では使用されなくなりました。

- `/etc/netview/fkxcm` ¹
- `/etc/netview/ipdiscovery.conf`
- `/etc/netview/nv390mibs.def`
- `/etc/netview/nv390srcv.conf`
- `/etc/netview/snmp.conf`
- `/var/netview/properties/JdnServerProperties.txt`
- `/var/netview/properties/startup/config.properties`
- `/var/netview/properties/startup/node.def`
- `/var/netview/properties/startup/pollobj.def`
- `/var/netview/properties/startup/resource.def`
- `/var/netview/properties/startup/template.def`
- `/var/netview/properties/startup/view.def`

以下の機能は、NetView V5R3 の UNIX システム・サービスでは使用できなくなりました。

- z/OS および OS/390 上の UNIX システム・サービスで以前に稼働していた TCP/IP ディスカバリー・サンプル。 ²
- NVSNMP コマンドの `-jsnmp` オプション
- Java™ Application Server (JAS)

UNIX システム・サービス環境において、以下に示すサービスの開始、停止、および状況検査を行うために用意されている Java Application Server。

- SNMPSRVC ³
- POLLSRVC ³
- MIBSRVC ³
- LOADMIB ³

注:

1. 重複していないコミュニティ名はすべて、`fkxcm` から `DSIPARM` メンバー `CNMSCM` にコピーされます。
2. このサンプルは、NetView for z/OS Web ページ (<http://www.ibm.com/software/tivoli/products/netview-zos/>) からダウンロードできます。製品では、Linux on zSeries の TCP/IP ディスカバリー機能に置き換えられました。

3. これらのサービスは、NetView Web アプリケーションの 1 つのフィーチャーとして出荷されている SNMP サーバーを通じて使用することができます。

パラメーター・ファイルでのシンボリック変数の使用

NetView プログラムは、SYS1.PARMLIB の以下のシステム変数を、パラメーター・ファイル CNMSTYLE、DUIGINIT、および FLBSYSD で使用します。

表 22. 初期化メンバーで使用されるシンボリック変数

メンバー	タスク	TCP/IP 名	RODM 名	NETID
		&CNMTCPN	&CNMRODM	&CNMNETID
CNMSTYLE	NetView 初期化	X	X	X
DUIGINIT	GMFHS (グラフィックス)		X	
FLBSYSD	SNA トポロジー・マネージャー		X	

&DOMAIN は、追加の NetView ユーザー・シンボリック変数であり、以下のパラメーター・ファイルで使用されます。

- CNMSCBET
- CNMSMRT1
- CNMSTASK
- CNMSTGEN
- CNMSTPWD
- CNMSTUSR
- CNMSTYLE
- DSIAMIAT
- DSIAMII
- DSITBL01
- DSIVPARM
- FKXWHTML
- FLBSYSD

パラメーター・ファイルでのデータ REXX の使用

データ REXX を使用すると、REXX スタイルのロジックを NetView データ・セット・メンバーにコーディングすることができます。例えば、データ REXX では、条件に応じたファイルの組み込みや、CNMSTYLE の設定値を基にした、パラメーターへの値の割り当てが可能です。

NetView プログラムは、以下のパラメーター・ファイルでデータ REXX を使用します。

- AAUPRMLP
- BNJMBDST
- CNMNEWS
- CNMSTASK
- CNMSTTWR
- CxxSTGEN
- DSIAMLTD

NetView V1R4 からのマイグレーション

- DSICMDU (データ REXX サポート)
- DSIDMN
- DSILGCF
- DSILUCTD
- DSIOPF
- DSIREXCF
- DSIRSHCF
- DSIRTTTD
- DSITBL01
- DSITPCPF
- DSIUINIT
- DSIWBMEM
- DUIFPMEM
- DUIIGHB
- EZLCFG01
- EZLDSIAO
- FKVCFG01
- FKVISTAO
- FKVTABLE
- FLBAUT
- HELPMAP (CNMS1048)

IPv6 サポート

デフォルトでは、NetView プログラムは IPv4 と IPv6 の両アドレスリングをサポートします。ただし、CNMSTYLE 内の IPv6Env 環境ステートメントを使用して、NetView プログラムを 1 つのアドレスリング・ファミリーに限定することができます。IPv6Env ステートメントの詳細については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS* アドミニストレーション・リファレンス」を参照してください。詳しくは、223 ページの『付録 G. IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの間の違い』も参照してください。

第 5 章 Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 1 からのマイグレーション

本章では、Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 1 から NetView プログラムをマイグレーションする場合に、マイグレーションして実動システムとして稼働させる方法を説明します。マイグレーション情報は、V5R1 の初期リリースに付属する NetView コンポーネントを基にしています。V5R3 の内容を V5R1 NetView 定義に追加するか、または V5R1 のカスタマイズを NetView プログラムに付属するデフォルトの V5R3 メンバーに追加することができます。いずれの場合も、NETVIEW.V5R3USER.CNM01.DSIPARM などの、適切なユーザー割り振りデータ・セットに、カスタマイズされたメンバーを配置します。NETVIEW.V5R3M0.DSIPARM など、SMP/E 管理のデータ・セットのメンバーはカスタマイズしないでください。

NetView 定義メンバーをマイグレーションする際に、使用方法に影響を及ぼす可能性のある要因が幾つかあります。ネットワークのサイズや複雑さ、従う必要のあるセキュリティ・ポリシー、および業務の中で確立された慣習などのすべての要因が、お客様のマイグレーションに最適の方法は何かということに影響を与える可能性があります。この後のチェックリストでは、本書で概説し、NetView ライブラリー内の他の文書によってサポートされている、マイグレーションの文書化された方法を詳細に説明しています。ご自分に最適のマイグレーション方法を選択してください。

V5R1 定義をマイグレーションするには、以下のステップを実行してください。

1. サンプル・ジョブ CNMSJ002 を実行して、V5R3 ユーザー・データ・セットの新規セットを割り振ります。17 ページの表 11 の手順を完了している場合、これはすでに行われています。
2. サンプル・ジョブ CNMSJMIG を実行して、V5R1 DSIPARM メンバーを新規 CNMSTYLE フォーマットに変換します。詳しくは 213 ページの『付録 F. CNMSTYLE および CNMCMD へのマイグレーション』を参照してください。
3. サンプル・ジョブ CNMSJMIG を実行して、V5R1 DSICMD メンバーを新規 CNMCMD フォーマットに変換します。詳しくは 213 ページの『付録 F. CNMSTYLE および CNMCMD へのマイグレーション』を参照してください。
4. NetView ドメインごとに、固有の &NV2I 値 (xx) を定義します。
5. CNMSJMIG によって作成されたドメイン固有のステートメントを DSIPARM メンバー CNMSTUSR から CxxSTGEN に移動します。ここで、xx は、前のステップで定義したローカル・シンボリック変数 &NV2I の値です。
6. CNMSTYLE のカスタマイズされた V5R1 コピーを検討します。V5R1 CNMSTYLE のドメイン固有のカスタマイズをすべて CxxSTGEN に移動し、V5R1 CNMSTYLE のシステム全体のカスタマイズをすべて CNMSTUSR に移動します。その場合、これらの変更のいくつかは CNMSJMIG にすでに追加済みの可能性がありますので注意してください。V5R1 CNMSTYLE メンバーを V5R3 ユーザー DSIPARM データ・セットにコピーしないでください。

- 7. 本章の CNMSTYLE 情報と、NetView プログラムに付属する V5R3 CNMSTNXT メンバーを見直してください。CNMSTYLE のドメイン固有のカスタマイズを CxxSTGEN に配置し、CNMSTYLE のシステム全体のカスタマイズを CNMSTUSR に配置します。V5R3 デフォルトの CNMSTYLE メンバーは変更しないでください。
- 8. 本章の残りの情報を見直し、変更されたメンバーだけを V5R3 ユーザー・データ・セットに配置して、該当する V5R1 NetView 定義メンバーと JCL プロシージャをマイグレーションします。

図 9 は、NetView V5R3 初期化フローを示しています。DSIPARM メンバーに変更を行うときには、この新しい初期化フローを覚えておいてください。

NetView 初期化フロー

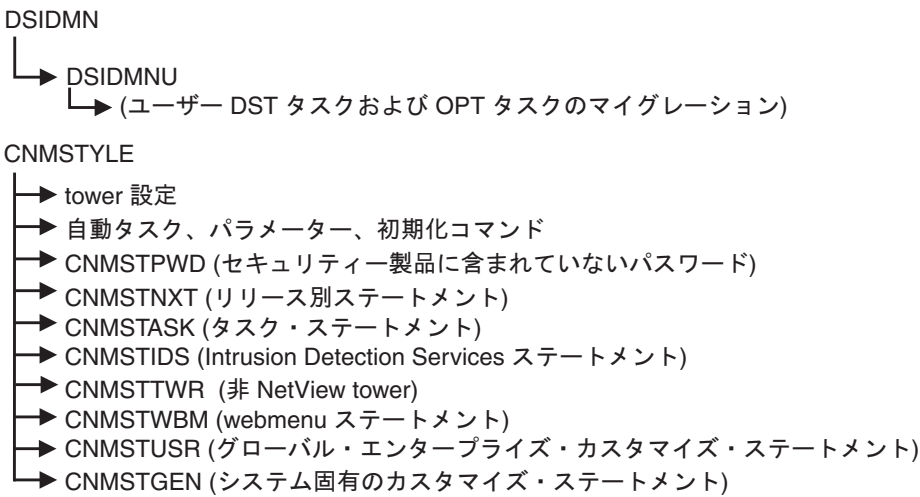


図 9. NetView V5R3 初期化フロー

この章を読み終えた後は、125 ページの『第 7 章 NetView の開始準備』に進んでください。

必要な情報	参照先
パネル、コマンド、メッセージ、およびサンプルなどの変更	195 ページの『付録 C. Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 1 から Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 2 への変更』

新規サンプル

表 23 に、マイグレーション時に見直す新規のサンプルを示します。

表 23. 新規サンプルのリスト

配布名	名前	説明	データ・セット名
CNMCMD	同じ	NetView コマンドの NetView コマンド定義 CMDDEF ステートメントでは、コマンドの定義を指定します。いくつかの CMDDEF ステートメントはコマンド同義語 (CMDSYN) を持っています。これらのステートメントでは、コマンドの同義語を指定します。 この定義は、端末アクセス機能 (TAF) と VTAM プログラムのクロスドメイン・ログオン定義および CMDDEF ステートメント (および同義語) も提供します。 CNMS6 で始まる名前のファイルは、NETVIEW.V5R3M0.CNMSAMP に組み込まれています。このファイルを CNMCMD に組み込んでおくと、配布テープにも組み込まれている自動化コマンド・リストを使用できます。	DSIPARM
CNMCMDO	同じ	製品固有の定義済みコマンドのコマンド定義	DSIPARM
CNMCMDU	同じ	ユーザー定義のコマンド用のコマンド定義	DSIPARM
CNMCMENT	同じ	NetView コマンド定義	DSIPARM
CNMCMSYS	同じ	NetView コマンド定義	DSIPARM
CNMPOLCY	同じ	NetView の自動化ポリシー	DSIPARM
CNMSCBEA	同じ	CBE 自動化テーブル・アクションを使用した共通基本イベント XML 文書の作成方法を示す自動化サンプル	DSIPARM
CNMSCBET	同じ	共通基本イベント XML エレメントを定義するためのテンプレート・ファイル	DSIPARM
CNMSCM	同じ	TCP/IP スタックの SNMP コミュニティ名	DSIPARM
CNMSDVIP	同じ	このサンプルは、DVIPA 定義と状況データを表示します。また、DVIPSTAT コマンド出力 (BNH846I メッセージ) を分かりやすいフォーマットに設定します。	CNMSAMP
CNMSDVPC	同じ	このサンプルは、DVIPA 接続データを表示します。また、DVIPCONN コマンド出力 (BNH849I メッセージ) を分かりやすいフォーマットに設定します。	CNMSAMP
CNMSEMAA	同じ	NetView for z/OS Enterprise Management Agent 用の自動化テーブル・メンバー	DSIPARM

表 23. 新規サンプルのリスト (続き)

配布名	名前	説明	データ・セット名
CNMSEPTL	同じ	リソース・ディスカバリーのための自動化テーブル・サンプル	DSIPARM
CNMSJCRG	同じ	CNMSTYLE レポート生成プログラム・サンプル・ジョブ	CNMSAMP
CNMSJEMA	同じ	NetView for z/OS Enterprise Management Agent の構成ツールの開始に使用されるユーザー INSTLIB データ・セットを割り振りおよびコピーします。	CNMSAMP
CNMSJKVW	同じ	メンバーを SCN MAGNT データ・セットから z/OS Tivoli Enterprise Monitoring Server RKANDATV データ・セットにコピーするサンプル・ジョブ	CNMSAMP
CNMSJMIG	同じ	CNMSTYLE マイグレーション・ツール・サンプル・ジョブ	CNMSAMP
CNMSJZCE	同じ	イベント・コリレーション・エンジンのサンプル始動ジョブ	CNMSAMP
CNMSMRT1	同じ	メッセージ改訂テーブル	DSIPARM
CNMSPLEX	同じ	このサンプルは、DVIPA シスプレックス・ディストリビューター・データを表示します。また、DVIPPLEX コマンド出力 (BNH847I メッセージ) を分かりやすいフォーマットに設定します。	CNMSAMP
CNMSSTAC	同じ	このサンプルは、TCP/IP スタック構成と状況データを表示します。また、STACSTAT コマンド出力 (BNH845I メッセージ) を分かりやすいフォーマットに設定します。	CNMSAMP
CNMSTARG	同じ	このサンプルは、DVIPA ディストリビューター・ターゲットとポート・データによる DVIPA ワークロードを表示します。また、DVIPTARG コマンド出力 (BNH848I および BNH850I メッセージ) を分かりやすいフォーマットに設定します。	CNMSAMP
CNMSTIDS	同じ	Intrusion Detection Services (IDS) 初期化ステートメントを組み込みます。	DSIPARM
CNMSTUSR	同じ	CNMSTYLE のカスタマイズ・メンバー: CNMSTYLE のステートメントをオーバーライドする追加または変更されたグローバル (エンタープライズ) 定義ステートメントを組み込みます。	DSIPARM
CNMSTWBM	同じ	Web ブラウザー・ポートフォリオ定義を組み込みます。	DSIPARM
DSIPROFN	同じ	NetView for z/OS Enterprise Management Agent データ収集自動タスク (AUTODCn) の自動化オペレーター・プロファイル	DSIPRF

表 23. 新規サンプルのリスト (続き)

配布名	名前	説明	データ・セット名
DSIZCETB	同じ	イベント・コリレーション・エンジンの自動化テーブル・サンプル	DSIPARM
EZLCMENT	同じ	基本 AON コマンドの NetView コマンド定義	DSIPARM
FKVCMENT	同じ	AON/SNA コマンドの NetView コマンド定義	DSIPARM
FKXCMENT	同じ	AON/TCP コマンドの NetView コマンド定義	DSIPARM

VTAM アドレス・スペース

このセクションのサンプルは、VTAM アドレス・スペースの変更点をリストしています。

A01APPLS (CNMS0013)

このメンバーには、NetView プログラム用にコーディングされたアプリケーション (APPL) メジャー・ノードが含まれています。

VTAMLST データ・セットを再割り振りおよび再コピーしなかった場合、次の変更を A01APPLS に加えてください。

- SYS1.PARMLIB メンバー IEASYMxx にドメイン ID (システム変数 &CNMDOMN) を設定するか、A01APPLS (CNMS0013) 内の &CNMDOMN のすべての オカレンスを現行のドメイン ID に変更してください。
- ステータス・モニター・プリプロセッサを使用していない場合は、複数の並行 NetView オペレーターのタスクを定義する APPL ステートメントを、ワイルドカード文字 (??) を使用して 1 つの APPL ステートメントに置換することができます。例えば、次のようになります。

```
&CNMDOMN.0?? APPL AUTH=(NVPAGE,SPO,ACQ,PASS),PRTCT=&CNMDOMN.,      X
                EAS=4,MODETAB=AMODETAB,DLOGMOD=DSILGMOD
```

- ステータス・モニター・プリプロセッサを使用していない場合は、TAF APPL ステートメントを、LU 名に続くワイルドカード文字 (??) を使用して、1 つの APPL ステートメントに置換することができます。例えば、次のようになります。

```
TAF010?? APPL  MODETAB=AMODETAB,EAS=9,      X
                DLOGMOD=M3767
```

他のアプリケーション (TAF など) での使用のために定義する APPL 名は、端末ログオン APPL と同じ命名方式で定義してはなりません (例えば、3 文字の接尾部のあるドメイン名)。同じ命名方式を使用すると、これらのアプリケーション名が NetView プログラムにより端末ログオンのために使用される可能性があり、その場合には、アプリケーション名が、定義された目的に使用できなくなります。

CNMNET (CNMSJ008)

CNMNET (CNMSJ008) は、VTAM プログラムの開始プロシーチャーです。

次のようにして、PROCLIB 内の CNMNET を変更します。

1. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。
2. NetView データ・セットについて、ユーザー定義のデータ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3USER を指していることを確認します。

NetView アドレス・スペース

このセクションのサンプルは、NetView アドレス・スペースの変更点をリストしています。

CNMPROC (CNMSJ009)

CNMPROC (CNMSJ009) は、NetView プログラム用の始動プロシーチャーです。

PROCLIB 内の CNMPROC に以下の変更を行います。

1. NetView データ・セットについて、ユーザー定義のデータ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3USER を指していることを確認します。
2. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。
3. AON VSAM データ・セットはサイズが増加したため、マイグレーション中に再割り振りしてください。VSAM データ・セットの割り振りについて詳しくは、「*IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: 概説*」を参照してください。また、VSAM クラスター名の接頭部が NETVIEW.&domain に変更された点にも注意してください。

4. デフォルトの領域サイズは、65536 K バイトに増大しました。NetView 製品に既存のデフォルトの領域サイズ (32768 K バイト) を使用している場合は、領域サイズ値を増やしてください。

```
//      REG=65536,          ** REGION SIZE(IN K) FOR NETVIEW
```

タワーの追加を使用可能にする計画の場合は、領域サイズさらに増やしてください。詳しくは、「*IBM Tivoli NetView for z/OS Tuning Guide*」を参照してください。

5. SQ1 ステートメントの後に次の REXX ステートメントを追加して、REXX ライブラリーの高位修飾子を指定します。

```
//      REXX='EAG.V1R4M0',    ** REXX DSN HIGH LEVEL QUALIFIER
```

6. 以下の TRSIZE ステートメントとコメントを NV2I ステートメントの後に追加して、トレース・テーブル・サイズの指定をできるようにします。

```
//      NV2I='',
//      TRSIZE=4000
//*                                     ** INTERNAL TRACE TABLE SIZE - Number
//*                                     ** of pages to be allocated for the
//*                                     ** NetView Internal Trace table. The
//*                                     ** trace table is located in a data
//*                                     ** space, so the value can be up to
//*                                     ** 524286. If no value is specified,
//*                                     ** the default of 4000 is used. If
```

```

/**          ** a value of 0 is passed, internal
/**          ** trace is not started early. Trace
/**          ** options in CNMSTYLE take effect
/**          ** even if trace is not started early.
/**

```

7. NetView EXEC ステートメントに、以下のようにして、&TRSIZE 変数を追加します。

```

//NETVIEW EXEC PGM=&PROG,TIME=1440,
//          REGION=&REG.K,
//          PARM=(&BFSZ.K,&SLSZ,
//                '&DOMAIN','&DOMAINPW','&ARM','&SUBSYM','&NV2I','&TRSIZE'),
//          DPRTY=(13,13)
//          DPRTY=(13,13)

```

8. STEPLIB 連結で以下の DD ステートメントを変更します (SEAGLMD を SEAGLPA に変更します)。

```

/** YOU WILL NEED ACCESS TO EITHER THE REXX/370 RUNTIME LIBRARY
/** OR THE REXX ALTERNATE LIBRARY AS FOLLOWS:
/**
/** - IF YOU HAVE THE REXX/370 LIBRARY ON YOUR SYSTEM BUT SEAGLPA
/**   IS NOT ACCESSIBLE FROM THE PAGEABLE LINK PACK AREA (PLPA),
/**   THEN YOU MUST UNCOMMENT THE "SEAGLPA" LINE BELOW.
/**
/**      OR
/**
/** - IF YOU HAVE THE REXX ALTERNATE LIBRARY ON YOUR SYSTEM,
/**   BUT SEAGALT IS NOT ACCESSIBLE FROM THE PLPA OR LINKLST,
/**   THEN YOU MUST UNCOMMENT THE "SEAGALT" LINE BELOW.
/**
/** WHEN YOU UNCOMMENT EITHER OF THE LINES BELOW, MAKE SURE
/** THAT THE DSN ACTUALLY MATCHES THE NAME ON YOUR SYSTEM.
/** IN ADDITION, MAKE SURE THAT THE DATASET IS APF-AUTHORIZED.
/**
/**      DD  DSN=&REXX..SEAGLPA,DISP=SHR
/**      DD  DSN=&REXX..SEAGALT,DISP=SHR

```

注: REXX/370 ランタイム・ライブラリーか REXX 代替ライブラリーが必要です。

9. NetView プログラムで Language Environment (LE) HLL プログラムの実行を計画しており、LE ランタイム・ライブラリーを LNKLSTxx でインストールしなかった場合には、CNMPROC の STEPLIB に指定されているライブラリー名が正しいこと、およびアンコメントされていることを確認してください。
10. DSICLD DD ステートメントを更新して、以下のユーザー・データ・セットを追加します。

```

//DSICLD DD  DSN=&Q1..&DOMAIN..CNMCLST,DISP=SHR
//          DD  DSN=&SQ1..CNMCLST,DISP=SHR
//          DD  DSN=&SQ1..CNMSAMP,DISP=SHR

```

11. 以下の TCP 接続 VSAM データベースを追加します。

```

//DSITCONP DD  DSN=&VQ1..&DOMAIN..DSITCONP,
//             DISP=SHR,AMP='AMORG'
//DSITCONS DD  DSN=&VQ1..&DOMAIN..DSITCONS,
//             DISP=SHR,AMP='AMORG'

```

12. 以下の TCP/IP 変換データ・セット情報を追加し、ご使用のインストール環境の必要に応じて、ステートメントを更新します。

```

/**
/*******
/** If you are using the TCP/IP translate data set TCPXLBIN,

```

```

/* specify the appropriate data set name and uncomment the
/* following DD statement to prevent dynamic allocation
/* messages from being issued each time the data set is needed.
/*
/*CNMXLBIN DD DISP=SHR,DSN=datasetprefix.STANDARD.TCPXLBIN
/*
/* For more information please see your IP Configuration Guide.

```

CNMPSSI (CNMSJ010)

CNMPSSI (CNMSJ010) は、 NetView サブシステム・アドレス・スペースを始動します。

PROCLIB 内の CNMPSSI に以下の変更を加えてください。

1. システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。

2. MSGIFAC のデフォルト値が SYSTEM から SSIEXT に変更されました。z/OS v1r8 以降、QUESSI、QSSIAT、および USESSI 値はサポートされなくなりました。

```
//      MSGIFAC='SSIEXT',      ** SSI/EXTENDED CONSOLE OVERRIDE SWITCH
```

3. 以下のステートメントを P4000BUF パラメーターの後に追加して、経路コードを設定します。これらのステートメントを追加する場合は、 P4000BUF=0 ステートメントの後にコンマを追加してください。

```
//      ROUTECDE=1           ** Route code to be used for WTOs issued
/*                          ** by the SSI address space. Messages
/*                          ** that may be issued before this parm
/*                          ** is processed will use route code 1
/*                          ** regardless of the value set here.
```

4. NetView EXEC ステートメントに、以下のようにして、&ROUTECD 変数を追加します。

```
//NETVIEW EXEC PGM=&PROG,TIME=1440,REGION=&REG.K,
//      PARM=(&MBUF,&CBUF,'&DSIG','&MSGIFAC','&PPIOPT','&ARM',
//      '&PFXREG',&P256BUF,&P4000BUF,&ROUTECD),DPRTY=(13,13)
```

CNMSAF2

DSIPARM メンバー CNMSAF2 には、NetView オペレーターおよびコマンドのサンプル RACF 定義が含まれています。

CNMSAF2 に以下の変更を加えてください。

1. 以下のステートメントを SYSTSIN DD ステートメントの後に追加します。このステートメントは、&SLASH を RACF 変数として定義します。

```

//SYSTSIN DD *,DLM=@@
/*
/*****
/* The following three statements are needed to define &SLASH as
/* a RACF variable. This variable is needed because some NetView
/* resource names have the string '/' as part of the name. When
/* the RACF statements containing this string are executed in the
/* TSO/E background command environment, the '/' is treated as
/* the beginning of a comment causing the remainder of the RACF
/* statement to be ignored. This &SLASH RACF variable definition
/* makes it possible to code '&SLASH*' to prevent this string
/* from being treated as an opening comment delimiter and still
/* allow RACF to interpret the string as a '/' as intended.

```

```

/*****
SETROPTS CLASSACT(RACFVARS) GENERIC(RACFVARS) +
                                RACLIST(RACFVARS) LIST
RDEF RACFVARS &SLASH ADDMEM(/)
SETROPTS RACLIST(RACFVARS) REFRESH
/*****

```

2. &SLASH 変数を使用するように、RDEF NETCMD ステートメントと PE ステートメントを更新します。

```

RDEF NETCMDS *.*.DSIPIINS.*.DSICLD&SLASH* UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.DSIPIINS.*.DSIPARM&SLASH* UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.DSIPIINS.*.DSIPRF&SLASH* UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.DSIPIINS.*.DSIVTAM&SLASH* UACC(NONE)
PE *.*.DSIPIINS.*.DSICLD&SLASH* +
                                CLASS(NETCMDS) ID(NVOPS2) ACCESS(READ)
PE *.*.DSIPIINS.*.DSIPARM&SLASH* +
                                CLASS(NETCMDS) ID(NVOPS2) ACCESS(READ)
PE *.*.DSIPIINS.*.DSIPRF&SLASH* +
                                CLASS(NETCMDS) ID(NVOPS2) ACCESS(READ)
PE *.*.DSIPIINS.*.DSIVTAM&SLASH* +
                                CLASS(NETCMDS) ID(NVOPS2) ACCESS(READ)

```

3. 以下のユーザーを追加します。

```

ADDUSER AUTONA
ALTUSER AUTONA NETVIEW(MSGRECVR(NO) CTL(GLOBAL))
ADDUSER AUTONALC
ALTUSER AUTONALC NETVIEW(MSGRECVR(NO) CTL(GLOBAL))
ADDUSER NATEP1
ALTUSER NATEP1 NETVIEW(MSGRECVR(NO) CTL(GLOBAL))
ADDUSER NATEP2
ALTUSER NATEP2 NETVIEW(MSGRECVR(NO) CTL(GLOBAL))
ADDUSER SYSADMIN
ALTUSER SYSADMIN NETVIEW(MSGRECVR(NO) CTL(GLOBAL))

```

4. 以下のステートメントを ADDGROUP NVOPS0 の下に追加します。

```

CONNECT AUTOOM GROUP(NVOPS0) UACC(READ)
CONNECT OMTAP1 GROUP(NVOPS0) UACC(READ)
CONNECT OMTAP2 GROUP(NVOPS0) UACC(READ)
CONNECT SYSADMIN GROUP(NVOPS0) UACC(READ)

```

5. 以下のステートメントを ADDGROUP NVOPS1 の下に追加します。

```

/*****
/* Operators listed in this group are permitted to do many (but not
/* all) restricted NetView commands.
/*****
CONNECT AUTODC1 GROUP(NVOPS1) UACC(READ)
CONNECT AUTODC2 GROUP(NVOPS1) UACC(READ)
CONNECT AUTODC3 GROUP(NVOPS1) UACC(READ)
CONNECT AUTODC4 GROUP(NVOPS1) UACC(READ)
CONNECT AUTODC5 GROUP(NVOPS1) UACC(READ)
CONNECT AUTODC6 GROUP(NVOPS1) UACC(READ)
CONNECT AUTODC7 GROUP(NVOPS1) UACC(READ)
CONNECT AUTDVIPA GROUP(NVOPS1) UACC(READ)

```

6. 以下のステートメントを ADDGROUP NVOPS2 の下に追加します。

```

/*****
/* Operators listed in this group are permitted to do any commands.
/*****
CONNECT AUTDVIPA GROUP(NVOPS2) UACC(READ)

```

7. NetView for z/OS Tivoli Enterprise Portal Agent および Tivoli NetView for z/OS Enterprise Management Agent と関連した以下のオペレーターを追加します。

```

/*****
/* Operators listed in this group are permitted to issue the
/* NACMD command.
/*****
ADDGROUP NAOPS1
CONNECT NETOP1 GROUP(NAOPS1) UACC(READ)
CONNECT NETOP2 GROUP(NAOPS1) UACC(READ)
CONNECT AUTO1 GROUP(NAOPS1) UACC(READ)
CONNECT AUTO2 GROUP(NAOPS1) UACC(READ)
CONNECT AUTONA GROUP(NAOPS1) UACC(READ)
CONNECT AUTONALC GROUP(NAOPS1) UACC(READ)

:
/*****
/* Operators listed in this group are permitted to issue the specific
/* commands designed for use with the NetView Tivoli Enterprise
/* Portal Agent or the NetView for z/OS Enterprise Management Agent.
/*****
ADDGROUP NAOPS2
CONNECT NETOP1 GROUP(NAOPS2) UACC(READ)
CONNECT NETOP2 GROUP(NAOPS2) UACC(READ)
CONNECT AUTO1 GROUP(NAOPS2) UACC(READ)
CONNECT AUTO2 GROUP(NAOPS2) UACC(READ)
CONNECT NATEP1 GROUP(NAOPS2) UACC(READ)
CONNECT NATEP2 GROUP(NAOPS2) UACC(READ)
CONNECT SYSADMIN GROUP(NAOPS2) UACC(READ)

```

8. 以下のステートメントを SETROPTS GENERIC(NETCMDS) の下に追加します。

```

RDEF NETCMDS *.*.CNME7200 UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME7201 UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME7204.LISTOPID UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME7204.LISTCONN UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME7204.START UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME7204.STOP UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME7205 UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME7210 UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME7211 UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME7212 UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME7213 UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME7221 UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME7225 UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME8200 UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME8205 UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME8210 UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME8211 UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME8212 UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME8213 UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME8221 UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME8225 UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.OVERRIDE.SLOGCMDS.* UACC(NONE)
:
PE *.*.CNME7200 CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS1) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME7201 CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS1) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME7204.LISTOPID CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS1) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME7204.LISTCONN CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS1) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME7204.START CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS1) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME7204.STOP CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS1) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME7205 CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS2) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME7210 CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS2) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME7211 CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS2) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME7212 CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS2) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME7213 CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS2) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME7221 CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS2) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME7225 CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS2) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME8205 CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS2) ACCESS(READ)

```

```

| PE *.*.CNME8210          CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS2) ACCESS(READ)
| PE *.*.CNME8211          CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS2) ACCESS(READ)
| PE *.*.CNME8212          CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS2) ACCESS(READ)
| PE *.*.CNME8213          CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS2) ACCESS(READ)
| PE *.*.CNME8221          CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS2) ACCESS(READ)
| PE *.*.CNME8225          CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS2) ACCESS(READ)
| PE *.*.OVERRIDE.SLOGCMR.* CLASS(NETCMDS) ID(NVOPS1) ACCESS(READ)

```

9. 以下の NCONVGRP グループを追加します。

```

*****
* Operators listed in this group are allowed to do use the NETCONV
* command to initiate and terminate sessions with a server.
*****
ADDGROUP NCONVGRP
CONNECT AUTO1 GROUP(NCONVGRP) UACC(READ)
CONNECT NETOP1 GROUP(NCONVGRP) UACC(READ)
CONNECT NETOP2 GROUP(NCONVGRP) UACC(READ)
CONNECT OPER1 GROUP(NCONVGRP) UACC(READ)
CONNECT OPER2 GROUP(NCONVGRP) UACC(READ)
CONNECT OPER3 GROUP(NCONVGRP) UACC(READ)

```

10. 以下のステートメントを SETROPTS GENERIC(NETCMDS) の下に追加します。

```

/*****
/* The following statements restrict operators from issuing
/* the START and STOP values for the ACTION keyword and STARTCON and
/* STOPCON keywords for the NETCONV command
*****/
RDEF NETCMDS *.*.NETCONV.ACTION.START UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.NETCONV.ACTION.STOP UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.NETCONV.STARTCON UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.NETCONV.STOPCON UACC(NONE)
:
PE *.*.NETCONV.ACTION.START CLASS(NETCMDS) ID(NCONVGRP) ACCESS(READ)
PE *.*.NETCONV.ACTION.STOP CLASS(NETCMDS) ID(NCONVGRP) ACCESS(READ)
PE *.*.NETCONV.STARTCON CLASS(NETCMDS) ID(NCONVGRP) ACCESS(READ)
PE *.*.NETCONV.STOPCON CLASS(NETCMDS) ID(NCONVGRP) ACCESS(READ)

```

11. 以下のステートメントを SETROPTS GENERIC(NETCMDS) の後に追加します。

```

RDEF NETCMDS *.*.REVISMSG UACC(NONE)
:
PE *.*.REVISMSG CLASS(NETCMDS) ID(NVOPS2) ACCESS(READ)

```

12. 以下のステートメントを変更します。

```
/*RDEF NETCMDS *.*.LOGON.NMC UACC(NONE)
```

以下のように変更します。

```
/*RDEF NETCMDS *.*.DUILOGON.NMC UACC(NONE)
```

13. 以下のステートメントを変更します。

```
/*PE *.*.LOGON.NMC CLASS(NETCMDS) ID(NVOPS1) ACCESS(READ)
```

以下のように変更します。

```
/*PE *.*.DUILOGON.NMC CLASS(NETCMDS) ID(NVOPS1) ACCESS(READ)
```

CNMSCAT2

DSIPARM メンバー CNMSCAT2 には、サンプル・コマンド権限テーブルが含まれています。

CNMSCAT2 に以下の変更を加えます。

1. 以下のステートメントを更新します。

```
*****
* Users listed in this group are allowed to do most restricted      *
* commands.                                                         *
*****
GROUP  NVOPS1  NETOP1,NETOP2,OPER1,OPER2,OPER3,AUTO1,AUTO2
GROUP  NVOPS1  DBAUTO1,DBAUTO2,DSILCOPR,AUTDVIPA,AUTODC1
GROUP  NVOPS1  AUTODC2,AUTODC3,AUTODC4,AUTODC5,AUTODC6,AUTODC7
```

2. 以下のステートメントを更新します。

```
*****
* Users listed in this group are allowed to do any commands,      *
* provided they are also in the NVOPS1 group above.              *
/*****
GROUP  NVOPS2  NETOP1,NETOP2,AUTO1,AUTO2,AUTDVIPA
```

3. 次のステートメントを追加してください。

```
*****
* Users listed in this group are allowed to do use the NETCONV command*
* to initiate and terminate sessions with a server.              *
*****
GROUP  NCONVGRP AUTO1,NETOP1,NETOP2,OPER1,OPER2,OPER3
```

4. 次のステートメントを追加してください。

```
*****
* Users listed in this group are allowed to do issue the NACMD cmd. *
*****
GROUP  NAOPS1  AUTONA,NETOP1,NETOP2,AUTO1,AUTO2,AUTONALC
```

5. 次のステートメントを追加してください。

```
*****
* Operators listed in this group are permitted to issue the      *
* specific commands designed to come from the NetView Tivoli      *
* Enterprise Portal Agent                                          *
*****
GROUP  NAOPS2  NATEP1,NATEP2,SYSADMIN,NETOP1,NETOP2,AUTO1,AUTO2
```

6. 次の PROTECT ステートメントを追加してください。

```
PROTECT      *.*.CNME7200
PROTECT      *.*.CNME7201
PROTECT      *.*.CNME7204.LISTOPID
PROTECT      *.*.CNME7204.LISTCONN
PROTECT      *.*.CNME7204.START
PROTECT      *.*.CNME7204.STOP
PROTECT      *.*.CNME7205
PROTECT      *.*.CNME7210
PROTECT      *.*.CNME7211
PROTECT      *.*.CNME7212
PROTECT      *.*.CNME7213
PROTECT      *.*.CNME7221
PROTECT      *.*.CNME7225
PROTECT      *.*.CNME8200
PROTECT      *.*.CNME8205
PROTECT      *.*.CNME8210
PROTECT      *.*.CNME8211
PROTECT      *.*.CNME8212
PROTECT      *.*.CNME8213
PROTECT      *.*.CNME8221
PROTECT      *.*.CNME8225
PROTECT      *.*.REVISMSG
PROTECT      *.*.NETCONV.ACTION.START
PROTECT      *.*.NETCONV.ACTION.STOP
PROTECT      *.*.NETCONV.STARTCON
```

```

PROTECT          *.*.NETCONV.STOPCON
PROTECT          *.*.CNMEAUTB
PROTECT          *.*.OVERRIDE.SLOGCMDR
*PROTECT         *.*.DUILOGON.NMC

```

7. 次の PERMIT ステートメントを追加してください。

```

PERMIT NAOPS1    *.*.CNME7200
PERMIT NAOPS1    *.*.CNME7201
PERMIT NAOPS1    *.*.CNME7204.LISTOPID
PERMIT NAOPS1    *.*.CNME7204.LISTCONN
PERMIT NAOPS1    *.*.CNME7204.START
PERMIT NAOPS1    *.*.CNME7204.STOP
PERMIT NAOPS2    *.*.CNME7205
PERMIT NAOPS2    *.*.CNME7210
PERMIT NAOPS2    *.*.CNME7211
PERMIT NAOPS2    *.*.CNME7212
PERMIT NAOPS2    *.*.CNME7213
PERMIT NAOPS2    *.*.CNME7221
PERMIT NAOPS2    *.*.CNME7225
PERMIT NAOPS2    *.*.CNME8205
PERMIT NAOPS2    *.*.CNME8210
PERMIT NAOPS2    *.*.CNME8211
PERMIT NAOPS2    *.*.CNME8212
PERMIT NAOPS2    *.*.CNME8213
PERMIT NAOPS2    *.*.CNME8221
PERMIT NAOPS2    *.*.CNME8225
PERMIT NVOPS2    *.*.REVISMSG
PERMIT NCONVGRP  *.*.NETCONV.ACTION.START
PERMIT NCONVGRP  *.*.NETCONV.ACTION.STOP
PERMIT NCONVGRP  *.*.NETCONV.STARTCON
PERMIT NCONVGRP  *.*.NETCONV.STOPCON
PERMIT NVOPS2    *.*.CNMEAUTB
PERMIT NVOPS1    *.*.OVERRIDE.SLOGCMDR
*PERMIT xxxxxx   *.*.DUILOGON.NMC

```

8. 次のステートメントを除去してください。

```

PROTECT          *.*.DSIPIAS
*PROTECT         *.*.LOGON.NMC
PERMIT NVOPS2    *.*.DSIPIAS
*PERMIT xxxxxx   *.*.LOGON.NMC

```

CNMSTYLE

CNMSTYLE は、NetView の初期化中に使用される DSIPARM のメンバーです。NetView 初期化プロセスへの変更は、NetView 製品の以前のリリースのように個々のサンプルを変更するのではなく、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN で行われます。CNMSTYLE は、NetView 初期化プロセスを単純化するように設計されています。

データ・セット NETVIEW.V5R3USER.INSTALL 内のサンプル CNMSJMIG を使用して、初期化メンバーを前のリリース (CNME1034 および幾つかの DSIPARM メンバーを含む) から CNMSTUSR にマイグレーションすることができます。詳しくは、213 ページの『付録 F. CNMSTYLE および CNMCMD へのマイグレーション』を参照してください。

マルチシステム・マネージャー NetFinity (NTF) サブタワーは除去されました。

CNMSTYLE および従属メンバーは、DSIPARM の定義ステートメントの一部と、CNME1034 によって実行されるすべての初期化を置き換えます。

表 24. CNMSTYLE ステートメントの古い DSIPARM ステートメントとの関係

CNMSTYLE ステートメント	DSIPARM ステートメント またはコマンド	NetView メンバー
COMMON.CNMSTYLE. DVIPAINTVL	DVIPA	FKXCFG01
COMMON.CNMSTYLE. DVIPAMAX	MAXDVIPA	FKXCFG01
NPDA.PDFILTER	NPDA SRFILTER	CNME3004
TAMEL.USETCPIP	USETCP/IP	DUIFPMEM
WEB.*	パラメーター	DSIWBMEM

CNMSTYLE には、組み込まれるステートメントのタイプについての記述コメントが含まれています。それらのコメントを読み、デフォルトを検討してください。

以下のデフォルトが変更されました。

表 25. CNMSTYLE ステートメント

デフォルト	前のデフォルト	現行のデフォルト
NCCF トレース 注: 初期化中にプロセッサ 使用率の著しい増加に気付い た場合は、TRACE オプショ ンを変更するか、または NetView の初期化が完了した 後でトレースを開始すること ができます。	オフ	オン、MODE=INT
MVSPARM.MSGIFAC	SYSTEM	SSIEXT MSGIFAC のデフォルト値は SSIEXT です。z/OS v1r8 以 降、QUESSI、QSSIAT、およ び USESSI 値はサポートされ なくなりました。
HLENV キーワード	PHEAP=4096	PHEAP=131072
	PSTACK=4096	PSTACK=131072
TOWER=DVIPA	FKXCFG01 の TCP390 ステ ートメントで使用可能	CNMSTYLE でコメント化

注: SECOPTS.CMDAUTH ステートメントの場合、NetView プログラムは、マイグレーション・モードでのみ SCOPE オプションをサポートします。現在、コマンドの有効範囲セキュリティ定義 (マッチングする OPCLASS ステートメントがある、DSICMD 内の CMDCLASS、KEYCLASS、VALCLASS ステートメント) を使用している場合、SECMIGR コマンドを使用して同等のコマンド権限テーブルのステートメントにそれらを変換することができます。SCOPE オプションを使用して NetView プログラムを初期化する場合は、既存の有効範囲セキュリティ定義を変換するために SECMIGR コマンドを使用します。変換されたテーブルは最初の

DSIPARM データ・セットに書き込まれ、有効になります。変換されたコマンド権限テーブルを DSIPARM データ・セットに書き込む権限が PPT にあることを確認してください。

必要な情報	参照先
CNMSTYLE ステートメント	<i>IBM Tivoli NetView for z/OS</i> アドミニストレーション・リファレンス
CNMSTYLE report	125 ページの『第 7 章 NetView の開始準備』

サンプル CNMSJCRG を使用して、CNMSTYLE ステートメントの report を作成することができます。ステートメントは関数別に編成されます。report では、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー・ステートメントもリストされます。この report を使用して、初期化ステートメントを分析することができます。

CNMSTNXT

CNMSTNXT には、新規または変更されたステートメントが含まれています。ステートメントは、NetView 製品のバージョンとリリース・レベルに応じてグループ化されます。CNMSTNXT のステートメントを検討し、必要に応じて CNMSTUSR または CxxSTGEN を更新します。

必要な情報	参照先
CNMSTYLE ステートメント	<i>IBM Tivoli NetView for z/OS</i> アドミニストレーション・リファレンス

DSICMD

DSICMD のコマンド定義ステートメントが、メンバー CNMCMD の新規コマンド定義によって置換されました。NetView 初期化では、マイグレーションのために引き続き DSICMDU を読み取ります。サンプル CNMSJMIG を使用すると、メンバー DSICMD を新規 CNMCMD フォーマットにマイグレーションすることができます。詳しくは、213 ページの『付録 F. CNMSTYLE および CNMCMD へのマイグレーション』を参照してください。

NetView 初期化の前に、DSICMDU の定義を新規フォーマットに変換しないと、DSICMDU に含まれた情報が変換され、PPT の下の NetView KEEP に 2 時間保管されます。この間に、NetView PIPE コマンドを使用して、これらの変換済みのコマンド定義を検索することができます。以下の例は、表示のためにこれらの定義を検索する 1 つの方法を示したものです。

```
/PPT: PIPE KEEP DSICMDU | CONS
```

また類似する PIPE コマンドを使用して、変換済み定義を DSIPARM の CNMCMDU メンバーに書き込むこともできます。

注: DSICMDU のデータ REXX ステートメントはすでに処理されているため、DSICMDU KEEP には存在しません。

CNMCMSYS または CNMCMENT で検出されたコマンド定義を複写する DSICMDU のコマンド定義は、後者によりオーバーライドされます。NetView 内部コマンド・セットのコマンドを複写する DSICMDU のコマンド定義は、エラーと見なされます。

DSICMDU から定義をマイグレーションするには、次の手順で行います。

1. テスト環境で NetView を開始し、重複コマンド定義に関する DSI234I メッセージがないか注意します。
2. マイグレーション済みの DSICMDU コマンド定義を NetView KEEP から検索し、それらを CNMCMDU に保管します。例えば、以下のようになります。

```
/PPT: PIPE KEEP DSICMDU | QSAM (DSN) user.dsiparm(CNMCMDU)
```

ここで、*user.dsiparm* は、マイグレーション済みコマンド定義ステートメントを配置するデータ・セットを指定します。

注: また、サンプル CNMSJMIG を使用して、NetView V5R3 を開始する前に、DSICMDU 定義をマイグレーションすることもできます。

3. NetView 初期化中に気付いた重複コマンド定義を変更するために、CNMCMDU 定義を更新します。

CNMCMDU の CMDDEF ステートメントを使用して、CNMCMSYS または CNMCMENT のコマンド定義をすべて変更します。

DSICMENT

DSIPARM の DSICMENT メンバーは、CNMCMENT によって置換されました。

DSICMSYS

DSIPARM の DSICMSYS メンバーは、CNMCMSYS によって置換されました。

EZLCMD

DSIPARM の EZLCMD メンバーは、EZLCMENT によって置換されました。

FKXCMD

DSIPARM メンバー FKXCMD は、FKXCMENT によって置換されました。

DSIOPF

DSIOPFU に定義されたオペレーター定義が、V5R3 バージョンの DSIOPFU に組み込まれていることを確認してください。

オペレーター定義を条件に応じて DSIOPFU に定義するために、データ REXX ロジックを追加できます。データ REXX ファイル内の最初のステートメントは、`/%DATA*/` か `/%LOGIC*/` でなければなりません。コメントは同一行か、後続行に続けて指定することができます。最初の列のブランクは、直前のステートメントの継続を示します。データ REXX について詳しくは、「*IBM Tivoli NetView for z/OS* インストール: 追加コンポーネントの構成」を参照してください。

以下のオペレーター定義が除去されました。

FLBGMMGR	OPERATOR	PASSWORD=FLBGMMGR
	PROFILEN	FLBGMMPR

以下のオペレーター定義が追加されました。

表 26. DSIOPF に追加されたオペレーター定義

オペレーター定義	DSIOPF ステートメント		
DVIPA ポーリング・サービス自動タスク	AUTDVIPA	OPERATOR PROFILEN	PASSWORD=AUTDVIPA DSIPROFC
NetView for z/OS Tivoli Enterprise Portal Agent 自動タスク	AUTONA	OPERATOR PROFILEN	PASSWORD=AUTONA DSIPROFC
	NATEP1	OPERATOR PROFILEN	PASSWORD=NATEP1 DSIPROFC
	NATEP2	OPERATOR PROFILEN	PASSWORD=NATEP2 DSIPROFC
	SYSADMIN	OPERATOR PROFILEN	PASSWORD=SYSADMIN DSIPROFC
Tivoli NetView for z/OS Enterprise Management Agent 自動タスク	AUTONALC	OPERATOR PROFILEN	PASSWORD=AUTONALC DSIPROFC
	AUTODC1	OPERATOR PROFILEN	PASSWORD=AUTODC1 DSIPROFN
	AUTODC2	OPERATOR PROFILEN	PASSWORD=AUTODC2 DSIPROFN
	AUTODC3	OPERATOR PROFILEN	PASSWORD=AUTODC3 DSIPROFN
	AUTODC4	OPERATOR PROFILEN	PASSWORD=AUTODC4 DSIPROFN
	AUTODC5	OPERATOR PROFILEN	PASSWORD=AUTODC5 DSIPROFN
	AUTODC6	OPERATOR PROFILEN	PASSWORD=AUTODC6 DSIPROFN
	AUTODC7	OPERATOR PROFILEN	PASSWORD=AUTODC7 DSIPROFN

DSITBL01

DSITBL01 には、サンプルの自動化テーブル定義が含まれています。自動化を開始するための %INCLUDE ステートメントの一部と関連ステートメントは、CNMSTYLE のエントリーに置き換えられました。DSITBL01 を変更した場合は、その変更内容とこの NetView リリースで配布された DSITBL01 のバージョンとをマージしてください。変更を行った後、NetView 自動化テーブルを番号付けし直してください。NetView 自動化テーブルは、メッセージを処理し、コマンドまたはコマンド・リストが実行される結果になる一致を検出すると、NetView メッセージ CNM493I を NetView ログ・ファイルに書き込みます。メッセージ CNM493I には、一致した自動化テーブル・エントリーの行番号が含まれます。

V5R3 プログラムではいくつかの NetView 提供メッセージが変更されました。これらのメッセージは付録にリストしてあります。そのリストを検討し、ご使用の自動化テーブルに必要な変更を加えてください。

基本自動化テーブル名が DSITBL01 でない場合は、ご使用の自動化テーブルの AUTOCMD ステートメントを組み込むように、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN を更新してください。AUTOCMD ステートメントについて詳しくは、「IBM Tivoli NetView for z/OS アドミニストレーション・リファレンス」を参照してください。

DSIW3PRF

このサンプルには、TCP/IP セッションのプロパティが含まれています。

このサンプルは、DSIPRF メンバーから DSIPARM メンバーに移動されました。

DUIFPMEM

DUIFPMEM は、CNMTAMEL タスク用の TCP/IP 初期化ステートメントが含まれている、DSIPARM のメンバーです。これには、CNMSTYLE から初期化値を取り出すためのロジックが組み込まれています。DUIFPMEM の V5R3 コピーを使用し、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN の TAMEL ステートメントを更新して、行った変更を反映してください。データ REXX パージョンの DUIFPMEM は変更しないでください。

FKXCFG01

DSIPARM メンバー FKXCFG01 には、AON の構成情報が含まれています。

TCP390 ポリシー情報は、FKXCFG01 から CNMPOLCY に移動されました。FKXCFG01 の TCP390 ステートメントはすべて CNMPOLCY メンバーに移動します。他の AON 構成メンバー (例えば、EZLCFG01 や FKVCFG01) と、他の TCP390 ステートメントを検出するために組み込んだ追加のメンバーを検討します。すべての TCP390 ステートメントを CNMPOLCY に移動します。

以下のテーブルに、変更された TCP390 DVIPA パラメーターを示します。

表 27. TCP390 DVIPA パラメーターの変更点

旧パラメーター	新規パラメーター/ステートメント
TCP390 DVIPA パラメーター	TCP390 DVIPADAT パラメーター
TCP390 MAXDVIPA パラメーター	COMMON.CNMSTYLE. CNMSTYLE の DVIPAMAX ステートメント

以前は、MAXDVIPA パラメーターは TCP/IP スタックごとに指定されていました。V5R2 以降、この値は、CNMSTYLE 内の NetView ドメインごとに一度指定します。

FKXSCM

このサンプルは削除されました。重複していないコミュニティ名はすべて、FKXSCM から CNMSCM にコピーされます。

RODM アドレス・スペース

このセクションのサンプルは、RODM アドレス・スペースの変更点をリストしています。

EKGLOADP

EKGLOADP はサンプル RODM ロード・プロシージャ JCL です。

EKGLOADP に以下の変更を加えてください。

1. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。
2. ROUTECODE パラメーターを設定するには、以下のステートメントを PROC ステートメントの COPIES パラメーターの後に追加します。このパラメーターを追加する場合は、COPIES パラメーターの後にコンマを追加してください。

```
//          ROUTECDE=1
```

3. NetView EXEC ステートメントに、以下のようにして、&ROUTECD 変数を追加します。

```
//LOADRODM EXEC PGM=EKGLDTLM,  
//          PARM=('OPERATION=&OPER,LOAD=&LOAD,NAME=&RODMNAME',  
// 'LISTLEVEL=&LISTL,SEVERITY=&SEVERITY,ROUTECD=&ROUTECD')
```

ROUTECD パラメーターの追加の結果、EKGLOADP の呼び出し時に &ROUTECD を指定するために、JCL プロシージャ EKGLLOAD を更新する必要があります。

EKGS101

EKGS101 は、RODM ログおよびチェックポイント・データベースを割り振るために使用されます。このサンプルは、サンプル・ジョブ CNMSJ004 によって使用されます。

RODM によってサポートされる最大数に満たない数のウィンドウに対して RODM チェックポイント・データ・セットを割り振っており、RODM データ・キャッシュに保管を予想しているオブジェクトの推定数が以前の最大サポート数 (約 524,000 オブジェクト) を超えている場合は、RODM チェックポイント・データベースのサイズを増加することを検討してください。

EKGXRODM

EKGXRODM は RODM 始動プロシージャです。

EKGXRODM に以下の変更を加えてください。

1. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。
2. NetView データ・セットについて、ユーザー定義のデータ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3USER を指していることを確認します。
3. 以下の ROUTECDE パラメーターを SUBSYM パラメーターの後に追加します。

```
//          SUBSYM=*SUBSYM,          ** SYMBOL SUBSTITUTION OPTION  
//          ROUTECDE=1              ** ROUTE CODE FOR WTO/WTOR
```

4. START EXEC ステートメントに、以下のようにして、&ROUTECD 変数を追加します。

```
//START EXEC PGM=EKGTC000,REGION=0K,TIME=1440,  
// PARM='&TYPE,&NAME,&INIT,&CLRSSB,&CUST,&ARM,&SUBSYM,&ROUTECD'
```

5. EKGDCUST DD ステートメントは、ユーザー DSIPARM データ・セットを組み込むように変更されました。

```
//EKGDCUST DD DSN=&Q1..CNM01.DSIPARM,DISP=SHR  
//          DD DSN=&SQ1..CNMSAMP,DISP=SHR
```

6. LNKSTxx または PROGxx で、Language Environment for OS/390 ランタイム・ライブラリーをインストールしていない場合は、EKGXRODM の STEPLIB のライブラリー名が正しいこと、およびアンコメントされていることを確認します。PL/I または C/C++ のランタイム・ライブラリーは使用されなくなったため、これらのライブラリー用の DD ステートメントを除去してください。

GMFHS アドレス・スペース

このセクションのサンプルは、GMFHS アドレス・スペースの変更点をリストしています。

CNMGMFHS (CNMSJH10)

CNMGMFHS (CNMSJH10) は GMFHS 始動プロシージャです。

CNMGMFHS に以下の変更を加えてください。

1. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。
2. NetView データ・セットについて、ユーザー定義のデータ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3USER を指していることを確認します。
3. 以下の ROUTECDE パラメーターを SUBSYM パラメーターの後に追加します。

```
//          SUBSYM=*SUBSYM, ** SYMBOL SUBSTITUTION
//          ROUTECDE=1      ** ROUTE CODE FOR ALL WTO'S
```

4. STEP1 EXEC ステートメントに、以下のようにして、&ROUTECDE 変数を追加します。

```
//STEP1    EXEC PGM=&PROG,REGION=&REG,TIME=1440,
// PARM='&AGGRST,RESWS=&RESWS,DOMAIN=&DOMAIN,ARM=&ARM,SUBSYM=&SUBSYM, *
//          ROUTECDE=&ROUTECDE'
```

5. RODM コンポーネントを使用している際に、前のリリースからマイグレーションする場合は、以下のステートメントを次のように変更します。

```
//STEPLIB DD DSN=&SQ1..SEKGMOD1,DISP=SHR
```

を次に変更します

```
//STEPLIB DD DSN=&SQ1..CNMLINK,DISP=SHR
```

6. RODM コンポーネントを使用している際に、前のリリースからマイグレーションする場合は、以下のステートメントを次のように変更します。

```
//EKGLUTB DD DSN=&SQ1..SEKGLUTB,DISP=SHR
```

を次に変更します

```
//EKGLUTB DD DSN=&SQ1..CNMSAMP,DISP=SHR
```

DUIGINIT

DUIGINIT は、GMFHS 用の初期化メンバーです。このメンバーには、GMFHS ホスト・メインタスク用の初期化ステートメントが含まれています。これらのステートメントは、GMFHS の初期化の際に読み取られるシステム制御定数です。ご使用

のシステムでシンボリック置換が使用可能になっている場合は、DUIGINIT でシンボルを使用できます。SYS1.PARMLIB のメンバー IEASYMxx でシンボルが定義されていることを確認してください。

DOMAIN ステートメントは、デフォルトの DUIGINIT メンバーでコメント化されています。好ましい方法は、DOMAIN シンボリック変数を GMFHS 開始プロシージャ (CNMGMFHS) で使用することです。ご使用の環境で、NetView 提供の DUIGINIT メンバーに用意されているデフォルト値を許容できる場合は、デフォルトの DUIGINIT メンバーを使用することを考慮してください。

イベント自動化サービス・アドレス・スペース

このセクションのサンプルは、イベント自動化サービス・アドレス・スペースの変更点を示します。

IHSAEVNT

IHSAEVNT は、イベント自動化サービス・アドレス・スペースを開始します。PROCLIB 内の IHSAEVNT に以下の変更を加えてください。

1. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。
2. 以下の ROUTECDE パラメーターを OUTSIZE パラメーターの後に追加します。

```
//          ROUTECDE=1,    ** ROUTE CODE FOR ALL WTO'S
```

3. 以下の &ROUTECD 変数を &OUTSIZE 変数の後に追加します。

```
INITFILE=&INITFILE OUTSIZE=&OUTSIZE ROUTECDE=&ROUTECD
```

その他の考慮事項

以下の機能に対する変更を考慮してください。

- BROWSE 機能
- UNIX システム・サービス
- NetView Web アプリケーション
- DVIPA サポート
- システム・シンボリック変数
- IPv6 サポート

BROWSE 機能

LBHOURLY と呼ばれる新しい DEFAULTS 設定で、毎時の統計メッセージ CNM154I、CNM155I、および CNM156I をネットワーク・ログに送るかどうかを制御します。前のリリースでは、送信を阻止するオプションはなく、これらの毎時の統計メッセージは、自動的にネットワーク・ログに送られました。CNMSTYLE の DEFAULTS.LBHOURLY ステートメントによって設定されるように、LBHOURLY のデフォルト設定は NO です。これらの毎時の統計メッセージを引き続きネットワーク・ログで受信するためには、DEFAULTS.LBHOURLY ステートメントを CNMSTUSR または CxxSTGEN に追加し、その値を YES に設定してください。

UNIX システム・サービス

次のセクションでは、NetView V5R1 から NetView V5R3 で変更された、ディレクトリー、構成ファイル、および機能を説明します。また、15 ページの『UNIX システム・サービスの準備』のセクションも検討してください。

NetView MIB コレクションは、/usr/lpp/netview/v5r1/mibs/ ディレクトリーから /usr/lpp/netview/v5r3/mibs/ ディレクトリーに移動されました。CNMSTYLE 内の MIBPATH ステートメントが現行リリースの MIB ディレクトリーを参照していることを確認してください。

NetView Web アプリケーション

NetView Web アプリケーションの現行バージョンをアンインストールして、NetView Web アプリケーションの V5R3 バージョンを再インストールします。詳しくは、`netview_installation_dir/doc/znetview_webapp_readme_en.htm` ファイルと「IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: 追加コンポーネントの構成」マニュアルを参照してください。

DVIPA サポート

DVIPA サポートはもはや AON の機能ではありません。これは、基本 NetView の独立した機能です。このサポートを使用可能にするには、CNMSTYLE で DVIPA tower をアンコメントしてください。

デフォルトのポーリング間隔は、10 分から 1 時間に変更されました。このポーリング間隔は、CNMSTYLE 内の COMMON.CNMSTYLE.DVIPAINTVL ステートメントを使用して変更することができます。

パラメーター・ファイルでのシンボリック変数の使用

NetView プログラムは、SYS1.PARMLIB の以下のシステム変数を、パラメーター・ファイル CNMSTYLE、DUIGINIT、および FLBSYSD で使用します。

表 28. 初期化メンバーで使用されるシンボリック変数

メンバー	タスク	TCP/IP 名	RODM 名	NETID
		&CNMTCPN	&CNMRODM	&CNMNETID
CNMSTYLE	NetView 初期化	X	X	X
DUIGINIT	GMFHS (グラフィックス)		X	
FLBSYSD	SNA トポロジー・マネージャー		X	

&DOMAIN は、追加の NetView ユーザー・シンボリック変数であり、以下のパラメーター・ファイルで使用されます。

- CNMSCBET
- CNMSMRT1
- CNMSTASK
- CNMSTGEN
- CNMSTPWD
- CNMSTUSR

- CNMSTYLE
- DSIAMIAT
- DSIAMII
- DSITBL01
- DSIVPARM
- FKXWHTML
- FLBSYSD

IPv6 サポート

デフォルトでは、NetView プログラムは IPv4 と IPv6 の両アドレッシングをサポートします。ただし、CNMSTYLE 内の IPv6Env 環境ステートメントを使用して、NetView プログラムを 1 つのアドレッシング・ファミリーに限定することができます。IPv6Env ステートメントの詳細については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS* アドミニストレーション・リファレンス」を参照してください。詳しくは、223 ページの『付録 G. IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの違い』も参照してください。

第 6 章 Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 2 からのマイグレーション

本章では、Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 2 から NetView プログラムをマイグレーションする場合に、マイグレーションして実動システムとして稼働する方法を説明します。マイグレーション情報は、V5R3 の初期リリースに付属する NetView コンポーネントを基にしています。V5R3 の内容を V5R2 NetView 定義に追加するか、または V5R2 のカスタマイズを NetView プログラムに付属するデフォルトの V5R3 メンバーに追加できます。いずれの場合も、NETVIEW.V5R3USER.CNM01.DSIPARM などの、適切なユーザー割り振りデータ・セットに、カスタマイズされたメンバーを配置します。NETVIEW.V5R3M0.DSIPARM など、SMP/E 管理のデータ・セットのメンバーはカスタマイズしないでください。

NetView 定義メンバーをマイグレーションする際に、使用方法に影響を及ぼす可能性のある要因が幾つかあります。お客様のマイグレーションに最適の方法を検討するには、ネットワークのサイズや複雑さ、従う必要のあるセキュリティー・ポリシー、および業務の中で確立された慣習などのすべての要因を考慮する必要があります。この後のチェックリストでは、本書で概説し、NetView ライブラリー内の他の文書でも説明されている、マイグレーション方法を詳細に説明しています。ご自分に最適のマイグレーション方法を選択してください。

V5R2 定義をマイグレーションするには、以下の手順で行います。

1. サンプル・ジョブ CNMSJ002 を実行して、V5R3 ユーザー・データ・セットの新規セットを割り振ります。17 ページの表 11 の手順を完了している場合、これはすでに行われています。
2. NetView ドメインごとに、固有の &NV2I 値 (xx) を定義します。
3. CNMSTYLE のカスタマイズされた V5R2 コピーを見直します。V5R2 CNMSTYLE のドメイン固有のカスタマイズをすべて CxxSTGEN に移動し、V5R2 CNMSTYLE のシステム全体のカスタマイズをすべて CNMSTUSR に移動します。このときに、V5R2 CNMSTYLE メンバーを V5R3 ユーザー DSIPARM データ・セットにコピーしないでください。
4. 本章の CNMSTYLE 情報と、NetView プログラムに付属する V5R3 CNMSTNXT メンバーを見直してください。CNMSTYLE のドメイン固有のカスタマイズを CxxSTGEN に配置し、CNMSTYLE のシステム全体のカスタマイズを CNMSTUSR に配置します。V5R3 デフォルトの CNMSTYLE メンバーは変更しないでください。
5. 本章の残りの情報を見直し、変更されたメンバーだけを V5R3 ユーザー・データ・セットに配置して、該当する V5R2 NetView 定義メンバーと JCL プロシージャをマイグレーションします。

114 ページの図 10 は、NetView V5R3 初期化フローを示しています。DSIPARM メンバーに変更を行うときには、この新しい初期化フローを覚えておいてくださ

い。

NetView 初期化フロー

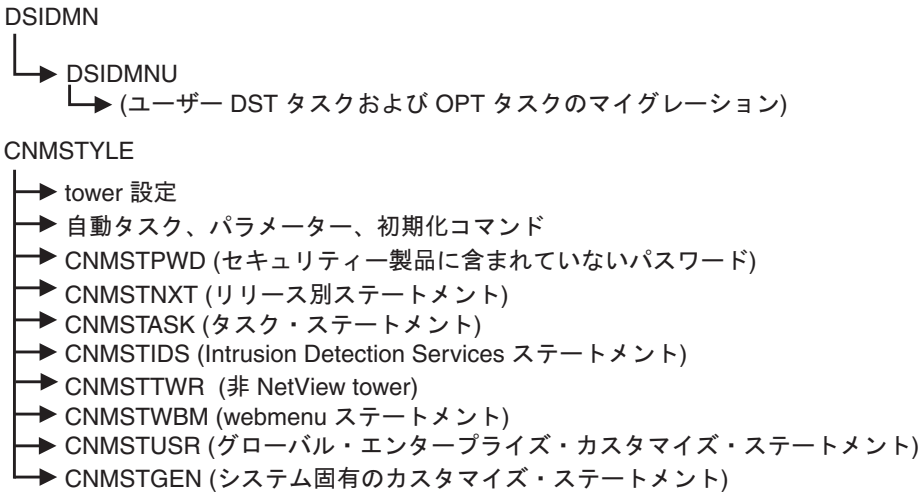


図 10. NetView V5R3 初期化フロー

この章を読み終えた後は、125 ページの『第 7 章 NetView の開始準備』に進んでください。

必要な情報	参照先
パネル、コマンド、メッセージ、およびサンプルなどの変更	205 ページの『付録 D. Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 2 から Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 3 への変更』

新規サンプル

表 29 に、マイグレーション時に見直す新規のサンプルを示します。

表 29. 新規サンプルのリスト

配布名	名前	説明	データ・セット名
CNMSDVIP	同じ	このサンプルは、DVIPA 定義と状況データを表示します。また、DVIPSTAT コマンド出力 (BNH846I メッセージ) を分かりやすいフォーマットに設定します。	CNMSAMP
CNMSDVPC	同じ	このサンプルは、DVIPA 接続データを表示します。また、DVIPCONN コマンド出力 (BNH849I メッセージ) を分かりやすいフォーマットに設定します。	CNMSAMP
CNMSEMAA	同じ	NetView for z/OS Enterprise Management Agent 用の自動化テーブル・メンバー	DSIPARM

表 29. 新規サンプルのリスト (続き)

配布名	名前	説明	データ・セット名
CNMSJEMA	同じ	NetView for z/OS Enterprise Management Agent の構成ツールの開始に使用されるユーザー INSTLIB データ・セットを割り振りおよびコピーします。	CNMSAMP
CNMSPLEX	同じ	このサンプルは、DVIPA シスプレックス・ディストリビューター・データを表示します。また、DVIPPLEX コマンド出力 (BNH847I メッセージ) を分かりやすいフォーマットに設定します。	CNMSAMP
CNMSSTAC	同じ	このサンプルは、TCP/IP スタック構成と状況データを表示します。また、STACSTAT コマンド出力 (BNH845I メッセージ) を分かりやすいフォーマットに設定します。	CNMSAMP
CNMSTARG	同じ	このサンプルは、DVIPA ディストリビューター・ターゲットとポート・データによる DVIPA ワークロードを表示します。また、DVIPTARG コマンド出力 (BNH848I および BNH850I メッセージ) を分かりやすいフォーマットに設定します。	CNMSAMP
CNMTRAPI	同じ	SNMP トラップ自動化タスクに必要な、データ・サービス・タスクの初期化パラメーターが含まれています。	DSIPARM
DSIPROFN	同じ	NetView for z/OS Enterprise Management Agent データ収集自動タスク (AUTODCn) の自動化オペレーター・プロファイル	DSIPRF

VTAM アドレス・スペース

このセクションのサンプルは、VTAM アドレス・スペースの変更点をリストしています。

A01APPLS (CNMS0013)

このメンバーには、NetView プログラム用にコーディングされたアプリケーション (APPL) メジャー・ノードが含まれています。

VTAMLST データ・セットを再割り振りおよび再コピーしなかった場合、次の変更を A01APPLS に加えてください。

- SYS1.PARMLIB メンバー IEASYMxx にドメイン ID (システム変数 &CNMDOMN) を設定するか、A01APPLS (CNMS0013) 内の &CNMDOMN のすべての オカレンスを現行のドメイン ID に変更してください。
- ステータス・モニター・プリプロセッサを使用していない場合は、複数の並行 NetView オペレーターのタスクを定義する APPL ステートメントを、ワイルドカード文字 (??) を使用して 1 つの APPL ステートメントに置換することができます。例えば、次のようになります。

```
&CNMDOMN.0?? APPL AUTH=(NVSPACE,SPO,ACQ,PASS),PRTCT=&CNMDOMN., X
EAS=4,MODETAB=AMODETAB,DLOGMOD=DSILGMOD
```

- ステータス・モニター・プリプロセッサを使用していない場合は、TAF APPL ステートメントを、LU 名に続くワイルドカード文字 (??) を使用して、1 つの APPL ステートメントに置換することができます。例えば、次のようになります。

```
TAF010?? APPL MODETAB=AMODETAB,EAS=9, X
DLOGMOD=M3767
```

他のアプリケーション (TAF など) での使用のために定義する APPL 名は、端末ログオン APPL と同じ命名方式で定義してはなりません (例えば、3 文字の接尾部のあるドメイン名)。同じ命名方式を使用すると、これらのアプリケーション名が NetView プログラムにより端末ログオンのために使用される可能性があり、その場合には、アプリケーション名が、定義された目的に使用できなくなります。

CNMNET (CNMSJ008)

CNMNET (CNMSJ008) は、VTAM プログラムの開始プロシーチャーです。

次のようにして、PROCLIB 内の CNMNET を変更します。

- NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。
- NetView データ・セットについて、ユーザー定義のデータ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3USER を指していることを確認します。

NetView アドレス・スペース

このセクションのサンプルは、NetView アドレス・スペースの変更点をリストしています。

CNMSAF2

DSIPARM メンバー CNMSAF2 には、NetView オペレーターおよびコマンドのサンプル RACF 定義が含まれています。

CNMSAF2 に以下の変更を加えてください。

- 以下のユーザーを追加します。

```
ADDUSER AUTONALC
ALTUSER AUTONALC NETVIEW(MSGRECV(R) CTL(GLOBAL))
```

- 以下のステートメントを ADDGROUP NVOPS1 の下に追加します。

```
/* Operators listed in this group are permitted to do many (but not
/* all) restricted NetView commands.
CONNECT AUTODC1 GROUP(NVOPS1) UACC(READ)
CONNECT AUTODC2 GROUP(NVOPS1) UACC(READ)
CONNECT AUTODC3 GROUP(NVOPS1) UACC(READ)
CONNECT AUTODC4 GROUP(NVOPS1) UACC(READ)
CONNECT AUTODC5 GROUP(NVOPS1) UACC(READ)
CONNECT AUTODC6 GROUP(NVOPS1) UACC(READ)
CONNECT AUTODC7 GROUP(NVOPS1) UACC(READ)
CONNECT AUTDVIPA GROUP(NVOPS1) UACC(READ)
```

- 以下のステートメントを ADDGROUP NVOPS2 の下に追加します。

```

/*****
/* Operators listed in this group are permitted to do any commands.
/*****
CONNECT AUTDVIPA GROUP(NVOPS2) UACC(READ)

```

4. 以下のステートメントを ADDGROUP NAOPS1 の下に追加します。

```

/*****
/* Operators listed in this group are permitted to issue the
/* NACMD command.
/*****
CONNECT AUTONALC GROUP(NAOPS1) UACC(READ)

```

5. 以下のステートメントを SETROPTS GENERIC(NETCMDS) の下に追加します。

```

RDEF NETCMDS *.*.CNME7204.LISTOPID      UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME7204.LISTCONN      UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME7204.START          UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME7204.STOP           UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME8200                UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME8205                UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME8210                UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME8211                UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME8212                UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME8213                UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME8221                UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.CNME8225                UACC(NONE)
RDEF NETCMDS *.*.OVERRIDE.SLOGCMDR.*    UACC(NONE)
:
PE *.*.CNME7204.LISTOPID      CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS1) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME7204.LISTCONN      CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS1) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME7204.START          CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS1) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME7204.STOP           CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS1) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME8205                CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS2) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME8210                CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS2) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME8211                CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS2) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME8212                CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS2) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME8213                CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS2) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME8221                CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS2) ACCESS(READ)
PE *.*.CNME8225                CLASS(NETCMDS) ID(NAOPS2) ACCESS(READ)
PE *.*.OVERRIDE.SLOGCMDR.*    CLASS(NETCMDS) ID(NVOPS1) ACCESS(READ)

```

CNMSCAT2

DSIPARM メンバー CNMSCAT2 には、サンプル・コマンド権限テーブルが含まれています。

CNMSCAT2 に以下の変更を加えます。

1. 以下のステートメントを更新します。

```

*****
* Users listed in this group are allowed to do most restricted      *
* commands.                                                         *
*****
GROUP  NVOPS1  NETOP1,NETOP2,OPER1,OPER2,OPER3,AUTO1,AUTO2
GROUP  NVOPS1  DBAUTO1,DBAUTO2,DSILCOPR,AUTDVIPA,AUTODC1
GROUP  NVOPS1  AUTODC2,AUTODC3,AUTODC4,AUTODC5,AUTODC6,AUTODC7

```

2. 以下のステートメントを更新します。

```

*****
* Users listed in this group are allowed to do any commands,      *
* provided they are also in the NVOPS1 group above.               *
/*****
GROUP  NVOPS2  NETOP1,NETOP2,AUTO1,AUTO2,AUTDVIPA

```

3. 以下のステートメントを更新します。

```
*****
* Users listed in this group are allowed to do issue the NACMD cmd. *
*****
GROUP  NAOPS1  AUTONA,NETOP1,NETOP2,AUTO1,AUTO2,AUTONALC
```

4. 次の PROTECT ステートメントを追加してください。

```
PROTECT      *.*.CNME7204.LISTOPID
PROTECT      *.*.CNME7204.LISTCONN
PROTECT      *.*.CNME7204.START
PROTECT      *.*.CNME7204.STOP
PROTECT      *.*.CNME8200
PROTECT      *.*.CNME8205
PROTECT      *.*.CNME8210
PROTECT      *.*.CNME8211
PROTECT      *.*.CNME8212
PROTECT      *.*.CNME8213
PROTECT      *.*.CNME8221
PROTECT      *.*.CNME8225
PROTECT      *.*.CNMEAUTB
PROTECT      *.*.OVERRIDE.SLOGCMR
```

5. 次の PERMIT ステートメントを追加してください。

```
PERMIT NAOPS1  *.*.CNME7204.LISTOPID
PERMIT NAOPS1  *.*.CNME7204.LISTCONN
PERMIT NAOPS1  *.*.CNME7204.START
PERMIT NAOPS1  *.*.CNME7204.STOP
PERMIT NAOPS2  *.*.CNME8205
PERMIT NAOPS2  *.*.CNME8210
PERMIT NAOPS2  *.*.CNME8211
PERMIT NAOPS2  *.*.CNME8212
PERMIT NAOPS2  *.*.CNME8213
PERMIT NAOPS2  *.*.CNME8221
PERMIT NAOPS2  *.*.CNME8225
PERMIT NVOPS2  *.*.CNMEAUTB
PERMIT NVOPS1  *.*.OVERRIDE.SLOGCMR
```

6. 次のステートメントを除去してください。

```
PROTECT      *.*.DSIPIAS
PERMIT NVOPS2  *.*.DSIPIAS
```

CNMPOLCY

DSIPARM メンバー CNMPOLCY には、NetView プログラムの自動化ポリシーが含まれています。

スタックから DVIPA データを収集する場合は、DVIPADAT キーワードを TCP390 ステートメントに追加して、値を Y (はい) に設定します。

CNMPROC (CNMSJ009)

CNMPROC (CNMSJ009) は、NetView プログラム用の始動プロシージャです。

PROCLIB 内の CNMPROC に以下の変更を行います。

1. NetView データ・セットについて、ユーザー定義のデータ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3USER を指していることを確認します。
2. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。
3. 実行しているコンポーネントに応じて領域サイズの増加が必要になる可能性があります。詳細については、「IBM Tivoli NetView for z/OS Tuning Guide」を参照してください。

4. NetView プログラムで Language Environment (LE) HLL プログラムの実行を計画しており、LE ランタイム・ライブラリーを LNKLSTxx でインストールしなかった場合には、CNMPROC の STEPLIB に指定されているライブラリー名が正しいこと、およびアンコメントされていることを確認してください。

CNMPSSI (CNMSJ010)

CNMPSSI (CNMSJ010) は、NetView サブシステム・アドレス・スペースを始動します。

PROCLIB 内の CNMPSSI に以下の変更を加えてください。

1. システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。

CNMSTYLE

CNMSTYLE は、NetView の初期化中に使用される DSIPARM のメンバーです。NetView 初期化プロセスへの変更は、NetView 製品の以前のリリースのように個々のサンプルを変更するのではなく、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN で行われます。CNMSTYLE は、NetView 初期化プロセスを単純化するように設計されています。

CNMSTYLE および従属メンバーは、DSIPARM の定義ステートメントの一部と、CNME1034 によって実行されるすべての初期化を置き換えます。

CNMSTYLE には、組み込まれるステートメントのタイプについての記述コメントが含まれています。そのコメントを読んで、デフォルト値を見直してください。

Tivoli NetView for z/OS ライブラリー内の資料にホストからアクセスするための URL とタイトルを定義する WEBSITE ステートメントは変更されました。CNMSTYLE サンプルを参照してください。

マルチシステム・マネージャー NetFinity (NTF) サブタワーは除去されました。

以下のデフォルトが変更されました。

表 30. CNMSTYLE ステートメント

デフォルト	前のデフォルト	現行のデフォルト
function.autotask.autoip	auto2	autoaon

CNMSTNXT

CNMSTNXT には、新規または変更されたステートメントが含まれています。ステートメントは、NetView 製品のバージョンとリリース・レベルに応じてグループ化されます。CNMSTNXT のステートメントを検討し、必要に応じて CNMSTUSR または CxxSTGEN を更新します。

必要な情報

CNMSTYLE ステートメント

参照先

IBM Tivoli NetView for z/OS アドミニストレーション・リファレンス

DSITBL01

DSITBL01 には、サンプルの自動化テーブル定義が含まれています。自動化を開始するための %INCLUDE ステートメントの一部と関連ステートメントは、CNMSTYLE のエントリーに置き換えられました。DSITBL01 を変更した場合は、その変更内容とこの NetView リリースで配布された DSITBL01 のバージョンとをマージしてください。変更を行った後、NetView 自動化テーブルを番号付けし直してください。NetView 自動化テーブルは、メッセージを処理し、コマンドまたはコマンド・リストが実行される結果になる一致を検出すると、NetView メッセージ CNM493I を NetView ログ・ファイルに書き込みます。メッセージ CNM493I には、一致した自動化テーブル・エントリーの行番号が含まれます。

V5R3 プログラムではいくつかの NetView 提供メッセージが変更されました。これらのメッセージは付録にリストしてあります。そのリストを検討し、ご使用の自動化テーブルに必要な変更を加えてください。

基本自動化テーブル名が DSITBL01 でない場合は、ご使用の自動化テーブルの AUTOCMD ステートメントを組み込むように、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN を更新してください。AUTOCMD ステートメントについて詳しくは、「IBM Tivoli NetView for z/OS アドミニストレーション・リファレンス」を参照してください。

DSIW3PRF

このサンプルには、TCP/IP セッションのプロパティが含まれています。

このサンプルは、DSIPRF メンバーから DSIPARM メンバーに移動されました。

FKXSCM

このサンプルは削除されました。重複していないコミュニティ名はすべて、FKXSCM から CNMSCM にコピーされ、FKXSCM のデータ REXX ロジックと関連 %INCLUDE は CNMSCM から除去されます。

RODM アドレス・スペース

このセクションのサンプルは、RODM アドレス・スペースの変更点をリストしています。

EKGLOADP

EKGLOADP はサンプル RODM ロード・プロシージャ JCL です。

EKGLOADP に以下の変更を加えてください。

1. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。

EKGS101

EKGS101 は、RODM ログおよびチェックポイント・データベースを割り振るために使用されます。このサンプルは、サンプル・ジョブ CNMSJ004 によって使用されます。

RODM によってサポートされる最大数に満たない数のウィンドウに対して RODM チェックポイント・データ・セットを割り振っており、RODM データ・キャッシュに保管を予想しているオブジェクトの推定数が以前の最大サポート数 (約 524,000 オブジェクト) を超えている場合は、RODM チェックポイント・データベースのサイズを増加することを検討してください。

EKGXRODM

EKGXRODM は RODM 始動プロシージャです。

EKGXRODM に以下の変更を加えてください。

1. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。
2. NetView データ・セットについて、ユーザー定義のデータ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3USER を指していることを確認します。
3. LNKSTxx または PROGxx で、Language Environment for OS/390 ランタイム・ライブラリーをインストールしていない場合は、EKGXRODM の STEPLIB のライブラリー名が正しいこと、およびアンコメントされていることを確認します。PL/I または C/C++ のランタイム・ライブラリーは使用されなくなったため、これらのライブラリー用の DD ステートメントを除去してください。

GMFHS アドレス・スペース

このセクションのサンプルは、GMFHS アドレス・スペースの変更点をリストしています。

CNMGMFHS (CNMSJH10)

CNMGMFHS (CNMSJH10) は GMFHS 始動プロシージャです。

CNMGMFHS に以下の変更を加えてください。

1. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。
2. NetView データ・セットについて、ユーザー定義のデータ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3USER を指していることを確認します。

イベント自動化サービス・アドレス・スペース

このセクションのサンプルは、イベント自動化サービス・アドレス・スペースの変更点を示します。

IHSAEVNT

IHSAEVNT は、イベント自動化サービス・アドレス・スペースを開始します。PROCLIB 内の IHSAEVNT に以下の変更を加えてください。

1. NetView データ・セットについて、システム・データ・セットの高位修飾子が NETVIEW.V5R3M0 を指していることを確認します。

Tivoli NetView for z/OS Enterprise Agents

Tivoli NetView for z/OS Enterprise Management Agent は、バージョン 6.1 の Tivoli Management Services コンポーネントとともに稼働します。このセクションでは、環境で 1 つ以上の Tivoli NetView for z/OS エンタープライズ・エージェントを使用している場合のマイグレーションについて説明します。

- 『NetView for z/OS Tivoli Enterprise Portal Agent バージョン 5.2.0』
- 123 ページの『NetView for z/OS Tivoli Enterprise Portal V6.1 Agent バージョン 5.2.5』

NetView for z/OS Tivoli Enterprise Portal Agent バージョン 5.2.0

NetView for z/OS Tivoli Enterprise Portal Agent バージョン 5.2.0 は、OMEGAMON バージョン 3.6.0 環境で稼働します。NetView for z/OS Tivoli Enterprise Portal Agent バージョン 5.2.0 はサポートされなくなりました。既存のエージェントから Tivoli NetView for z/OS Enterprise Management Agent に移動するためのマイグレーション・パスはありません。Tivoli NetView for z/OS Enterprise Management Agent をインストールするには、「*IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: Tivoli NetView for z/OS Enterprise Agent の構成*」を参照してください。

Tivoli Enterprise Portal、Tivoli Enterprise Monitoring Server、および Tivoli Data Warehouse のアップグレードおよびマイグレーションの詳細については、「*IBM Tivoli Monitoring Installing and Upgrading OMEGAMON Platform Version 350/360-based Products and Components*」を参照してください。

NetView for z/OS Tivoli Enterprise Portal Agent バージョン 5.2.0 をアンインストールするには、ご使用のシステムのプラットフォームに基づいた手順を実行します。

注: 先に進む前に、IBM Tivoli Monitoring コンポーネントを停止し、IBM Tivoli Monitoring を管理してください。

Windows プラットフォームの「コントロール パネル」から

1. 「プログラムの追加と削除」を選択します。
2. 「NetView for z/OS Tivoli Enterprise Portal Agent」を選択します。
3. 「プログラムを変更、修復、または削除します」ウィンドウで、「削除」オプションを選択します。

UNIX プラットフォームの \$CANDLEHOME/bin ディレクトリーから

1. 次のシェル・スクリプトを発行します。

```
/uninstall.sh
```
2. アンインストールする製品の選択のプロンプトが出されます。「NetView for z/OS Agent」を選択します。

注: Tivoli NetView for z/OS Enterprise Management Agent データ・スペース・ファイルを OMEGAMON バージョン 3.6.0 環境にインストールしないでください。

NetView for z/OS Tivoli Enterprise Portal V6.1 Agent バージョン 5.2.5

NetView for z/OS Tivoli Enterprise Portal V6.1 Agent は、バージョン 6.1 の Tivoli Management Services コンポーネントとともに稼働します。NetView for z/OS Tivoli Enterprise Portal V6.1 Agent をインストールしている場合は、Tivoli NetView for z/OS Enterprise Management Agent に移動することを検討してください。NetView for z/OS Enterprise Management Agent には、追加機能が用意されていて、z/OS アドレス・スペースで稼働します。

既存のエージェントから NetView for z/OS Enterprise Management Agent に移動するためのマイグレーション・パスはありません。NetView for z/OS Tivoli Enterprise Portal V6.1 Agent には限定された機能しか用意されていないので、既存のエージェントをアンインストールして、NetView for z/OS Enterprise Management Agent をインストールしてください。

NetView for z/OS Tivoli Enterprise Portal V6.1 Agent をアンインストールするには、ご使用のシステムのプラットフォームに基づいた手順を実行します。

注: 先に進む前に、IBM Tivoli Monitoring コンポーネントを停止し、IBM Tivoli Monitoring を管理してください。

Windows プラットフォームの「コントロール パネル」から

1. 「プログラムの追加と削除」を選択します。
2. 「IBM NetView for z/OS Tivoli Enterprise Portal V6.1 Agent」を選択します。
3. 「プログラムを変更、修復、または削除します」ウィンドウで、「削除」オプションを選択します。

UNIX または Linux プラットフォームの <install-dir>/bin ディレクトリーから

1. 次のシェル・スクリプトを発行します。

```
/uninstall.sh
```
2. アンインストールする製品の選択のプロンプトが出されます。「NetView for z/OS V5R2 Agent」を選択します。

その他の考慮事項

以下の機能に対する変更を考慮してください。

- UNIX システム・サービス
- NetView Web アプリケーション
- IPv6 サポート

UNIX システム・サービス

このセクションでは、NetView V5R2 から NetView V5R3 で変更された、ディレクトリー、構成ファイル、および機能を説明します。また、15 ページの『UNIX システム・サービスの準備』のセクションも検討してください。

NetView V5R2 からのマイグレーション

NetView MIB コレクションは、/usr/lpp/netview/v5r2/mibs/ ディレクトリーから /usr/lpp/netview/v5r3/mibs/ ディレクトリーに移動されました。CNMSTYLE 内の MIBPATH ステートメントが現行リリースの MIB ディレクトリーを参照していることを確認してください。

NetView Web アプリケーション

NetView Web アプリケーションの現行バージョンをアンインストールして、NetView Web アプリケーションの V5R3 バージョンを再インストールします。詳しくは、`netview_installation_dir/doc/znetview_webapp_readme_en.htm` ファイルと「*IBM Tivoli NetView for z/OS* インストール: 追加コンポーネントの構成」マニュアルを参照してください。

IPv6 サポート

デフォルトでは、NetView プログラムは IPv4 と IPv6 の両アドレスリングをサポートします。ただし、CNMSTYLE 内の IPv6Env 環境ステートメントを使用して、NetView プログラムを 1 つのアドレスリング・ファミリーに限定することができます。IPv6Env ステートメントの詳細については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS* アドミニストレーション・リファレンス」を参照してください。詳しくは、223 ページの『付録 G. IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの違い』も参照してください。

第 7 章 NetView の開始準備

NetView プログラムを開始する際には、2 つの START プロシージャー、つまり、NetView アプリケーション用のプロシージャー (CNMPROC (CNMSJ009)) と NetView サブシステム用のプロシージャー (CNMPSSI (CNMSJ010)) を使用します。どちらを最初に開始してもかまいません。別の NetView プログラムを開始する場合は、別のサブシステム名を基にして始動プロシージャーの追加のペアを作成してください。

NetView およびサブシステム・アプリケーション・プロシージャーの変更

V5R3 サンプルで提供されている CNMPROC (CNMSJ009) および CNMPSSI (CNMSJ010) のコピーで、次の考慮事項について検討してください。

- PROCLIB メンバーおよび PROC ステートメントの名前は、NetView プログラムを実行するために定義した 4 文字のサブシステム名から始まらなければなりません。関連した CNMPSSI (CNMSJ010) 始動プロシージャーも同じサブシステム名から始まらなければなりません。サンプル・ネットワークでは CNMP を使用します。

注: PROCLIB メンバー名が IEFSSN_{xx} 内のエントリーと一致する場合は、START コマンドで SUB= パラメーターを使用して、MASTER サブシステム以外のサブシステムを指定してください。SYSIN および SYSOUT がサポートされないサブシステムを指定してください。

- 同じホストで NetView プログラムの別のコピーを開始する場合には、すでに開始したサブシステム名とは異なる 4 文字のサブシステム名から始まるプロシージャー名を使用してください。

注: SYS1.PARMLIB の IEFSSN_{xx} メンバーに 4 文字のサブシステム名を必ず追加するようにしてください。

- ユーザーのインストール要件に合うように、サンプル CNMPSSI (CNMSJ010) プロシージャーのシンボリック・パラメーターを調整することができます。また、CNMSTYLE の SSI ステートメントを使用してこれらのパラメーターを調整することもできます。

NetView 始動プロシージャーの変更

CNMPROC (CNMSJ009) は、インストール時に区分データ・セットをロードした際に、PROCLIB にコピーされています。NetView 開始プロシージャー (CNMPROC) に以下の変更を行ってください。

- 1 つのシステムまたはシスプレックスで複数の NetView プログラムを実行する場合は、&NV2I の値を設定します。
- ローカル・デバイス・アラートに SVC76 インターフェースを使用しない場合、NetView を開始するプログラムの名前を変更します。
- NetView ディスパッチ優先順位が適切であることを確認します。

- 必要に応じて、領域サイズ、バッファ・サイズ、およびスロット・サイズを調整します。
- ユーザー定義のデータ・セットが組み込まれていることを確認します。
- SYSTCPD ステートメントで、ご使用の TCP/IP 制御データ・セットが指定されていることを確認します。

NetView プログラムに対する TCP/IP の定義

NetView プログラムは、リモート・アプリケーションと通信するために TCP/IP に依存する多くのサービスを提供します。TCP/IP と通信するために、これらのサービスはそれぞれ、MVS ソケット・ライブラリーと呼ばれるプログラム・ファンクション・ライブラリーを使用します。これにより、NetView アプリケーションは MVS ソケット・アプリケーションになります。

どの MVS ソケット・アプリケーションも TCP/IP 構成データを参照する必要があります。このデータにアクセスする方法は、実行している TCP/IP の z/OS バージョンによって定義されています。

NetView 開始プロシージャには、TCP/IP 構成データのロケーションを識別するためのサンプル SYSTCPD DD ステートメントが含まれています。SYSTCPD ステートメントは、NetView プログラムには必要ありませんが、MVS ソケット・アプリケーションが TCP/IP 構成データを見つけることができる必要があります。

NetView 開始プロシージャから z/OS TCP/IP データ・セットにアクセスできる必要もあります。z/OS TCP/IP データ・セットが LNKLISTxx 連結に含まれていない場合は、次の z/OS TCP/IP データ・セット (APF 許可されている必要あり) を STEPLIB DD 連結に追加します。

SEZALINK LINKLIB への連結のための実行可能ロード・モジュール

SEZALNK2 NCS 管理者用の LB2ADMIN

パフォーマンスを最適化するには、これらのデータ・セットを LNKLISTxx 連結から使用できるようにします。

使用上の注意:

1. NetView によって提供される TCP/IP サービスごとに、TCPname ステートメントを使用してスタック・アフィニティーが CNMSTYLE ファイルに指定されます。この名前を使用し、NetView は、INITAPI ソケット呼び出しにその名前を指定してスタック・アフィニティーを設定します。
2. NetView アドレス・スペースの一部ではない NetView アプリケーションの中には、リモート・アプリケーションとの通信を TCP/IP に依存するものがあります。これらのアプリケーションのいくつかは、z/OS UNIX ソケット・ライブラリーを使用します。したがって、これらのアプリケーションは z/OS UNIX ソケット・アプリケーションです。これらのアプリケーションがどのように TCP/IP 構成データを参照するかについては、これらのアプリケーションを説明する本の中で論じられています。z/OS UNIX ソケット・アプリケーションの例には、イベント自動化サービス と UNIX コマンド・サーバーがあります。

	必要な情報	参照先
	MVS ソケット・アプリケーション、	<i>z/OS Communications Server IP 構成ガイド</i>
	SYSTCPD DD ステートメント	

CNMSTYLE の更新

CNMSTYLE は、NetView の初期化中に使用される DSIPARM のメンバーです。NetView 初期化プロセスへの変更は、CNMSTUSR または CxxSTGEN で行われます。

CNMSTYLE のメンバー名は、NetView 始動プロシーチャーの &NV2I の値で制御されます。NetView における &NV2I のデフォルト値は、NM です。 &NV2I (xx) の値を指定すると、NetView は、初期化パラメーター用に DSIPARM 内の CxxSTYLE を読み取ります。このメンバーが検出されない場合、NetView は代わりに CNMSTYLE を読み取ります。組み込みメンバー CxxSTGEN は、xx に対して &NV2I の値を使用しても解決されます。

DSIPARM 内のサンプル CNMSTYLE メンバーには、メンバーに組み込まれるステートメントのタイプに関する記述コメントが含まれています。それらのコメントを読み、デフォルトを検討してください。この後のセクションでは、幾つかの NetView 機能についての追加の詳細情報を提供します。

必要な情報	参照先
CNMSTYLE 処理	<i>IBM Tivoli NetView for z/OS</i> インストール: 概説
CNMSTYLE ステートメント	CNMSTYLE ファイル内のコメントおよび 「 <i>IBM Tivoli NetView for z/OS</i> アドミニスト レーション・リファレンス」

CNMSTYLE のカスタマイズ

グローバル (エンタープライズ) 変更をメンバー CNMSTUSR に行い、次に変更された CNMSTUSR をそれぞれの NetView システムにコピーすることにより CNMSTYLE をカスタマイズします。

システム固有の変更は、%INCLUDE メンバー CxxSTGEN に行うことができます (ここで、xx は &NV2I の値で、最初 NM に設定されています)。このメンバーに CNMSTYLE および CNMSTUSR 用のすべてのオーバーライド・ステートメントをコーディングします。CxxSTGEN で検出された重複ステートメントは、CNMSTYLE および CNMSTUSR 内の前のステートメントをオーバーライドします。NV2I の値は、NetView 開始プロシーチャーに指定することができます。

データ REXX は、CNMSTYLE の %INCLUDE メンバーで使用できます。データ REXX は、メンバー CNMSTYLE ではサポートされません。代わりに、tower および subtower 条件を CNMSTUSR または CxxSTGEN に定義して、CNMSTYLE のステートメントを制御することができます。

注: NetView プログラムの稼働中に、CNMSTYLE %INCLUDE メンバーを変更すると、その変更は NetView をリサイクルしたときに有効になります。特定の種類の

の変更 (ハードウェア・モニター、セッション・モニター、Web インターフェース、NetView リソース・マネージャー、ビジュアル BLDVIEWS、およびさまざまなグローバル変数の更新など) の場合は、RESTYLE コマンドを使用すると、NetView プログラムをリサイクルせずにこれらの変更を活動化することができます。この方法で活動化できる変更の種類について詳しくは、「*IBM Tivoli NetView for z/OS コマンド解説書 第 I 巻*」の中の RESTYLE コマンドの項を参照してください。

必要な情報	参照先
RESTYLE コマンド	<i>IBM Tivoli NetView for z/OS コマンド解説書 第 I 巻</i>

%INCLUDE メンバーの使用法

CNMSTYLE の初期化の際に以下のメンバーが組み込まれます。

%INCLUDE メンバー 使用法

- CNMSTPWD** 必要な場合、このメンバーを使用して VPD、VSAM、および ACB パスワードを組み込むことができます。READSEC を使用すると、CNMSTPWD が、BROWSE コマンドによって表示されないように保護することができます。
- CNMSTNXT** リリースごとに、変更可能な CNMSTYLE ステートメントを組み込みます。CNMSTNXT は CNMSTYLE でコメント化されます。これは、文書化目的のみで提供されています。
- CNMSTASK** NetView 提供のタスク・ステートメント。このメンバーは変更しないでください。代わりに、組み込むタスク・ステートメントは、CNMSTUSR または CxxSTGEN に直接組み込んでください。CNMSTUSR および CxxSTGEN のタスク・ステートメントは、CNMSTASK で提供されているステートメントをオーバーライドします。
- CNMSTIDS** Intrusion Detection Services (IDS) ステートメントを組み込みます。IDS サポートを使用可能にする場合は、このメンバーを検討してください。
- CNMSTTWR** 非 NetView の tower からスタイル・ステートメントを組み込みます。ユーザーがインストールする tower について資料で特に指示されていないかぎり、このメンバーは編集しないでください。
- CNMSTWBM** webmenu ステートメントを組み込みます。
- CNMSTUSR** CNMSTYLE のステートメントをオーバーライドするグローバル (エンタープライズ) 定義ステートメントを組み込むことができます。このメンバーを使用して、CNMSTYLE をカスタマイズします。データ REXX ロジックを使用できます。

注: また、このメンバーの %INCLUDE を使用して、ユーザーが選択した他のメンバーを組み込むこともできます。

C&NV2I.STGEN

このメンバーには、データ REXX ロジックも含め、システム固有の定義ステートメントを組み込むことができます。

注: また、このメンバーの %INCLUDE を使用して、ユーザーが選択した他のメンバーを組み込むこともできます。

シンボリック変数の使用法

多くの NetView プロセスでは、RODM 名、NetView ドメイン、TCP 名およびネットワーク ID が必要です。CNMSTYLE 処理は、これらの名前のシンボリック変数を設定します。また、SYS1.PARMLIB のメンバー IEASYMxx に、RODM 名、TCP 名、およびネットワーク ID のシステム変数も設定することができます。ネットワーク ID のシステム変数を設定することを選択した場合、それは NetView がその ACB を開いたときに VTAM によって戻される値と同じでなければなりません。

表 31. CNMSTYLE のシンボリック変数

シンボリック変数	CNMSTYLE ステートメント
RODM 名	RODMname = &CNMRODM。 注: RODM を使用しない場合、このステートメントは無視されます。
NetView ドメイン	DOMAIN =C&NV2I.01 (NetView 提供のデフォルトは CNM01)。 注: この ID は、VTAM APPL ステートメントにリストされるアクセス方式制御ブロック (ACB) 名です。
TCP 名	TCPname =&CNMTCPN。
ネットワーク ID	NetID =&CNMNETID。

注:

1. NetView ドメイン ID またはパスワードを CNMPROC (CNMSJ009) に指定した場合、CNMSTYLE またはその組み込みメンバーの DOMAIN または ACBpassword ステートメントは使用されません。それらは、CNMPROC によって渡されるパラメーターがヌルの場合を除き、無視されます。ドメイン・パスワードが CNMPROC (CNMSJ009)、あるいは CNMSTYLE またはその組み込みメンバーに指定されていない場合、ドメイン名がパスワードになります。
2. IEASYMxx に設定されたシステム・シンボリック変数は、すべてのアドレス・スペースに対して使用可能になります。CNMSTUSR または CxxSTGEN を使用して設定したグローバル変数は、この NetView アドレス・スペースにのみ適用されます。

STYLEVAR の使用法

STYLEVAR は、CNMSTYLE 内の任意の場所で使用できる変数を定義する場合に使用します (ただし、コマンド・フェーズの場合は除きます)。これらの変数を使用して、繰り返しデータの入力プロセスを簡素化することができます。

注:

1. システム・シンボル名は、STYLEVAR 変数名に有効な名前ではありません。
2. STYLEVAR 変数値には、別の STYLEVAR 変数を入れられません。

必要な情報

参照先

STYLEVAR ステートメント

CNMSTYLE ファイル内のコメントおよび
「IBM Tivoli NetView for z/OS アドミニスト
レーション・リファレンス」

NetView コンポーネントを活動化するための TOWER ステートメントの使用法

NetView コンポーネントは、TOWER ステートメントを使用して活動化することができます。Tower ステートメントは、初期化プロセスで他のほとんどの変数 (例えば、共通グローバル変数) よりも先に検査されます。これは、例えば初期化プロセスを条件付きで制御するのに役立ちます。

これは TOWER ステートメントの例です。

```
TOWER = *SA *AON *MSM *Graphics MVScmdMgt NPDA NLDM TCPIPCOLLECT *AMI  
*TARA *DVIPA *TEMA
```

使用上の注意:

1. tower はその前にアスタリスクが付いていなければ使用可能です。tower を使用可能にするには、tower 名のあるアスタリスク (*) を除去してください。
2. tower を使用不可にするには、tower の名前の前にアスタリスクを付けてください。
3. TOWER ステートメントが複数ある場合は、最後に検出された TOWER ステートメントが処理されます。変更された TOWER ステートメントは、NetView が再始動されるまで認識されませんので注意してください。

tower 内の特定のコンポーネントを使用可能にするには、subtower ステートメント (TOWER.subtower) を使用することができます。以下は、subtower ステートメントの幾つかの例です。

```
TOWER.AON = SNA TCP  
TOWER.MSM = LNM IP OPN TMR  
TOWER.Graphics = SNATM  
TOWER.TCPIPCOLLECT = TCPCONN PKTS  
TOWER.TEMA = *HEALTH *CONNACT *CONINACT *SESSACT *DVDEF *DVTAD *DVCONN  
*SYSPLEX
```

使用可能にする NetView 提供の tower に関連した subtower ステートメントを検討します。subtower ステートメントを更新するには、その subtower ステートメントを CNMSTUSR または CxxSTGEN にコピーします。関数を使用可能にするには、その関数名のあるアスタリスク (*) を削除してください。関数を使用不可にするには、その関数名の前にアスタリスク (*) を追加してください。

タワー・ステートメントとサブタワー・ステートメントを有効にするには、NetView プログラムをリサイクルする必要があります。このために、このステートメントを

慎重に見直してください。いずれかのタワーおよびサブタワー・コンポーネントを実装する計画の場合は、インストール・プロセスのこのステップでこの機能を使用可能にすることを考慮してください。

以下の NetView 提供の TOWER ステートメントを参照してください。

Tower	説明
SA	z/OS に対するシステム自動化を使用可能にします。
AON	ネットワーク自動化 (AON コンポーネント) を使用可能にします。
	Subtower 説明
	SNA SNA 自動化 (AON/SNA)
	AON/SNA X.25 サポートも使用可能にするには、以下のステートメントからアスタリスク (*) を除去してください。
	*TOWER.AON.SNA = X25
	TCP TCP/IP 自動化 (AON/TCP)
	Intrusion Detection Services (IDS) サポートも使用可能にするには、以下のステートメントからアスタリスク (*) を除去してください。
	*TOWER.AON.TCP = IDS
MSM	マルチシステム・マネージャーの使用可能化。
	Subtower 説明
	LNМ LAN ネットワーク・マネージャー・フィーチャー。
	IP IP フィーチャー。
	OPN オープン・フィーチャー。
	TMR Tivoli 管理対象リソース・フィーチャー。
GRAPHICS	NetView 管理コンソールを使用可能にします。
	Subtower 説明
	SNATM SNA トポロジー・マネージャー。
MVScmdMgt	MVS コマンド管理を使用可能にします。
NPDA	ハードウェア・モニターを使用可能にします。
TARA	4700 サポート・ファシリティーを使用可能にします。
NLDM	セッション・モニターを使用可能にします。
AMI	Application Management Instrumentation を使用可能にします。
TCPIP COLLECT	
	IBM Communications Server からの TCP/IP 接続とパケット・トレース・データのコレクションを使用可能にします。
	Subtower 説明

	TCPCONN	TCP/IP 接続トレース・データのコレクションを使用可能にします。
	PKTS	TCP/IP パケット・トレース・データのコレクションを使用可能にします。
DVIPA		動的仮想 IP アドレス (DVIPA) 定義と状況データの収集を使用可能にします。
TEMA		NetView プログラムが Tivoli NetView for z/OS Enterprise Management Agent と通信できるようにします。
		使用上の注意: Tivoli NetView for z/OS Enterprise Management Agent をインストールしない場合は、TEMA タワーを使用可能に設定しないでください。LPAR ごとに 1 つの NetView プログラムについてのみ、TEMA タワーを使用可能にします。
	Subtower	説明
	HEALTH	NetView 正常性データの収集を使用可能にします。
	CONNACT	アクティブ TCP/IP 接続の収集を使用可能にします。
	CONINACT	非アクティブ TCP/IP 接続の収集を使用可能にします。
	SESSACT	アクティブ・セッションの収集を使用可能にします。
		SESSACT サブタワーは、LPAR につき 1 つの NetView プログラムでのみサポートされます。
	DVDEF	DVIPA 定義と状況データの表示を使用可能にします。
	DVTAD	DVIPA シスプレックス・ディストリビューターとディストリビューター・ターゲット・データの収集を使用可能にします。
	DVCONN	DVIPA 接続の収集を使用可能にします。
	SYSPLEX	スタック構成と状況データの収集を使用可能にします。

必要な情報	参照先
AON、ハードウェア・モニター、セッション・モニター、4700 サポート・ファシリティ	<i>IBM Tivoli NetView for z/OS</i> インストール: 追加コンポーネントの構成
マルチシステム・マネージャー subtower	<i>IBM Tivoli NetView for z/OS</i> インストール: グラフィカル・コンポーネントの構成
Tivoli NetView for z/OS Enterprise Management Agent タワーとサブタワー	<i>IBM Tivoli NetView for z/OS</i> インストール: <i>Tivoli NetView for z/OS Enterprise Agent</i> の構成

セキュリティの設定

SECOPTS ステートメントを使用して以下のものを指定できます。

- オペレーター・セキュリティ
- コマンド権限
- 制御スパン権限
- Web ブラウザー・アクセス

必要な情報	参照先
セキュリティ・オプション	<i>IBM Tivoli NetView for z/OS</i> セキュリティ・リファレンス
SECOPTS キーワード	<i>IBM Tivoli NetView for z/OS</i> アドミニストレーション・リファレンス

NetView プログラムの開始時に自動的に実行するコマンドの指定

NetView プログラムの始動時に自動的に実行させるコマンドまたはコマンド・リストを定義するには、CNMSTUSR または CxxSTGEN で auxInitCmd ステートメントを使用します。実行させる任意の数のコマンドまたはコマンド・リストを指定できます。auxInitCmd キーワードの後の EBCDIC 値により、コマンドが実行される順序が決定されます。

例を以下に示します。

```
auxInitCmd.A = MSG SYSOP,Auxiliary commands beginning.  
auxInitCmd.AC = RESTORE TIMER
```

この場合、MSG SYSOP コマンド (A) は、RESTORE TIMER コマンド (AC) より先に実行されます。

注: これらの AuxInitCmd コマンドは、あらゆる自動タスクのすべてのコマンドよりも前に実行されます。自動タスクについてのすべてのコマンド (タスク初期コマンド・リストと EXCMD から送信されるコマンドなど) は、キューに入れられ、保留されます。これらはすべての AuxInitCmds の完了後にのみ実行されます。メッセージもキューに入れられます。メッセージは、すべての AuxInitCmd が完了するまで、自動化へ処理依頼されたりログ記録されたりすることはありません。

必要な情報	参照先
NetView の初期化時に実行させるコマンド・リストの作成	<i>IBM Tivoli NetView for z/OS</i> プログラミング: REXX および NetView コマンド・リスト言語

NetView サブシステム・インターフェースの開始

NetView サブシステム・インターフェース (SSI) を開始するには、CNMSTUSR または CxxSTGEN で SSI.ProcString ステートメントを使用します。

```
SSI.ProcString = CNMPSSI.SS,SUB=MSTR,ARM='*ARM'
```

プロシージャ名 (例えば、CNMPSSI) を指定します。NetView プログラムにより、MSGIFAC パラメーターの値、およびオプションで DSIG パラメーターと

PPIOPT パラメーターの値が提供されます。また、インストールに必要な追加の開始パラメーター (SUB=MSTR など) も指定することができます。

注: SSI.ProcString ステートメントには MSGIFAC、PPIOPT、または DSIG パラメーターは指定しないでください。これらのパラメーターは、NetView プログラムによって処理中に追加されることがあるからです。これらの値を更新するには、MVSPARM.MSGIFAC、SSI.PPI、および SSI.DSIG ステートメントを使用してください。

SSI.ProcString ステートメントに *NONE* を指定すると、CNMCSSIR タスクは SSI プロシーチャーを開始しません。これがデフォルトです。

必要な情報	参照先
CNMPSSI を使用した SSI の開始	125 ページの『NetView およびサブシステム・アプリケーション・プロシーチャーの変更』
SSI CNMSTYLE ステートメント	CNMSTYLE ファイル内のコメントおよび「IBM Tivoli NetView for z/OS アドミニストレーション・リファレンス」

NetView コンポーネントの初期化値の指定

一部の NetView コンポーネントの初期設定値は、CNMSTYLE 初期設定メンバーに指定されます。表 32 は、NetView コンポーネント、その基本タスク名、DSIPARM でのその初期化メンバー、およびその初期化値の CNMSTYLE ステートメント接頭部を示しています。

表 32. NetView コンポーネントの初期化

NetView コンポーネント	基本タスク名	初期化メンバー	CNMSTYLE ステートメント 接頭部
CNM データ転送	domidLUC	DSILUCTD	LUC.*
「Get-host-by」タスク	DUIDGHB	DUIIGHB	GHB.*
ハードウェア・モニター	BNJDSERV	BNJMBDST	NPDA.*
IP ログ	DSIIPLOG	DSIILGCF	IPLOG.*
LU 6.2 通信	DSIU DST	DSIUINIT	RMTINIT.*
NetView リソース・マネージャー	AUTONRM	n/a	NRM.*
リソース・ステータス・モニター	CNMTAMEL	DUIISFP DUIFPMEM	TAMEL.*
REXEC サーバー	DSIRXEXC	DSIREXCF	REXEC.*
RSH サーバー	DSIRSH	DSIRSHCF	RSH.*
セッション・モニター	DSIAMLUT AAUTSKLP	DSIAMLTD AAUPRMLP	NLDM.*
TCP/IP アラート受信側	DSIRTTR	DSIRTTTD	RTT.*
NetView 3270 管理コンソール 用の TCP/IP 通信	DSITCPIP	DSITCPCF	MCON.*

表 32. NetView コンポーネントの初期化 (続き)

NetView コンポーネント	基本タスク名	初期化メンバー	CNMSTYLE ステートメント 接頭部
Tivoli NetView for z/OS Enterprise Management Agent	AUTONALC	n/a	NACMD.* ¹
NetView for z/OS Tivoli Enterprise Portal Agent	AUTONA	n/a	NACMD.*
ビジュアル BLDVIEWS	AUTOVBV	n/a	VBV.*
Web サーバー・インターフェー ス・タスク	DSIWBTSK	DSIWBMEM	WEB.*
注: 1. Tivoli NetView for z/OS Enterprise Management Agent に関連付けられた NACMD.* ス テートメントは、TEMA タワーが使用可能な場合にのみ処理されます。			

必要な情報	参照先
CNMSTYLE ステートメント	IBM Tivoli NetView for z/OS アドミニスト レーション・リファレンス
RESTYLE コマンド	IBM Tivoli NetView for z/OS コマンド解説書 第 I 巻
Tivoli NetView for z/OS Enterprise Management Agent	IBM Tivoli NetView for z/OS インストール： Tivoli NetView for z/OS Enterprise Agent の構 成

アクティブ CNMSTYLE メンバー名のリスト作成

共通グローバル変数 CNMSTYLE.STYLE は、読み取られた CNMSTYLE メンバーの名前に設定されます。アクティブな CNMSTYLE メンバーをリストするには、次のように入力します。

```
QRYGLOBL COMMON VARS=CNMSTYLE.STYLE
```

CNMSTYLE レポート生成プログラムの使用

CNMSTYLE レポート生成プログラムを使用して、CNMSTYLE とその組み込みメンバーを分析することができます。作成されるレポートは、以下のアクションに使用できます。

- %INCLUDE 構造をリストする。
- CNMSTYLE およびその組み込みメンバー内のステートメントの複数の出現を分析する。これにより、NetView の初期化時に使用される値を判別できます。レポートに複数回リストされているステートメントの場合は、最後にリストされたステートメントが初期化に使用されるステートメントです。
- 使用可能になっている CNMSTYLE tower をリストする。
- 特定機能の初期化ステートメントを分析する。

CNMSTYLE レポート生成プログラムを実行するには、NETVIEW.V5R3USER.INSTALL データ・セットのサンプル CNMSJCRG を使用し

ます。この INSTALL データ・セットは、サンプル・ジョブ CNMSJBUP によりインストール中に作成されたものです。CNMSJCRG は、NetView アドレス・スペースの外部で実行されるジョブで、TSO 端末モニター・プログラムの下で REXX プログラム CNMECRG を実行します。

CNMSJCRG には以下のデータ・セットが必要です。

STEPLIB

現行リリース NETVIEW.V5R3M0.CNMLINK の NetView CNMLINK データ・セット

SYSEXEC

現行リリースからの NetView CNMCLST データ・セットの連結データ・セット・リスト。

DSIPARM

現行リリース・バージョンの CNMSTYLE を含む連結データ・セット・リスト。データ・セットの連結の順序が NetView 開始プロシージャ CNMPROC に指定されているのと同じであることを確認してください。

CNMPNL1

現行リリース NETVIEW.V5R3M0.CNMPNL1 の NetView CNMPNL1 データ・セット

DSIWRT

生成されたレポート・メンバーが書き込まれる出力区分データ・セット。レポート生成プログラムの出力は、区分データ・セットのメンバーとして書き込まれます。NetView デフォルト命名規則を使用した場合、データ・セット名は NETVIEW.V5R3USER.CNM01.DSILIST です。

CNMSTYLE レポートが DSIWRT データ・セット内のメンバー CNMCRG に書き込まれます。メンバー CNMCRG がすでに存在する場合は、既存の CNMCRG メンバーのバックアップ・コピーが作成され、CNMCRGBK と命名されます。メンバー CNMCRGBK がすでに存在する場合は、既存の CNMCRG メンバーによって上書きされます。

CNMSJCRG にキーワード・パラメーターを指定することができます。それぞれのキーワード・パラメーターと値は、CNMECRG コマンドのすぐ下で、それぞれ同一行上に指定する必要があります。値を 2 行目に続けしないでください。1 行に入力されたすべての文字が、CNMECRG への入力として解釈されます。キーワード・パラメーターが複数回指定された場合は、先頭の値が使用され、後続で指定された値はすべて無視されます。ブランク行か /* が出現すると、入力は終了します。

指定できるキーワードは以下の通りです。

TASKS=YES | NO

レポートに CNMTASK ステートメントを組み込むかどうかを指定します。

YES CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMTASK からのステートメントを組み込みます。これはデフォルト値です。

NO CNMTASK ステートメントを組み込みません。

&NV2I=xx

xx のデフォルト値は NM です。無効な値が指定されると、エラー・メッセージが発行され、デフォルト値 NM がレポートで使用されます。英字を使用すると、文字は大文字に変換されます。

&symbolic_name= value

システムの value か、CNMSTYLE またはその組み込みメンバーで使っている NetView シンボリック変数 (&symbolic_name) を提供します。シンボリック・パラメーターはレポートで解決されるために CNMECRG に渡される必要があります。

CNMSTYLE レポート生成プログラムは、NetView 定義メンバーを読み取るときに、以下のようなシンボリック変数のサブストリングを参照するシンボリックによる参照を解決できません。

```
%INCLUDE C&DOMAIN(2:2).STGEN
```

使用上の注意:

1. *symbolic_name* の前にはアンパーサンド (&) を付けます。
2. *symbolic_name* には、オプションで末尾のピリオド (.) を組み込むことができます。
3. *value* に先行ブランクまたは末尾ブランクがある場合は、単一引用符 (‘ ’) を使用してください。
4. 次のような、シンボリック変数を含む値は指定しないでください。

```
&AAAAA='C&NV2I.01'
```

また、次のようなシンボリック変数のサブストリングを含む値も指定しないでください。

```
&AAAAA='C&DOMAIN(2:2).01'
```

以下に、CNMSJCRG 内の CNMECRG に指定するキーワード・パラメーターの例を示します。

```
CNMECRG
TASKS=NO
&NV2I=NM
&DOMAIN=CNM01
&CNMTCPN=TCPIP
&CNMRODM=RODMNAME
&CMNETID=NETA
&MYSYMBL=' A B C '
/*
```

CNMSTYLE レポートには、以下のセクションが組み込まれています。

1. NetView のすべてに関連する一般情報と CNMSTYLE ステートメント
2. NetView の特定の関数に関連する CNMSTYLE ステートメント
3. auxInitCmd ステートメントとユーザー定義ステートメント
4. CNMSTYLE 内のデータ REXX ステートメント

TASKS パラメーターが NO に設定されているので、この例のレポートには CNMSTASK ステートメントは含まれていません。

- レポートの作成日時
- 使用されている &NV2I シンボリック変数値
- CNMSTYLE によって組み込まれているメンバーのネスト・リスト
- NetView が初期化されたときに使用可能になる CNMSTYLE tower のリスト
- ベースの NetView に適用される CNMSTYLE ステートメントのリスト

DATE: 23 Jan 2007
TIME: 14:09:03

```
%INCLUDE structure of: CNMSTYLE
```

Statements for function: NetView General

138 インストール: マイグレーション・ガイド

行番号 (Line#)

CNMSTYLE ステートメントが配置されているメンバー内の行番号。ステートメントが継続ステートメントの場合は、ステートメントの開始場所の行番号だけがリストされます。

インディケーター (Indicators)

ステートメントに関する情報をリストします。この情報は、次のようにしてフォーマット設定されます。

R CCCCCC

ここで、**R** は解決標識を示し、**CCCCCC** は条件標識を示します。

解決 (Resolve)

特定の CNMSTYLE ステートメントがレポート生成プログラムによって変更されたかどうかを示します。**Y** の指定は、ステートメントが変更されたことを示します。例えば、シンボリック変数が置換されたか、疑問符 (?) フィーチャーを使用する自動タスク・ステートメントが解決されています。

解決 (Resolve) フィールドに値がリストされていない場合、ステートメントは何も変更されていません。

条件 (Condition)

リストされた CNMSTYLE ステートメントをアクティブにするためには条件が必要であることを示しています。例えば tower を使用可能にする必要があるなど。使用可能にする必要のある tower が 1 つだけの場合は、条件フィールドは必要な tower 名に設定されます。tower 名の先頭の 10 文字がリストされます。複数のタワーを使用可能にする必要がある場合か、または満たさなければならない条件がほかにもある場合には、条件フィールドに 4 つのアスタリスク (****) が設定されます。

条件フィールドに何の値もリストされていない場合は、そのステートメントをアクティブするために必要な条件はありません。

ステートメント (Statement)

CNMSTYLE ステートメントとその値をリストします。ステートメントの先頭で検出されたタワー条件とともに、ステートメント内の余分のスペーシングが除去されていることがあります。ステートメントは、値を CNMSTYLE キーワードまたはその値に置換することにより、さらに変更することができます。

パスワードやセキュリティに重要なその他の値を含む CNMSTYLE キーワードの値はセキュリティ・リスクと識別され、無許可の表示を避けるために、4 つのアスタリスク (****) としてレポートにリストされます。

レポートの第 2 セクションには、特定の NetView 関数の CNMSTYLE ステートメントがリストされます。例えば、140 ページの図 12 は、ハードウェア・モニター (NPDA) コンポーネントのステートメントをリストしています。

CNMSTYLE ステートメントが複数の NetView 関数に適用される場合は、適用されるそれぞれの NetView 関数ごとにそのステートメントがリストされます。例えば、

TOWER ステートメントは、ハードウェア・モニターとセッション・モニターの両方、および他のさまざまな NetView 機能に適用されます。

関数内では、最も重要なステートメントが最初にリストされ、より重要度の低いステートメントがその後に続きます。NetView 関数は、英字順にレポートに提示されます。

Statements for function: Hardware Monitor (NPDA)

Member	Line#	Indicators	Statement

CNMSTYLE	701		TOWER = *SA *AON *MSM *Graphics MVScmdMgt NPDA NLDM TCIPCOLLECT *AMI *TARA *DVIPA *TEMA
CNMSTYLE	1459		TASK.BNJMNPD.A.INIT = N
CNMSTYLE	1447		TASK.BNJDSERV.INIT = N
CNMSTYLE	2460		NPDA.ALCACHE = WRAPCNT
MYINCLUD	18	NPDA	NPDA.ALCACHE = 500
CNMSTYLE	2476		NPDA.ALERTFWD = SNA-MDS-LOGONLY
CNMSTYLE	2534		NPDA.ALERTLOG = RANDRANG
CNMSTYLE	2510		NPDA.ALRTINFP.RECORD = Yes
CNMSTYLE	2520		NPDA.ALT_ALERT = DOMAIN
CNMSTYLE	2591		NPDA.AUTORATE = 1
CNMSTYLE	2428		NPDA.DSRBO = 5
CNMSTYLE	2420		NPDA.DSRBU = 5
CNMSTYLE	2628		NPDA.ERR_RATE = 10 50
CNMSTYLE	2435		NPDA.MACRF = LSR
CNMSTYLE	2485		NPDA.MDSIND = Yes
CNMSTYLE	2413		NPDA.PDDNM = BNJLGPR
CNMSTYLE	2441		NPDA.PNA = No
CNMSTYLE	2600		NPDA.PRELOAD_BER = No
CNMSTYLE	2447		NPDA.REPORTS = OFF
CNMSTUSR	14		NPDA.REPORTS = ON
CNMSTYLE	2414		NPDA.SDDNM = BNJLGSE
CNMSTYLE	2455		NPDA.TECROUTE = IHSATEC
MYINCLUD	17	NPDA	NPDA.W.1 = AL 500
CNMSTYLE	1603		function.autotask.HMONdbMaint = DBAUT02

図 12. NetView 関数情報

レポートの第 3 セクションには、auxInitCmd ステートメントとユーザー定義ステートメントがリストされます (141 ページの図 13 を参照)。auxInitCmd ステートメントは、CNMSTYLE およびその組み込みメンバーで検出された順序でリストされます。

ユーザー定義の CNMSTYLE ステートメント下にリストされるステートメントは、特定の NetView 機能に属するステートメントか、またはレポートの最初のセクションの一般的な NetView 情報に属するステートメントとして、CNMSTYLE レポート生成プログラムでは認識されません。例えば、OPAAA01 という名前の自動タスクを、次のように定義できます。

```
%> IF TOWER('NPDA') THEN DO;
function.autotask.MyAutoOp = OPAAA01
%> END;
```

定義した場合、function.autotask.MyAutoOp ステートメントは、ユーザー定義ステートメントとしてリストされます (図 13 を参照)。

auxInitCmd Statements			
Member	Line#	Indicators	Statement

CNMSTYLE	3609		auxInitCmd.A = MSG SYSOP,Auxiliary commands beginn ing.
CNMSTYLE	3612	NLDM	auxInitCmd.SNLDM = STARTCNM NLDM
CNMSTYLE	3613	NPDA	auxInitCmd.SNPDA = STARTCNM NPDA
CNMSTYLE	3614		auxInitCmd.ZDISC = EXCMD ?Policy,CNMEERSC
MYINCLUD	16	NPDA	auxInitCmd.BB = MSG SYSOP,NPDA will be activated
User-Defined CNMSTYLE Statements			
Member	Line#	Indicators	Statement

CNMSTYLE	351		AUTOTASK.?Helper.Console = D761CON
CNMSTYLE	958		AUTOTASK.?APSERV.Console = *NONE*
CNMSTYLE	959		AUTOTASK.?APSERV.InitCmd = APSERV xyz
MYINCLUD	15	NPDA	function.autotask.MyAutoOp = OPAAA01

図 13. auxInitCmd ステートメントとユーザー定義ステートメント

レポートの 4 番目のセクションには、データ REXX ステートメントがリストされます (142 ページの図 14 を参照)。レポート処理の間、データ REXX ステートメントは無視されます。これらのステートメントは、CNMSTYLE およびその組み込みメンバーで検出された順序でレポートにリストされます。レポートには、各データ REXX ステートメントの最初の 63 文字のみが入れられます。どの CNMSTYLE ステートメントがデータ REXX ステートメントの影響を受けるかを理解しやすくするために、IF-THEN ステートメントの影響を受けるデータ REXX ブロックの %DATA 部分内の CNMSTYLE ステートメントもリストされます。

Data REXX Statements

```

Member   Line# Statement
-----
      ,      ,      ,
      ,      ,      ,
      ,      ,      ,
CNMSTTWR  1 /*%LOGIC REXX -----
CNMSTTWR  2 /* Licensed Materials - Property of IBM
CNMSTTWR  3   5697-B82 (C) Copyright IBM Corp. 2001
CNMSTTWR  4   All rights reserved.
CNMSTTWR  5
CNMSTTWR  6   US Government Users Restricted Rights - Use, duplication or
CNMSTTWR  7   disclosure restricted by GSA ADP Schedule Contract with IBM
CNMSTTWR  8 /* The one line "commentary" below is needed because empty memb
CNMSTTWR  9   are treated as being "not found." Appears as I/O error.
CNMSTTWR 10 '* ----- tower member ----- *'
CNMSTTWR 11 IF TOWER('SA') THEN
CNMSTTWR 12   '%INCLUDE AOFSTYLE'

MYINCLUD  1 /*%DATA REXX -----

MYINCLUD 13 %> IF TOWER('NPDA') THEN DO;

MYINCLUD 15 function.autotask.MyAutoOp = OPAAA01
MYINCLUD 16 auxInitCmd.BB = MSG SYSOP,NPDA will be activated
MYINCLUD 17 NPDA.W.1 = AL 500
MYINCLUD 18 NPDA.ALCACHE = 500

MYINCLUD 20 %> END;

CNMSTGEN  1 /*%DATA REXX -----

CNMSTGEN 13 %> IF domain() = 'CNM01' THEN /* Never true! Data REXX runs...
CNMSTGEN 14 %>                               /* earlier than resolution of system-sym
CNMSTGEN 15 %>   'STYLEMSG = Illustration only. You will never see this.'

```

図 14. データ REXX ステートメント

注: 表示されるのは、各データ REXX ステートメントの最初の 63 文字のみです。

以下の戻りコードが、CNMECRG によって設定されます。

- 0 正常終了。ファイルが DSIWRIT に作成されました。
- 4 マイナー・エラーが検出されました。ファイルが DSIWRIT に作成されまし
た。
- 8 メジャー・エラーが検出されました。ファイルは DSIWRIT に作成されませ
ん。

ゼロ以外の戻りコードの場合は、CNMSJCRG ジョブ・ログにエラー・メッセージがある可能性があります。

第 8 章 マイグレーションの検査

この章では、インストールした NetView プログラムをテストするための一連のステップを説明します。これらのステップは、示された順序どおり実行してください。

1. VTAM が開始済みであることを確認します。
2. ジョブ CNMPSSI を使用して、NetView サブシステム・アドレス・スペースを開始します。
3. ジョブ CNMPROC を使用して、NetView プログラムを開始します。
4. コマンド・ファシリティにログオンします。
5. NetView のメインメニューから、**HELP** と入力して NetView ヘルプ機能のメインメニューを表示します。
6. **PF3** を 2 度押してコマンド・ファシリティに移動してから、**help** コマンドを実行してコマンド・ファシリティのヘルプ・メニューを表示します。
7. **4** と入力して、コマンド・リストと、ヘルプが存在するコマンド・リストを表示します。
8. **PF3** を 2 回押してコマンド・ファシリティに戻ってから、**WHO** と入力して、セッションについての情報を表示します。
9. すべてのデータが表示されるまで **Enter** キーを押してから、**BR NETLOGA** と入力してアクティブ・ネットワーク・ログを表示します。
10. **PF3** を押してコマンド・ファシリティに戻ってから、**NPDA** コマンドを実行して、ハードウェア・モニターのメインメニューを表示します。
11. **ALERTSH** コマンドを実行して、ハードウェア・モニター・データベースに記録されたアラートのヒストリーを表示します。
12. **PF3** を 2 度押してコマンド・ファシリティに戻ってから、**NLDM** コマンドを実行して、セッション・モニターのメインメニューを表示します。
13. **LIST HISTORY LU** コマンドを実行して、論理装置のヒストリカル・リストを表示します。
14. **PF3** を 2 度押してコマンド・ファシリティに戻ってから、**LOGOFF** コマンドを実行して、オペレーター・セッションを終了します。

これによって、最低限の機能をもつ NetView プログラムのインストールとマイグレーションが完了します。実動で NetView プログラムを実行するには、以下の処置を検討してください。

- V5R3 モジュールがシステムでアクティブであること、および V5R3 VTAMLIB メンバーが VTAM によって使用中であることを確認します。このためには、実動で NetView プログラムを実行する前に、CLPA の IPL が必要になる可能性があります。
- 製品 LPAR 用の VSAM を割り振ります。
- ステータス・モニター・プリプロセッサ CNMNDEF を再実行します。
- VTAM が開始済みであることを確認します。

マイグレーションの検査

- 同じ LPAR で複数の NetView プログラムを実行していた場合には、1 つの NetView プログラムが基本プログラム・オペレーター (PPO) としてセットアップされ、2 番目の NetView が 2 次プログラム・オペレーター (SPO) としてセットアップされていることを確認します。詳細については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: 追加コンポーネントの構成*」の『同一の LPAR における複数の NetView の実行』を参照してください。
- ご使用のシステムに必要なチューニングおよびカスタマイズの作業をすべて完了します。詳しくは、表 33 を参照してください。
- システム自動化のために NetView プログラムを使用する場合は、システムの自動化計画を検討し、すべての新しい操作手順でインプリメンテーションの準備ができていることを確認します。

準備したそれぞれの管理タスクごとに、そのタスクが正しく実行されたことを確認するためのテストをします。結果に問題がなければ、NetView プログラムはフル・プロダクションの準備が完了です。

注: 前のリリースの NetView プログラムのもとで実動を再開する場合は、NetView サブシステム・ジョブを取り消し、V5R3 アプリケーションをクローズしてください。

表 33. インストール、構成、カスタマイズ、およびチューニングの追加情報

必要な情報	参照先
ご使用の環境での NetView の更新	<i>IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: 追加コンポーネントの構成</i>
グラフィックス関連の NetView の更新	<i>IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: グラフィカル・コンポーネントの構成</i>
インストール・システム出口の作成	<i>IBM Tivoli NetView for z/OS Programming: Assembler</i> または <i>IBM Tivoli NetView for z/OS Programming: PL/I and C</i>
コマンド・プロセッサの作成	<i>IBM Tivoli NetView for z/OS Programming: Assembler</i> または <i>IBM Tivoli NetView for z/OS Programming: PL/I and C</i>
Tivoli NetView for z/OS Enterprise Management Agent	<i>IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: Tivoli NetView for z/OS Enterprise Agent の構成</i>

第 9 章 グラフィックスのマイグレーション

この章では、NGMF から NetView 管理コンソール へのマイグレーションを行う場合のステップについて説明します。NGMF サポートが組み込まれていた最後の NetView バージョンは、NetView V1R4 でした。NetView V5R3 は、NGMF サーバーへの NETCONV 接続を許可しません。現行の NGMF ユーザーは、NetView 管理コンソールにアップグレードする必要があります。

また本章では、前のレベルの NetView 管理コンソール から NetView V5R3 NetView 管理コンソール へのマイグレーション方法についても説明しています。

NGMF から NetView Management Console へのマイグレーション

マイグレーションは、NGMF グラフィック・データ・サーバーおよびグラフィック・モニター・ワークステーションから、NetView 管理コンソールのワークステーション (コンソールとサーバーの両方) への置換作業で構成されます。ユーザーが NGMF から NetView 管理コンソール にマイグレーションする場合、GMFHS を変更する必要はありません。

マイグレーションに関するその他の考慮事項は以下のとおりです。

- コンテキスト・メニュー・コマンド定義。

これらには、コマンド・プロファイル・エディターのユーザー定義コマンドと、NGMF から NetView 管理コンソール へのユーザー定義のコマンド・ツリー定義が含まれます。NetView プログラムは、これらのコマンド・ツリー定義をマイグレーションするためのユーティリティを提供しています。このユーティリティの詳細については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS NetView 管理コンソール ユーザーズ・ガイド*」を参照してください。このセクションには、コマンド・プロファイル・エディターでのユーザー定義のコマンドのマイグレーションに関するヒントも記載されています。

- ビューのカスタマイズ。

ビューのカスタマイズはマイグレーションされません。再度、カスタマイズする必要があります。

- NGMF サーバー・ベースのコマンド出口。

これらのコマンド出口は再コーディングおよび再コンパイルして、NetView 管理コンソール サーバーに再インストールする必要があります。

- NGMF クライアント・ベースのコマンド出口。

これらのコマンド出口は、Java で再作成する必要があります。

NetView 管理コンソールのトポロジー・サーバーおよびコンソールのマイグレーション

NetView 管理コンソール トポロジー・サーバーおよびコンソールをマイグレーションする前に、ホストの NetView V5R3 のマイグレーションを完了します。

注: NetView V2R4、 V3R1、V1R1、V1R2、または V1R3 の状況フォーカル・ポイント・ホストをもつ V5R3 トポロジー・サーバー・ワークステーションは、サポートされません。

NetView V5R3 では、NetView 管理コンソール・トポロジー・コンソールと NetView 管理コンソール・トポロジー・サーバー間のフローが一部変更されたため、前のレベルとの互換性がなくなりました。V5R3 レベルのコンソールは、 V5R3 レベルのサーバーのみと通信し、V5R3 レベルのサーバーは、 V5R3 レベルのコンソールのみと通信します。さらに、NetView 管理コンソール用の Java 環境もアップグレードされました。したがって、それぞれのサーバーごとに V5R3 レベルの NetView 管理コンソール・トポロジー・サーバーをインストールし、同時に、そのサーバーと通信するすべてのコンソールに V5R3 レベルの NetView 管理コンソール・トポロジー・コンソールをインストールしなければなりません。

更新された NetView 管理コンソールのインストール・ファイル名のリストについては、表 34 を参照してください。

表 34. NetView 管理コンソールのインストール・ファイル

英語 V5R1	英語 V5R2
duinmccw.exe	nmc_console_windows-5.2.0.0.exe
nmc_console-5.1-0.0.rpm	nmc_console_linux-5.2-0.0.rpm
duinmccs.tar.Z	nmc_console_solaris-5.2.0.0.tar.Z
duinmcsw.exe	nmc_server_windows-5.2.0.0.exe
nmc_server-5.1-0.0.rpm	nmc_server_zlinux-5.2-0.0.rpm
duinmcsa.img	nmc_server_aix-5.2.0.0.img

必要な情報	参照先
NetView 管理コンソール トポロジー・コンソールのマイグレーション	egvread1.me
NetView 管理コンソール トポロジー・サーバーのマイグレーション	egvread2.me

第 10 章 Unattended フィーチャーまたは Procedural フィーチャーのマイグレーション

Tivoli NetView for z/OS V5R1 より、NetView Unattended オプションおよび Procedural オプションは使用できなくなりました。以前に Unattended オプションまたは Procedural オプションを使用して NetView プログラムをインストールした場合は、以下の手順に従って、NetView V5R3 プログラムにマイグレーションしてください (Graphical Enterprise オプション)。

Graphical Enterprise NetView プログラムへのマイグレーションでは、NetView のいずれのグラフィカル機能も実行する必要はありません。ただし、NetView の Graphical Enterprise オプションを活動化するために必要な追加のインストール・ステップがいくつかあります。活動化させる必要のないグラフィカル機能がある場合、その機能にのみ適用されるものとしてマークされている特定のインストール・ステップは、スキップしてかまいません。ただし、ある時点においてグラフィカル機能をアクティブにすることを決定した場合には、必要なすべての設定が完了されているようにこのインストール・ステップを改定する必要があることに留意してください。

表 35 は、NetView V5R3 プログラムにマイグレーションする際に使用可能な新規機能をリストしています。

表 35. 使用可能な新規機能

機能	Procedural	Unattended
GMFHS	•	•
NetView 管理コンソール	•	•
マルチシステム・マネージャー	•	•
SNA トポロジー・マネージャー	•	•
AON		•

RODM は、Unattended および Procedural レベルの NetView で使用可能ですが、大半は、Graphical Enterprise オプションで使用可能なグラフィカル機能によって使用されるため、Unattended または Procedural NetView では活動化されていない可能性があります。

VxRx、NETVIEW.VxRxMx、または NETVIEW.VxRxUSER への参照については、マイグレーションする元の NetView データ・セットおよびリリースを参照してください。

- 7 ページの『第 2 章 マイグレーションの準備』のステップに従ってください。この章では MVS システム、UNIX システム・サービス、および NetView プログラムを準備する上で必要なステップを説明します。
- ユーザーがカスタマイズしたそれぞれの NETVIEW.VxRxUSER データ・セット内の各メンバーを検討します。以下に、マイグレーションに際して考慮する必要のある NETVIEW.VxRxUSER データ・セットを示します。

Unattended または Procedural のマイグレーション

NETVIEW.VxRxUSER.&DOMAIN.DSIPARM

NetView システム定義を定義します。

NETVIEW.VxRxUSER.&DOMAIN.DSIOPF

NetView オペレーター・プロファイルを定義します。

NETVIEW.VxRxUSER.&DOMAIN.SDSIOPEN

無保護のデータ・セット・メンバーを保管します。

NETVIEW.VxRxUSER.&DOMAIN.VTAMLST

サンプル・ネットワーク用の VTAM ソース定義を含みます。

NETVIEW.VxRxUSER.&DOMAIN.SEZLPNLU

ユーザーの変更したパネルを含みます (Procedural からマイグレーションする場合のみ)。

3. ユーザーがカスタマイズしたそれぞれのメンバーごとに、該当するマイグレーションの章に説明されている指示に従って、そのメンバーを V5R3 リリースにマイグレーションする方法を理解するようにしてください。参照するマイグレーションの章は、マイグレーションする元の NetView のリリースによって異なります。以下のリストから、該当するマイグレーションの章を選択してください。

- 25 ページの『第 3 章 Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 3 からのマイグレーション』
- 61 ページの『第 4 章 Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 4 からのマイグレーション』

マイグレーションの章にリストされているメンバーのすべてが、マイグレーション元の Unattended または Procedural NetView プログラムにあてはまるわけではありません。

4. 以下の手順およびマイグレーションの章に記載されている指示を使用して、カスタマイズ済みの VxRx メンバーをマイグレーションします。ユーザーのカスタマイズしたメンバーに該当する情報がマイグレーションの章にない場合には、ユーザーのカスタマイズしたメンバーを、対応する NETVIEW.V5R3M0 データ・セット内の同じメンバーと比較してください。

注:

- a. カスタマイズ済みメンバーが、マイグレーションの章にも、NETVIEW.V5R3M0 データ・セット内にもない場合、そのメンバーは V5R3 から削除されている可能性があります。以下の付録で、削除されたサンプルの情報を参照してください。

- 161 ページの『付録 A. Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 3 から Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 4 への変更』
- 179 ページの『付録 B. Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 4 から Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 1 への変更』

さらに、一部の NetView 定義メンバー (例えば、DSICMD および DSIOPF) の %INCLUDE 構造が変更されている場合もあります。%INCLUDE メンバーが、ご使用のリリースから、NetView V5R3 プログラムで名前変更されている場合もあります。

- b. Vx Rx サンプル・メンバーに大幅な変更が加えられている場合には、新規の V5R3 サンプル・メンバーを使用してください。

- c. V5R3 メンバーにデータ REXX ロジックが組み込まれている場合は、サンプル・メンバーの V5R3 コピーを使用し、CNMSTYLE %INCLUDE メンバー CNMSTUSR または CxxSTGEN 内の対応するステートメントを更新して、カスタマイズ内容を反映します。データ REXX サンプル・メンバーは変更しないでください。

データ REXX ファイルは、/* %DATA */ または /* %LOGIC */ ステートメントで始まります。

- d. NETVIEW.VxRxUSER サンプル・メンバーが、カスタマイズ部分をのぞき NETVIEW.V5R3M0 サンプル・メンバーと同じである場合、NETVIEW.VxRxUSER メンバーを NETVIEW.V5R3USER データ・セットにコピーします。
5. カスタマイズしたすべての VxRx サンプル・メンバーのマイグレーションを完了したら、125 ページの『第 7 章 NetView の開始準備』に進んでください。この章では、NetView プログラムを構成および開始するための詳しい指示を提供しています。
6. 143 ページの『第 8 章 マイグレーションの検査』を使用して、マイグレーションをテストします。

マイグレーションを完了した後、使用可能な新規機能のいくつかを活動化させることができます。AON のインプリメントに関する詳細は、「*IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: 追加コンポーネントの構成*」を参照してください。グラフィックス機能のインプリメントについては、「*IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: グラフィカル・コンポーネントの構成*」を参照してください。NetView グラフィックス機能は、RODM、GMFHS、マルチシステム・マネージャー、SNA トポロジーマネージャー、および NetView 管理コンソールから構成されています。

第 11 章 NetView システム・サービスのマイグレーションに関する考慮事項

注: z/OS v1r8 以降、このセクションはサポートされなくなりました。

NetView システム・サービスとは、z/OS V1R2 以降に付属する Tivoli NetView for OS/390 V1R4 FMID を指します。

NetView V5R3 の基本 FMID と、z/OS に NetView システム・サービス (NVSS) として付属しているものとの間には類似性がありますが、それらが実行される 2 つの環境は異なります。この理由のため、これらのうちの一方を、もう一方の代わりとして用いることはできません。

NetView プログラムは、以下の 2 つの方法でインストールできます。

- 新規の NetView プログラムを、msys for Operations が存在するものと同じ SMP/E ゾーンにインストールする。155 ページの表 36 にリストされているすべての指示を読んでこれに従い、マイグレーション済み情報を別個の USER データ・セットに (SMP/E のインストールを行う前に) 保管してください。このインストールについての詳細は、『同じ SMP/E ゾーンへの NetView プログラムのインストール』を参照してください。
- 新規の NetView を別個の SMP/E ゾーンにインストールする。この方法では、古いシステム情報のマイグレーション中に古い作業システムを使用できるので、マイグレーションの時間を取ることができます。この方法を推奨します。

NetView プログラムを SMP/E ゾーンにインストールした後、NetView プログラムをフル機能にするため、必要に応じて NetView 定義を更新します。詳細については、「IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: 概説」および 155 ページの表 36 を参照してください。

同じ SMP/E ゾーンへの NetView プログラムのインストール

NetView プログラムを、msys for Operations が存在するのと同じ SMP/E ゾーンにインストールした場合は、SMP/E 受信の実行後に以下の手順を完了してください。

ステップ 1. SMP/E ターゲット・ライブラリーと配布ライブラリーを割り振ります。整合性を保つため、NETVIEW.V1R4M0 のデータ・セットと一致するように、これらのデータ・セットを割り振ってください。詳しくは、NetView プログラム・ディレクトリーを参照してください。

ステップ 2. DD 定義を作成します。

JCL ジョブを作成するか、SMP/E パネルを使用してターゲット・ゾーン・データ・セット (配布ライブラリーを含む) と配布ゾーン・データ・セットの DD 定義を作成することができます。

ターゲット・ゾーン・データ・セットには、以下のものが含まれます。

DD 名	データ・セット名
ACNMAGNT	netview.v5r3m0.ACNMAGNT
ACNMUXCL	netview.v5r3m0.ACNMUXCL
ACNMUXLK	netview.v5r3m0.ACNMUXLK
ACNMUXMS	netview.v5r3m0.ACNMUXMS
CSSLIB	ご使用システムによって異なります
SCEELKED	ご使用システムによって異なります
SCNMAGNT	netview.v5r3m0.SCNMAGNT
SCNMLNKN	netview.v5r3m0.SCNMLNKN
SCNMPLIB	netview.v5r3m0.SCNMPLIB
SCNMUXCL	netview.v5r3m0.SCNMUXCL
SCNMUXLK	netview.v5r3m0.SCNMUXLK
SCNMUXMS	netview.v5r3m0.SCNMUXMS
SEZACMTX	ご使用システムによって異なります
SEZADPIL	netview.v5r3m0.SEZADPIL
SISPLOAD	ご使用システムによって異なります

配布ゾーン・データ・セットには、以下のものが含まれます。

DD 名	データ・セット名
ACNMAGNT	netview.v5r3m0.ACNMAGNT
ACNMUXCL	netview.v5r3m0.ACNMUXCL
ACNMUXLK	netview.v5r3m0.ACNMUXLK
ACNMUXMS	netview.v5r3m0.ACNMUXMS
CSSLID	ご使用システムによって異なります
SCEELKED	ご使用システムによって異なります
SEZACMTX	ご使用システムによって異なります
SEZADPIL	ご使用システムによって異なります

ステップ 3. 階層ファイル・システム (HFS) データ・セットを割り振ります。

NetView UNIX システム・サービス・コードを既存の HFS データ・セットにインストールしないよう選択した場合は、NetView Enterprise UNIX システム・サービス・コードを保持するために HFS データ・セットを割り振ります。以下の JCL 例を使用できます。

```
//CNMALOCE JOB *** location specific information***
//*****
/** ALLOCATE A TARGET HFS DATASET TO MOUNT IN YOUR z/390 **
/** UNIX SYSTEM SERVICES ENVIRONMENT. **
/** ALLOCATE A TARGET HFS DATASET TO INSTALL YOUR NETVIEW **
/** CODE INTO **
//*****
```

```
//ALLOC2 EXEC PGM=IEFBR14
//HFS001 DD DSN=hhhhhh.NETVIEW.V5R3E.HFS, <== TARG HFS DATASET
// UNIT=SYSALLDA, <== HFS UNIT TYPE
// VOL=SER=dddddd, <== HFS SMS-MANAGED VOLSER
// SPACE=(CYL,(10,50,0)),
// DCB=(DSORG=PO),
// DISP=(NEW,CATLG),
// DSNTYPE=HFS,
// STORCLAS=CLASSE <== STORAGE CLASS
```

ステップ 4. 階層ファイル・システム (HFS) マウント・ポイント・ディレクトリーを作成します。

NETVIEW.V5R3M0.INSTALL の CNMJMKPE ジョブにより、HFS マウント・ポイント・ディレクトリー、*<path prefix>/usr/lpp/netview/* が作成されます。これは、ステップ 3 (152 ページ) で割り振ったターゲット HFS データ・セットをマウントするために使用されます。CNMJMKPE はスーパーユーザー権限 (例えば、ROOT) を持つユーザー ID で実行する必要があります。また、z/OS の UNIX システム・サービス・コンポーネントがアクティブでなければなりません。

注:

- CNMJMKPE は、*<path prefix>/usr/lpp/* ディレクトリーがすでに存在していることを前提とします。これらのディレクトリーが存在しない場合は、*<path prefix>/usr/lpp/* ディレクトリーを手動で作成してから、CNMJMKPE を実行依頼してください。
- NetView V5R3 に付属するデフォルトの *<path prefix>* 値はヌルです。UNIX システム・サービスのパス名には大/小文字の区別があることに留意してください。

CNMJMKPE ジョブを実行します。ゼロの戻りコードを受信すると、このジョブは成功したと考えられます。

ステップ 5. ターゲットの階層ファイル・システム (HFS) データ・セットをマウントします。NetView プログラムを z/OS で提供された既存の HFS データ・セットにインストールする場合は、ステップ 6 (154 ページ) に進んでください。

このリリースの新規 HFS を割り振り済みの場合は、ターゲットの HFS データ・セットをマウントします。以下の TSO/E コマンドを使用して、ステップ 3 (152 ページ) で割り振ったターゲット HFS データ・セットをマウント・ポイント・ディレクトリーにマウントします。

```
MOUNT FILESYSTEM('hhhhhh.NETVIEW.V5R3E.HFS')
MOUNTPPOINT('<path prefix>/usr/lpp/netview/')
TYPE(HFS) MODE(RDWR)
```

'hhhhhh.NETVIEW.V5R3E.HFS' はターゲット HFS データ・セットの名前で、*<path prefix>* は高位ディレクトリー名です。ターゲット HFS データ・セットは必ず、読み取り/書き込みモードでマウントします。プログラム・ディレクトリーのステップを完了した後、インストールしたデータを保護するため、読み取り専用モードでターゲット HFS データ・セットを再度マウントします。このコマンドはスーパーユーザー権

限 (例えば、ROOT) をもつユーザー ID で実行する必要があります。
また、z/OS の UNIX システム・サービス・コンポーネントがアクティブでなければなりません。

注: ターゲット・システムを再 IPL した場合は、ターゲット HFS データ・セットを再マウントするため、このコマンドを再度入力します。IPL プロセス中にターゲット HFS データ・セットを自動的にマウントするには、SYS1.PARMLIB の BPXPRMxx メンバーを変更します。BPXPRMxx メンバーの変更方法については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: 概説*」で説明しています。

ステップ 6. 階層ファイル・システム (HFS) ディレクトリーを作成します。

NetView V5R3 の場合は、NETVIEW.V5R3M0.INSTALL 内のサンプル CNMJMKXE を編集し、実行依頼します。これにより、UNIX システム・サービス関連コンポーネント用の HFS ディレクトリーが NetView に作成されます。CNMJMKXE はスーパーユーザー権限 (例えば、ROOT) を持つユーザー ID で実行し、z/OS の UNIX システム・サービス・コンポーネントはアクティブでなければなりません。

CNMJMKXE ジョブを実行します。ゼロの戻りコードを受信すると、このジョブは成功したと考えられます。

ステップ 7. DD 定義パスを作成します。JCL ジョブを作成するか、SMP/E パネルを使用して、以下のパス用の DD 定義を作成することができます。

- /usr/lpp/netview/v5r3/bin
- /usr/lpp/netview/v5r3/lib
- /usr/lpp/netview/v5r3/mibs
- /usr/lpp/netview/v5r3/samples
- /usr/lpp/netview/v5r3/samples/properties

ステップ 8. SMP/E のインストールを継続するには、「*Program Directory for IBM Tivoli NetView for z/OS*」の SMP/E APPLY セクションを参照してください。

注: SMP/E APPLY 出力で、データ・セットの削除中であることを示すメッセージ GIM22401I を複数回受け取る場合があります。次に、メッセージ例を示します。

```
GIM22401I      LMOD EZLSTRAC WAS DELETED FROM THE SMPLTS LIBRARY
```

このメッセージは、旧の NVSS 1.4 メンバーが削除されるために出されます。ゼロの戻りコードを受け取った場合、APPLY は成功です。

NetView プログラムを SMP/E ゾーンにインストールした後の考慮事項

155 ページの表 36 は、NetView システム・サービスがインストールされた環境に NetView V5R3 をインストールする場合のその他の考慮事項です。この例では、System Automation for OS/390 高位修飾子が ING であること、および NetView V5R3 データ・セット名の接頭部が NETVIEW.V5R3M0 であることを前提とします。

表 36. その他の考慮事項

インストール・トピック	考慮事項
MVS システムの準備	NetView 用の言語処理 (REXX) 環境の最大数の変更 システムが NetView アドレス・スペース用に初期化する言語処理プログラム環境の最大数を増やします。 メンバー PROG_{xx} (または LNK_{xx} および IEAAPF_{xx}) の更新 • ING.SINGMOD2 を LNK_{xx} 連結に追加する • ING.SINGMOD1 を許可する • ING.SINGMOD2 を許可する メンバー MPFLST_{xx} の更新 MPFLST 情報を新規システムにマイグレーションします。詳細については、「<i>z/OS Msys (Managed System Infrastructure) for Operations: 設定と使用の手引き</i>」を参照してください。 メンバー IEFSSN_{xx} の更新 System Automation for OS/390 で提供されているプロシージャー INGNVAP0 を使用する場合は、ING が IEFSSN_{xx} に追加されていることを確認します。NetView V5R3 で提供されているプロシージャー CNMSJ009 を使用する場合は、「<i>IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: 概説</i>」の説明に従って IEFSSN_{xx} を更新します。 メンバー COUPLE_{xx} の更新 カップリング・ファシリティーを使用する場合、新規システムに情報をマイグレーションします。詳細については、「<i>z/OS Msys (Managed System Infrastructure) for Operations: 設定と使用の手引き</i>」を参照してください。 プロシージャー INGP_{xx} および INGP_{xx} の使用 プロシージャー INGP_{xx} および INGP_{xx} を使用する場合は、それらのプロシージャーを新規システム上のプロシージャー・ライブラリーにコピーします。詳細については、「<i>z/OS Msys (Managed System Infrastructure) for Operations: 設定と使用の手引き</i>」を参照してください。

表 36. その他の考慮事項 (続き)

インストール・トピック	考慮事項
NetView の準備	ジョブ CNMSJ000 を使用したドメインおよびサブエリア番号の変更 既存の始動プロシージャー INGNVAP0 の使用を計画している場合は、ステップ CHGSAMP2 をジョブ CNMSJ000 から除去するか、コメント化して、このステップで NetView サンプルがコピーされないようにしてください。(これには、 // PEND ステップまで (ただし、このステップ自体は含まない) の行のコメントの解除または行の削除が含まれます)。NetView V5R3 で提供されているプロシージャー CNMSJ009 の使用を計画している場合は、「IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: 概説」の説明に従ってジョブ CNMSJ000 を実行します。 ジョブ CNMSJ004 を使用した VSAM クラスターの割り振り ジョブ CNMSJ004 の実行に加え、次のジョブを使用して STATS VSAM データ・セットを割り振ります。 <pre>//INGALLC0 JOB *** location specific information *** //STEP1 EXEC PGM=IDCAMS //SYSPRINT DD SYSOUT=* //SYSIN DD * /* DELETE (netview.cnm01.STATS) PURGE CLUSTER */ DEF CLUSTER(NAME(netview.cnm01.STATS) - VOL(dddddd) - KEYS(20 0) - RECSZ(252 252) - FSPC(0 0) - SHR(2) - CISZ(512) - INDEXED - REUSE - IMBED) - DATA - (NAME(netview.cnm01.STATS.DATA) - CYL(2 0)) - INDEX - (NAME(netview.cnm01.STATS.INDEX) - TRK(2 0)) //</pre>
VTAM の準備	必要に応じて、msys for Operations 用に行ったすべての VTAM カスタマイズが、新規システムに移動されていることを確認します。

表 36. その他の考慮事項 (続き)

インストール・トピック	考慮事項
INGVAP0 (msys for Operations 用。完全な NetView プログラムではない) を使用した NetView の開始準備	NetView 始動プロシージャ (INGNVAP0) の更新 完全な NetView プログラムは使用しないで、msys for Operations のみの使用を計画している場合は、(NetView プロシージャ CNMPROC を更新する代わりに) INGNVAP0 プロシージャを以下のように変更してください。 - ドメイン SQ1、SQ3 (異なる場合)、および VQ1 を更新または変更します。 &SQ1.SEKGPNL1 の DD ステートメントを除去します。 - 以下の DD ステートメントについて、次に示すように &SQ1 および &VSQ1 の高位修飾子を NETVIEW に変更します。 <pre>//DSILOGP DD DSN=NETVIEW.&DOMAIN..DSILOGP, // DISP=SHR,AMP='AMORG,BUFNI=20,BUFND=20' //DSILOGS DD DSN=NETVIEW.&DOMAIN..DSILOGS, // DISP=SHR,AMP='AMORG,BUFNI=20,BUFND=20' //DSITRCP DD DSN=NETVIEW.&DOMAIN..DSITRCP, // DISP=SHR,AMP=AMORG //DSITRCS DD DSN=NETVIEW.&DOMAIN..DSITRCS, // DISP=SHR,AMP=AMORG //BNJLGPR DD DSN=NETVIEW.&DOMAIN..BNJLGPR, // DISP=SHR,AMP='AMORG' //BNJLGSE DD DSN=NETVIEW.&DOMAIN..BNJLGSE, // DISP=SHR,AMP='AMORG' //DSISVRT DD DSN=NETVIEW.&DOMAIN..DSISVRT, // DISP=SHR,AMP=AMORG //AOFSTAT DD DSN=NETVIEW.&DOMAIN..STATS, // DISP=SHR,AMP=AMORG</pre> 注: 日本語版の NetView プログラムをインストールする場合は、INGNVAP0 に対して以下の追加更新を行ってください。 - STEPLIB を更新します (SCNMMJPN の追加)。 <pre>//STEPLIB DD DSN=&SQ3..SINGMOD1,DISP=SHR // DD DSN=&SQ3..SINGMOD2,DISP=SHR // DD DSN=&SQ1..SCNMMJPN,DISP=SHR // DD DSN=&SQ1..CNMLINK,DISP=SHR</pre> - BNJPNL1 を更新します (BNJPNL1 の代わりに SBNJPNL3 を使用)。 <pre>//*BNJPNL1 DD DSN==&SQ1..BNJPNL1,DISP=SHR //BNJPNL1 DD DSN=&SQ1..SBNJPNL3,DISP=SHR</pre> - CNMPNL1 を更新します (SCNMPNL2 の追加)。 <pre>//CNMPNL1 DD DSN=&VQ1..&DOMAIN..CNMPNL1,DISP=SHR // DD DSN=&SQ3..SINGPNL,DISP=SHR // DD DSN=&SQ1..SCNMPNL2,DISP=SHR // DD DSN=&SQ1..CNMPNL1,DISP=SHR</pre>

表 36. その他の考慮事項 (続き)

インストール・トピック	考慮事項
CNMPROC (完全な NetView プログラム用) を使用した NetView の開始準備	NetView 始動プロシージャ (CNMPROC) の更新 完全な NetView プログラムの使用を計画している場合は、CNMPROC (CNMSJ009) を以下のように変更してください。 CNMPROC (CNMSJ009) は、インストール時に (ジョブ CNMSJ003)、区分データ・セットをロードしたときに PROCLIB にコピーされています。 • REG=64000 を指定して、領域サイズを増やします。 • 変数 &SQ3='ING' を定義します。 • STEPLIB を更新します。 <pre>//STEPLIB DD DSN=&SQ3..SINGMOD1,DISP=SHR // DD DSN=&SQ3..SINGMOD2,DISP=SHR // DD DSN=&SQ1..CNMLINK,DISP=SHR</pre> • DSICLD を更新します。 <pre>//DSICLD DD DSN=&SQ3..SINGNREX,DISP=SHR // DD DSN=&SQ1..CNMCLST,DISP=SHR // DD DSN=&Q1..&DOMAIN..CNMSAMP,DISP=SHR // DD DSN=&SQ1..CNMSAMP,DISP=SHR // DD DSN=SYS1.PROCLIB,DISP=SHR</pre> • DSIPARM を更新します。 <pre>//DSIPARM DD DSN=&Q1..&DOMAIN..DSIPARM,DISP=SHR // DD DSN=&SQ3..SINGNPRM,DISP=SHR // DD DSN=&SQ1..DSIPARM,DISP=SHR</pre> • DSIPRF を更新します。 <pre>//DSIPRF DD DSN=&Q1..&DOMAIN..DSIPRF,DISP=SHR // DD DSN=&SQ3..SINGNPRF,DISP=SHR // DD DSN=&SQ1..DSIPRF,DISP=SHR</pre> • DSIMSG を更新します。 <pre>//DSIMSG DD DSN=&SQ3..SINGMSG,DISP=SHR // DD DSN=&SQ1..SDSIMSG1,DISP=SHR</pre> • CNMPNL1 を更新します。 <pre>//CNMPNL1 DD DSN=&Q1..&DOMAIN..CNMPNL1,DISP=SHR // DD DSN=&SQ3..SINGPNL,DISP=SHR // DD DSN=&SQ1..CNMPNL1,DISP=SHR</pre> • AOFSTAT の定義を追加します。 <pre>//AOFSTAT DD DSN=&VQ1..&DOMAIN..STATS, // DISP=SHR,AMP=AMORG</pre> 注: 日本語版の NetView プログラムをインストールする場合は、CNMPROC に対して以下の追加更新を行ってください。 • STEPLIB を更新します (SCNMMJPN の追加)。 <pre>//STEPLIB DD DSN=&SQ3..SINGMOD1,DISP=SHR // DD DSN=&SQ3..SINGMOD2,DISP=SHR // DD DSN=&SQ1..SCNMMJPN,DISP=SHR // DD DSN=&SQ1..CNMLINK,DISP=SHR</pre> • BNJPNL1 を更新します (BNJPNL1 の代わりに SBNJPNL3 を使用)。 <pre>//*BNJPNL1 DD DSN=&SQ1..BNJPNL1,DISP=SHR //BNJPNL1 DD DSN=&SQ1..SBNJPNL3,DISP=SHR</pre> • CNMPNL1 を更新します (SCNMPNL2 の追加)。 <pre>//CNMPNL1 DD DSN=&Q1..&DOMAIN..CNMPNL1,DISP=SHR // DD DSN=&SQ3..SINGPNL,DISP=SHR // DD DSN=&SQ1..SCNMPNL2,DISP=SHR // DD DSN=&SQ1..CNMPNL1,DISP=SHR</pre>

表 36. その他の考慮事項 (続き)

インストール・トピック	考慮事項
NetView の開始準備 (続き)	CNMSTYLE の更新 「IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: 概説」を参照してください。 注: 完全な NetView プログラムではなく、msys for Operations のみの使用を計画している場合は、以下の更新を行ってください。 • CNMSTYLE から CNMSTUSR または CxxSTGEN へ以下のステートメントをコピーし、適切な変更を行ってください。 – DOMAIN ステートメントを以下に変更します。 DOMAIN=&DOMAIN – NetID ステートメントをコメント化します。 *NetID =&CNMNETID – SIIname ステートメントを以下に変更します。 SSIname = &DOMAIN.SIR – System Automation の使用を許諾されている場合は、TOWER ステートメントの SA の前にあるアスタリスクを除去して、SA を組み込むように TOWER ステートメントを変更します。 TOWER = SA *AON *MSM *Graphics MVScmdMgt NPDA NLDM TCIPCOLLECT *AMI *TARA *DVIPA *TEMA また、APAR OA10721 を適用して、メンバー INGCMD に SA/390 コマンド定義を提供します。これらのコマンド定義は、メンバー AOFCMD0 を置換します。既存の NetView 環境に AOFCMD0 が含まれている場合は、NetView 初期化中の競合を避けるために、AOFCMD0 に対する参照をすべて除去してください。 注: 日本語版の NetView プログラムをインストールする場合は、DSIKANJI を使用するように transTbl ステートメントを更新し、以下に示すように transMember ステートメントをアンコメントします。 <pre>*transTbl = DSIEBCDC transTbl = DSIKANJI transMember = CNMTRMSG</pre> CNMTRMSG の更新 日本語版の NetView プログラムをインストールする場合は、メンバー CNMMSJPN を組み込むようにデータ・セット SDSIMSG1 のメンバー CNMTRMSG を更新してください。 <pre>%INCLUDE CNMMSJPN</pre> セキュリティ定義の更新 必要に応じて、セキュリティ定義が新規システムに移動されていることを確認します。 AOFCUST のマイグレーション カスタマイズした AOFCUST を、DSIPARM のユーザー・データ・セットにマイグレーションします。詳細については、「z/OS Msys (Managed System Infrastructure) for Operations: 設定と使用の手引き」を参照してください。
NetView の活動化	ジョブ CNMNET を使用した VTAM の開始 「IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: 概説」を参照してください。 ジョブ CNMPROC を使用した NetView プログラムの開始 直前のセクションで更新した PROC を使用してください。 注: msys for Operations のみを使用し、完全な NetView V5R3 の使用は計画していない場合には、ジョブ CNMPSSI を使用しての NetView サブシステム・アドレス・スペースの開始は行わないでください。

表 36. その他の考慮事項 (続き)

インストール・トピック	考慮事項
インストールの検査	• msys for Operations が作動可能であるかどうかを検査します。 • NetView V5R3 が作動可能であるかどうかを検査します。詳細については、「<i>IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: 概説</i>」を参照してください。 注: msys for Operations のみを使用し、完全な NetView V5R3 の使用は計画していない場合には、msys for Operations が作動可能であるかどうかのみを検査します。

追加の機能の使用可能化については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: 追加コンポーネントの構成*」および「*IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: グラフィカル・コンポーネントの構成*」を参照してください。

別の NetView プログラムを、ここでインストールした NetView プログラムと同じロジカル・パーティション (LPAR) で実行するには、「*IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: 追加コンポーネントの構成*」を参照してください。

Tivoli NetView for z/OS Enterprise Management Agent の詳細については、「*IBM Tivoli NetView for z/OS インストール: Tivoli NetView for z/OS Enterprise Agent の構成*」を参照してください。

付録 A. Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 3 から Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 4 への変更

この付録は、新規、変更、および削除された、以下の内容をリストしています。

- 『ヘルプ・パネル』
- 162 ページの『コマンド・リスト』
- 163 ページの『メッセージ』
- 175 ページの『サンプル』

注: このセクションのリストは、左から右へ英字順で記載されています。

ヘルプ・パネル

このセクションには、マイグレーションの考慮事項に関連する新規、変更、および削除されたヘルプ・データ・セット・メンバーがリストされています。

- 『新規ヘルプ・パネル』
- 『変更されたヘルプ・パネル』
- 『削除されたヘルプ・パネル』

新規ヘルプ・パネル

CNMKNLOR

変更されたヘルプ・パネル

CNM0DIAY	CNM0STRT	CNM1NCS2	CNM1NCS3
CNM1NETV	CNM1OVE2	CNM1OVER	CNM2CON2
CNM5HC1B	CNM5HCCL	CNM5HF01	CNM5HF02
CNM5HF06	CNM5MSG5	CNM5O000	CNM5O001
CNM5O002	CNM5O003	CNMHTCOM	CNMHTCPY
CNMHTHDR	CNMHTSC	CNMKHECO	CNMKMOFY
CNMKNCCF	CNMKNCSC	CNMKNEEW	CNMKNLSC
CNMKNLUD	CNMKNPDA	CNMKVARY	CNMKVTCO
CNMNNODE			

削除されたヘルプ・パネル

CNM1OVE3 CNM2NETV CNM9BRW3

コマンド・リスト

このセクションには、マイグレーションの考慮事項に関連する新規、変更、および削除されたコマンド・リストがリストされています。

- 『新規コマンド・リスト』
- 『変更されたコマンド・リスト』
- 『削除されたコマンド・リスト』

新規コマンド・リスト

CNMELSTW	CNMEOUTS	CNMESTYL	CNMEVTAM
----------	----------	----------	----------

変更されたコマンド・リスト

CNME0039	CNME0040	CNME0041	CNME0042
CNME0043	CNME0045	CNME0046	CNME0047
CNME0048	CNME0049	CNME1003	CNME1006
CNME1008	CNME1010	CNME1015	CNME1016
CNME1019	CNME1020	CNME1021	CNME1022
CNME1024	CNME1026	CNME1027	CNME1031
CNME1032	CNME1033	CNME1034	CNME1036
CNME1048	CNME1049	CNME1050	CNME1054
CNME1057	CNME1066	CNME1080	CNME1081
CNME1082	CNME1083	CNME1087	CNME1089
CNME1092	CNME1095	CNME1096	CNME1097
CNME1099	CNME1100	CNME1101	CNME1103
CNME1104	CNME1105	CNME1500	CNME1502
CNME1504	CNME1505	CNME2007	CNME2008
CNME2009	CNME2010	CNME2012	CNME2103
CNME3024	CNME5001	CNME5002	CNME5003
CNME7023	CNME8004	CNME9505	CNMESTSO
CNMETDHB	CNMETDIN	CNMETSO	EZLE1FWD
EZLE1I01	EZLE1I02	EZLE1I03	EZLE1I04
EZLE1I05	EZLE1I07	EZLE1IGT	EZLE1INTF
EZLE1REQ	EZLE1RGT	EZLE1RUT	EZLE1UFW
EZLE1XMN	EZLEAAT4	EZLEAAT5	EZLEACG4
EZLEACGL	EZLEAINT	EZLEARFR	EZLEAXST
EZLEHBLD	FLCAPMHB	FLCAPMVR	

削除されたコマンド・リスト

CNME1088	CNME7007	CNME7013	CNME7014
CNME7015	CNME7025	EZLEACG1	EZLEANTL

メッセージ

このセクションには、マイグレーションの考慮事項に関連する新規、変更、および削除されたメッセージがリストされています。

- 『新規メッセージ』
- 173 ページの『変更されたメッセージ』
- 175 ページの『削除されたメッセージ』

新規メッセージ

BNH139E	<i>operid</i> SAF ユーザー・プロファイルから <i>segname</i> セグメント・データを取り出すときに、予期しない SAF エラーが発生しました。 (Unexpected SAF error extracting <i>segname</i> segment data from <i>operid</i> SAF user profile.)
BNH140I	タスク <i>task_ID</i> に対するワークロード管理サービス <i>WLM_service</i> が失敗しました。(WorkLoad Management service <i>WLM_service</i> failed for task <i>task_ID</i>)
BNH141E	PPI REQUEST ISSUED FROM NETVIEW MVS COMMAND EXIT FAILED. TYPE= <i>reqtype</i> , RC= <i>rc</i>
BNH142I	MVS COMMAND MANAGEMENT IS SET TO <i>mode</i>
BNH143I	MVS COMMAND SENT TO NETVIEW: <i>command</i>
BNH144I	MVS COMMAND IGNORED BY NETVIEW. REASON: <i>reason</i> . COMMAND: <i>command</i>
BNH145E	KEYWORD 'CNMCAUT' HAS INVALID SUFFIX OR VALUE: <i>value</i>
BNH146I	NETVIEW MVS COMMAND EXIT AND PARAMETER LIST ARE INCOMPATIBLE
BNH175I	<i>oper_id</i> SAF ユーザー・プロファイルで <i>seg_name</i> セグメントが検出されませんでした。(The <i>seg_name</i> segment was not found in the <i>oper_id</i> SAF user profile.)
BNH176I	<i>opid</i> SAF NETVIEW セグメント・データの表示。(Display of <i>opid</i> SAF NETVIEW segment data.)
BNH177I	<i>opid</i> SAF BASE セグメント・データの表示。(Display of <i>opid</i> SAF BASE segment data.)
BNH178I	<i>opid</i> SAF OMVS セグメント・データの表示。(Display of <i>opid</i> SAF OMVS segment data.)
BNH179I	<i>opid</i> SAF LANGUAGE セグメント・データの表示。(Display of <i>opid</i> SAF LANGUAGE segment data.)
BNH293I	NETVIEW CNMCAUT MODE IS <i>mode</i> , PARMLIB MEMBER LOADED is <i>member</i>
BNH294I	NETVIEW MVS COMMAND EXIT IS LOADING PARMLIB MEMBER: <i>member</i>
BNH330I	NO SAF <i>operid</i> USER FOUND.

BNH358I	CI CHANGE <i>slot_values</i> .
BNH359I	SYS MONITOR <i>slot_values</i> .
BNH371E	LOADING OF PARMLIB MEMBER <i>member</i> FAILED
BNH372E	PARMLIB MEMBER <i>member</i> NOT FOUND
BNH373E	I/O ERROR ENCOUNTERED WHILE READING PARMLIB
BNH374E	ERROR ENCOUNTERED WHILE OPENING PARMLIB
BNH377E	ALLOCATION OF A LOGICAL PARMLIB DATA SET FAILED
BNH378E	LOGICAL PARMLIB DATA SET CONCATENATION FAILED
BNH379E	LOAD OF THE PARMLIB READ ROUTINE FAILED
BNH388E	PARMLIB READER UNABLE TO ACCESS LOGICAL PARMLIB
BNH389E	NETVIEW MVS COMMAND EXIT ENCOUNTERED ERROR ISSUING IEFPRMLB
BNH390I	PARMLIB READ BUFFER BEING MADE LARGER
BNH391E	PARMLIB DID NOT CLOSE
BNH392E	PARMLIB DID NOT UNALLOCATE
BNH393E	SYNTAX ERROR IN CONSOLE EXCLUSION OR INCLUSION LIST STATEMENT
BNH394I	<i>type1 type2</i> REQUESTED
BNH395I	'statement'
BNH396E	<i>type</i> EXCLUSION AND INCLUSION LISTS ARE MUTUALLY EXCLUSIVE
BNH397E	STATEMENT TYPE NOT RECOGNIZED
BNH398I	NO VALID CONSOLE OR COMMAND STATEMENTS FOUND IN PARMLIB MEMBER <i>member</i>
BNH399E	EXCLUDED/INCLUDED COMMAND TEXT IS TOO LONG
BNH475I	VTAM ACB MONITOR ACTIVATION IN PROGRESS.
BNH476I	VTAM ACB MONITOR ENTRY POINT <i>entry_point</i> ACTIVATION IN PROGRESS.
BNH477I	VTAM ACB MONITOR ACTIVATED ON DOMAIN <i>domain</i> .
BNH478I	VTAM ACB MONITOR INITIAL REPORTING COMPLETE FOR CP <i>cpname</i> .
BNH479E	VTAM ACB MONITOR <i>command</i> ERROR, REASON <i>reason_code</i> .
BNH480E	ERROR ACTIVATING VTAM ACB MONITOR ENTRY POINT <i>entry_point</i> , REASON <i>reason_code</i> .
BNH481E	INVALID VALUE <i>value</i> FOR VTAM ACB MONITOR CONFIGURATION KEYWORD <i>keyword</i> .
BNH482I	VTAM ACB MONITOR TERMINATION IN PROGRESS FOR DOMAIN <i>domain</i> .

BNH483I	VTAM ACB MONITOR TERMINATION COMPLETE FOR DOMAIN <i>domain</i> .
BNH484W	DUPLICATE VTAM APPL <i>appl</i> DISCOVERED ON CP <i>cname</i> .
BNH485I	VTAM ACB MONITOR STATUS UPDATE DATA.
BNH486I	VTAM ACB MONITOR REPORTING SET TO MONITOR= <i>monitor_value</i> SESCT= <i>sesct_value</i> FOR RESOURCE <i>resource_name</i> ON CP <i>cname</i> .
BNH487I	AMONRPT COMMAND COMPLETE.
BNH488E	SPECIFY APPL, GNAME, OR MODEL KEYWORD.
BNH489E	MODIFY RESOURCE COMMAND FAILED FOR <i>resource_name</i> ON CP <i>cname</i> .
BNH491E	MONITOR=NO AND SESCT=YES COMBINATION IS INVALID.
BNH492I	TN3270E CLIENT APPL <i>applname</i> IP ADDRSS <i>ipaddress</i> IPPORT <i>ipport</i> HOSTNAME <i>hostname</i> ON CP <i>cname</i> TCP STACK <i>jobname</i>
BNH493I	LOCATE TN3270E CLIENTS COMPLETE.
BNH494I	NO MATCHING TN3270E CLIENTS FOUND, REASON= <i>reason_code</i> .
BNH556I	' <i>taskname1</i> ' IS WAITING FOR ' <i>taskname2</i> ' TO CLOSE ' <i>resource</i> '
BNH561E	IEFPRMLB ALLOCATE ISSUED BY NETVIEW MVS COMMAND EXIT FAILED. RC= <i>rc</i> , REASON CODE= <i>reason</i>
BNH562E	IEFPRMLB FREE ISSUED BY NETVIEW MVS COMMAND EXIT FAILED. RC= <i>rc</i> , REASON CODE= <i>reason</i>
BNH563I	NETVIEW CNMCAUT PARMLIB PROCESSING IS BUSY. PLEASE TRY AGAIN LATER.
BNH564E	CONTINUATION LINE MISSING FOR COMMAND
BNH565E	NETVIEW MVS COMMAND EXIT INTERNAL ERROR. PLEASE CONTACT TIVOLI.
BNH566E	WILDCARD CHARACTERS CANNOT BE SPECIFIED AT BOTH ENDS OF A COMMAND OR CONSOLE STATEMENT
BNH567I	NETVIEW MVS COMMAND EXIT TERMINATION REQUESTED
BNH568I	NETVIEW MVS COMMAND MANAGEMENT PARMLIB MEMBER <i>member</i> IS DELETED
BNH569E	NO NETVIEW MVS COMMAND MANAGEMENT PARMLIB MEMBER IS ACTIVE
BNH647I	PRIORITY LEVEL: <i>prilevel</i>
BNH650I	DUPLICATE VALUE SPECIFIED FOR KEYWORD <i>keyword</i>
BNH651I	INVALID VALUE OF 0 SPECIFIED WHEN MULTIPLE VALUES ENTERED FOR KEYWORD <i>keyword</i>

BNH652I	NETVIEW RESOURCE MANAGER IS TERMINATING DUE TO <i>reason</i>
BNH653I	NETVIEW RESOURCE MANAGER HAS ASSIGNED THE DEFAULT VALUE OF <i>default</i> FOR KEYWORD <i>keyword</i>
BNH654I	COMMON GLOBAL VARIABLE <i>variable</i> HAS AN INVALID VALUE: <i>value</i>
BNH655I	DISPLAY OF NETVIEW RESOURCE MANAGER INFORMATION
BNH656I	END OF NETVIEW RESOURCE MANAGER DISPLAY
BNH657I	NETVIEW RESOURCE MANAGER IS INACTIVE
BNH658I	NETVIEW RESOURCE MANAGER WAS INITIALIZED ON <i>date</i> AT <i>time</i>
BNH659I	TYPE: <i>nrmttype</i>
BNH660I	RODM NAME: <i>rodmname</i>
BNH661I	HEARTBEAT INTERVAL: <i>time</i>
BNH662I	SAMPLING RATE: <i>time</i>
BNH663I	COMMUNICATION RETRY COUNT: <i>count</i>
BNH664I	COMMUNICATION RETRY INTERVAL: <i>interval</i>
BNH665I	HOST DESTINATION(S)
BNH666I	NAME MODE PORT ADDRESS
BNH667I	<i>desthostmodeportipaddress</i>
BNH668I	START TYPE: <i>starttype</i>
BNH669I	TASK TYPE EXCLUSION LIST:
BNH670I	<i>exclusionlistentry</i>
BNH671I	TASK NAME EXCLUSION LIST:
BNH672I	DOMAIN EXCLUSION LIST:
BNH673I	NETVIEW DOMAINS ARE NOT MONITORED BY A NETVIEW RESOURCE AGENT
BNH674I	NO NETVIEW DOMAINS ARE BEING MONITORED
BNH677I	INTERNAL ERROR OCCURRED FOR NETVIEW RESOURCE MANAGER. RESULTS MAY BE UNPREDICTABLE.
BNH678I	INCORRECT NUMBER OF KEYWORD <i>keyword</i> VALUES SPECIFIED
BNH679I	NETVIEW RESOURCE MANAGER INITIALIZATION IS <i>action</i>
BNH680I	DISPLAY OF MONITORED NETVIEW DOMAINS
BNH681I	DOMAIN COMMUNICATION IP HOST
BNH682I	NAME MODE ADDRESS NAME
BNH683I	-----

BNH684I	<i>domain mode ipaddress</i>
BNH685I	END OF MONITORED NETVIEW DOMAINS DISPLAY
BNH686I	NETVIEW RESOURCE AGENT <i>domain</i> CANNOT SEND STATUS TO MANAGER <i>hostdest</i>
BNH687I	NETVIEW RESOURCE AGENT <i>domain</i> IS SUCCESSFULLY COMMUNICATING WITH MANAGER <i>hostdest</i>
BNH688I	KEYWORD <i>keyword1</i> IS IGNORED WHEN KEYWORD <i>keyword2</i> IS NOT SPECIFIED
BNH689I	HOST DESTINATION <i>destdomain</i> IS INVALID FOR NETVIEW RESOURCE AGENT <i>agentdomain</i>
BNH690I	IP ADDRESS: <i>ipaddress</i> PORT: <i>portnumber</i>
BNH691I	REMOTE OPERATIONS USING TCP/IP <i>tcpname</i> TERMINATED DUE TO <i>reason</i>
BNH692I	UNABLE TO RESOLVE HOST NAME, RETURN CODE <i>returncode</i>
BNH693I	REMOTE OPERATIONS USING TCP/IP ARE NOT ENABLED
BNH694I	CONNECTION WITH <i>netid.domain</i> DOES NOT EXIST OR IS IN PROCESS OF TERMINATION
BNH695I	REMOTE OPERATIONS REQUEST FOR <i>netid.domainid</i> TERMINATED DUE TO <i>reason</i>
BNH696I	ADDRESS <i>ipaddress1</i> CONFLICTS WITH IP ADDRESS <i>ipaddress2</i> FOR <i>domainid</i>
BNH697I	REMOTE OPERATIONS TCP/IP SERVER SET-UP FAILED
BNH698I	<i>netid1.domainid1</i> REQUESTED AT IP ADDRESS <i>ipaddress</i> PORT <i>portnumber</i> , BUT <i>netid2.domainid2</i> WAS FOUND THERE
BNH699I	NETVIEW RESOURCE MANAGER COMMUNICATION FAILURE: <i>reason</i>
BNH700E	INVALID NUMBER OF PARAMETERS ON REGIP COMMAND.
BNH701E	INVALID FUNCTION <i>function</i> ON REGIP COMMAND.
BNH702I	REGISTERED IP ADDRESSES/HOSTS
BNH703I	SYSLOGD MESSAGE RECEIVED. FACILITY= <i>facility</i> . PRIORITY= <i>priority</i> . ORIGIN= <i>origin</i> .
BNH704E	INVALID FACILITY <i>facility</i> SPECIFIED.
BNH705E	INVALID PRIORITY <i>priority</i> SPECIFIED.
BNH706E	NO SYSLOG MESSAGE SUPPLIED
BNH707E	OPTION <i>opt</i> HAS INVALID VALUE <i>value</i> .
BNH708E	REQUIRED HOSTNAME MISSING OR INVALID.
BNH709E	INVALID NUMBER OF PARAMETERS FOR LOG STAGE.
BNH710I	SYSLOGD MESSAGE RECEIVED FROM UNREGISTERED HOST <i>host</i>

BNH711I	ENTER PASSWORD FOR REMOTE USER.
BNH712I	F3=QUIT ENTER=PROCESS
BNH713E	NO USER ID SPECIFIED FOR REXEC.
BNH714E	NO PASSWORD SPECIFIED FOR REXEC.
BNH715E	UNABLE TO CREATE RHOSTS TABLE.
BNH716W	INVALID ENTRY <i>entry</i> IN DSIRHOST MEMBER.
BNH717W	Conflicting ENTRY <i>entry</i> IN DSIRHOST MEMBER.
BNH718W	UNABLE TO CREATE RHOST ENTRY FOR <i>host</i> .
BNH719E	UNABLE TO CONNECT TO REMOTE HOST.
BNH720E	REMOTE ACCESS DENIED BY <i>server</i> SERVER.
BNH721E	UNABLE TO ATTACH <i>task</i> TASK. ERROR CODE IS <i>code</i> .
BNH722W	UNABLE TO OBTAIN <i>bytes</i> BYTES OF STORAGE FOR SYSLOGD MESSAGE FROM <i>host</i> . MESSAGE WILL BE TRUNCATED.
BNH723W	UNABLE TO OBTAIN <i>bytes</i> BYTES OF STORAGE TO RECEIVE <i>command</i> FROM <i>host</i> . RESPONSE WILL BE TRUNCATED.
BNH724E	TCP/IP INITIALIZATION FAILED.
BNH725I	F3=QUIT PF6=ROLL ENTER=PROCESS COMMAND
BNH726I	REMOTE SHELL TERMINATED. PF3=EXIT
BNH727E	TCP ADDRESS SPACE NAME NOT AVAILABLE.
BNH728E	COMMAND NOT ALLOWED IN TCP/IP ENVIRONMENT
BNH729E	INTERNAL FAILURE IN TELNET CLIENT.
BNH730I	TELNET SESSION TERMINATED BY REMOTE HOST.
BNH731E	MQS FAILED TO IP LOG TASK.
BNH732E	HOST VALUE NOT ALLOWED ON LIST.
BNH733I	NO HOSTS REGISTERED.
BNH734I	SYSLOG MESSAGE ACCEPTED BY TCP/IP.
BNH735E	COMMAND TERMINATED DUE TO ERROR ON REMOTE SERVER
BNH736I	NO WORKLOAD MANAGEMENT NETVIEW SERVICE CLASS MATCHES SELECTION CRITERIA
BNH740I	REMOTE OPERATIONS USING TCP/IP <i>tcpname</i> ARE NOW ENABLED
BNH741I	REMOTE OPERATIONS FOR <i>netid.domainid</i> TERMINATED
BNH742I	REMOTE OPERATIONS REQUEST FROM <i>netid.domainid</i> REJECTED DUE TO <i>reason</i>
BNH743I	REMOTE OPERATIONS FROM <i>netid.domainid</i> TERMINATED

BNH744I	NETVIEW RESOURCE <i>type domain</i> HAS LOST COMMUNICATION WITH <i>type domain</i>
BNH745I	NO <i>keyword</i> LIMIT REACHED FOR TASK <i>opid luname</i>
BNH746E	HTML MUST HAVE A VALID SESSION ID WHEN WEBSEC=CHECK IS SPECIFIED FOR NETVIEW WEB SERVER SUPPORT FUNCTION. PLEASE NOTIFY YOUR SYSTEM PROGRAMMER TO UPDATE THE HTML
BNH747I	COMMAND NOT PROCESSED FOR RESOURCE <i>resource</i> . NETVIEW RESOURCE MANAGER AGENT <i>domain</i> IS NOT MONITORED
BNH748I	<i>domainID</i> NETVIEW SUCCESSFULLY CONNECTED TO WLM
CNM024I	DSIMQS FAILED SENDING REFRESH BUFFER, DATA MAY BE LOST
CNM1100I	プロセスはすでに実行中です。(The process is already running)
CNM1101E	プロセスは現在実行中ではありません。(The process is not currently running)
CNM1102E	停止コマンドが失敗しました。(Stop command unsuccessful)
CNM1103I	停止コマンドが正常に実行されました。(Stop command successful)
CNM1104I	開始コマンドが正常に実行されました。(Start command successful)
CNM1105E	開始コマンドが失敗しました。(Start command unsuccessful)
CNM1106I	プロセスが UP です。(The process is up)
CNM1107I	接続が失敗しました。(Connect Failed.) プロセスがダウンしている 可能性があります。(The process may be down.)
CNM1108E	停止コマンドに無効なパラメーターがあります。(Invalid parameters on stop command)
CNM1109E	コマンドにホスト名が指定されていません。(No hostname specified on the command)
CNM1110E	開始のためのプロセスが指定されていません。(No processes specified for start)
CNM1111E	停止のためのプロセスが指定されていません。(No processes specified for stop)
CNM1112E	状況のためのプロセスが指定されていません。(No processes specified for status)
CNM1113I	シャットダウンが正常に実行されました。(Shutdown successful)
CNM1114E	無効なパラメーターが JasStopSelf に渡されました。(Invalid parameters passed in to JasStopSelf)
CNM1115E	Java Application Server への接続が失敗しました。(Connect to Java Application Server failed)
CNM1116E	開始コマンドに無効なパラメーターがあります。(Invalid parameters on start command)

CNM1117E	状況コマンドに無効なパラメーターがあります。(Invalid parameters on status command)
CNM1118E	ログ・ファイルをクローズできませんでした。(Could not close log file)
CNM1119E	ログ・ファイル jas.log をオープンできませんでした。(Could not open log file jas.log)
CNM1120E	コマンド行からの入力の受信中にエラーが発生しました。(Error receiving input from command line)
CNM1121E	データをログ・ファイルに出力できませんでした。(Could not output data to log file)
CNM1122I	シャットダウン中です。(Shutting down)
CNM1123E	不明なコマンドです。(Unknown command)
CNM1124E	nv390srvr.conf の読み取り中にエラーが発生しました。(Error reading nv390srvr.conf)
CNM1125E	Unix/390 Java Application Server を作成できませんでした。(Could not create Unix/390 Java Application Server)
CNM1126E	Java Application Server が開始されました。(Java Application Server started)
DSI025I	NetView の初期化が完了するまでお待ちください。(Please wait for NetView initialization to complete.)
DSI823I	<i>member</i> HAS A MISSING OR INCORRECT SIGNATURE
DSI824I	COMMAND ENTERED IS NOT SUPPORTED ON THIS LEVEL OF NETVIEW
DUI289I	COMMAND <i>command_name</i> COMPLETED WITH RETURN CODE <i>return_code</i>
DUI290I	TRACE MODULE <i>module_name</i> . data.
DUI291I	TRACE <i>level</i> IS SET FOR NMCSTATUS PROCESSING
DUI292E	UNABLE TO CREATE RODM OBJECT <i>myname</i> FOR POLICY DEFINITION <i>policy_def</i> IN THE AGGREGATE_COLLECTION_CLASS. TIMER HANDLE <i>timer_handle</i> MODULE <i>module_name</i> RETURN CODE <i>return_code</i>
DUI4206E	AN RCMGR INITIALIZATION ERROR HAS OCCURRED, ERROR CODE <i>errorcode</i>
DUI4207E	AN RCMGR FIELD SUBSCRIPTION ERROR HAS OCCURRED, ERROR CODE <i>errorcode</i>
DUI4213E	AN RCMGR ERROR HAS OCCURRED PROCESSING A NETWORK_VIEW_COLLECTION_CLASS CDO, ERROR CODE <i>errorcode</i>
DUI4214E	AN RCMGR ERROR HAS OCCURRED PROCESSING AN AGGREGATE_COLLECTION_CLASS CDO, ERROR CODE <i>errorcode</i>

DUI4224E	AN RCMGR INITIALIZATION ERROR HAS OCCURRED, ERROR CODE <i>errorcode</i>
DWO853I	REQUEST NOT COMPLETED; NO ACTIVE DATABASE FOR TASK <i>taskname</i>
DWO854I	<i>object</i> はアクティブです。(<i>object</i> is active.)
EZL006I	メンバー FILE num=name (Member FILE num=name)
EZL061I	PASSWORD IS TOO <i>length</i>
EZL072E	<i>request</i> ERROR PROCESSING VSAM DATASET
EZL115I	エントリー・タイプ・キーワード値 (<i>Entry Type Keyword Value</i>)
EZL202I	PARAMETER " <i>parameter</i> " INVALID FOR REQUEST <i>command</i>
EZL249E	<i>command</i> - CGLOBAL <i>cglobal</i> NOT INITIALIZED
EZL609E	POLICY FILE(S) COULD NOT BE LOADED
FKX400I	TRACE SUCCESSFULLY SCHEDULED FOR SP <i>sp</i> BY OPERATOR <i>operid</i>
FKX401I	DELAYED TRACE SUCCESSFULLY SCHEDULED FOR SP <i>sp</i> BY OPERATOR <i>operid</i>
FKX402I	TRACE <i>action</i> FOR SP <i>sp</i> FAILED - MESSAGE <i>msgnum</i> RECEIVED.
FKX403I	TRACE SUCCESSFULLY STOPPED FOR SP <i>sp</i> BY OPERATOR <i>operid</i>
FKX405I	TARGET DOMAIN/PROC FOR SP <i>sp</i> IS NOT VALID
FKX406I	<i>tracetype</i> - DELAYED TRACE FAILED FOR SP <i>sp</i> BY OPERATOR <i>operid</i>
FKX407I	<i>tracetype</i> - DELAYED TRACE BLOCKED BY SECURITY FOR SP <i>sp</i> BY OPERATOR <i>operid</i>
FKX410I	UNABLE TO START TRACE <i>tracetype</i> ON SP <i>sp</i> - TRACE ALREADY ACTIVE
FKX411I	UNABLE TO STOP TRACE <i>tracetype</i> ON SP <i>sp</i> - TRACE NOT ACTIVE
FKX412I	UNABLE TO START TRACE <i>tracetype</i> ON SP <i>sp</i> - DELAYED TRACE ALREADY SCHEDULED
FKX413I	THE PROCNAME <i>proc</i> IS NOT DEFINED ON SP <i>sp</i>
FKX430I	NO VALID CTRACE OPTIONS SPECIFIED FOR TRACE START - <i>sp</i>
FKX431I	DUPLICATE CTRACE OPTION <i>opt</i> SPECIFIED FOR TRACE START - <i>sp</i>
FKX432I	INVALID CTRACE OPTION <i>opt</i> SPECIFIED FOR TRACE START - <i>sp</i>

FKX433I	NO VALID CTRACE OPTIONS SPECIFIED FOR TRACE START - <i>sp</i>
FKX434I	INVALID IP ADDRESS <i>ipaddr</i> SPECIFIED FOR CTRACE START - <i>sp</i>
FKX435I	INVALID IP PORT <i>ipport</i> SPECIFIED FOR CTRACE START - <i>sp</i>
FKX436I	NO PKT TRACE START OPTIONS MATCH ANY VALID LINK NAMES FOR <i>sp</i>
FKX437I	INVALID <i>option (opt)</i> SPECIFIED FOR PKT TRACE START - <i>sp</i>
FKX438I	SIZE OF THE TOTAL OPTIONS REQUESTED IS TOO LARGE - <i>sp</i>
FKX460I	<i>tracetype</i> - TRACE STARTED AND AUTOSTOP SCHEDULED FOR SP <i>sp</i> BY OPERATOR <i>operid</i>
FKX461I	<i>tracetype</i> - TRACE STARTED BY OPERATOR <i>operid</i> FOR SP <i>sp</i> BUT AUTOSTOP FAILED
FKX462I	<i>tracetype</i> - TRACE STARTED BY OPERATOR <i>operid</i> FOR SP <i>sp</i> BUT AUTOSTOP BLOCKED BY SECURITY
FKX470I	NO SERVICE POINTS FOUND MATCHED SP <i>sp</i>
FKX480I	TIMEOUT IN COLLECTING TRACE INFO AT DOMAIN <i>domain</i>
FKX490I	NO ESTABLISHED COMMUNICATION WITH REMOTE DOMAIN <i>domain</i>
FKX651I	THE DATA REQUEST <i>request</i> IS NOT SUPPORTED
FKX670I	SET REQUEST SUCCESSFUL
FKX671I	SET REQUEST FAILED
FKX680I	NO TCP CONNECTIONS FOUND FOR INTERFACE <i>ifno</i> ON RESOURCE <i>resname</i>
FKX681I	NO IP ADDRESS IS FOUND FOR INTERFACE <i>ifno</i> ON RESOURCE <i>resname</i>
FKX901I	INCORRECT VALUE DETECTED. PRESS PF1 FOR HELP
FKX933I	DUPLICATED GROUP NAME <i>group</i> IN FKXSNMP FILE
FKX934I	INVALID GROUP DEFINITION <i>group</i> IN FKXSNMP FILE
FKX984I	TIMEOUT RECEIVED FROM SNMP REQUEST
FKX985I	TCP/IP IS UNABLE TO RESOLVE HOSTNAME <i>resname</i>
FKX986I	UNIX SERVER IS NOT AVAILABLE, PPI ERROR 26 RECEIVED
FKX987I	UNIX AUTHORIZATION FAILED, UNIX ERROR -11 RECEIVED
FKX988I	ERRORS RECEIVED FROM SNMP REQUEST. HIT F10 FOR MESSAGES
FKX989I	NO CONNECTIONS FOUND FOR THIS INTERFACE
FLC125E	IP DISCOVERY IS NOT ALREADY RUNNING.

FLC127I	STOPDISC WAS SUCCESSFUL.
FLC128E	STOPDISC WAS UNSUCCESSFUL.
FLC150E	THERE WAS AN ERROR WHILE USING THE SOCKET INTERFACE FOR TN3270 MANAGEMENT. TN3270 RESOURCES WILL NOT BE LINKED TO IP RESOURCES. INFORM YOUR SYSTEM PROGRAMMER THAT THERE IS A PROBLEM WITH THE SOCKET INTERFACE AND/OR THE RMTCMD.
FLC151E	THE TN3270 MANAGEMENT CONFIGURATION FILE: <i>file_name</i> , HAS AN INVALID IP ADDRESS: <i>ip_address</i> .

変更されたメッセージ

AAU144I	<i>locid</i> FLOW CONTROL DATA IS NOT AVAILABLE
AAU200I	<i>module locid</i> UNABLE TO ACCESS THE DSIPARM DATA SET
AAU201I	<i>module locid</i> UNABLE TO FIND MEMBER <i>member</i> OF THE DSIPARM DATA SET
AAU232I	INVALID MEMBERNAME: <i>member</i> —
AAU896I	<i>module locid</i> PARAMETER VALUE MISSING: MEMBERNAME= ' <i>member</i> ', KEYWORD= ' <i>keyword</i> '
AAU897I	<i>module locid</i> PARAMETER VALUE OUT OF RANGE: MEMBERNAME= ' <i>member</i> ' KEYWORD= ' <i>keyword</i> '
BNH095I	APPLICATION ERROR MESSAGE RECEIVED BY APPLICATION <i>loc_appl</i> FROM APPLICATION <i>sending_appl</i> IN NODE <i>netid.nau</i> . SNA SENSE CODE IS <i>X'sensecod</i> '.
BNH170I	CONFLICTING VALUES SPECIFIED FOR CTL AND NGMFVSPN ATTRIBUTES FOR OPERATOR <i>opid</i> . VIEWS WILL NOT BE SPAN RESTRICTED FOR THE OPERATOR
BNH171I	SPAN RESTRICTION OF VIEWS IS NOT ENABLED FOR THIS SYSTEM
BNH172I	INCORRECT VALUE ' <i>value</i> ' FOUND IN THE <i>position</i> POSITION OF THE NGMFVSPN FIELD FOR OPERATOR <i>operator</i> . THE DEFAULT VALUE OF ' <i>default_value</i> ' WILL BE USED
BNH539I	CNME1103 DELETED <i>bnh538i_message_text</i>
DSI050A	PROFILE STATEMENT NAME FIELD INVALID - MEMBER <i>member</i> .
DSI051A	PROFILE NAME MISMATCH - MEMBER <i>member</i>
DSI054I	DSID = <i>datasetid</i> MEMBER = <i>member</i> REQUEST = <i>requesttype</i>
DSI061A	ERROR IN PROFILE MEMBER <i>member</i> STATEMENT NUMBER <i>number</i> —
DSI084I	OPEN FAILED FOR NCCF DATA SET <i>name</i>
DSI085I	READ ERROR OCCURRED ON NCCF DATA SET <i>name</i>

DSI086I	NCCF MEMBER ' <i>member</i> ' NOT FOUND ON DSIPARM —
DSI087I	NCCF PROFILE MEMBER <i>member</i> NOT FOUND
DSI088I	MAJOR NODE MEMBER <i>member</i> NOT FOUND ON DSIVTAM
DSI089I	INVALID STATEMENT IN NCCF MEMBER <i>member</i>
DSI103I	AUTH STATEMENT OPERAND IS INVALID IN MEMBER <i>member</i>
DSI234I	DUPLICATE COMMAND ' <i>commandname</i> ' DETECTED
DSI410I	DSIPARM MEMBER <i>member</i> BEING USED FOR NETVIEW AUTOMATION
DSI412I	THE FOLLOWING ERRORS ENCOUNTERED IN PROCESSING MEMBER <i>member</i>
DSI560I	I/O ERROR ON MESSAGE DATASET
DUI121E	THE NETCONV START COMMAND FAILED BECAUSE LU <i>luname</i> IS COMMUNICATING WITH ANOTHER STATUS FOCAL POINT, IS RUNNING AN UNSUPPORTED LEVEL OF NMC, OR IS ALREADY COMMUNICATING WITH THIS STATUS FOCAL POINT
DUI4011E	GMFHS ATTEMPTED TO SEND A MESSAGE TO SCOPE CHECKER OPTIONAL TASK BUT FAILED
DUI4388E	TRANSPORT PROTOCOL WAS NOT PPI, OST, COS, OR IP
DWO213I	' <i>task1</i> ' IS UNABLE TO COMMUNICATE WITH ' <i>task2</i> '. WILL RETRY IN <i>sec</i> SECONDS.
EZL001I	REQUEST <i>request</i> WAS SUCCESSFUL FOR <i>function</i>
EZL025E	SYNTAX ERROR IN MEMBER <i>member</i> BEING USED FOR THE CONFIGURATION TABLE
EZL029E	<i>text</i>
EZL065I	CURRENT PASSWORD IS <i>current</i>
EZL067E	CURRENT PASSWORD IS <i>password</i> - ERROR CREATING NEW PASSWORD
EZL110I	<i>controlfile</i> BEING USED FOR THE CONFIGURATION TABLE
EZL665I	OUT <i>domain</i> EZLE1REQ: <i>command</i>
EZL666I	IN <i>domain</i> EZLE1REQ: <i>command</i>
FKX914I	ERROR ISSUING COMMAND TO SERVICE POINT <i>sp:operid</i> RECEIVED <i>error</i>
FLC124E	PIPE ERROR DURING <i>process</i> . THE RETURN CODE IS <i>rc</i> . FOR MORE INFORMATION ENTER THE FOLLOWING AT THE TEST CONSOLE COMMAND LINE, HELP PIPE UNIX. TYPE=E

削除されたメッセージ

BNJ1539	BNJ995	CMN215	CMN283
CNM284	CNM285	CNM286	CNM287
CNM288	CNM289	CNM290	CNM291
CNM292	CNM293	CNM294	CNM295
CNM296	CNM297	CNM298	CNM477
CNM700	CNM701	CNM702	CNM703
CNM704	CNM705	CNM706	CNM709
CNM710	CNM713	CNM885	CNM947
DUI0710	DUI0711	DUI0712	DUI0713
DUI0714	DUI0715	DUI0716	DUI0717
DUI0718	DUI0719	DUI0720	DUI0721
DUI0722	DUI0723	DUI0724	DUI0725
DUI0726	DUI0727	DUI0728	DUI0729
DUI0730	DUI0731	DUI0732	DUI0733
DUI0734	DUI0735	DUI0736	DUI0737
DUI0738	DUI0739	DUI0740	DUI0741
DUI0742	DUI0743	DUI0744	DUI0745
DUI0746	DUI0747	DUI0748	DUI0749
DUI0750	DUI0751	DUI0752	DUI0753
DUI0754	DUI0755	DUI0756	DUI0757
DUI0758	DUI0759	DUI0760	DUI0761
DUI0762	DUI0763	DUI0764	DUI0765
DUI0766	DUI0767	DUI0768	DUI0770
DUI0771	DUI0772	DUI0773	DUI0774
DUI0775	DUI0776	DUI0777	DUI0778
DUI0779	DUI0780	DUI0781	DUI0782
DUI0782	DUI0783	DUI0790	DUI0791
DUI0792	DUI0800	DUI0801	DUI0802
DUI0803	DUI0804	DUI0805	DUI0806
DUI0807	DUI0808	DUI0809	DUI0810
DUI0811	DUI0812	DUI0813	DUI0814
DUI0815	DUI0816	DUI0817	DUI0820
DUI0830	DUI0831	DUI0832	DUI0833
DUI0834	DUI0835	DUI0836	DUI0850
DUI0853	DUI0855	DUI0872	DUI0873
DUI0880	DUI0881	DUI0882	DUI0885
DUI0896	DUI0897	DUI0900	DUI0901
DUI0902	DUI0903	DUI0904	DUI350
DUI351	DUI352	DUI356	DUI361
DUI362	DUI365	DUI366	DUI367
DUI368	DUI369	DUI370	DUI371
DUI372	EZL240	EZL603	EZL604
EZL605	EZL606	EZL653	FLC117

サンプル

このセクションには、マイグレーションの考慮事項に関連する新規サンプルと削除されたサンプルがリストされています。

- 176 ページの『新規サンプル』
- 176 ページの『削除されたサンプル』

新規サンプル

CNMCAU00	CNMGSPCR	CNMGTIVL	CNMSJI24
CNMSJM13	CNMSTASK	CNMSTGEN	CNMSTNXT
CNMSTPWD	CNMSTTWR	CNMSTYLE	CNMSVTET
CNMSVTFT	CNMSXSYS	DSICCSYS	DSICMD1D
DSICMENT	DSICMPRC	DSICMRMT	DSICMSYS
DSILGCF	DSIPROFV	DSIREXCF	DSIRHOST
DSIRSHCF	DSITSK	DUIFNRM1	DUIFNRM2
DUIPOLCY	EKG\$1SYS	EKG\$4SYS	EKG\$8SYS
EKGSCKPT	EKGS101	EKGS102	EKGS1201
EKGS1202	EKGSID01	EKGSID02	EKGSID03
EKGSJ004	EKGSLOG	EZL\$5SYS	FKXOBEY0
FKXOBEY1	FKXOBEY2	FKXOBEY3	FKXOBEY4
FKXOBEY5	FKXOBEY6	FKXOBEY7	FKXOBEY8
FKXOBEY9	FKXSNMP ¹	FLCS3270	FLCSDM9
FLCSHAT2	FLCVCARD	IHSDNODE ²	IHSDPOLL ³
IHSDRESO ⁴	IHSDTEMP ⁵	IHSDVIEW ⁶	IHSPCONF ⁷
IHSPJDMS ⁸			

UNIX システム・サービスのファイル名:

1. flxsnmp.grp
2. node.def
3. pollobj.def
4. resource.def
5. template.def
6. view.def
7. config.properties
8. JdmServerProperties.txt

削除されたサンプル

CNMGBACK	CNMGTIVS	CNMGTME1	CNMHELPM
CNMHELPR	CNMHELPT	CNMHELPPW	CNMPCHCK (CNMSJ031)
CNMS4225	CNMS4255	CNMS4285	CNMS4304
CNMS4404	CNMS4504	CNMS8004	CNMS8005
CNMS8006	CNMS8007	CNMS8008	CNMS8025
CNMS8026	CNMSJCPY	CNMSJI14	CNMSJI19
CNMUCMDJ	CNMUMSGJ	DSICMDB	DSICMDM
DSICMDT	DSIDMNB	DSIDMNE	DSIDNMN
DSIDMNT	DSIDNMAT	DSIFPMAT	DSIINMAT
DSIOPFB	DSIOPFM	DSIOPFT	DSIPRFAO
DSIPRFMO	DSIPRFDW	DSIPROFH	DUIGCBAl
DUIISC	DUISJ001	DUISPP01	DUISPP02
DUISPP03	DUISPP07	EKGDLOG	EKGDWIND
EKGLOG	EKGLOGD	EKGUCMDJ	EKGUMSGJ
EKGWIND	EKGWINDW	EZL81UTB	EZL92UTB
EZL93UTB	EZL94UTB	EZL95UTB	EZL96UTB
EZLANCHR	EZLBNJAO	EZLCMDI	EZLDSI24
EZLDWAO	EZLEKGAO	EZLMSUST	FKVBNJ00
FKVBNJ10	FKVEMSAO	FKVMSU01	FKVMSUSB
FKVTBL01	FKWMSU01	FKWTBL01	FKXERINI

FKXERMT	FKXMSU01	FKXTBL01	FLBUCMDJ
FLBUMSGJ	FLCS7109	FLCS7110	FLCS7111
FLCSDM6M	FLCSDM7	FLCSICST	FLCSILMU
FLCSMALH	FLCSMAUT	FLCSPCST	FLCSTBL
FLCSTBLA	FLCSTBLE	FLCSTBLH	FLCSTBLI
FLCSTBLL	FLCSTBLM	FLCSTBLN	FLCSTBLO
FLCSTBLT	FLCVREAD		

付録 B. Tivoli NetView for OS/390 バージョン 1 リリース 4 から Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 1 への変更

この付録は、新規、変更、および削除された、以下の内容をリストしています。

- 『ヘルプ・パネル』
- 183 ページの『コマンド・リスト』
- 185 ページの『メッセージ』
- 193 ページの『サンプル』

注: このセクションのリストは、左から右へ英字順で記載されています。

ヘルプ・パネル

このセクションには、マイグレーションの考慮事項に関連する新規および削除されたヘルプ・データ・セット・メンバーがリストされています。

- 『新規ヘルプ・パネル』
- 『削除されたヘルプ・パネル』

新規ヘルプ・パネル

BNH75	BNH76	BNH77	CNMHEAS
CNM120	CNM121	EZLH5501	EZLH6005
EZLH621C	EZLH622C	EZLH623C	EZLNDYWH
EZLWI700	EZLWI710	FKXH2H21	FKXWBANR
FKXWB000	FKXWB001	FKXWDV01	FKXWDV02
FKXWDV03	FKXWDV04	FKXWDV05	FKXWELCM
FKXWIHLF	FKXWIHTP	FKXWILGC	FKXWILGF
FKXWINOA	FKXWINOH	FKXWINVC	FKXWI10B
FKXWI100	FKXWI130	FKXWI14A	FKXWI140
FKXWI150	FKXWI160	FKXWI200	FKXWI210
FKXWI220	FKXWPORB	FKXWPORF	FKXWTITL
FKX10	FKX97	IHS019	IHS020

削除されたヘルプ・パネル

CNMKACNA	CNM110	CNM111	CNM112
EUYACDIY	EUYACLIE	EUYACMOY	EUYACQUF
EUYACREE	EUYACSES	EUYACSTP	EUYACSTR
EUYACSTT	EUYACTRE	EUYAOLAN	EUYRERMT
EUYTOINT	EUYTOREE	FKWHCAUQ	FKWHCAU1
FKWHCMDS	FKWHCMD1	FKWHCMD2	FKWHCMD3
FKWHCMD4	FKWHC100	FKWHC101	FKWHC102
FKWHC103	FKWHC104	FKWHD100	FKWHD110
FKWHD120	FKWHD130	FKWHD140	FKWHD141

NetView V1R4 からの変更

FKWHD150	FKWHD151	FKWHD152	FKWHD201
FKWHD202	FKWHD203	FKWHLAD3	FKWHLAD4
FKWHLCAR	FKWHLMCP	FKWHLMR1	FKWHLMR2
FKWHLMT1	FKWHLMT2	FKWHLOBC	FKWHLOB1
FKWHLOCC	FKWHLSEL	FKWHLW44	FKWHL100
FKWHL101	FKWHL110	FKWHL111	FKWHL112
FKWHL113	FKWHO100	FKWHO101	FKWHO102
FKWHQUA1	FKWHQUA2	FKWHQUA3	FKWHR100
FKWHR101	FKWHSOVR	FKWHSWI0	FKWHS100
FKWHS110	FKWHS111	FKWHS121	FKWHS122
FKWHS123	FKWHS124	FKWHS125	FKWHS130
FKWHVIEW	FKWHVIE2	FKWHVIE3	FKWHVIE4
FKWH0000	FKWH0001	FKWH0002	FKWH0003
FKWH1000	FKWH1001	FKWH1002	FKWH1010
FKWH1011	FKWH1100	FKWH111A	FKWH111B
FKWH1110	FKWH1111	FKWH1120	FKWH1130
FKWH1140	FKWH1141	FKWH1200	FKWH1210
FKWH1220	FKWH123A	FKWH1230	FKWH1231
FKWH1240	FKWH1250	FKWH1251	FKWH1260
FKWH1261	FKWH127A	FKWH1270	FKWH1271
FKWH1272	FKWH1273	FKWH1274	FKWH1275
FKWH1276	FKWH1277	FKWH1278	FKWH1279
FKWH1280	FKWH1281	FKWH1282	FKWH13SA
FKWH13SE	FKWH13SL	FKWH13S2	FKWH13S3
FKWH13W1	FKWH13W2	FKWH13W3	FKWH13W4
FKWH130A	FKWH1300	FKWH1301	FKWH131A
FKWH131B	FKWH1310	FKWH1311	FKWH1320
FKWH1321	FKWH133A	FKWH1330	FKWH134A
FKWH134B	FKWH1340	FKWH1341	FKWH1342
FKWH1360	FKWH14IN	FKWH140A	FKWH1400
FKWH1401	FKWH141A	FKWH141B	FKWH1410
FKWH1411	FKWH1412	FKWH1413	FKWH1415
FKWH1416	FKWH1417	FKWH1418	FKWH1420
FKWH1430	FKWH144A	FKWH144B	FKWH1440
FKWH1442	FKWH1445	FKWH1447	FKWH1449
FKWH146A	FKWH146B	FKWH1460	FKWH147A
FKWH147B	FKWH1470	FKWH1475	FKWH15A3
FKWH150A	FKWH1500	FKWH151A	FKWH1510
FKWH1511	FKWH1512	FKWH1513	FKWH1514
FKWH152A	FKWH152B	FKWH1520	FKWH1521
FKWH153A	FKWH153B	FKWH1530	FKWH1531
FKWH154A	FKWH1540	FKWH1541	FKWH1542
FKWH1600	FKWH1601	FKWH1610	FKWH1611
FKWH1620	FKWH1630	FKWH1640	FKWH1650
FKWKCAUQ	FKWKCMDS	FKWKCMD1	FKWKCMD2
FKWKCMD3	FKWKC100	FKWKC120	FKWKD100
FKWKD110	FKWKD120	FKWKD130	FKWKD140
FKWKD150	FKWKD201	FKWKD202	FKWKD203
FKWKLAC1	FKWKLAC2	FKWKLAC3	FKWKLAC4
FKWKLAC5	FKWKLAC6	FKWKLAC7	FKWKLAC8
FKWKLAC9	FKWKLAD1	FKWKLAD3	FKWKLAD4
FKWKLAHD	FKWKLAH2	FKWKLBRG	FKWKLBR1
FKWKLBR2	FKWKLBR4	FKWKLBR5	FKWKLBR7
FKWKLBR8	FKWKLBR9	FKWKLBX3	FKWKLBX4
FKWKLBX5	FKWKLBX6	FKWKLBX7	FKWKLBX8

FKWKLBY3	FKWKLBY4	FKWKLBY5	FKWKLBY6
FKWKLBY7	FKWKLBY8	FKWKLCAR	FKWKLCAU
FKWKLCDL	FKWKLCRL	FKWKLDB1	FKWKLDB2
FKWKLDB3	FKWKLDL	FKWKLDL1	FKWKLDL2
FKWKLDL3	FKWKLDL4	FKWKLDL5	FKWKLDL6
FKWKLDQ1	FKWKLDQ2	FKWKLLBR	FKWKLLB1
FKWKLLB2	FKWKLLB3	FKWKLLB4	FKWKLLB5
FKWKLLB6	FKWKLLB7	FKWKLLB8	FKWKLLCA
FKWKLLC1	FKWKLLC2	FKWKLLC3	FKWKLLC4
FKWKLLC5	FKWKLLC6	FKWKLLL1	FKWKLLL2
FKWKLLL3	FKWKLLL4	FKWKLLL5	FKWKLLL6
FKWKLLL7	FKWKLLL8	FKWKLLSB	FKWKLLSG
FKWKLLS1	FKWKLLS2	FKWKLLS3	FKWKLLS4
FKWKLLS5	FKWKLMCP	FKWKLMR	FKWKLMT
FKWKLNC1	FKWKLNC2	FKWKLNQ1	FKWKLNQ2
FKWKLNQ3	FKWKLNQ4	FKWKLNR1	FKWKLNR2
FKWKLNR3	FKWKLNR4	FKWKLNT1	FKWKLNT2
FKWKLNT3	FKWKLNT4	FKWKLNV1	FKWKLNV2
FKWKLNV3	FKWKLNV4	FKWKLNX1	FKWKLNX2
FKWKLNX4	FKWKLNX5	FKWKLNY1	FKWKLNY2
FKWKLNY4	FKWKLNY5	FKWKLOAC	FKWKLOA3
FKWKLOA4	FKWKLOA5	FKWKLOA6	FKWKLOBC
FKWKLOB1	FKWKLOB2	FKWKLOB3	FKWKLOB4
FKWKLOB5	FKWKLOB6	FKWKLOCC	FKWKLOCL
FKWKLOC1	FKWKLOC2	FKWKLOC3	FKWKLOC4
FKWKLPT	FKWKLRTA	FKWKLSEL	FKWKLSE1
FKWKLSE2	FKWKLSE4	FKWKLSE5	FKWKLSE7
FKWKLSE8	FKWKLSE9	FKWKLSTD	FKWKLSX3
FKWKLSX4	FKWKLSX5	FKWKLSYN	FKWKLSY3
FKWKLSY4	FKWKLSY5	FKWKLTA1	FKWKLTA2
FKWKLTA3	FKWKLTA4	FKWKLTD1	FKWKLTD2
FKWKLTD3	FKWKLTD4	FKWKLTP1	FKWKLTP2
FKWKLTP3	FKWKLTP4	FKWKLTX1	FKWKLTX2
FKWKLTX3	FKWKLTY1	FKWKLTY2	FKWKLTY3
FKWKLUSY	FKWKLVA1	FKWKLVC1	FKWKLVC2
FKWKLVC3	FKWKLVC4	FKWKLVD1	FKWKLVD2
FKWKLVD3	FKWKLVD4	FKWKLVL1	FKWKLVL2
FKWKLVL3	FKWKLVL4	FKWKLVM1	FKWKLVM2
FKWKLVM3	FKWKLVM4	FKWKLVQ1	FKWKLVQ2
FKWKLVQ3	FKWKLVQ4	FKWKLVS1	FKWKLVS2
FKWKLVS3	FKWKLVS4	FKWKLVS4	FKWKLVX1
FKWKLVX2	FKWKLVX3	FKWKLVX4	FKWKLVX6
FKWKLVX7	FKWKLVY1	FKWKLVY2	FKWKLVY3
FKWKLVY4	FKWKLVY6	FKWKLVY7	FKWKLWC1
FKWKLWC2	FKWKLWC3	FKWKLWC4	FKWKLWC5
FKWKLWC6	FKWKLWIN	FKWKLWN2	FKWKLWN2N
FKWKLW22	FKWKLW3N	FKWKLW33	FKWKLW44
FKWKL000	FKWKL100	FKWKL110	FKWKO100
FKWKQUA1	FKWKQUA2	FKWKQUA3	FKWKQUA4
FKWKR100	FKWKS WI1	FKWKS WI2	FKWKS WI3
FKWKS WI4	FKWKS WI5	FKWKS WI6	FKWKS I00
FKWKS I10	FKWKS I21	FKWKS I22	FKWKS I30
FKWKVIEW	FKWK1000	FKWK1020	FKWK1021
FKWK1030	FKWK1040	FKWK1050	FKWK1100
FKWK1110	FKWK1111	FKWK1120	FKWK1130

NetView V1R4 からの変更

FKWK1140	FKWK1141	FKWK1200	FKWK1210
FKWK1220	FKWK1230	FKWK1231	FKWK1240
FKWK1250	FKWK1260	FKWK1261	FKWK1270
FKWK1271	FKWK1272	FKWK1273	FKWK1274
FKWK1275	FKWK1276	FKWK1277	FKWK1278
FKWK1279	FKWK1280	FKWK1281	FKWK1282
FKWK13SA	FKWK13SE	FKWK13SL	FKWK13S2
FKWK13S3	FKWK13W1	FKWK13W2	FKWK13W3
FKWK13W4	FKWK1300	FKWK1301	FKWK1310
FKWK1311	FKWK1320	FKWK1321	FKWK1330
FKWK1340	FKWK1341	FKWK1342	FKWK1360
FKWK14I1	FKWK14I2	FKWK14I3	FKWK14I4
FKWK14I5	FKWK14I6	FKWK1400	FKWK1401
FKWK1402	FKWK1410	FKWK1411	FKWK1412
FKWK1413	FKWK1414	FKWK1415	FKWK1416
FKWK1417	FKWK1418	FKWK1420	FKWK1421
FKWK1430	FKWK1431	FKWK1435	FKWK144A
FKWK1440	FKWK1441	FKWK1442	FKWK1443
FKWK1445	FKWK1446	FKWK1447	FKWK1448
FKWK1449	FKWK1460	FKWK1461	FKWK1462
FKWK1463	FKWK1464	FKWK1470	FKWK1472
FKWK1474	FKWK1475	FKWK1500	FKWK1510
FKWK1511	FKWK1512	FKWK1513	FKWK1514
FKWK1520	FKWK1521	FKWK1530	FKWK1531
FKWK1540	FKWK1541	FKWK1542	FKWK1600
FKWK1610	FKWK1620	FKWK1630	FKWK1640
FKWK1650	FKWT0000	FKW0LAD1	FKW0LAD2
FKW0LAD3	FKW0LAHD	FKW0LBRG	FKW0LBR1
FKW0LBR2	FKW0LBR3	FKW0LCAU	FKW0LCA1
FKW0LLM1	FKW0LLM2	FKW0LLSB	FKW0LSE1
FKW0LSE2	FKW0LSE3	FKW0WIN2	FKW0WIN3
FKW1LAD1	FKW1LAD2	FKW1LAD3	FKW1LAHD
FKW1LBRG	FKW1LBR1	FKW1LBR2	FKW1LBR3
FKW1LCAU	FKW1LCA1	FKW1LLM1	FKW1LLM2
FKW1LLSB	FKW1LSE1	FKW1LSE2	FKW1LSE3
FKW1WIN2	FKW1WIN3	FKW100	FKW101
FKW102	FKW103	FKW104	FKW105
FKW106	FKW107	FKW2LAD1	FKW2LAD3
FKW2LAHD	FKW2LBRG	FKW2LBR1	FKW2LBR2
FKW2LBR3	FKW2LCAU	FKW2LCA1	FKW2LLM2
FKW2LLSB	FKW2LSE1	FKW2LSE3	FKW20
FKW200	FKW201	FKW202	FKW203
FKW204	FKW205	FKW206	FKW27
FKW3LAD1	FKW3LBRG	FKW3LBR1	FKW3LCAU
FKW3LCA1	FKW3LLM2	FKW3LLSB	FKW3LSE1
FKW4LBRG	FKW5LBRG	FKW70	FKW71
FKW72	FKW73	FKW74	FKW75
FKW76	FKW77	FKW78	FKW79
FKW80	FKW81	FKW82	FKW83
FKW84	FKW85	FKW86	FKW87
FKW88	FKW90	FKW909	FKW91
FKW92	FKW93	FKW94	FKW95
FKXIP000	FKXIP100	FKXIP130	FKXIP14A
FKXIP140	FKXIP150	FKXIP160	FKXIP170
FKXIP171	FKXIP172	FKXIP173	FKXIP174

FKXIP175	FKXIP200	FKXIP210	FKXIP220
FLB20	FLB21	FLB22	FLB23
FLB24	FLB25	FLB26	FLB27
FLB28	FLCA00	FLCA01	FLCA02
FLCA07	FLCA10	FLCA11	FLCA12
FLCE00	FLCE02	FLCE03	FLCE04
FLCE05	FLCE10	FLCE15	FLCE16
FLCE20	FLCE21	FLCE22	FLCE23
FLCE24	FLCE25	FLCE26	FLCE30
FLCE35	FLCE40	FLCE41	FLCE42
FLCE43	FLCE44	FLCE45	FLCE50
FLCE55	FLCE60	FLCE65	FLCE66
FLCE67	FLCE68	FLCE69	FLCE80
FLCE81	FLCE82	FLCE90	FLCE91
FLCE92	FLCFA0	FLCF50	FLCF55
FLCF60	FLCF62	FLCF63	FLCF70
FLCF71			

コマンド・リスト

このセクションには、マイグレーションの考慮事項に関連する新規および削除されたコマンド・リストがリストされています。

- 『新規コマンド・リスト』
- 『削除されたコマンド・リスト』

新規コマンド・リスト

CNMEAUTB	CNMEPING	CNMEPWD	CNMERSYN
CNMESNMP	CNME1037	CNME1056	EZLEIPIL
EZLEIPLR	EZLELROP	EZLERMTS	EZLEWBHP
EZLE5501	FKXEACTION	FKXECMAN	FKXEDCON
FKXEDVMI	FKXEDVPA	FKXEDVPF	FKXEDVPP
FKXEDVPT	FKXEDVPI	FKXEDVP2	FKXEDVP3
FKXEDVST	FKXEDVUX	FKXEGCIP	FKXEGHBA
FKXEGPLU	FKXEIDST	FKXEIDVF	FKXEIGEN
FKXEIHIC	FKXEIHLP	FKXEILGO	FKXEILOG
FKXEILOS	FKXEIPTR	FKXEISES	FKXEISSF
FKXEITRG	FKXEIWND	FKXEMKCT	FKXENCIP
FKXENCMD	FKXENVDR	FKXESNMP	FKXEV216
FKXEWBIN	FKXEWCON	FKXEWERO	FKXEWITA
FKXEWITB	FKXEWITC	FKXEWITD	FKXEWIT0
FKXEWIT1	FKXEWIT5	FKXEWIT6	FKXEWIT7
FKXEWIT8	FKXEWIU0	FKXEWIU1	FKXEWIU2
FKXEWLOG	FKXEWRSR	FKXEWRTS	FKXEWVSR
FKXEWVS	FKXEWVSU	FKXEW390	FKXEXCIP
FKXEXLAT			

削除されたコマンド・リスト

CNMENV39	CNMEOUTS	CNME1502	CNME7023
FKWCMD5	FKWEAID1	FKWEAID2	FKWEAID3

NetView V1R4 からの変更

FKWEAMS1	FKWECAU	FKWECAUC	FKWECAUQ
FKWECMDS	FKWECMD1	FKWECPRT	FKWEC100
FKWEC110	FKWEC120	FKWEDBBR	FKWEDBB2
FKWEDB1A	FKWEDB10	FKWEDB20	FKWEDUP1
FKWEF005	FKWEIADL	FKWEIBRL	FKWEIBRP
FKWEIBR2	FKWEICAL	FKWEICAP	FKWEILMU
FKWEILM1	FKWEIQNT	FKWEISEL	FKWEISLA
FKWEISLC	FKWEISLD	FKWEISLG	FKWEISLL
FKWEISLP	FKWEIVER	FKWELADP	FKWELAD1
FKWELAHD	FKWELAH1	FKWELA01	FKWELA02
FKWELA03	FKWELBDG	FKWELBPP	FKWELBRG
FKWELBRP	FKWELBR1	FKWELCAR	FKWELCAU
FKWELCGL	FKWELCLR	FKWELDG	FKWELDL
FKWELHDC	FKWELLSB	FKWELLS1	FKWELMCP
FKWELMR	FKWELMSP	FKWELMT	FKWELMUP
FKWELMU1	FKWELNAF	FKWELNBF	FKWELNCF
FKWELNSC	FKWELNSF	FKWELOA1	FKWELOA3
FKWELOA4	FKWELOA5	FKWELOBC	FKWELOB3
FKWELOB4	FKWELOB5	FKWELOB6	FKWELOCC
FKWELOC1	FKWELOS1	FKWELPAC	FKWELPBC
FKWELPSS	FKWELPT	FKWELRFR	FKWELROP
FKWELRUN	FKWELR01	FKWELR02	FKWELSCA
FKWELSCB	FKWELSCS	FKWELSEG	FKWELSEL
FKWELSE1	FKWELSLA	FKWELSLB	FKWELSLP
FKWELSL2	FKWELSTD	FKWELSTH	FKWELST1
FKWELTP1	FKWELTRA	FKWELTR1	FKWELUAS
FKWELUBS	FKWELUCS	FKWELUDL	FKWELUFA
FKWELUID	FKWELULI	FKWELULM	FKWELULR
FKWELULS	FKWELUMS	FKWELUSF	FKWELUSS
FKWELUSY	FKWELUS1	FKWELUTL	FKWELUTU
FKWELUUS	FKWELU04	FKWEL00A	FKWEL000
FKWEL110	FKWEMGRR	FKWENETB	FKWENMVT
FKWEO100	FKWEPUNM	FKWERCMD	FKWEROP1
FKWESEGU	FKWESWIT	FKWES10A	FKWES100
FKWES110	FKWES121	FKWES122	FKWES125
FKWES130	FKWES200	FKWES210	FKWETIME
FKWEVIEW	FKWEVIE1	FKWE100A	FKWE1000
FKWE1001	FKWE1100	FKWE1110	FKWE1120
FKWE1130	FKWE1131	FKWE1140	FKWE1150
FKWE1160	FKWE1200	FKWE1210	FKWE1220
FKWE13SL	FKWE13S2	FKWE13S3	FKWE1300
FKWE1310	FKWE1320	FKWE1330	FKWE1340
FKWE1350	FKWE1360	FKWE14BR	FKWE14RF
FKWE1400	FKWE1410	FKWE1420	FKWE1430
FKWE1440	FKWE1450	FKWE1460	FKWE1500
FKWE1600	FKWE1610	FKWE1620	FKWE1630
FKWE1640	FKWE1650	FKWE8501	FKWE8502
FKWWIND2	FKWWIND3	FKXEIPSM	FKXIPHIC
FKXIPLOS	FKXIPPTR	FKXIPSES	FKXIPSGD
FKXIPSGR	FKXIPSNG	FKXIPSNM	FKXIPSNS
FKXIPSNW	FKXIPSSF	FKXIPWND	FKXWBINT
FKXWBRSP	FKXWBRTR	FLCACMSM	FLCAEALH
FLCAEALT	FLCAEALT	FLCAINW	FLCANALH
FLCANAUT	FLCANFSU	FLCANNAU	FLCANREQ
FLCANSER	FLCANVER	FLCARREQ	FLCDJASS

メッセージ

このセクションには、マイグレーションの考慮事項に関連する新規、変更、および削除されたメッセージがリストされています。

- 『新規メッセージ』
- 189 ページの『変更されたメッセージ』
- 191 ページの『削除されたメッセージ』

新規メッセージ

BNH757E	SURROGAT クラスのデータ・スペースに問題があるため、代理決定のために SAFNODEC 設定値が使用されます。(The SAFNODEC setting will be used for surrogate decisions due to a problem with the dataspace for the SURROGAT class.)
BNH758I	SURROGAT クラスを使用する代理許可が再開されました。(Surrogate authorization using the SURROGAT class has resumed.)
BNH759E	<i>clist1</i> INVOKED AS <i>clist2</i> CAUSED THE AUTOBYPAS <i>parm</i> LIMIT TO BE EXCEEDED
BNH760I	<i>name</i> DOES NOT HAVE A CMDMDL STATEMENT OR IT IS NOT A COMMAND PROCEDURE
BNH761E	<i>ipStack</i> でソケット・インターフェースを初期化しようとしたが、失敗しました。(Attempt to initialize socket interface on <i>ipStack</i> failed)
BNH763E	PING のための IP アドレスまたはホスト名が指定されていません。(No IP address or hostname specified for PING)
BNH764W	ホスト名の解決がタイムアウトになりました。(Host name resolution timed out)
BNH765I	長さが <i>length</i> バイトの <i>count</i> パケットで、 <i>ipAddress</i> の <i>ipHostname</i> を PING 中です。(Pinging <i>ipHostname</i> at <i>ipAddress</i> with <i>count</i> packets of length <i>length</i> bytes)
BNH766I	長さが <i>length</i> バイトのパケットで、 <i>ipAddress</i> の <i>ipHostname</i> を無期限に PING 中です。(Pinging <i>ipHostname</i> at <i>ipAddress</i> indefinitely with packets of length <i>length</i> bytes)
BNH767I	<i>time</i> ミリ秒内に <i>ipAddress</i> : seq= <i>number</i> から、 <i>numBytes</i> バイトを受信しました。(numBytes bytes received from <i>ipAddress</i> : seq= <i>number</i> in <i>time</i> ms)
BNH768I	PING がタイムアウトになりました。(Ping timed out)
BNH769I	<i>pingPackets</i> パケット送信、 <i>echoPackets</i> パケット受信、 <i>percent%</i> のパケット・ロスがありました。(pingPackets packets sent, echoPackets packets received, percent% packet loss)
BNH770I	往復時間 <i>min</i> ミリ秒から <i>max</i> ミリ秒、平均 <i>avg</i> ミリ秒 (Round trip times from <i>min</i> to <i>max</i> ms, averaging <i>avg</i> ms)

BNH771I	<i>ipAddress</i> にある <i>ipHostname</i> を PING した結果は、 <i>result</i> です。 (Pinging of <i>ipHostname</i> at <i>ipAddress</i> <i>result</i>)
CNM005I	<i>normal_SNMP_output</i>
CNM006E	<i>SNMP_error</i>
CNM007I	SNMP <i>request</i> PDU は正常に送信されました。 (SNMP <i>request</i> PDU sent successfully)
CNM008W	SNMP <i>request</i> コマンドでエラーが発生しました。 RC = <i>rc</i> (SNMP <i>request</i> command encountered errors, RC = <i>rc</i>)
CNM1200E	機密漏れ: 別のユーザーの信任状を使用しています。 (Security exposure: You are using another person's credentials.)
CNM1201E	ブラウザーの IP アドレスが Tivoli NetView for z/OS <i>domain</i> に接続することを許可されていません。 (Browser's IP address is not authorized to connect to Tivoli Netview for z/OS domain)
CNM1202E	ユーザー名は、1 から 8 文字とする必要があります。 (User name must contain between 1 and 8 characters.)
CNM1203E	パスワードは、0 から 8 文字とする必要があります。 (Password must contain between 0 and 8 characters.)
CNM1204E	ユーザー名またはパスワードが無効です。 (User name or password is invalid.)
CNM1205E	ユーザー <i>name</i> は、MIB ブラウザーの使用を許可されていません。 (User <i>name</i> is not authorized to use the MIB Browser.)
CNM1206E	ユーザー <i>name</i> は、SNMP セットに対して許可されていません。 (User <i>name</i> is not authorized for SNMP set.)
CNM1207E	ユーザー <i>name</i> は、リアルタイム・ポーラーの使用を許可されていません。 (User <i>name</i> is not authorized to use the Real Time Poller.)
CNM1208E	ユーザー <i>name</i> は、SNMP <i>command_name</i> コマンドの実行を許可されていません。 (User <i>name</i> is not authorized to execute SNMP <i>command_name</i> command.)
CNM1209E	NetView ドメイン <i>domain</i> の z/NetView Access Servlet (FLB_NvServ) の取得に失敗しました。 (Failed to obtain the z/NetView Access Servlet (FLB_NvServ) for NetView domain <i>domain</i> .)
CNM1210E	NetView for z/OS <i>domain</i> にアクセスするための信任状がありません。 (No credentials exists to access NetView for z/OS <i>domain</i> .)
CNM1211E	立ち上げるアプレットを識別するパラメーター ' <i>key</i> ' の値を認識できません: ' <i>value</i> '. (Unrecognized value for parm ' <i>key</i> ' that identifies the applet to launch: ' <i>value</i> ')
CNM1212E	立ち上げるアプレットを識別するパラメーター ' <i>key</i> ' が欠落しています。 (Missing parm ' <i>key</i> ' that identifies the applet to launch.)
CNM1213E	セキュリティー検査を実行するための NetView for z/OS ドメイン

	を識別するパラメーター 'key' が欠落しています。(Missing parm 'key' that identifies the NetView for z/OS domain to perform security checks.)
CNM1214E	<i>host</i> がポート <i>portnumber</i> での接続を拒否しました。(host refused connection on port <i>portnumber</i>)
CNM1215E	<i>host</i> の IP アドレスを解決できません。(Unable to resolve IP address for <i>host</i>)
CNM1216E	<i>host</i> への経路が見つかりません。(Unable to find route to <i>host</i>)
CNM1217E	<i>host</i> に接続しようとしたましたが割り込まれました。(Connect attempt to <i>host</i> interrupted)
CNM1218E	<i>host</i> に接続しようとしたましたが失敗しました。(Connect attempt to <i>host</i> failed.) 例外は <i>exception</i> でした。(Exception was <i>exception</i>)
DSI760E	この NetView プログラムの有効なライセンス証明書が検出されませんでした。(No valid license certificate was found for this NetView program.) NetView は終了します。(NetView is terminating.)
DSI761I	NetView は終了します - IBM License Management 呼び出しによって、次の値が戻されました: 戻りコード: <i>retcode</i> 状況コード: <i>status</i> 。(NetView is terminating - IBM License Management call returned the following values: Return code: <i>retcode</i> Status code: <i>status</i> .)
DWO082I	(no text)
DWO978E	URL WAS NOT DEFINED IN CNMSTYLE
DWO979I	LIMIT REACHED - OUTPUT TRUNCATED
EZL003E	RECOVERY PROCESSING CAN NOT BE PERFORMED. AON INITIALIZATION HAS NOT COMPLETED. RELATED DATA: <i>data</i>
EZL222I	THERE IS NO DATA TO DISPLAY
EZL242I	PROGRAM <i>program</i> -RUNCMD RETRY COUNT LIMIT OF <i>number</i> EXCEEDED FOR <i>resname</i>
EZL244E	DSICTMOD RUNCMD TIMEOUT HAS BEEN EXCEEDED, RUNCMD TO <i>service point</i> FAILED FOR <i>program</i> .
EZL245E	RCMD CORRWAIT TIMEOUT OF <i>seconds</i> SECONDS HAS BEEN EXCEEDED, RUNC MD TO <i>service point</i> FAILED FOR <i>program</i> .
EZL246E	RUNCMD FAILED TO SP <i>spname</i> - RECEIVED MESSAGE <i>msgnum</i> SENSE CODE <i>sensecode</i>
FKX101I	IDLE TIME THRESHOLD EXCEEDED FOR CONNECTION <i>conn_id</i> BETWEEN <i>stack_ipaddr</i> : <i>port</i> AND <i>client_ipaddr</i> : <i>port</i> . ACTION=NOTIFY SP= <i>sp_name</i> POLICY= <i>policy_name</i> .
FKX102I	IDLE TIME THRESHOLD EXCEEDED FOR CONNECTION <i>conn_id</i> BETWEEN <i>stack_ipaddr</i> : <i>port</i> AND <i>client_ipaddr</i> : <i>port</i> . ACTION=DROP SP= <i>sp_name</i> POLICY= <i>policy_name</i> .
FKX104I	MINIMUM BYTES THRESHOLD EXCEEDED FOR CONNECTION

	<i>conn_id</i> BETWEEN <i>stack_ipaddr</i> : <i>port</i> AND <i>client_ipaddr</i> : <i>port</i> . ACTION=NOTIFY SP= <i>sp_name</i> POLICY= <i>policy_name</i> .
FKX105I	MINIMUM BYTES THRESHOLD EXCEEDED FOR CONNECTION <i>conn_id</i> BETWEEN <i>stack_ipaddr</i> : <i>port</i> AND <i>client_ipaddr</i> : <i>port</i> . ACTION=DROP SP= <i>sp_name</i> POLICY= <i>policy_name</i> .
FKX107I	MAXIMUM BYTES THRESHOLD EXCEEDED FOR CONNECTION <i>conn_id</i> BETWEEN <i>stack_ipaddr</i> : <i>port</i> AND <i>client_ipaddr</i> : <i>port</i> . ACTION=NOTIFY SP= <i>sp_name</i> POLICY= <i>policy_name</i> .
FKX108I	MAXIMUM BYTES THRESHOLD EXCEEDED FOR CONNECTION <i>conn_id</i> BETWEEN <i>stack_ipaddr</i> : <i>port</i> AND <i>client_ipaddr</i> : <i>port</i> . ACTION=DROP SP= <i>sp_name</i> POLICY= <i>policy_name</i> .
FKX510I	IPPORT MONITORING CANNOT BE STOPPED
FKX615I	CONNECTION DOES NOT EXIST
FKX682I	FUNCTION NOT SUPPORTED FOR z/OS <i>release</i>
FKX970I	NO SESSIONS MATCH DEFINED FILTER CRITERIA
FKX979E	UNIXSERV=YES IS REQUIRED ON TCP390 STATEMENT IN POLICY DEFINITION
IHS0181E	<i>service</i> は、正常にソケットを定義できるまで、リサイクルを続行します。(The <i>service</i> will continue recycling until it can successfully define a socket.)
IHS0182I	<== <i>現行の service</i> サービス設定==> (<==Current <i>service</i> Service Settings==>)
IHS0183I	CFG ファイル : <i>cfgfilename</i> (<i>fromtype</i>) (CFG file : <i>cfgfilename</i> (<i>fromtype</i>))
IHS0184I	** サービスがアクティブではありません ** (** The service is not active **)
IHS0185I	<i>setting</i> = <i>value</i> (<i>fromtype</i>)
IHS0186I	フィルター <i>number</i> スロット: (Filter <i>number</i> slots:)
IHS0187I	<i>slotname</i> = <i>slotvalue</i>
IHS0188I	FilterCache <i>number</i> スロット: (FilterCache <i>number</i> slots:)
IHS0189I	アダプター・サービスがセキュア・モードで実行中です。(The adapter services are running in secure mode.)
IHS0190E	<i>service</i> : TestMode ファイルにアクセスできませんでした。(service: Could not access the TestMode file.)
IHS0191I	<i>service</i> : ServerLocations の数 (<i>number</i>) が、最大数の <i>maximum</i> を超えています。超過分は無視します。(service: Number of ServerLocations (<i>number</i>) exceeds the maximum of <i>maximum</i> ; ignoring extras.)
IHS0192I	<i>service</i> : サーバー接続が中断状態です。(service: Server connections are suspended.)

IHS0193I	<i>service:</i> サーバー接続が再開されました。 (<i>service:</i> Server connections have been resumed.)
IHS0194E	<i>service:</i> キャッシュ・ファイルでファイル・アクセス・エラーが発生しました。 (<i>service:</i> A file access error occurred for the cache file.)
IHS0195E	<i>service:</i> イベントをキャッシュに入れることができません。イベント・サイズが最大キャッシュ・ファイル・サイズを超えています。 (<i>service:</i> An event cannot be cached: The event size is greater than the maximum cache file size.)
IHS0196I	<i>service:</i> ファイル・アクセス・エラーが訂正されました。 (<i>service:</i> File access errors have been corrected.)キャッシュが再開されます。 (Caching is resumed.)
IHS0197E	<i>service:</i> キャッシュ・ファイルが破壊されました。 (<i>service:</i> Cache file corrupted.) 現行の内容は廃棄されます。 (The current contents will be discarded.)
IHS0198E	<i>service:</i> キャッシュ・ファイル内のイベントが正しく終了されません。 (<i>service:</i> An event in the cache file is not properly terminated.) イベントは廃棄されます。 (The event will be discarded.)
IHS0199E	<i>service:</i> キャッシュ・ファイル内のイベントが読み取りバッファに対して大きすぎます。 (<i>service:</i> An event in the cache file is too large for the Read buffer.) イベントは廃棄されます。 (The event will be discarded.)
IHS0200I	<i>service:</i> ServerPorts の数 (<i>number</i>) が、最大数の <i>maximum</i> を超えています。超過分は無視します。 (<i>service:</i> Number of ServerPorts (<i>number</i>) exceeds the maximum of <i>maximum</i> ; ignoring extras.)
IHS0201I	<i>service:</i> 少なくとも 1 つの ServerLocation を指定する必要があります。 (<i>service:</i> At least one ServerLocation must be specified.)

変更されたメッセージ

BNH064I	DISTRIBUTED ORIGIN ORIGIN ORIGIN
BNH065I	AUTOTASK NETVIEW OPERATOR VERSION TRANSPORT
BNH401E	LOAD FAILED FOR DB2® INTERFACE MODULE ' <i>module_name</i> ' WITH ABEND CODE = <i>X'abend_code</i> ' AND REASON CODE = <i>X'reason_code</i>
BNH652I	NETVIEW RESOURCE MANAGER IS TERMINATING DUE TO ' <i>reason</i> '
DSI231I	NO <i>element</i> IS ACTIVE
DUI400W	IP COMMUNICATIONS SETUP FOR IP <i>ipid:port</i> HAS FAILED. THE NETCONV START COMMAND IS REJECTED.
DUI401I	NETCONV COMMAND PROCESSED SUCCESSFULLY. COMMUNICATION TO IP <i>ipid:port</i> STARTED.
DUI402I	IP <i>ipid:port</i> HAS ALREADY BEEN STARTED BY <i>operatorid</i> . CONDITION CODE = <i>condcode</i>

DUI404E	NETCONV START FOR IP <i>ipid:port</i> REJECTED. DSIMQS FAILED WITH RC= <i>retcode</i> .
DUI405E	COMMUNICATION TO IP <i>ipid:port</i> TERMINATED ABNORMALLY: TCP/IP HAS TERMINATED.
DUI406E	COMMUNICATION TO IP <i>ipid:port</i> TERMINATED ABNORMALLY: VTAM TPEND.
DUI407I	A DUPLICATE NETCONV START REQUEST WAS ISSUED FOR IP <i>ipid:port</i> . THE REQUEST IS IGNORED.
DUI408I	A NETCONV STOP REQUEST FOR IP <i>ipid:port</i> THAT WAS ISSUED BY <i>operatorid</i> COULD NOT BE PROCESSED.
DUI409E	COMMUNICATION TO IP <i>ipid:port</i> TERMINATED ABNORMALLY: OST ABEND.
DUI410E	COMMUNICATION TO IP <i>ipid:port</i> TERMINATED ABNORMALLY: OPERATOR LOGOFF.
DUI411E	COMMUNICATION TO IP <i>ipid:port</i> TERMINATED ABNORMALLY: CNMTAMEL TASK IS TERMINATING.
DUI412E	COMMUNICATION TO IP <i>ipid:port</i> TERMINATED ABNORMALLY: FATAL ERROR DURING RECEIVE.
DUI413E	COMMUNICATION TO IP <i>ipid:port</i> TERMINATED ABNORMALLY: FATAL ERROR DURING SEND.
DUI414E	COMMUNICATION TO IP <i>ipid:port</i> TERMINATED ABNORMALLY: FATAL ERROR
DUI415E	COMMUNICATION TO IP <i>ipid:port</i> TERMINATED ABNORMALLY: RECEIVED DATA THAT WAS NOT VALID.
DUI416E	COMMUNICATION TO IP <i>ipid:port</i> TERMINATED ABNORMALLY: WORKSTATION FATAL ERROR.
DUI417I	NETCONV COMMAND PROCESSED SUCCESSFULLY. COMMUNICATION TO IP <i>ipid:port</i> STOPPED.
DUI419I	COMMUNICATION TO IP <i>ipid:port</i> TERMINATED NORMALLY. THE COMMUNICATION SERVER CLOSED THE SOCKET.
DUI421E	THE NETCONV START COMMAND HAS FAILED BECAUSE IP <i>ipid:port</i> IS COMMUNICATING WITH ANOTHER STATUS FOCAL POINT, IS RUNNING AN UNSUPPORTED LEVEL OF NMC, OR IS ALREADY COMMUNICATING WITH THIS STATUS FOCAL POINT.
DUI422E	CNMTAMEL FAILED TO RECEIVE DATA FROM IP ' <i>ipid:port</i> ' DUE TO A STORAGE SHORTAGE. REQUESTED AMOUNT = <i>amount</i> BYTES.
DUI423E	COMMUNICATION TO IP <i>ipid:port</i> TERMINATED ABNORMALLY: WORKSTATION NOT RESPONDING.
DUI424I	OPERATOR <i>operatorid</i> IS COMMUNICATING WITH WORKSTATION AT IP <i>ipid:port</i> .

DUI461I	IP <i>ipid:port</i> NOT AVAILABLE FOR WORK; REQUEST TO THIS IP WAS ABORTED.
DUI500E	CNMTAMEL RECEIVED CORRUPTED DATA FROM IP <i>ipid:port</i> .
DUI611I	THE OPERATOR ID AND PASSWORD FOR GRAPHIC MONITOR OPERATOR <i>operatorid</i> HAS BEEN VERIFIED. <i>ipid:port</i> IS THE SERVER PWS SERVING THIS GRAPHIC MONITOR.
DUI623E	CNMTAMEL IS UNABLE TO ALLOCATE <i>bytes</i> BYTES OF STORAGE FOR SENDING A REQUIRED RESPONSE TO SERVER PWS AT IP <i>ipid:port</i>
DUI625E	CNMTAMEL COULD NOT SEND A DATA PACKET TO THE DATA SERVER AT IP <i>ipid:port</i> BECAUSE OF A STORAGE SHORTAGE.
DUI627E	CNMTAMEL FAILED TO SEND DATA TO THE DATA SERVER AT IP <i>ipid:port</i> DUE TO AN MQS FAILURE. TYPE = <i>sesstype</i> STATUS = <i>sessionstat</i> SESSION = <i>session</i>
DWO948I	RECEIVER RECEIVER BUFFER QUEUED TOTAL STORAGE RCVR
DWO949I	IDENTITY STATUS LIMIT BUFFERS BUFFERS ALLOCATED ASID
DWO950I	-----
DWO951I	&1 ACTIVE &2 &3 &4 &5 &6
EZL970I	NO TIMERS ARE SCHEDULED FOR THE FILTER CRITERIA ' <i>filter</i> ' ON ' <i>target</i> '
EZL971I	REQUESTED TIMERS WERE DELETED ON ' <i>target</i> '
EZL973I	REQUESTED TIMER <i>timer</i> ADDED ON ' <i>target</i> '
EZL974I	REQUESTED TIMER <i>timer</i> CHANGED ON ' <i>target</i> '
EZL975I	REQUEST FAILED TIMER <i>timer</i> ALREADY EXISTS ON ' <i>target</i> '
FLB010E	FLBTOPO RECEIVED RETURN CODE <i>retcode</i> , ABEND CODE <i>abncode</i> , REASON CODE <i>rsncode</i> , ATTEMPTING TO LOAD MODULE ' <i>module</i> '
FLB534E	TOPOSNA <i>requestparm</i> COMMAND HAS INCORRECT RODM OBJECT ID ' <i>rodmbiectid</i> '
IHS0076I	TASK= <i>task</i> LEVEL= <i>level</i> IP= <i>iptrace</i>
IHS0094E	<i>service</i> : 初期化が失敗しました。 (<i>service</i> : Initialization failed.) 構成ファイルは <i>configfile</i> です。 (The configuration file is <i>configfile</i> .)

削除されたメッセージ

AAU971I	BNH180I	BNH191I	BNH193I
BNH201E	BNH204E	BNH216E	BNH260I
BNH292I	BNH320W	BNH325W	BNH332I
BNH746E	CNM1100I	CNM1101E	CNM1102E

NetView V1R4 からの変更

CNM1103I	CNM1104I	CNM1105E	CNM1106I
CNM1107I	CNM1108E	CNM1109E	CNM1110E
CNM1111E	CNM1112E	CNM1113E	CNM1114E
CNM1115E	CNM1116E	CNM1117E	CNM1118E
CNM1119E	CNM1120E	CNM1121E	CNM1122I
CNM1123E	CNM1124E	CNM1125E	CNM1126I
DSI088I	DSI181I	DSI182I	DSI183I
DSI211I	DSI212I	DSI218I	DSI796I
DUI543E	DUI544E	FLB200I	FLB201E
FLB202I	FLB204E	FLB205E	FLB206E
FLB207E	FLB208W	FLB209E	FLB210E
FLB211E	FLB212E	FLB213E	FLB214I
FLB215W	FLB216E	FLB217E	FLB218I
FLB219E	FLB220E	FLB221E	FLB222E
FLB223E	FLB224I	FLB226W	FLB227I
FLB228I	FLB229I	FLB230I	FLB231W
FLB232E	FLB233E	FLB234E	FLB235E
FLB236E	FLB237E	FLB238I	FLB239E
FLB243W	FLB244E	FLB245E	FLB247E
FLB248I	FLB250E	FLB251E	FLB252E
FLB253E	FLB260I	FLB261I	FLB262I
FLB263I	FLB264I	FLB265I	FLB266I
FLB267I	FLB268I	FLB269I	FLB270I
FLB271I	FLB272I	FLB273I	FLB274I
FLB275I	FLB276I	FLB277I	FLB278I
FLB279I	FLB280I	FLB281I	FLB282I
FLB283I	FLB284I	FLB285I	FLB287I
FLB428E	FLB510I	FLB511I	FLB512I
FLB513I	FLB514E	FLB515E	FLB518E
FLB519E	FLB522E	FLB523E	FLB526E
FLB527E	FLB530E	FLB531E	FLB535I
FLB536I	FLB569I	FLB570I	FLB571I
FLB572I	FLB573I	FLB574I	FLB575I
FLC123I	FLC124I	FLC125I	FLC127I
FLC128I			

さらに、FKW、FLCA、FLCE、および FLCF のメッセージはすべて削除されました。ただし、以下のメッセージは名前変更されました。

表 37. 名前変更された NetView V5R1 メッセージ ID

V5R1 以前の NetView メッセージ ID	NetView V5R1 メッセージ ID
FKW201I	EZL242I
FKW204I	EZL222I
FKW732E	EZL244E
FKW733E	EZL245E
FKW829E	EZL246E

サンプル

このセクションには、マイグレーションの考慮事項に関連する新規サンプルと削除されたサンプルがリストされています。

- 『新規サンプル』
- 『削除されたサンプル』

新規サンプル

CNMSAF2	CNMSBAK1	CNMSCAT2	CNMSPAN2
CNMSRPLY	CNMSHTSP	CNMSURLS	DSIAUTB
DSIAUTBU	DSICMD51	DSIPROFG	DSIW3PRF
FKXSCM	FKXSDVPT	FKXVHTML	FKXWHTML
FLCAINP			

削除されたサンプル

CNM\$SAMP	CNMIPDCN ¹	CNMSXBAS	CNMSXMON
DSICMPRC	DSICMRMT	DSIDMNK	DSISPN
EKG\$1SYS	EKG\$4SYS	EKG\$8SYS	EZL\$5SYS
EZLJSMTP	FKWCFGDL	FKWCFG01	FKWCGLOB
FKWCMD	FKWHELP	FKWNDCMD	FKWOPF
FKWTABLE	FKWTREE	FKXCM ²	FKXSNMP ³
FLBGMMPR	FLBSYSDA	FLBS4210	FLBS4211
FLCSAALH	FLCSAINP	FLCSDM6A	FLCSDM6N
FLCSEALH	FLCSEALT	FLCSEAUT	FLCSIATM
FLCSINW	FLCSNALH	FLCSNAUT	FLCSNNAU
IHSDNODE ⁴	IHSDPOLL ⁵	IHSDRESO ⁶	IHSDTEMP ⁷
IHSDVIEW ⁸	IHSMIBS ⁹	IHSPCONF ¹⁰	IHSPJDMS ¹¹
IHSSNMP ¹²	IHSSRVR ¹³		

UNIX システム・サービスのファイル名:

1. ipdiscovery.conf
2. fkxcm
3. fkxsnmp.grp
4. node.def
5. pollobj.def
6. resource.def
7. template.def
8. view.def
9. nv390mibs.def
10. config.properties
11. JdmServerProperties.txt
12. snmp.conf
13. nv390srvr.conf

付録 C. Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 1 から Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 2 への変更

この付録は、新規、変更、および削除された、以下の内容をリストしています。

- 『コマンド・リスト』
- 196 ページの『メッセージ』
- 202 ページの『サンプル』

注: このセクションのリストは、左から右へ英字順で記載されています。

コマンド・リスト

このセクションには、マイグレーションの考慮事項に関連する新規および削除されたコマンド・リストがリストされています。

- 『新規コマンド・リスト』
- 『削除されたコマンド・リスト』

新規コマンド・リスト

CNMCRMSG	CNMEABND	CNMEAUX	CNMEBCOR
CNMECMNM	CNMECONV	CNMECRG	CNMEDCNV
CNMEDCST	CNMEDCSY	CNMEDCUT	CNMEDC0A
CNMEDC01	CNMEDC02	CNMEDC03	CNMEDC05
CNMEDC06	CNMEDC07	CNMEDPRV	CNMEEPAP
CNMEEPST	CNMEEPSY	CNMEERSC	CNMEFPTC
CNMEHTSP	CNMEMIG	CNMENVHB	CNMEPLXI
CNMESCAC	CNMESCCD	CNMESPAT	CNMESPAU
CNMESPAY	CNMESPIN	CNMESPRO	CNMESPWE
CNMESTMN	CNMETACC	CNMETACI	CNMETACN
CNMETACW	CNMETALW	CNMETAPK	CNMETAPW
CNMETRTE	CNMEWEBM	CNMEXLCH	CNMEZPM1
CNMEZPM2	CNMEZPM3	CNMEZPM4	CNMEZZMG
CNME7200	CNME7201	CNME7203	CNME7205
CNME7210	CNME7211	CNME7212	CNME7213
CNME7221	CNME7225	CNMMONSY	FKXECOLD
FKXECOLS	FKXEDVSR	FKXEGTCN	FKXEGTDT
FKXEGTIF	FKXEGTPF	FKXEGTPT	FKXEGTST
FKXEIDSA	FKXEIDSC	FKXEIDSE	FKXEIDSR
FKXESTCK	FKXETRA6	FKXEVP1X	FKXEVP2X
FKXEVP3X	FKXEWPNG	FKXEW SVM	FKXEWTRA
FKXE221A			

削除されたコマンド・リスト

EZLEIPIL	EZLEIPLR	FKXEDCON	FKXEIDST
FKXEIDVF	FKXEIGEN	FKXEIHIC	FKXEIHLP
FKXEILGO	FKXEILOG	FKXEILOS	FKXEIPTR

FKXEISES
FKXENVDR
FKXEWRSR

FKXEISSF
FKXEWBIN
FKXEWRTS

FKXEITRG
FKXEWCON
FKXEW390

FKXEIWND
FKXEWLOG

メッセージ

このセクションには、マイグレーションの考慮事項に関連する新規、変更、および削除されたメッセージがリストされています。

- 『新規メッセージ』
- 200 ページの『変更されたメッセージ』
- 202 ページの『削除されたメッセージ』

新規メッセージ

AAU927I	<i>modid locid</i> INVALID PURGE EXCEPTION LIST <i>xx</i>
BNH180I	INTRUSION DETECTION MESSAGE RECEIVED.
BNH193I	ERROR MONITORING SYSLOG ' <i>filename</i> '
BNH202E	UNIX SYSTEM SERVICE <i>service</i> FAILED. SOCKET CLOSED.
BNH299I	<i>pattern</i> の <i>srcv_name</i> キャッシングが使用不可になっています。 (<i>srcv_name</i> caching for <i>pattern</i> is disabled.)
BNH541I	lcldate lcltime (gmtdate gmtime) LOCAL TIME ADJUSTMENT STARTED
BNH542I	lcldate lcltime (gmtdate gmtime) LOCAL TIME ADJUSTMENT ENDED
BNH557E	MISMATCH DETECTED BETWEEN <i>var1</i> AND <i>var2</i> ENTRIES IN <i>var3</i> .
BNH648I	<i>member_id</i> が <i>action</i> によりキャッシュから除去されました。 (<i>member_id</i> removed from cache by <i>action</i>)
BNH649I	アクション <i>action_name</i> に対して <i>srcv_name</i> によってキャッシュさ れたメンバーはありません。(No members cached by <i>srcv_name</i> found for the action <i>action_name</i>)
BNH738E	COMMAND NOT PROCESSED -- PPI SEND FAILURE
BNH750I	<i>member_id</i> は <i>task_name</i> によってキャッシュされました。 (<i>member_id</i> was cached by <i>task_name</i>)
BNH772I	NUMBER OF CONNECTIONS: <i>numcon</i> , MISSED BUFFERS: <i>missbuf</i>
BNH773I	NUMBER OF PACKETS: <i>nump</i> , MISSED BUFFERS: <i>missbuf</i> , TCPNAME: <i>tname</i>
BNH780I	UNABLE TO SEND EVENT TO CORRELATION ENGINE.
BNH781I	CORRELATION ENGINE MESSAGE RECEIVED.
BNH782I	NO MESSAGE/MSU FOUND FOR CORRELATION EVENT <i>event</i> .

BNH783I	<i>number</i> CORRELATION MESSAGES/MSUS PURGED.
BNH784I	CORRSERV COMMAND ACCEPTED.
BNH785I	CORRELATION FAILED. MQS FAILED TO DSICORSV. RC = <i>rc</i> .
BNH786I	EVENT THRESHOLD <i>nn</i> REACHED.
BNH787I	CORRSERV STATUS コマンド応答データ (CORRSERV STATUS command response data)
BNH788I	COMMAND RESPONSE TO <i>command</i> RECEIVED
BNH789I	CORRELATION LOOP DETECTED. MESSAGE/MSU REJECTED.
BNH790I	NetView Resource Agent <i>domain</i> が下位レベルです。処理を続行します。
BNH791I	ADDRESS FAMILY IS <i>family</i>
BNH792I	PORT NUMBER IS <i>nnn</i>
BNH793I	SOCKET TYPE IS <i>socktype</i>
BNH794I	PROTOCOL NUMBER IS <i>nnn</i>
BNH795I	SCOPE ID IS <i>scopeid</i>
BNH796I	SERVICE NAME IS <i>service</i>
BNH797I	CONVERSION FAILED FOR IP ADDRESS <i>ipaddress</i> WITH RC <i>retcode</i> . COMMAND PROCESSING TERMINATED.
BNH798I	NO INTERFACES WERE RETURNED
BNH799I	INTERFACE NAME IS <i>name</i>
BNH800I	INTERFACE ADDRESS IS <i>address</i>
BNH801I	INTERFACE INDEX IS <i>nnn</i>
BNH802I	SOCKET <i>nnn</i> ADDRESS FAMILY IS INCOMPATIBLE WITH IP ADDRESS <i>address</i>
BNH803I	VALUE <i>value1</i> FOR KEYWORD <i>keyword1</i> CONFLICTS WITH VALUE <i>value2</i> FOR KEYWORD <i>keyword2</i>
BNH804I	NETVIEW TIVOLI ENTERPRISE PORTAL AGENT ' <i>agent_info</i> ' INTERFACE INITIALIZATION IS <i>action</i>
BNH805I	NETVIEW TIVOLI ENTERPRISE PORTAL AGENT ' <i>agent_info</i> ' INTERFACE IS TERMINATING DUE TO ' <i>reason</i> '
BNH806I	TAKE ACTION COMMAND ' <i>command</i> ' RECEIVED FOR TASK <i>task_name</i>
BNH807I	TAKE ACTION RESPONSE SENT FOR COMMAND ' <i>command</i> ' TASK <i>task_name</i>
BNH808I	TAKE ACTION COMMAND ' <i>command</i> ' FAILED FOR TASK <i>task_name</i>
BNH809I	DVIPA DATA IS NOT AVAILABLE FOR DOMAIN <i>domain</i>
BNH810I	Tracing IP route to <i>target</i> max <i>hops</i> hops

BNH811I	<i>hop: addr (name) tlms t2ms t3ms...tms</i>
BNH812I	<i>command</i> ISSUED FOR <i>task_name</i> COMPLETED WITH STATUS <i>code</i>
BNH816I	SYSPLEX IP STACK MANAGER INITIALIZATION IS COMPLETE
BNH817I	SYSPLEX IP STACK MANAGER INITIALIZATION IS STARTING
BNH818I	SYSPLEX IP STACK MANAGER IS ENDED DUE TO OPERATOR REQUEST
BNH819E	SYSPLEX IP STACK MANAGER RECEIVED UNRECOGNIZED DATA WHILE PROCESSING <i>key</i>
BNH820E	INVALID IP ADDRESS <i>ipaddr</i> SPECIFIED
BNH821I	AT-TLS CONNECTION STATUS: <i>X'connection-status'</i>
BNH822I	AT-TLS POLICY STATUS: <i>X'policy-status'</i>
BNH823I	AT-TLS ENCRYPTION PROTOCOL: <i>X'protocol'</i>
BNH829E	AT-TLS POLICY <i>X'policy-status'</i> NOT SUPPORTED
BNH830I	ONE OR MORE SPECIFIED OUTPUT ORDERS ARE NOT SUPPORTED IN A WHEN STATEMENT
BNH831I	DISPLAY OF NETVIEW TIVOLI ENTERPRISE PORTAL AGENT CONNECTIONS
BNH832I	TASK STATUS TCP/IP SOURCE PORT IP HOST
BNH833I	NAME NAME NAME ADDRESS NAME
BNH834I	<i>insert1 insert2 insert3 insert4 insert5 insert6 insert7</i>
BNH835I	DISPLAY OF MAPPED TIVOLI ENTERPRISE PORTAL USER IDS
BNH836I	TIVOLI ENTERPRISE PORTAL USER ID NETVIEW OPERATOR ID
BNH837I	<i>insert1 insert2</i>
BNH875I	COMMON_BASE_EVENT. TYPE: <i>type</i> MSG: <i>msg</i>
BNH876E	ERROR PROCESSING TEMPLATE TAG <i>tag</i> ON LINE <i>linenumber</i> . REASON: <i>cde</i>
BNH883I	CBE TEMPLATE <i>template</i> NOT FOUND.
BNH884I	CBE TEMPLATE MEMBER <i>member</i> SUCCESSFULLY LOADED.
BNH885I	NO CBE TEMPLATES LOADED.
BNH886I	CBE TEMPLATES <i>template</i> FOUND. CONTENTS ARE:
BNH887I	無効な CBE TEMPLATE NAME <i>template</i> が指定されました。(CBE TEMPLATE NAME <i>template</i> that is not valid was specified.)
CNM012I	REVISION TABLE <i>table_name</i> , LOADED BY <i>task_name</i> , HAS EXAMINED <i>count</i> MESSAGES SINCE BEING LOADED, <i>date time</i>
CNM014I	REVISION TABLE REPORT FOLLOWS:

CNM015I	TOTAL HITS FOR THE FOLLOWING UPON OR UPON-GROUP: <i>number</i>
CNM594I	NO MATCH WAS FOUND. LBFINDMX WAS EXCEEDED. ENTER RFIND TO CONTINUE.
CNM597I	MAXIMUM ERROR COUNT EXCEEDED
DSI047E	<i>operation</i> が失敗しました: <i>tower</i> が使用可能になっていません。 (<i>operation</i> failed: <i>tower</i> not enabled.)
DSI500I	<i>object</i> が再始動されました。(<i>object</i> restarted.)
DSI891I	USING DEFAULT MEMBER - <i>member</i>
DSI892I	<i>keyword</i> KEYWORD USING DEFAULT VALUE OF <i>value</i>
DSI893E	<i>cmd_name</i> COMMAND FAILED WITH A RC = <i>rc</i> : <i>command</i>
DSI894E	UNMATCHED COMMENT DELIMITER IN MEMBER <i>member_name</i>
DSI895E	UNMATCHED QUOTE IN MEMBER <i>member_name</i> ON LINE <i>line_no</i>
DSI896E	<i>utility</i> COMPLETED WITH RC = <i>rc</i>
DSI897E	COULD NOT FIND ANY DATA SETS FOR DDNAME <i>ddname</i>
DSI898E	COULD NOT FIND MEMBER <i>member_name</i> IN DDNAME <i>ddname</i>
DWO083I	<i>text</i>
DWO084E	<i>command</i> コマンドのキーワード <i>keyword</i> に指定された値 <i>value</i> が 誤りです。長すぎます。(The value <i>value</i> specified for keyword <i>keyword</i> on the <i>command</i> command is incorrect. It is too long.)
DWO085E	値 'MEM-' が MODFILT キーワードに指定されましたが、'MEM-' の後にメンバー名が指定されていません。(The value 'MEM-' was specified for the MODFILT keyword without a member name following 'MEM-'.)
DWO086I	<i>ddname</i> メンバー <i>member</i> に、MODFILT フィルター項目が含まれ ていません。(ddname member <i>member</i> contains no MODFILT filter entries.)
DWO087E	<i>ddname</i> メンバー <i>member</i> に、次の誤った MODFILT フィルター項 目が含まれています: 'MEM-badmem'。ネストされたメンバーは許可 されません。(ddname member <i>member</i> contains the following incorrect MODFILT filter entry: 'MEM-badmem'. Nesting members is not permitted.)
DWO088E	<i>ddname</i> メンバー <i>member</i> の処理中にエラーを検出しました。(An error was encountered while processing <i>ddname</i> member <i>member</i> .)
DWO089I	<i>type</i> が現在デコードされていません。トレース・レコードが続いま す。(type not currently decoded. The trace record follows.)
EKG1927E	<i>jobname</i> : JCL EXEC STATEMENT PARAMETER FOR THE ROUTE CODE OPTION IS NOT VALID

EZL230E	REQUIRED PARAMETER <i>parm</i> MISSING FROM <i>entry</i> STATEMENT IN <i>name</i> FILE
EZL442I	INFORM LOG MEMBER NOT DEFINED
EZL478E	INFORM LOG MEMBER <i>member_name</i> CONTAINS INVALID DATA
EZL479I	INFORM LOG MEMBER <i>member_name</i> CONTAINS NO ENTRIES
EZL510I	<i>restype resname</i> WAS REPORTED AS UNAVAILABLE, BUT IS NOW AVAILABLE (REPORTED BY <i>reporter</i>)
EZL710I	EZL710I 1 つ以上の <i>policy_type policy_name</i> キーワードが検出されました。(EZL710I One or more <i>policy_type policy_name</i> keywords found.)
FKX300I	IDS EVENT RECEIVED : DIPADDR= <i>dest_ip_addr</i> , SIPADDR= <i>src_ip_addr</i> , CORRELATOR= <i>nnnn</i> . MEMBER= <i>member_name</i>
FKX301I	IDS EVENT THRESHOLD OF <i>nnn</i> EVENTS DURING INTERVAL <i>interval</i> REACHED FOR STACK <i>stackname</i>
FKX303I	IDS EVENT DETECTED CONTAINS UNKNOWN <i>probeid</i>
FKX305I	IDS EVENT DETECTED FOR DESTINATION IP ADDRESS <i>dest_ip_addr</i> BUT COULD NOT CORRELATE TO A KNOWN TCP/IP STACK.
FKV655I	NO DIRECTORY INFORMATION RELATED TO RESOURCE <i>cpname</i> IS AVAILABLE

変更されたメッセージ

AAU130I	REQUESTED TRACE FUNCTION IS PENDING GTF START WITH USR OR USRP OPTION
AAU270I	SYNTAX ERROR INVOLVING BEFORE PHRASE OR PEXLST PARAMETER
BNH197E	UNABLE TO WRITE TO EXTERNAL LOG, CMDDEF STATEMENT DSIELDAT IS MISSING
BNH642I	<i>requestname</i> DISPLAY TERMINATED DUE TO UNEXPECTED ERROR
BNH681I	DOMAIN TASK COMMUNICATION IP HOST
BNH682I	NAME NAME MODE ADDRESS NAME
BNH684I	<i>domain taskname mode ipaddress hostname</i>
BNH760I	<i>name</i> DOES NOT HAVE A CMDDEF STATEMENT OR IT IS NOT A COMMAND PROCEDURE
BNH763E	<i>command</i> に IP アドレスまたはホスト名が指定されていません。 (No IP address or hostname specified for <i>command</i>)
CNM008W	SNMP <i>request</i> コマンドがエラーを検出しました。(SNMP <i>request</i> command encountered errors)

CNM330E	<i>command</i> : <i>parm</i> PARAMETER MISSING OR INCORRECT
CNM516E	VALUE SPECIFIED FOR “ <i>name</i> ” <i>type</i> IS TOO LONG IN <i>ddname</i> MEMBER <i>member_name</i>
CNM518E	AN INVALID NULL QUOTED STRING WAS SPECIFIED FOR “ <i>name</i> ” <i>type</i>
CNM552I	NO MVS CONSOLE ASSIGNED TO THIS OPERATOR
CNM567I	NO MVS CONSOLE AVAILABLE—TRY AGAIN LATER
CNM569I	MVS CONSOLE RELEASED
DSI141I	<i>macro</i> FAILED. REGISTER 15 = X' <i>code</i> ', REGISTER 0 = X' <i>code</i> ', LUNAME = <i>luname extra extra</i>
DSI590I	CMDDEF STATEMENTS MAY BE MISSING FOR <i>module</i>
DUI373E	NETVIEW SUBSYSTEM NOT AVAILABLE FOR PROGRAM TO PROGRAM INTERFACE REQUEST FROM <i>task</i> .
DUI400W	IP COMMUNICATIONS SETUP FOR IP ' <i>ipid:port</i> ' HAS FAILED. THE NETCONV START COMMAND IS REJECTED.
DUI401I	NETCONV COMMAND PROCESSED SUCCESSFULLY. COMMUNICATION TO IP ' <i>ipid:port</i> ' STARTED.
DUI402I	IP ' <i>ipid:port</i> ' HAS ALREADY BEEN STARTED BY <i>operatorid</i> . CONDITION CODE = <i>condcode</i>
DUI404E	NETCONV START FOR IP ' <i>ipid:port</i> ' REJECTED. DSIMQS FAILED WITH RC= <i>retcode</i> .
DUI405E	COMMUNICATION TO IP ' <i>ipid:port</i> ' TERMINATED ABNORMALLY: TCP/IP HAS TERMINATED.
DUI406E	COMMUNICATION TO IP ' <i>ipid:port</i> ' TERMINATED ABNORMALLY: VTAM TPEND.
DUI407I	A DUPLICATE NETCONV START REQUEST WAS ISSUED FOR IP ' <i>ipid:port</i> '. THE REQUEST IS IGNORED.
DUI408I	A NETCONV STOP REQUEST FOR IP ' <i>ipid:port</i> ' THAT WAS ISSUED BY <i>operatorid</i> COULD NOT BE PROCESSED.
DUI409E	COMMUNICATION TO IP ' <i>ipid:port</i> ' TERMINATED ABNORMALLY: OST ABEND.
DUI410E	COMMUNICATION TO IP ' <i>ipid:port</i> ' TERMINATED ABNORMALLY: OPERATOR LOGOFF.
DUI411E	COMMUNICATION TO IP ' <i>ipid:port</i> ' TERMINATED ABNORMALLY: CNMTAMEL TASK IS TERMINATING.
DUI412E	COMMUNICATION TO IP ' <i>ipid:port</i> ' TERMINATED ABNORMALLY: FATAL ERROR DURING RECEIVE.
DUI413E	COMMUNICATION TO IP ' <i>ipid:port</i> ' TERMINATED ABNORMALLY: FATAL ERROR DURING SEND.

DUI414E	COMMUNICATION TO IP ' <i>ipid:port</i> ' TERMINATED ABNORMALLY: FATAL ERROR
DUI415E	COMMUNICATION TO IP ' <i>ipid:port</i> ' TERMINATED ABNORMALLY: RECEIVED DATA THAT WAS NOT VALID.
DUI416E	COMMUNICATION TO IP ' <i>ipid:port</i> ' TERMINATED ABNORMALLY: WORKSTATION FATAL ERROR.
DUI417I	NETCONV COMMAND PROCESSED SUCCESSFULLY. COMMUNICATION TO IP ' <i>ipid:port</i> ' STOPPED.
DUI419I	COMMUNICATION TO IP ' <i>ipid:port</i> ' TERMINATED NORMALLY. THE COMMUNICATION SERVER CLOSED THE SOCKET.
DUI421E	THE NETCONV START COMMAND HAS FAILED BECAUSE IP ' <i>ipid:port</i> ' IS COMMUNICATING WITH ANOTHER STATUS FOCAL POINT, IS RUNNING AN UNSUPPORTED LEVEL OF NMC, OR IS ALREADY COMMUNICATING WITH THIS STATUS FOCAL POINT.
DUI422E	CNMTAMEL FAILED TO RECEIVE DATA FROM IP ' <i>ipid:port</i> ' DUE TO A STORAGE SHORTAGE. REQUESTED AMOUNT = <i>amount</i> BYTES.
DUI423E	COMMUNICATION TO IP ' <i>ipid:port</i> ' TERMINATED ABNORMALLY: WORKSTATION NOT RESPONDING.
DUI424I	OPERATOR <i>operatorid</i> IS COMMUNICATING WITH WORKSTATION AT IP ' <i>ipid:port</i> '.
DUI4022A	GMFHS INITIALIZATION CHECKPOINT PARAMETER <i>keyword</i> IS INVALID OR CONFLICTS
DUI4030E	RODMNAME MISSING FROM GMFHS INITIALIZATION PARAMETERS GMFHS INITIALIZATION PARAMETER <i>parameter_name</i> VALUE IS NOT VALID OR IS OUTSIDE ALLOWED LIMITS
DWO339I	<i>command</i> COMMAND FAILED. TASK ' <i>task</i> ' HAS ALREADY OBTAINED CONSOLE ' <i>console</i> '.

削除されたメッセージ

| CNM907I DSI629I

サンプル

このセクションには、マイグレーションの考慮事項に関連する新規サンプルと削除されたサンプルがリストされています。

- 203 ページの『新規サンプル』
- 203 ページの『削除されたサンプル』

新規サンプル

CNMCMD	CNMCMDO	CNMCMDU	CNMCMENT
CNMCMSYS	CNMCRCI1	CNMCRCI2	CNMPOLCY
CNMSCBEA	CNMSCBET	CNMSCM	CNMSEPTL
CNMSJCRG	CNMSJI10	CNMSJKVW	CNMSJMIG
CNMSJZCE	CNMSMRT1	CNMSMSGT	CNMSTCPC
CNMSTIDS	CNMSTUSR	CNMSTWBM	DSITCONM
DSIZCECF	DSIZCETB	EZLCMENT	EZLSI300
EZLSI301	FKVCMENT	FKXCMENT	IHSCRPRP ¹
IHSJLOGP ²	IHSRTDTD ³	IHSTLS00 ⁴	IHSTLS01 ⁵
IHSUASJZ ⁶	IHSUSCMP ⁷	IHSZRLES ⁸	

UNIX システム・サービスのファイル名:

1. correlator.properties
2. corJlog.properties
3. rule.dtd
4. znetview_at-tls_readme.txt
5. znetview_at-tls_example.tar
6. UserActionSample.java
7. usercomp.sh
8. znvrules.xml

削除されたサンプル

CNMSHTSP	CNMSI201	CNMSI301	CNMSI601
CNMSJI00	CNMSJI07	CNMSJI12	CNMSJI18
CNMSJI21	CNMSJI23	CNMSJI24	CNMSURLS
DSICMD	DSICMDU	DSICMENT	DSICMSYS
EKGSID03	EKGSII02	EKGSJ004	EZLCMD
EZLJ1ALC	EZLSID01	EZLSI201	EZLSJ006
EZLSJ008	EZLSJ100	FKVCMD	FKXCMD
FKXVHTML	FKXWHTML		

付録 D. Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 2 から Tivoli NetView for z/OS バージョン 5 リリース 3 への変更

この付録は、新規、変更、および削除された、以下の内容をリストしています。

- 『コマンド・リスト』
- 『メッセージ』
- 207 ページの『サンプル』

注: このセクションのリストは、左から右へ英字順で記載されています。

コマンド・リスト

このセクションには、マイグレーションの考慮事項に関連する新規および削除されたコマンド・リストがリストされています。

- 『新規コマンド・リスト』
- 『削除されたコマンド・リスト』

新規コマンド・リスト

CNMDLAQ	CNMDLAR	CNMEAPCS	CNMECKPT
CNMEDUPS	CNMETSTL	CNME1038	CNME7204
CNME8200	CNME8202	CNME8203	CNME8204
CNME8205	CNME8210	CNME8211	CNME8212
CNME8213	CNME8221	CNME8225	CNME8230
CNME8240	CNMFTP	FKXEDVPI	FKXEDVP4

削除されたコマンド・リスト

V5R3 のコマンド・リストは削除されていません。

メッセージ

このセクションには、マイグレーションの考慮事項に関連する新規、変更、および削除されたメッセージがリストされています。

- 『新規メッセージ』
- 207 ページの『変更されたメッセージ』
- 207 ページの『削除されたメッセージ』

新規メッセージ

AAU148I	FORMATTED RU NOT AVAILABLE
BNH775I	NUMBER OF CONNECTIONS: <i>numcon</i>
BNH838W	PORT <i>portnum</i> ON HOST <i>host</i> IS NOT RESPONDING
BNH839I	PORT <i>portnum</i> ON HOST <i>host</i> IS ACTIVE

BNH840W	SOCKET ERROR OCCURRED DURING IPPORTMON PROCESSING
BNH841E	<i>parm</i> PARAMETER MISSING FROM IPPORTMON DEFINITIONS
BNH842I	NO IPPORTMON DEFINITIONS FOUND
BNH843I	NO DUPLICATE ENTRIES FOUND IN FILE <i>file</i>
BNH844W	FILE <i>file</i> HAS DUPLICATE ENTRIES
BNH845I	NUMBER OF STACKS: <i>numstack</i>
BNH846I	NUMBER OF DVIPA DEFINITIONS: <i>numdvipa</i>
BNH847I	NUMBER OF DVIPA SYSPLEX DISTRIBUTORS: <i>numdist</i>
BNH848I	NUMBER OF DVIPA DISTRIBUTOR TARGETS: <i>numtargs</i>
BNH849I	NUMBER OF DVIPA CONNECTIONS: <i>numconns</i>
BNH850I	NUMBER OF PORTS: <i>numports</i>
BNH851I	SUBNODE <i>subnode</i> HAS NO HEARTBEAT. DEREGISTERING SUBNODE
BNH852I	COMMAND OPERAND MISSING
BNH853I	COMMAND UNKNOWN: <i>command</i>
BNH854I	NETVIEW ENTERPRISE MANAGEMENT AGENT SHUTDOWN OR STOP REQUESTED
BNH855E	ERROR INITIALIZING THE NETVIEW ENTERPRISE MANAGEMENT AGENT
BNH856I	NETVIEW ENTERPRISE MANAGEMENT AGENT INITIALIZED SUCCESSFULLY.
BNH857I	PROGRAM TO PROGRAM INTERFACE <i>ppi_type ppi_name</i>
BNH858I	NETVIEW ENTERPRISE MANAGEMENT AGENT PROGRAM TO PROGRAM INTERFACE IS <i>status</i>
BNH859I	NETVIEW ENTERPRISE MANAGEMENT AGENT COMMUNICATION LAYER CURRENTLY TRACING: <i>trace_types</i>
BNH860W	NETVIEW ENTERPRISE MANAGEMENT AGENT FAILED TO INITIALIZE PPI RECEIVER: <i>receiver</i> , RC: <i>return_code</i>
BNH877I	NETVIEW ENTERPRISE MANAGEMENT AGENT INTERFACE IS READY FOR WORK
BNH878I	NETVIEW ENTERPRISE MANAGEMENT AGENT INTERFACE HAS TERMINATED
BNH879I	NETVIEW ENTERPRISE MANAGEMENT AGENT <i>domain</i> SUBNODE IS ACTIVE
BNH880I	NETVIEW ENTERPRISE MANAGEMENT AGENT <i>domain</i> SUBNODE IS INACTIVE
BNH881I	DATA COLLECTION FAILED FOR SUBTOWER <i>subtower_name</i> , REASON ' <i>reason_code</i> '

BNH882I	DATA TRUNCATED FOR WORKSPACE <i>workspace</i> , MAXIMUM ROW SIZE EXCEEDED
BNH888I	DISPLAY OF NETVIEW ENTERPRISE MANAGEMENT AGENT CONNECTIONS
BNH889I	TASK STATUS SOURCE DEST PPI LCL PPI
BNH890I	NAME NAME RECEIVER RECEIVER
BNH891I	DATA COLLECTION INTERVAL <i>interval_name</i> DEFAULTED TO <i>interval</i>
BNH892I	DISPLAY DATA COLLECTION STATISTICS
CNM016W	TRANSMISSION BY <i>trname</i> WAS UNSUCCESSFUL. SEE <i>logfile</i> FOR ADDITIONAL INFORMATION.

変更されたメッセージ

BNH066I	<i>taskid o_netview o_opid VxRy N/A transport</i>
BNH804I	' <i>intfc_name</i> ' ' <i>intfc_qual</i> ' INTERFACE INITIALIZATION IS <i>action</i>
BNH805I	' <i>intfc_name</i> ' ' <i>intfc_qual</i> ' INTERFACE IS TERMINATING DUE TO ' <i>reason</i> '
DSI461A	SRCLU = <i>srclu</i> UNABLE TO ACCEPT A SESSION FROM APPLID = <i>applid</i> , SENSE = X' <i>sense</i> '
DWO575I	<i>session_type</i> TERMINATED ON <i>netid.luname</i> WITH SENSE: X' <i>sensecode</i> '
DWO746I	THE <i>process</i> FAILED. PROGRAM-TO-PROGRAM INTERFACE REQUEST TYPE IS <i>request_type</i> , RETURN CODE IS <i>retcode</i> .

削除されたメッセージ

BNH067I	CNM710I	CNM713I	CNM722E
---------	---------	---------	---------

サンプル

このセクションには、マイグレーションの考慮事項に関連する新規サンプルと削除されたサンプルがリストされています。

- 『新規サンプル』
- 208 ページの『削除されたサンプル』

新規サンプル

CNMSDVIP	CNMSDVPC	CNMSEMAA	CNMSJEMA
CNMSJI04	CNMSJI05	CNMSJIE1	CNMSJIE2
CNMSJIE3	CNMSJIE4	CNMSPLEX	CNMSSTAC
CNMSTARG	CNMSTATE	CNMTRAPI	DSIPROFN

削除されたサンプル

| FKXSCM

FLCSINF

付録 E. SEC=BY が必要ない AON CMDDEF ステートメント

SEC=BY キーワードは、後続のコマンドの AON CMDDEF ステートメントから除去することができます。ご使用の AON コマンド・セキュリティ定義を検討して、ご使用の環境においてこのキーワードを除去することが適切かどうかを判断してください。リストされている %INCLUDE メンバーには、NetView V5R3 プログラム用の CMDDEF ステートメントが含まれます。

CNMCMENT

このセクションでは、SEC=BY キーワードが除去されたコマンド定義をリストします。CMDDEF ステートメントは %INCLUDE メンバー CNMCMENT に含まれています。

EZLEASLN

EZLENFRM

EZLERGWY

EZLE1900

EZLCMENT

このセクションでは、SEC=BY キーワードが除去されたコマンド定義をリストします。CMDDEF ステートメントは %INCLUDE メンバー EZLCMENT に含まれています。

EZLALOG
EZLE1CNT
EZLE1FWD
EZLE1I01
EZLE1I05
EZLE1ICK
EZLE1ITF
EZLE1RGT
EZLE1RUD
EZLE1RUX
EZLE1XTF
EZLE7210
EZLE8611
EZLEAANV
EZLEAAT4
EZLEAAT9
EZLEAC11
EZLEACG3
EZLEACG7
EZLEACGL
EZLEACST
EZLEADLY
EZLEAGN1
EZLEAINT
EZLEAISM
EZLEALDR
EZLEALSW

EZLASTS
EZLE1DAL
EZLE1GXC
EZLE1I02
EZLE1I06
EZLE1IGT
EZLE1IXD
EZLE1RNT
EZLE1RUR
EZLE1TMX
EZLE4110
EZLE8110
EZLE8612
EZLEAAT1
EZLEAAT5
EZLEAATR
EZLEACG0
EZLEACG4
EZLEACG8
EZLEACGT
EZLEACSX
EZLEAEXI
EZLEAGRN
EZLEAIOP
EZLEAJUL
EZLEALFL
EZLEANTL

EZLAUST
EZLE1DOM
EZLE1GXD
EZLE1I03
EZLE1I07
EZLE1IMN
EZLE1IXL
EZLE1RSP
EZLE1RUT
EZLE1UFW
EZLE4120
EZLE8120
EZLEAAGD
EZLEAAT2
EZLEAAT6
EZLEAATS
EZLEACG1
EZLEACG5
EZLEACG9
EZLEACKT
EZLEACT1
EZLEAFST
EZLEAHED
EZLEAIPL
EZLEALCL
EZLEALIC
EZLEARCY

EZLE1CDL
EZLE1FUL
EZLE1GXE
EZLE1I04
EZLE1I08
EZLE1INT
EZLE1NTF
EZLE1RTN
EZLE1RUU
EZLE1XMN
EZLE7110
EZLE8410
EZLEAAIC
EZLEAAT3
EZLEAAT8
EZLEAC10
EZLEACG2
EZLEACG6
EZLEACGA
EZLEACNT
EZLEACT2
EZLEAGEN
EZLEAINL
EZLEAIRP
EZLEALD1
EZLEALRS
EZLEARFR

SEC=BY が必要ない AON CMDDEF ステートメント

EZLEARST	EZLEASAO	EZLEASCD	EZLEASCN
EZLEASTK	EZLEASTM	EZLEATDS	EZLEATRC
EZLEATST	EZLEAU01	EZLEAU02	EZLEAU03
EZLEAUCG	EZLEAUCL	EZLEAUS1	EZLEAUSF
EZLEAUST	EZLEAX00	EZLEAX01	EZLEBELG
EZLECAUT	EZLECHAU	EZLECHGF	EZLECTHR
EZLEDAN1	EZLEDTSK	EZLEDUTL	EZLEF001
EZLEF003	EZLEF004	EZLEF009	EZLEF00B
EZLEF00D	EZLEFAIL	EZLEGTID	EZLEHBLD
EZLEHRCY	EZLEICGS	EZLEICGV	EZLEIDNT
EZLEITWR	EZLELSTH	EZLEMCOL	EZLEMSU
EZLENDET	EZLENPS2	EZLEOIVT	EZLEOPER
EZLEPAR	EZLEPDEL	EZLEPDIS	EZLEPRCY
EZLERAIP	EZLERCMD	EZLERECV	EZLERMSU
EZLERNGE	EZLEROUT	EZLESLCT	EZLESNTX
EZLESRMD	EZLESTOP	EZLESTRT	EZLEVACT
EZLEVIEW	EZLEVINA	EZLEVMOV	EZLEW001
EZLEW002	EZLEXIT7	EZLIPLDT	EZLSACAF
EZLSATHR	EZLSAU07	EZLSCMOD	EZLSHNDE
EZLSMSU	EZLSNHLP	EZLSPIPS	EZLSTMEM
EZLSUSER	EZLSX001		

FKVCMNT

このセクションでは、SEC=BY キーワードが除去されたコマンド定義をリストします。CMDDEF ステートメントは %INCLUDE メンバー FKVCMNT に含まれています。

EZLENCH1	EZLENCH2	EZLENCH3	EZLENCH4
FKVASNB	FKVE095A	FKVE1100	FKVE1101
FKVE1102	FKVE1103	FKVE1104	FKVE1110
FKVE1200	FKVE1300	FKVE1310	FKVE1320
FKVE1330	FKVE2100	FKVE270I	FKVE284A
FKVE285I	FKVE380I	FKVE464I	FKVE530I
FKVE881I	FKVE897I	FKVEA0IC	FKVEA200
FKVEA210	FKVEA410	FKVEADMP	FKVEAID1
FKVEAID2	FKVEAID3	FKVEAID4	FKVEAID5
FKVEAID6	FKVEAID7	FKVEAID8	FKVEAID9
FKVEAIDA	FKVEAIDB	FKVEAIDC	FKVEAIDD
FKVEAIDE	FKVEAIDF	FKVEAIDG	FKVEAIDH
FKVEAIDI	FKVEAIDJ	FKVEAIDK	FKVEAMS1
FKVEARLD	FKVECAPL	FKVECGBG	FKVECGCA
FKVECGCC	FKVECGCD	FKVECGDA	FKVECGDB
FKVECGDC	FKVECGDD	FKVECGDE	FKVECGDF
FKVECGDG	FKVECGEA	FKVECGEB	FKVECGEC
FKVECGED	FKVECGFD	FKVECGFF	FKVECGFG
FKVECGFH	FKVECGHA	FKVECGHB	FKVECGHD
FKVECHCM	FKVECHIN	FKVECHRP	FKVECHSG
FKVECHSR	FKVECNCP	FKVEDETL	FKVEF005
FKVEINIT	FKVEOG01	FKVEOG02	FKVEOG03
FKVEOG04	FKVEOG05	FKVEOG06	FKVEOG07
FKVEOG08	FKVEOG09	FKVEOI00	FKVEOPFI
FKVEOSEC	FKVERDIS	FKVETGSW	FKVEX74E
FKVEX74X	FKVEXACT	FKVEXCDB	FKVEXCON

FKVEXDIS
FKVEXTRKFKVEXINA
FKVSSNBU

FKVEXMCH

FKVEXRES

FKXCMENT

このセクションでは、SEC=BY キーワードが除去されたコマンド定義をリストします。CMDDEF ステートメントは %INCLUDE メンバー FKXCMENT に含まれています。

FKXEA2
FKXEALRT
FKXEGTID
FKXEOTHR
FKXWIND2FKXEAI1
FKXEAMS1
FKXEHNDE
FKXEPINGFKXEAI2
FKXECATV
FKXEINIT
FKXESVPTFKXEAI4
FKXEDDFP
FKXENSTH
FKXWIND1

SEC=BY が必要ない **AON CMDDEF** ステートメント

付録 F. CNMSTYLE および CNMCMD へのマイグレーション

CNMSTYLE は、NetView の初期化中に使用される DSIPARM のメンバーです。CNMSTYLE およびその従属メンバーは、前の NetView プログラムのリリースにおける CNME1034 および一部の DSIPARM 定義ステートメントで実行された初期化に取って代わるものです。

CNMCMD はコマンド定義を含む DSIPARM のメンバーです。CNMCMD は DSICMD に取って代わるものです。

データ・セット NETVIEW.V5R3USER.INSTALL 内のサンプル CNMSJMIG は CNMEMIG を使用して、CNME1034 および DSIPARM ステートメントを、CNMSTYLE の新規フォーマットに変換するのを支援します。このサンプルで、TSO 端末モニター・プログラムの下で稼働する JCL が提供されます。サンプル CNMSJMIG は、CNMSTYLE ステートメントを作成します。ほとんどの場合、CNMSJMIG は既存の初期化ステートメントを、同等の設定を行うことができるステートメントに変換します。生成されたステートメントをご使用のシステムで使用可能にする前に、それらのステートメントを見直して、必要な設定ができることを確認する必要があります。またサンプル CNMSJMIG を使用して、DSICMD ファイルを新規 CNMCMD フォーマットにマイグレーションすることもできます。

CNMEMIG は、使用者によってサンプル CNMSJMIG にシステム・シンボリック置換の情報を指定された場合に、この置換 (&DOMAIN シンボリック変数など) を行います。しかし、CNMEMIG は、データ REXX を含む DSICMD ソースはサポートしません。CNMEMIG を実行して DSICMD を CNMCMD にマイグレーションする前に、メンバー DSICMD (または、それに組み込まれるメンバー) にデータ REXX が含まれていないことを確認してください。データ REXX を含まないように DSICMD を変換するには、マイグレーションする元の NetView プログラムで次のパイプを実行します。

```
PIPE < DSICMD INCL | > 'altparms(DSICMD)'
```

ここで、*altparms* は、変換された DSICMD が格納される代替 DSIPARM データ・セットです。その後、この代替データ・セットを、OLDPARM データ・セット連結の 1 次データ・セットとして CNMSJMIG に指定します。現行の設定を保持するために、上記の PIPE コマンドを、マイグレーション元の NetView プログラムで実行することが重要です。

注: SA タワーがアクティブ状態でない場合か、付属の CNMCMDx メンバーが使用される場合は不要ですが、CNMCMD にはデータ REXX も含まれているので、この同じプロシージャを CNMCMD に対して実行できます。

サンプル CNMSJMIG には以下のデータ・セットが必要です。

DSIPARM

現行リリース・バージョンの CNMSTYLE および CNMCMD を含む連結データ・セット・リスト。

OLDPARM

マイグレーション元のリリースの NetView 定義を含む連結データ・セット・リスト。

OLDCLD

マイグレーション元のリリースのコマンド・リスト・ファイル (CNME1034 および CNME1054) を含む連結データ・セット・リスト。マイグレーション元のリリースでこれらのメンバーを名前変更した場合は、ツールがカスタマイズを検出できるように、メンバーのコピーを CNME1034 および CNME1054 という名前で OLDCLD 連結に配置してください。

DSIWRIT

変換された CNMSTYLE ステートメントと中間出力ファイルを含む連結出力データ・セット・リスト。

サンプル CNMSJMIG は、DSIWRIT によって指定された出力データ・セットに以下のメンバーを作成します。

CNMSTMIG

COMPARE オプションが指定されると、このメンバーが作成され、既存の V5R3 CNMSTYLE ステートメントとは異なる、変換された CNMSTYLE ステートメントが格納されます。それは、DSIWRIT DD ステートメントによって指定された最初のデータ・セットに入れられます。

ステートメントは列 3 から開始され、最初の 2 つの列はブランクになります。列 1 は、UPDATE オプションが指定されたときにどのステートメントが CNMSTUSR にコピーされるかを指定するために予約されています。このメンバーには、セクション見出しも含まれています。見出しには、CNMSTYLE ステートメントの派生元であるパラメーター・メンバーの名前が含まれます。セクション内のすべての CNMSTYLE ステートメントは、同じパラメーター・メンバーから作成されます。

CNMCMMIG

COMPARE オプションが指定されると、このメンバーが作成され、既存の V5R3 CNMCMD ステートメントとは異なる、変換された CNMCMD ステートメントが格納されます。それは、DSIWRIT DD ステートメントによって指定された最初のデータ・セットに入れられます。

ステートメントは列 3 から開始され、最初の 2 つの列はブランクになります。列 1 は、UPDATE オプションが指定されたときにどのステートメントが CNMCMDU にコピーされるかを指定するために予約されています。

CNMSTUSR

UPDATE オプションが指定されると、変換された CNMSTYLE ステートメントがこのメンバーに追加されます。列 1 の非ブランク文字でマークされた、メンバー CNMSTMIG にあるステートメントだけが追加されます。更新が行われたときのタイム・スタンプが入ったコメント行も組み込まれます。

メンバー CNMSTUSR を含む最初の DSIWRIT データ・セットが使用されます。メンバー CNMSTUSR が連結内のどのデータ・セットでも検出されない場合は、DSIWRIT DD ステートメントによって指定された最初のデータ・セットに新規メンバーが作成されます。

注: 初期化ステートメントの評価については、サンプル CNMSJCRG を使用して CNMSTYLE とその組み込みメンバーのレポートを作成することができます。詳しくは、125 ページの『第 7 章 NetView の開始準備』を参照してください。

CNMCMDU

UPDATE オプションが指定されると、変換された CNMCMD ステートメントがこのメンバーに追加されます。列 1 の非ブランク文字でマークされた、メンバー CNMCMIG にあるステートメントだけが追加されます。更新が行われたときのタイム・スタンプが入ったコメント行も組み込まれます。

メンバー CNMCMDU を含む最初の DSIWRIT データ・セットが使用されます。メンバー CNMCMDU が連結内のどのデータ・セットでも検出されない場合は、DSIWRIT DD ステートメントによって指定された最初のデータ・セットに新規メンバーが作成されます。

以下のキーワード・パラメーターを、CNMSJMIG の CNMEMIG コマンドに指定します。

NETVREL=VxRx

マイグレーション元のリリースを指定します。

- V2R4
- V3R1
- V1R1
- V1R2
- V1R3
- V1R4
- V5R1

FUNCTION=COMPARE | UPDATE

実行する処理ステップを指定します。

COMPARE

マイグレーション元のリリースのパラメーターおよびコマンド・メンバーを、現行の CNMSTYLE または DSICMD 値と比較します。マイグレーション済みのステートメントは、CNMSTMIG または CNMCMIG に入れられます。省略された場合、FUNCTION=COMPARE がデフォルトです。

UPDATE

列 1 に文字が入っているステートメントをメンバー CNMSTMIG から CNMSTUSR に移動し、列 1 に文字が入っているステートメントをメンバー CNMCMIG から CNMCMDU に移動します。

FILES=CNMSTYLE | CNMCMD | BOTH

マイグレーションされる定義を指定します。

CNMSTYLE

パラメーター定義および初期化ステートメントを CNMSTUSR にマイグレーションすることを示します。

CNMCMD

コマンド定義を CNMCMDU にマイグレーションすることを示します。

BOTH CNMSTYLE と CNMCMD の両方を示します。

&symbolic_name=value

OLDPARM および OLDCLD によって指定されたデータ・セットで 사용되는システムまたは NetView シンボリック変数を示します (例: &DOMAIN=CNM01)。

シンボリック変数 &NV2I は、指定されない場合、デフォルトで値 NM になります。

注: CNMEMIG のどのパラメーター・フィールドでもスペースを使用しないでください。

以下の戻りコードが、CNMEMIG によって設定されます。

- 0 正常終了。ファイルが DSIWRIT に作成されました。
- 4 マイナー・エラーが検出されました。ファイルが DSIWRIT に作成されました。
- 8 メジャー・エラーが検出されました。ファイルは DSIWRIT に作成されません。

ゼロ以外の戻りコードの場合は、CNMSJMIG ジョブ・ログにエラー・メッセージがある可能性があります。

217 ページの表 38 は、CNMSTYLE または CNMCMD ステートメントに変換された、前の NetView リリースの DSIPARM ステートメントを示しています。

217 ページの表 38 はまた、CNME1034 内のどのコマンドが CNMSTYLE ステートメントに変換されたかも示しています。CNMSTYLE ステートメントに変換されていないコマンドを CNME1034 に追加している可能性があります。これらのコマンドをどのようにして NetView V5R3 初期化フローに組み込むかを検討してください。1 つの方法は、これらの未変換のコマンドでコマンド・リスト・メンバーを作成し、CNMSTYLE auxInitCmd ステートメントを使用してこのコマンド・リストを呼び出すというものです。auxInitCmd ステートメントについて詳しくは、「IBM Tivoli NetView for z/OS アドミニストレーション・リファレンス」を参照してください。

表 38. DSIPARM メンバー・ステートメント

DSIPARM メンバー	DSIPARM 制御ステートメント	CNMSTYLE または CNMCMD ステートメント
AAUPRLMP	DSTINIT DSRBO	NLDM.DSRBO
	DSTINIT MACRF	NLDM.MACRF
	DSTINIT PDDNM	NLDM.PDDNM
	DSTINIT SDDNM	NLDM.SDDNM
	INITMOD AAUICPEX AUTHROM	NLDM.AUTHDOM.X
	INITMOD AAUINLDM AMLUTDLY	NLDM.AMLUTDLY
	INITMOD AAUINLDM AUTHORIZ	NLDM.AUTHORIZ.X
	INITMOD AAUINLDM BUFTYPE	NLDM.OTHER
	INITMOD AAUINLDM CDTIME	NLDM.CDTIME
	INITMOD AAUINLDM DRDELAY	NLDM.DRDELAY
	INITMOD AAUINLDM ERCOUNT	NLDM.ERCOUNT
	INITMOD AAUINLDM FCTIME	NLDM.FCTIME
	INITMOD AAUINLDM KEEPDISC	NLDM.KEEPDISC
	INITMOD AAUINLDM KEEPMEM	NLDM.KEEPMEM
	INITMOD AAUINLDM KEEPPIU	NLDM.KEEPPIU
	INITMOD AAUINLDM KEEPRTM	NLDM.KEEPRTM
	INITMOD AAUINLDM KEEPSSESS	NLDM.KEEPSSESS
	INITMOD AAUINLDM LOG	NLDM.LOG
	INITMOD AAUINLDM LUCOUNT	NLDM.LUCOUNT
	INITMOD AAUINLDM MAXEND	NLDM.MAXEND
	INITMOD AAUINLDM NETID	NLDM.NETID
	INITMOD AAUINLDM PERFMEM	NLDM.PERFMEM
	INITMOD AAUINLDM PURGE	NLDM.PURGE
	INITMOD AAUINLDM RTDASD	NLDM.RTDASD
	INITMOD AAUINLDM RTM	NLDM.RTM
	INITMOD AAUINLDM RTMDISP	NLDM.RTMDISP
	INITMOD AAUINLDM SAW	NLDM.SAW
	INITMOD AAUINLDM TRACEGW	NLDM.TRACEGW
	INITMOD AAUINLDM TRACELU	NLDM.TRACELU
	INITMOD AAUINLDM TRACESC	NLDM.TRACESC

CNMSTYLE および CNMCMD へのマイグレーション

表 38. DSIPARM メンバー・ステートメント (続き)

DSIPARM メンバー	DSIPARM 制御ステートメント	CNMSTYLE または CNMCMD ステートメント
BNJMBDST	ALCACHE	NPDA.ALCACHE
	ALERTLOG	NPDA.ALERTLOG
	ALRTINFP	NPDA.ALRTINFP.RECORD
	ALT_ALERT	NPDA.ALT_ALERT
	AUTORATE	NPDA.AUTORATE
	DSTINIT DSRBO	NPDA.DSRBO
	DSTINIT DSRBU	NPDA.DSRBU
	DSTINIT FUNCT	CNMI
	DSTINIT MACRF	NPDA.MACRF
	DSTINIT PDDNM	NPDA.PDDNM
	DSTINIT PPASS	NPDA.PPASS
	DSTINIT SDDNM	NPDA.SDDNM
	DSTINIT SPASS	NPDA.SPASS
	DSTINIT XITCI	NPDA.PNA
	DSTINIT XITCO	NPDA.PNA
	ERR_RATE	NPDA.ERR_RATE
	IHTHRESH	NPDA.IHTHRESH
	LQTHRESH	NPDA.LQTHRESH
	PRELOAD	NPDA.PRELOAD_BER
	R	NPDA.R.X
	RATE	NPDA.RATE
	REPORTS	NPDA.REPORTS
	TECROUTE	NPDA.TECROUTE
	W	NPDA.W.X

表 38. DSIPARM メンバー・ステートメント (続き)

DSIPARM メンバー	DSIPARM 制御ステートメント	CNMSTYLE または CNMCMD ステートメント
CNME1034¹	ASSIGN CCDEF MEMBER CNMOPDSPREFIX DUIFHNAM DUIFHPRC EKGHNAM EKGHPRC EVERY HLENV CHANGE HLENV CHANGE HLENV CHANGE HLENV CHANGE HLENV CHANGE IDLEOFF INIT IDLEOFF INIT IDLEOFF INIT IDLEOFF INIT IDLEOFF INIT IDLEOFF INIT IDLEOFF INIT IDLEOFF INIT MEMSTORE MEMSTORE NETV DEFAULTS ROUTE = SMFVPD TRANSMMSG MEMBER	ASSIGN.OPGROUP.GROUP CCDEF OpDsPrefix COMMON.DUIFHNAM COMMON.DUIFHPRC COMMON.EKGHNAM COMMON.EKGHPRC memStore.frequency HLENV.TYPE.CRITENV HLENV.TYPE.DEFAULT HLENV.TYPE.PHEAP HLENV.TYPE.PSTACK HLENV.TYPE.REGENVS function.autotask.idleoff idleparms.exceptAuto idleparms.exceptLU idleparms.exceptNNT idleparms.exceptOP idleparms.exceptRmtCmd idleparms.frequency idleparms.idlemin memStore.minhits memStore.stgLimit DEFAULTS.CMD function.autotask.memStore COMMON.SMFVPD transMember
CNME1034²	&DUIFHNAM &DUIFHPRC &EKGHNAM &EKGHPRC &SMFVPD ASSIGN CCDEF MEMBER DEFAULTS CMD TRANSMMSG MEMBER	COMMON.DUIFHNAM COMMON.DUIFHPRC COMMON.,EKGHNAM COMMON.EKGHPRC COMMON.SMFVPD ASSIGN.OPGROUP.GROUP CCDEF DEFAULTS.CMD transMember
CNME1054	exlist.0	memStore.never
DSIAMLTD	CDRMDEF DSTINIT FUNCT	NLDM.CDRMDEF.X NPDA.RETRY

CNMSTYLE および CNMCMD へのマイグレーション

表 38. DSIPARM メンバー・ステートメント (続き)

DSIPARM メンバー	DSIPARM 制御ステートメント	CNMSTYLE または CNMCMD ステートメント
DSICMD	CMDMDL CMDSYN COMNTESC ECHO END IGNRLSUP MOD PARTSYN PARSE RES SEC TYPE	CMDDEF.MDLNAME.MOD CMDDEF.MDLNAME.CMDSYN マイグレーションされていない CMDDEF.MDLNAME.ECHO マイグレーションされていない CMDDEF.MDLNAME.IGNRLSUP CMDDEF.MDLNAME.MODNAME CMDDEF.MDLNAME.PARMSYN.PARMNAME CMDDEF.MDLNAME.PARSE CMDDEF.MDLNAME.RES CMDDEF.MDLNAME.SEC CMDDEF.MDLNAME.TYPE
DSIDMNB	MOD	SSIname
DSIDMNK	ALERTFWD DB2RRS HARDCOPY LOADEXIT MAXABEND MAXLOGON MVSPARM DEFAULT= MVSPARM MIGRATE= MVSPARM MSGIFAC= NCCFID DOMAINID= NCCFID SUPPCHAR= OPTIONS AUTHCHK= OPTIONS CMDAUTH= OPTIONS OPERSEC= OPTIONS OPSPAN OPTIONS SPANAUTH OPTIONS WEBAUTH RRD TRANSTBL MOD VTAMCP USE=	NPDA.ALERTFWD DB2SEC HARDCOPY LOADEXIT. DEFAULTS.MAXABEND DEFAULTS.MAXLOGON MVSPARM.DEFAUTH MVSPARM.MIGRATE MVSPARM.MSGIFAC DOMAIN SUPPCHAR SECOPT.AUTHCHK SECOPT.CMDAUTH SECOPT.OPERSEC SECOPT.OPSPAN SECOPT.SPANAUTH SECOPT.WEBAUTH RRD. TRANSTBL VTAMCP.USE
DSILGCF	PORT SOCKETS TCPANAME	PORT SOCKETS TCPANAME
DSILUCTD	CNMAUTH CTL= CNMTARG LU "DSTINIT FUNCT=OTHER,PERSIST=" MAXSESS	LUC.CTL LUC.CNMTARG.X LUC.PERSIST LUC.MAXSESS
DSIREXCF	PORT SOCKETS TCPANAME	PORT SOCKETS TCPANAME
DSIRSHCF	PORT SOCKETS TCPANAME	PORT SOCKETS TCPANAME

表 38. DSIPARM メンバー・ステートメント (続き)

DSIPARM メンバー	DSIPARM 制御ステートメント	CNMSTYLE または CNMCMD ステートメント
DSIRTTTD	PORT SOCKETS TCPANAME	PORT SOCKETS TCPANAME
DSITBL01	CMD('DBFULL NLDM 'MESSAGE) CMD('DBFULL NLDM 'MESSAGE) CMD('SAVECMD')	function.atutask.SMONdbMaint function.autotask.HMONdbMaint funtion.autotask.SAVECMD
DSITPCPF	PORT SOCKETS TCPANAME	PORT SOCKETS TCPANAME
DSIUINIT	RMTSECUR SAFREFSH	RMTINIT.SECOPT RMTINIT.SAFrefresh
DSIWBMEM	PORT SOCKETS TCPANAME	PORT SOCKETS TCPANAME
DUIFPMEM	PORT SOCKETS TCPANAME	PORT SOCKETS TCPANAME
DUIIGHB	TCPANAME	GHB.TCPANAME
EZLCFG01	WAIT XDOM	COMMON.WAITTIME COMMON.XDOMTIME
FKXEICMD	Default_Server_Name Default_Stack_Name	TCPserver TCPname
FLCSAINP	DEF_NETW_VIEW EXCEPTION_VIEW_FILE RODMCMDRETRY RODMINT RODMNAME RODMRETRY TCPNAME TN3270_FILE	(MSM)COMMON.FLC_DEF_NETW_VIEW (MSM)COMMON.FLC_EXCEPTION_VIEW (MSM)COMMON.FLC_RODMCMDRETRY (MSM)COMMON.FLC_RODMINT (MSM)COMMON.FLC_RODMNAME (MSM)COMMON.FLC_RODMRETRY (MSM)COMMON.FLC_TCPNAME (MSM)COMMON.FLC_TN3270_FILE
注: 1. REXX バージョン 2. 前の REXX バージョン (NetView V1R2 以前)		

付録 G. IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの違い

IP アドレスを指定する場合、以下の形式を使用することができます。

- 小数点付き 10 進数形式 (*d.d.d.d*) の IPv4 アドレス。ここで、それぞれの *d* は 0 から 255 までの 10 進数です。IPv4 アドレスは、4 つの 8 ビット・パーツに分かれた、32 ビット・アドレスです。各パーツは、同等の 10 進数に変換され、パーツはピリオドで区切られます。以下に、IPv4 アドレスの例を示します。

13.1.68.3
129.144.52.38

- コロン付き 16 進形式 (*h:h:h:h:h:h:h:h*) の IPv6 アドレス。ここで、それぞれの *h* は 16 進値 (0-FFFF) です。IPv6 アドレスは、8 つの 16 ビット・パーツに区切られた、128 ビットのアドレスです。各パーツは、16 進数に変換され、パーツはコロンで区切られます。先行ゼロは必要ありませんが、アドレスが圧縮されていないかぎり、各パーツは少なくとも 1 つの数表示を持っている必要があります。以下に、コロンで区切られた 16 進形式の IPv6 アドレスの例を示します。

FEDC:BA98:7654:3210:FEDC:BA98:7654:3210
1080:0:0:0:8:800:200C:417A

- 混合形式 (*h:h:h:h:h:h:d.d.d.d*) の IPv4 互換の IPv6 アドレス、または IPv4 マップされた IPv6 アドレス。ここで、*h* は 16 進値で、アドレスの 6 つの上位 16 ビット・パーツごとに 1 つで、*d* は 10 進値で、アドレスの 4 つの下位 8 ビット・パーツごとに 1 つです (標準の IPv4 表記)。この形式は、IPv4 と IPv6 両方のアドレスを使用する環境で有用です。以下に、このアドレスの例を示します。

0:0:0:0:0:0:13.1.68.3 (IPv4 互換の IPv6 アドレス)
0:0:0:0:0:0:FFFF:129.144.52.38 (IPv4 マップの IPv6 アドレス)

注:

1. IPv4 マップの IPv6 アドレスでは、先頭の 5 つの *h* の値はゼロ (0) で、6 つの *h* の値は 'X'FFFF' でなければなりません。
2. IPv4 互換の IPv6 アドレスでは、6 つすべての *h* の値がゼロでなければなりません。

ゼロ・ビットを含む IPv6 アドレス、IPv4 互換の IPv6 アドレス、および IPv4 マップの IPv6 アドレスは、圧縮することができます。値 `::` を、複数の連続するゼロの代用に使用することができます。`::` はアドレス内で 1 回のみ使用でき、アドレスの先行ゼロまたは後続ゼロを圧縮するために使用することができます。以下に IPv6 アドレス、その圧縮表記、および要旨の例を示します。

1080:0:0:0:8:800:200C:417A	1080::8:800:200C:417A	unicast
FF01:0:0:0:0:0:0:101	FF01::101	multicast
0:0:0:0:0:0:0:1	::1	loopback
0:0:0:0:0:0:0:0	::	unspecified

IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの違い

0:0:0:0:0:0:13.1.68.3	::13.1.68.3	IPv4-compatible
0:0:0:0:0:FFFF:129.144.52.38	::FFFF:129.144.52.38	IPv4-mapped

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711
東京都港区六本木 3-2-12
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
2Z4A/101
11400 Burnet Road
Austin, TX 78758 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

プログラミング・インターフェース

本書の情報は、Tivoli NetView for z/OS のプログラミング・インターフェースとして使用されることを意図して記述されたものではありません。

商標

IBM、IBM ロゴ、Advanced Peer-to-Peer Networking、AIX、BookManager、Candle、CICS、DB2、Language Environment、MVS、NetView、OMEGAMON、OS/390、RACF、REXX、Tivoli、Tivoli Enterprise、VSE/ESA、VTAM、z/OS、z/VM、および zSeries は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アクセシビリティー xvii
アドレス・スペース, 増加 12
イベント自動化サービス 16, 56, 85, 109, 121
インストール
 複数の NetView リリース 8
 MVS システムに関する考慮事項 10
 NetView
 前の NetView 管理コンソール レベルからのマイグレーション 146
 NetView システム・サービスからのマイグレーション 151
 NGMF から NetView 管理コンソール へのマイグレーション 145
 Procedural のマイグレーション 147
 Unattended のマイグレーション 147
 V1R3 からのマイグレーション 25, 161
 V1R4 からのマイグレーション 61, 179
 V5R1 からのマイグレーション 89, 195
 V5R2 からのマイグレーション 113, 205
 NetView システム・サービス
 同じ SMP/E ゾーンへの 151
 その他の考慮事項 154
エンタープライズ統合 4
オンライン・ブック
 アクセス xvi

[カ行]

カタログ, ユーザーの定義 17
環境変数の表記 xix
規則
 書体 xviii
区分データ・セット
 ロード
 新規インストール 19
 割り振り 18
グラフィックス
 マイグレーション 145
検査
 マイグレーション 143
検索コマンド, Acrobat (ライブラリー検索用) xvi
研修
 Tivoli 技術研修を参照 xvii
研修, Tivoli 技術 xvii

コマンド定義ステートメント
 SEC=BY 209
コマンド出口, MVS 15
コマンド・ツリー定義, マイグレーション 145
コマンド・プロファイル・エディター, マイグレーション 145
コマンド・リスト
 V1R3 の変更 162
 V1R4 の変更 183
 V5R1 の変更 195
 V5R2 の変更点 205
固有 ID, NetView の割り当て 129

[サ行]

索引, ライブラリー検索用 xvi
サブエリア, 変更 18
サブシステム・アプリケーション・プロシージャ, 変更 125
サンプル
 V1R3 27, 175
 V1R4 63, 193
 V5R1 91, 202
 V5R2 114, 207
システム変数
 初期化メンバー 14
 ユーザー定義 13
 IEASYMxx 12
 V1R3 58
 V1R4 87
 V5R1 110
自動化 1
始動プロシージャ 125
自動リスタート・マネージャ 12
書体の規則 xviii
資料 xi
 アクセス, オンライン xvi
 注文 xvi
新規, 機能 1
新規機能, NetView 1
シンボリック変数
 CNMSTYLE 129
ストレージ
 キー 14
制御ファイル 24
セッション・モニター
 SMF ログ・レコード 14
関連エンジン 16

[タ行]

データ REXX
 V1R3 59

データ REXX (続き)
VIR4 87
定義
NetView
ドメイン 129
VSAM クラスター 20
ディレクトリー名の表記 xix
出口、MVS コマンド 15
トポロジー・サーバーのマイグレーション 146
ドメイン
定義 129
変更 18

[ナ行]

ネットワーキング 1
ネットワーク ID
名前、指定 12

[ハ行]

ハードウェア要件およびソフトウェア要件 7
ハードウェア・モニター
SMF ログ・レコード 14
配布テープ 7
パス名の表記 xix
表記
環境変数 xix
書体 xix
パス名 xix
ブラウズ
VIR3 57
VIR4 85
V5R1 109
プログラム・プロパティー・テーブル 14
ヘルプ・パネル、変更点
VIR3 161
VIR4 179
変数の表記 xix
ポリシー定義 24

[マ行]

マイグレーション
概要 7
前のリリース 7
NetView VIR3 25
NetView VIR4 61
NetView V5R1 89
NetView V5R2 113
マニュアル
資料を参照 xi, xvi
マニュアルのご注文 xvi
マルチシステム・マネージャー
マイグレーションに関する考慮事項 23

メッセージ、変更点
VIR3 163
VIR4 185
V5R1 196
V5R2 205
メッセージ検索ツール、LookAt xv

[ヤ行]

ユーザー・カタログ、定義 17
ユーザビリティの向上 4

[ラ行]

ライブラリー検索 (Acrobat Search コマンド) xvi
リンク・バック域 (LPA)
作成 14
ページング可能の作成 14
ロード、サンプルでの区分データ・セットの
新規インストール 19

[ワ行]

ワークロード・マネージャー 12, 15
割り振り
データ・セット 18
VSAM クラスター 20

[数字]

2 次サブシステム、定義 13

A

A01APPLS
VIR3 31
VIR4 66
V5R1 93
V5R2 115
AAUPRMLP
VIR3 32
VIR4 67
Acrobat Search コマンド (ライブラリー検索用) xvi
ALIAS 名、NetView データ・セットの 17
AON
制御ファイル 24
ポリシー定義 24
マイグレーションに関する考慮事項 20
NetView Access Services 24
SA/390 20
STATMON 24
System Automation/390、アドレス・スペース 15
TCP 390 24
TCP390 ステートメント 24

AON (続き)
 tower ステートメント 23
APAR 20
APF 許可 11
ASID 12
ATCCONxx
 V1R3 32

B

BNJMBDST
 V1R3 32
 V1R4 67

C

CNMCLST 18
CNMCMD ステートメント、マイグレーション 213
CNME1034
 V1R3 33
CNMGMFHS 23
 V1R3 55
 V1R4 84
 V5R1 108
 V5R2 121
CNMLINK 11
CNMMSJPN 159
CNMNET
 V1R3 32
 V1R4 67
 V5R1 93
 V5R2 116
CNMPOLCY
 V5R2 118
CNMPROC 125
 始動プロシージャ 125
 V1R3 35
 V1R4 67
 V5R1 94
 V5R2 118
CNMPSSI
 始動プロシージャ 125
 V1R3 37
 V1R4 70
 V5R1 96
 V5R2 119
CNMS0013 12
CNMS002 12
CNMS0031 12
CNMS0113 12
CNMSAF2
 V5R1 96
 V5R2 116, 119
CNMSAMP ライブラリー 19

CNMSCAT2
 V5R1 99
 V5R2 117, 119
CNMSJ000 18
CNMSJ001 17
CNMSJ002 18
CNMSJ003 19
CNMSJ004 20, 22
CNMSJ008 11
 V1R3 32
 V1R4 67
CNMSJ009 11, 125
 NetView の開始 125
 V1R3 35
 V1R4 67
CNMSJ010 11
 パラメーター 125
 V1R3 37
 V1R4 70
 V5R1 96
 V5R2 119
CNMSJBUP 17
CNMSJH10
 V1R3 55
 V1R4 84
 V5R1 108
 V5R2 121
CNMSJH12
 V1R3 56
 V1R4 84
CNMSJM12 15
CNMSJZCE 16
CNMSTNXT
 V1R4 73
 V5R1 103
 V5R2 119
CNMSTPWD
 ACB パスワード 129
CNMSTYLE
 概要 127
 命名規則 127
 メンバー名 135
 NetView ドメイン 129
 RODM 名 129
 V1R3 38
 V1R4 70
 V5R1 101
 V5R2 119
 &CNMRODM 129
 &NV2I 127
CNMSTYLE ステートメント、マイグレーション 213
CNMTRMSG 159

D

DSIAMIAT
 V1R3 42
DSIAMII
 V1R3 42
DSIAMLTD
 V1R3 42
 V1R4 74
DSICCDEF
 V1R4 74
DSICCDEFI
 V1R3 42
DSICMD
 V1R3 42
 V1R4 74
 V5R1 103
DSICMENT
 SEC=BY 209
DSICRTTD
 V1R3 43
DSICTMOD
 V1R3 44
 V1R4 75
DSIDMN
 V1R3 44
 V1R4 76
DSIDMNU
 V1R3 45
DSIILGCF
 V1R4 76
DSILUCTD
 V1R3 45
 V1R4 76
DSIMCAEX 15
DSIOPF
 V1R3 45
 V1R4 76
 V5R1 104
DSIQTSKI 23
DSIREXCF
 V1R4 78
DSIRSHCF
 V1R4 78
DSIRTTTD
 V1R3 48
 V1R4 78
DSIRXPRM
 V1R3 48
 V1R4 78
DSISPN
 V1R3 48
 V1R4 79
DSITBL01
 V1R3 49
 V1R4 79, 105, 120

DSITPCPF
 V1R3 49
 V1R4 79
DSITCPRF
 V1R3 49
 V1R4 79
DSIUINIT
 V1R3 50
DSIWBMEM
 V1R3 50
 V1R4 80
DSIZVLSR
 V1R3 50
 V1R4 80
DUIFPMEM
 V1R3 50
 V1R4 80
 V5R1 106
DUIGINIT 23
 V1R3 56, 108
 V1R4 84
DUIIGHB
 V1R3 50
 V1R4 80
DVIPA サポート
 V5R1 110

E

EKGCUST 22
EKGLOADP
 V1R3 53
 V1R4 81
 V5R1 106
 V5R2 120
EKGXRODM 22
 V1R3 54
 V1R4 82
 V5R1 107
 V5R2 121
EZLCMENT
 SEC=BY 209
EZLOPF
 V1R3 48

F

FKVCMENT
 SEC=BY 210
FKVOPF
 V1R3 48
FKWOPF
 V1R3 46
 V1R4 77

FKXCFG01
 V1R3 51
 V1R4 80
 V5R1 106
FKXCMENT
 SEC=BY 211
FLBSYSD
 V1R3 51
FLBSYSDA
 V1R3 51
 V1R4 81
FLCSAINP 23
 V1R3 52
 V1R4 81

G

GMFHS
 マイグレーションに関する考慮事項 22
 SCHEDxx 更新 14

H

HELPMAP
 V1R3 52

I

ICF カタログ 17
IEAAPFxx メンバー 11
IEAIPSxx 12
IEASYMxx メンバー 12
IEASYSxx メンバー 12
IEFSSNxx メンバー 13
IEFUSI メンバー 13
IHSAECFG 23
IHSAEVNT 16
 V1R3 56
 V1R4 85
 V5R1 109
 V5R2 121
IP バージョン 6 サポート 59, 88, 111, 124, 223
IPv4 と IPv6 アドレス 223
ISTIECCE ロード・モジュール 8

L

LNKLSTxx メンバー、更新 13
LOADxx メンバー 13
LookAt メッセージ検索ツール xv
LPALSTxx ステートメント 14

M

MVS
 コマンド出口 15
 ワークロード管理 15
 2 次サブシステム、定義 13
 ASID 値、変更 12
 IEAAPFxx 11
 IEAIPSxx 12
 IEFSSNxx 13
 IEFSYMxx 12
 IEFSYSxx 12
 IEFUSI 13
 LNKLSTxx 13
 LOADxx 13
 LPALSTxx 14
 RSVNONR 値、変更 12
 SCHEDxx 14
 SMFPRMxx 14
MVS ソケット・アプリケーション 126

N

NetView
 アドレス・スペース、増加 12
 同じ SMP/E ゾーンへの NetView システム・サービスのインストール 151
 サブシステム名 13
 システム変数 12
 実動 143
 始動プロシージャ 125
 準備 17
 初期化 127
 新規機能 1
 シンボル、設定 129
 ドメインの定義 129
 別名 17
 マイグレーション検査 143
 ライブラリー、許可 11
 CNMSTYLE 127
 GMFHS インストール 22
 ID 129
 IEFUSI 13
 NetView システム・サービスからのマイグレーション 151
 NetView システム・サービスに対するその他のインストールの注意点 154
 RODM インストール 22
 SCHEDxx 更新 14
 TCP/IP、定義 126
V1R3
 イベント自動化サービス・アドレス・スペースの変更点 56
 コマンド・リストの変更点 162
 サンプル 27, 175
 ヘルプ・パネルの変更点 161
 メッセージの変更点 163

NetView (続き)

V1R3 (続き)

GMFHS アドレス・スペースの変更点 55

NetView アドレス・スペースの変更点 32

UNIX システム・サービスの変更 57, 110, 123

VTAM アドレス・スペースの変更点 31

V1R4

イベント自動化サービス・アドレス・スペースの変更点
85

コマンド・リストの変更点 183

サンプル 63, 193

ヘルプ・パネルの変更点 179

メッセージの変更点 185

リソース・マネージャーのマイグレーション 85

GMFHS アドレス・スペースの変更点 83

NetView アドレス・スペースの変更点 67

UNIX システム・サービスの変更 86

VTAM アドレス・スペースの変更点 66

V5R1

イベント自動化サービス・アドレス・スペースの変更点
109

コマンド・リストの変更点 195

サンプル 91, 202

メッセージの変更点 196

GMFHS アドレス・スペースの変更点 108

NetView アドレス・スペースの変更点 94

VTAM アドレス・スペースの変更点 93

V5R2

イベント自動化サービス・アドレス・スペースの変更点
121

コマンド・リストの変更点 205

サンプル 114, 207

メッセージの変更点 205

GMFHS アドレス・スペースの変更点 121

NetView アドレス・スペースの変更点 116

VTAM アドレス・スペースの変更点 115

NetView Access Services 24

NetView for z/OS Enterprise Management Agent

IEFUSI 出口 13

NetView for z/OS Tivoli Enterprise Portal Agent バージョン
5.2.0 122

NetView for z/OS Tivoli Enterprise Portal V6.1 Agent 123

NetView Web アプリケーション 124

NetView 管理コンソール

コンソールのマイグレーション 146

トポロジー・サーバーのマイグレーション 146

マイグレーションに関する考慮事項 23

NGMF からのマイグレーション 145

NetView システム・サービス

同じ SMP/E ゾーンへのインストール 151

その他のインストールの注意点 154

NetView のフル機能へのマイグレーション 151

NetView リソース・マネージャーのマイグレーション 85

NGMF

マイグレーションに関する考慮事項 145

P

Procedural マイグレーション 147

R

RELATE 値、ユーザー・カタログを定義する 17

REXX 15

REXX 環境 11

RKANMOD データ・セット 11

RKANMODL データ・セット 11

RKANMODU データ・セット 11

RODM

サブシステム名 13

名前、指定 12

マイグレーションに関する考慮事項 22

SCHEDxx 更新 14

RODM 機能 22

S

SA/390

マイグレーションに関する考慮事項 20

SCHEDxx ステートメント 14

SCNMLNK1 11

SCNMLPA1 8, 11

SCNMUXLK 11

SEAGALT 11

SEAGLPA 11

SEZALINK 126

SEZALNK2 126

SMF レコード 14

SMFPRMxx 14

SMP/E フォーマット 7

SNA トポロジー・マネージャー

マイグレーションに関する考慮事項 23

STEPLIB 11

STYLEVAR

変数 129

SYS1.LPALIB 14

SYS1.PARMLIB 13

SYSDEF ステートメント 12

T

TCP390 ステートメント 24

TCP/IP

アプリケーション名、指定 12

構成データ 126

定義 126

Tivoli Enterprise Portal

NetView エージェント 122, 123

Tivoli NetView for z/OS Enterprise Management Agent 122,
123

Tivoli Software Information Center xvi

U

Unattended マイグレーション 147

UNIX システム・サービス 15, 57, 86, 110, 123

V

VIEW コマンド 22

VSAM

割り振り 20

VTAM

始動プロシージャ 11

APPL メジャー・ノード 18

W

Web アプリケーション 124

WLM 15

[特殊文字]

&CNMDOMN 12

&CNMNETID 14

&CNMRODM 14

&CNMTCPN 14



ファイル番号: S370/4300/30XX-50

プログラム番号: 5697-ENV

Printed in Japan

SC88-9320-02



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12